サンポート高松総合整備事業に伴う

埋蔵文化財発掘調査報告　第１冊

西打遺跡Ⅰ

２０００．１１

香　川　県　教　育　委　員　会

財団法人香川県埋蔵文化財調査センター

D区　居館全景（東北から）

455

457

B Ⅰ区　SR01出土縄文土器

序　　文

香川県教育委員会では，四国横断自動車道や高松東道路の建設，高松空港跡地の整備など，大規模開発に伴う埋蔵文化財の発掘調査と出土文化財の整理研究・報告書刊行の業務を，財団法人香川県埋蔵文化財センターに委託して実施しております。

このたび『サンポート高松総合整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告　第１冊　西打遺跡Ｉ』として刊行いたしますのは，JR 貨物操車場移転に伴い平成８，９年度に調査をおこなった高松市香西南町・鬼無町内の西打遺跡の南半部についてであります。この遺跡の調査では，縄文時代前期末の遺物を含む旧河道と堀で囲まれた中世の居館を中心に，多くの遺構・遺物が検出されました。なかでも縄文時代前期末の遺物の出土例は少なく，当時の文化を究明するうえで貴重なものと考えられます。

本報告書が香川県の歴史を考える資料として広く活用されますとともに，埋蔵文化財に対する理解と関心を深める一助となれば幸いです。

最後になりましたが，発掘調査から出土文化財の整理・報告にいたるまでの間，香川県土木部サンポート高松推進局および関係諸機関並びに地元関係各位には多大なご協力とご指導をいただきました。ここに深く感謝申し上げますとともに，今後ともよろしくご支援賜りますようお願い申しあげます。

平成12年11月

香川県教育委員会
教育長　折　原　　守

例　　言

1．本報告書は，サンポート高松（高松港頭地区）総合整備事業のうち，JR貨物操車場建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告で，高松市香西南・鬼無地区に所在する西打遺跡（にしうちいせき）の南半部の報告を収録した。

2．発掘調査は，香川県教育委員会が香川県土木部サンポート高松推進局（旧高松港頭地区開発局）より依頼を受け，香川県教育委員会が調査主体となり，財団法人香川県埋蔵文化財調査センターを調査担当者として実施した。

3．発掘調査の期間及び担当は以下の通りである。

平成8年12月1日～平成9年3月31日	藤好史郎，	中村昭博，	東条貴美
平成9年4月1日～平成10年3月31日	北山健一郎，	島田英夫，	門脇範子（10月1日～）
平成9年4月1日～9月30日	中西　昇，	多田佳弘，	森川　歩
平成9年4月1日～9月30日	乗松真也，	住野正和，	門脇範子

4．調査にあたって，関係諸機関，地元の方々をはじめ下記の方々から多くの協力を得た。記して謝意を表したい。（順不同，敬称略）

高松市教育委員会　小川賢，川畑聰，㈶京都府埋蔵文化財調査研究センター　森下衛，松尾史子

5．本報告書の作成は，財団法人香川県埋蔵文化財調査センターが実施した。
本報告書の執筆，編集は木下晴一が担当した。

6．本報告書で用いる方位の北は，国土座標系第Ⅳ系の北であり，標高は東京湾平均海水準(T. P.)を基準としている。

7．遺構は下記の略号により表示しているが，遺構検出時での判断を優先しており，調査後に略号とは性格の異なる遺構と判断した場合がある。また，各調査区で1番から遺構番号を付しているが，調査の進捗によって欠番となったものがある。

SB　掘立柱建物跡	SP　ピット	SK　土坑
SD　溝状遺構	SR　自然河川	SX　不明遺構

8．挿図の一部に建設省国土地理院1/25,000地形図「高松」「高松南部」「香西」「白峰山」，1/5,000国土基本図，昭和37年撮影白黒空中写真を用いた。

9．異形局部磨製石器（トロトロ石器）については，千葉大学文学部教授　岡本東三氏の御教示を得た。また，出土石器の石材同定は，香川大学教育学部教授　谷山穣氏に依頼した。

10．出土石器のうち石匙については，五味一郎「石匙」加藤晋平ほか編『縄文文化の研究　第9巻』雄山閣　1983年を，東播系須恵器については，森田稔「東播系中世須恵器生産の成立と展開――神出古窯址群を中心に――」『神戸市立博物館研究紀要　第3号』1983年を，青・白磁については，横田賢次郎・森田勉「大宰府出土の輸入中国陶磁器について――型式分類と編年を中心に――」『九州歴史資料館研究論集』4　1978年を参考とした。

本　文　目　次

第１章　調査の経緯と経過……1
　１．調査にいたる経緯……1
　２．調査の経過……1
　３．発掘調査および整理調査の体制……6
第２章　遺跡の立地と環境……7
　第１節　地理的環境……7
　第２節　歴史的環境……11
第３章　調査の成果……14
　第１節　予備調査……14
　第２節　Ｄ区の調査……30
　　１．調査成果の概要……30
　　２．土層……30
　　３．遺構・遺物……30
　第３節　Ａ１区の調査……82
　　１．調査成果の概要……82
　　２．土層……82
　　３．下層検出の遺構・遺物……82
　　４．上層検出の遺構・遺物……88
　第４節　Ｂ１区の調査……95
　　１．調査成果の概要……95
　　２．遺構・遺物……95
第４章　自然科学調査の成果……112
　　西打遺跡から出土した木製品の樹種……112
第５章　まとめ……116
　１．縄文時代早期・前期の遺物……116
　２．条里型地割……116
　３．Ｄ区の中世居館……119

挿　図　目　次

第１図　遺跡位置図(1)……2
第２図　遺跡位置図(2)……3
第３図　調査区割図……4
第４図　１ｍ等高線図……8
第５図　微地形分類予察図……9
第６図　10cm等高線図……10
第７図　周辺の主な遺跡……12
第８図　予備調査トレンチ配置図……15・16
第９図　予備調査トレンチの概要(1)（１～４トレンチ）……17
第10図　予備調査トレンチの概要(2)（５～９トレンチ）……18
第11図　予備調査トレンチの概要(3)（10～15トレンチ）……19
第12図　予備調査トレンチの概要(4)（16～19トレンチ）……20
第13図　予備調査トレンチの概要(5)（20～22トレンチ）……21
第14図　予備調査トレンチの概要(6)（23～27トレンチ）……22
第15図　予備調査トレンチの概要(7)（28～32トレンチ）……23
第16図　予備調査トレンチの概要(8)（33～38トレンチ）……24
第17図　予備調査トレンチの概要(9)（39～44トレンチ）……25
第18図　予備調査トレンチの概要(10)（45～50トレンチ）……26

第19図　予備調査トレンチの概要(11)（51，52トレンチ）……27
第20図　予備調査出土遺物実測図(1) ……27
第21図　予備調査出土遺物実測図(2) ……28
第22図　D区　遺構配置図……31・32
第23図　D区　土層断面図 ……33
第24図　D区　下層包含層出土遺物実測図(1) ……34
第25図　D区　下層包含層出土遺物実測図(2) ……35
第26図　D区　柱穴集中部　遺構配置図……37・38
第27図　D区　SB01平・断面図，出土遺物実測図 ……39
第28図　D区　SB02平・断面図，出土遺物実測図 ……40
第29図　D区　SB03平・断面図，出土遺物実測図 ……41
第30図　D区　SB04平・断面図 ……42
第31図　D区　SB04出土遺物実測図 ……43
第32図　D区　SB05平・断面図 ……44
第33図　D区　SB05出土遺物実測図 ……45
第34図　D区　SB06平・断面図 ……46
第35図　D区　SB07平・断面図 ……47
第36図　D区　SB08平・断面図，出土遺物実測図 ……48
第37図　D区　SB09平・断面図，出土遺物実測図 ……49
第38図　D区　SB10平・断面図，出土遺物実測図 ……50
第39図　D区　SB11平・断面図，出土遺物実測図 ……51
第40図　D区　SB04，11平面図 ……52
第41図　D区　掘立柱建物柱間寸法模式図(1) ……53
第42図　D区　掘立柱建物柱間寸法模式図(2) ……54
第43図　D区　SP出土遺物実測図(1) ……55
第44図　D区　SP出土遺物実測図(2) ……56
第45図　D区　SP出土遺物実測図(3) ……57
第46図　D区　SK02～04平・断面図，出土遺物実測図 58
第47図　D区　SK05～08平・断面図，出土遺物実測図 60
第48図　D区　SK09～12平・断面図 ……61
第49図　D区　SK09～12出土遺物実測図 ……62
第50図　D区　SK19，22平・断面図 ……63
第51図　D区　SK18，19，21，22出土遺物実測図 ……63
第52図　D区　SK13，15，17，20，23，25-1，-2平・断面図 ……64
第53図　D区　SE01平・断面図 ……66
第54図　D区　SE01出土遺物実測図 ……67
第55図　D区　SK18，SE02平・断面図 ……68
第56図　D区　SE02出土遺物実測図 ……69
第57図　D区　SD01，55断面図，出土遺物実測図 ……70
第58図　D区　SD55遺物出土状況平・断面図 ……71
第59図　D区　西北部SD断面図 ……71
第60図　D区　西北部SD出土遺物実測図 ……72
第61図　D区　居館東北部SD断面図，出土遺物実測図 73
第62図　D区　SD41，SX03出土遺物実測図 ……74
第63図　D区　SX02出土遺物実測図 ……75
第64図　D区　西南部SD，SX断面図 ……76
第65図　D区　西南部SD，SX出土遺物実測図 ……77
第66図　D区　東南部SD，SX断面図，出土遺物実測図 ……78
第67図　D区　SD67断面図，出土遺物実測図 ……79
第68図　D区　上面精査・包含層出土遺物実測図(1) …80
第69図　D区　上面精査・包含層出土遺物実測図(2) …81
第70図　A１区　SP37，55，SX06出土遺物実測図 …82
第71図　A１区　下層遺構配置図……83・34
第72図　A１区　上層遺構配置図……85・86
第73図　A１区　SX03～08平・断面図 ……87
第74図　A１区　下層上面精査出土遺物実測図 ……88
第75図　A１区　下層包含層出土遺物実測図 ……89
第76図　A１区　SD01，02断面図 ……90
第77図　A１区　SD01出土遺物実測図 ……91
第78図　A１区　SD02出土遺物実測図 ……92
第79図　A１区　機械掘削，上層上面精査出土遺物実測図 ……94
第80図　B１区　SB01平・断面図 ……95
第81図　B１区　SP41出土遺物実測図 ……95
第82図　B１区　遺構配置図……97・98
第83図　B１区　SK，SX平・断面図 ……99
第84図　B１区　SX04，05出土遺物実測図 ……100
第85図　B１区　SX08出土遺物実測図 ……100
第86図　B１区　SD断面図，SD03出土遺物実測図 …101
第87図　B１区　SR01出土遺物実測図(1) ……103
第88図　B１区　SR01出土遺物実測図(2) ……104
第89図　B１区　下層包含層，下層上面精査出土遺物実測図 ……105
第90図　B１区　機械掘削，上層上面精査出土遺物実測図(1) ……106
第91図　B１区　機械掘削，上層上面精査出土遺物実測図(2) ……107
第92図　B１区　機械掘削，上層上面精査出土遺物実測図(3) ……108
第93図　B１区　機械掘削，上層上面精査出土遺物実測図(4) ……109
第94図　B１区　機械掘削，上層上面精査出土遺物実測図(5) ……110
第95図　B１区　出土位置不明遺物実測図 ……111
第96図　木材(1) ……114
第97図　木材(2) ……115
第98図　遺跡付近の条里型地割(1) ……117
第99図　遺跡付近の条里型地割(2) ……118
第100図　D区　居館と条里型地割の関係 ……120
第101図　D区　居館の割付図 ……121

表　目　次

第１表　調査工程表 …… 5
第２表　発掘調査および整理調査の体制 …… 5
第３表　D区　SP出土遺物一覧 ……57
第４表　樹種同定結果 ……112
第５表　土器観察表 ……123
第６表　石器観察表 ……138

図　版　目　次

巻頭図版　D区　居館全景（東北から）
　　B１区　SR01出土縄文土器

図版１　西打遺跡遠景（南から，矢印が遺跡）
　　西打遺跡（後方は勝賀山，東から）
図版２　遺跡付近写真(1)（左が北，昭和37年撮影）
図版３　遺跡付近写真(2)（左が北，昭和37年撮影）
図版４　予備調査　13トレンチ南部（南から）
　　予備調査　12トレンチ西部　流路（北東から）
　　予備調査　40トレンチ北部（北西から）
　　予備調査　45トレンチ流路（南から）
　　予備調査　出土遺物
図版５　D区　全景（南から）
　　D区　全景（東から）
図版６　D区　空中写真（上が北）
図版７　D区　空中写真（上が北）
図版８　D区　居館全景（東から）
　　D区　居館全景（東北から）
図版９　D区　居館全景（南西から）
　　D区　西南部全景（南から）
図版10　D区　居館全景（北から）
　　D区　SB04付近掘削状況（東から）
図版11　D区　東北部全景（北から）
　　D区　東南部全景（南から）
図版12　D区　東南部全景（北から）
　　D区　SB06東南部（東から）
図版13　D区　SD01断面（東から）
　　D区　SD41断面（東から）
図版14　D区　SB01完掘状況（東から）
　　D区　SB02完掘状況（北から）
図版15　D区　SB03掘削状況（西から）
　　D区　SB04完掘状況（北から）
図版16　D区　SB04完掘状況（南から）
　　D区　SB05半截状況（西から）
図版17　D区　SB05ほか掘削状況（東北から）
　　D区　SB05SP283根石（北から）
　　D区　SB05SP380根石（北から）
　　D区　SB05SP306根石（南から）
　　D区　SB05SP392根石（北から）
図版18　D区　SK04断面（東から）
　　D区　SK03断面（北から）
　　D区　SK10断面（西から）
　　D区　SE01掘削状況（東から）
　　D区　SE02断面（北から）
図版19　D区　SD01・55屈曲部（北西から）
　　D区　SD55南端付近（北から）
図版20　D区　SD55断面（その１）（南から）
　　D区　SD67完掘状況（東南から）
図版21　D区　SD67完掘状況（北から）
　　D区　下層包含層掘削状況（北から）
図版22　D区　下層包含層出土遺物(1)
図版23　D区　下層包含層出土遺物(2)
　　D区　SB出土遺物(1)
図版24　D区　SB出土遺物(2)，SP出土遺物
図版25　D区　SP226出土遺物
　　D区　SK出土遺物
図版26　D区　SE，SD出土遺物
図版27　A１区　空中写真（左が北）
図版28　A１区　上層遺構面完掘状況（西から）
　　A１区　SD01・02北端部検出状況（東から）
図版29　A１区　SD01・02完掘状況（南から）
　　A１区　SD01・02完掘状況（北から）
図版30　A１区　SD01断面（その２）（南から）
　　A１区　SX05断面（南から）
図版31　A１区　出土石鏃
　　A１区　出土石匙
　　A１区　SD01出土石器
　　A１区　SD02出土石器
図版32　B１区　全景（南から）
　　B１区　全景（北から）
図版33　B１区　空中写真（左が北）
図版34　B１区　SB01半截状況（東北から）
　　B１区　SX08完掘状況（北から）
図版35　B１区　SD01・02完掘状況（北から）
　　B１区　SD01・02完掘状況（南から）
図版36　B１区　SD11掘削状況（北から）
　　B１区　SR01完掘状況（北から）
図版37　B１区　東部完掘状況（西北から）
　　B１区　SR01縄文土器出土状況（南から）
図版38　B１区　SX08出土遺物
　　B１区　SR01出土遺物(1)
図版39　B１区　SR01出土遺物(2)
図版40　B１区　SR01出土遺物(3)
図版41　B１区　出土遺物(1)
図版42　B１区　出土遺物(2)
図版43　B１区　出土遺物(3)

付　　図

１．D区・A１区・B１区全体図（縮尺１／100）
２．D区　中世居館付近　平面図（縮尺１／50）

第１章　調査の経緯と経過

１．調査にいたる経緯

昭和63年４月の瀬戸大橋の開通に伴い，高松港と宇野港を結ぶ宇高連絡線の廃止など高松港頭地区は四国の玄関口としての役割から大きな変化を迎えることとなり，この機会に香川県と高松市は高松港頭地区の総合整備事業を進めている。この事業に関連して高松城跡（西の丸町）とJR貨物操車場の移転予定地などが埋蔵文化財保護の対象となったが，西打遺跡は高松市香西南・鬼無町のJR貨物操車場移転予定地に所在する遺跡である。

２．調査の経過

(財)香川県埋蔵文化財調査センターは，平成８年４月１日付けで，香川県教育委員会と当センターとの間で平成８年度埋蔵文化財発掘調査事業の契約を締結し，これに基づいて事業を実施した。JR貨物操車場移転予定地は，調査対象約８haで，トレンチ面積約2,100m²の予備調査から開始した。調査は当初平成８年９月からを予定していたが，用地交渉等の理由で12月からトレンチ掘削を開始し，翌年１月から，本調査対象となった25,673m²のうち，南端地区の2,000m²の発掘調査を実施した。

翌平成９年度は，前年度調査終了部分の2,000m²を除く23,673m²について本調査を実施した。本体工事計画との調整の結果，調査対象地南側の18,673m²の調査を急ぐ必要が生じたため，年度上半期は３班体制で調査を実施し，下半期は１班体制で北側の調査区の調査を実施し，平成10年３月末をもって終了した。

両年度の発掘調査の区割図および工程を第３図，第１表に示す。また，各年度に報告した調査成果の概要は以下のとおりである。

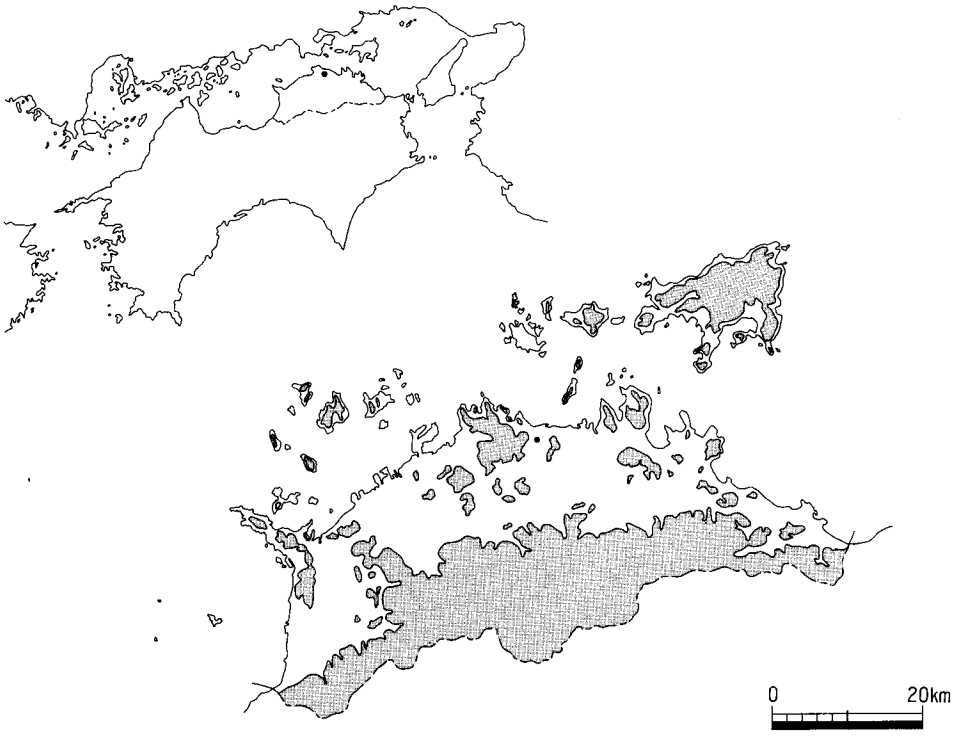
西打遺跡の整理調査は，平成11年10月１日に開始し平成13年３月31日までの予定で実施している。平成11年度は予備調査，Ｄ区，Ａ１区，Ｂ１区の整理調査を行い，平成12年３月31日に終了した。残るＡ２区，Ｂ２区，Ｂ３区，Ｃ区の整理調査は平成12年度に実施する予定である。

（文献１）香川県教育委員会，財団法人香川県埋蔵文化財調査センター『高松港頭土地区画整理事業　平成８年度埋蔵文化財発掘調査概要　高松城跡（西の丸町）西打遺跡』1997.3

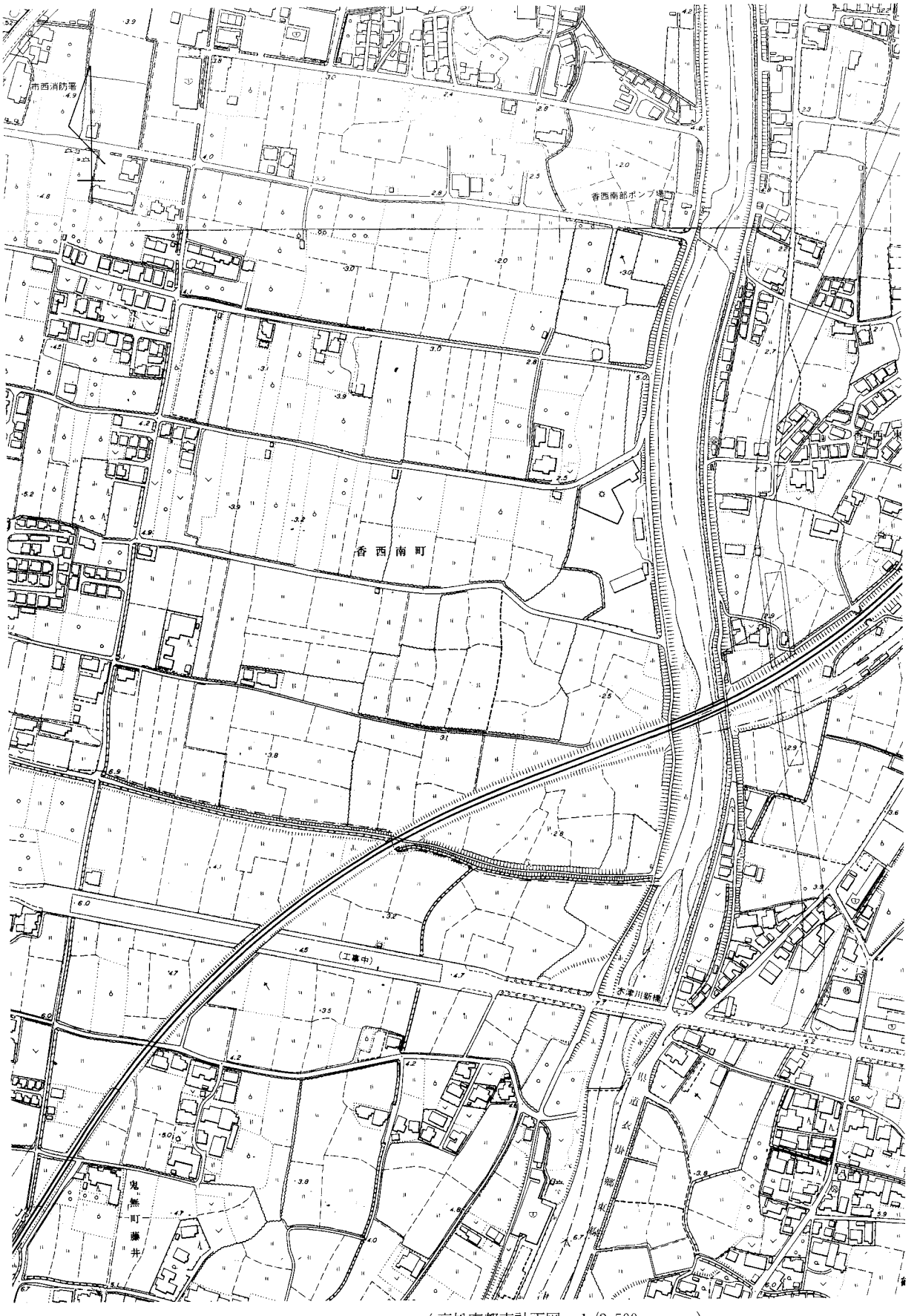
（文献２）財団法人香川県埋蔵文化財調査センター『財団法人香川県埋蔵文化財調査センター年報　平成８年度』1997

（文献３）香川県教育委員会，財団法人香川県埋蔵文化財調査センター『高松港頭土地区画整理事業　平成９年度埋蔵文化財発掘調査概要　西打遺跡　高松城跡（西の丸町）』1998.3

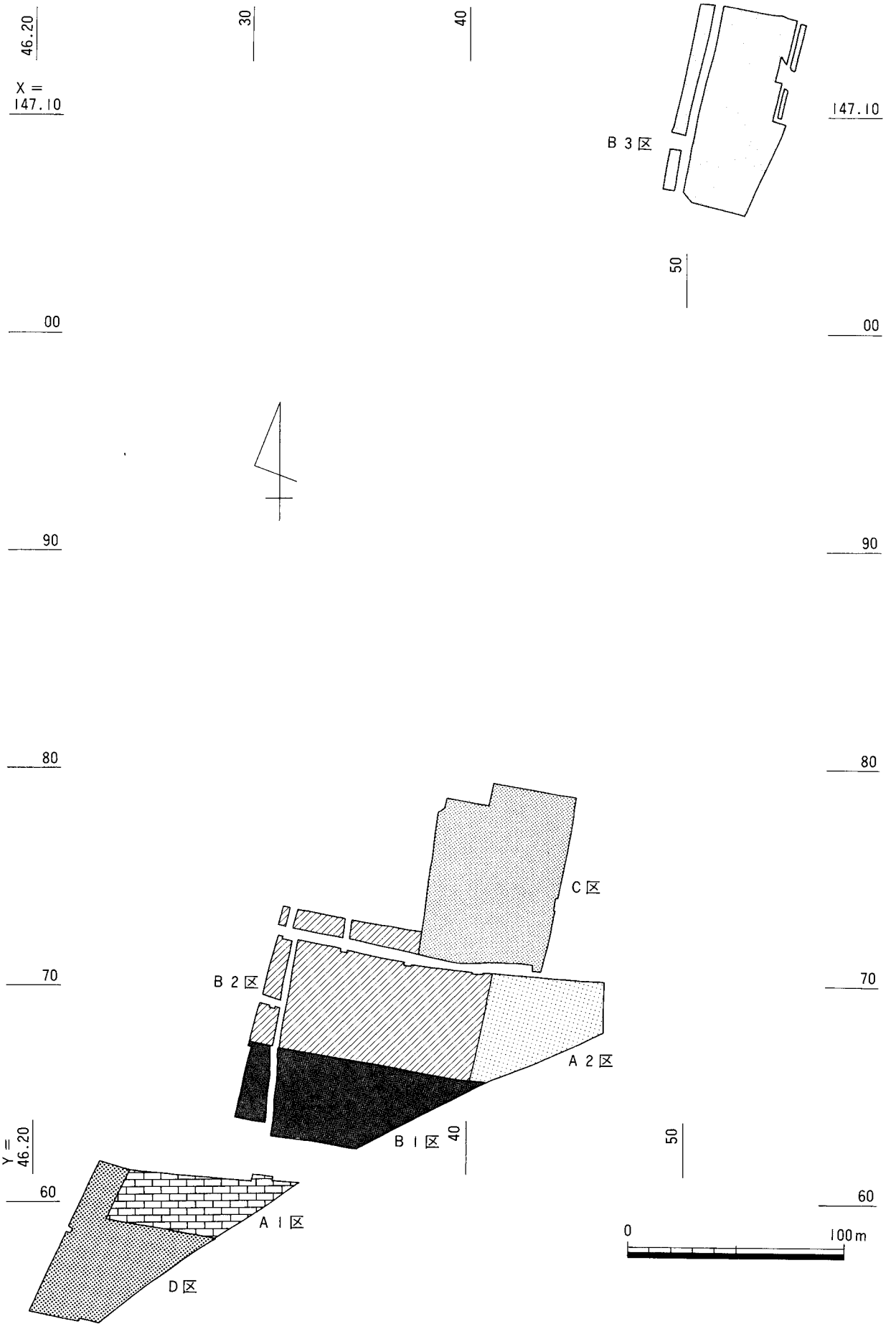
（文献４）財団法人香川県埋蔵文化財調査センター『財団法人香川県埋蔵文化財調査センター年報　平成９年度』1998



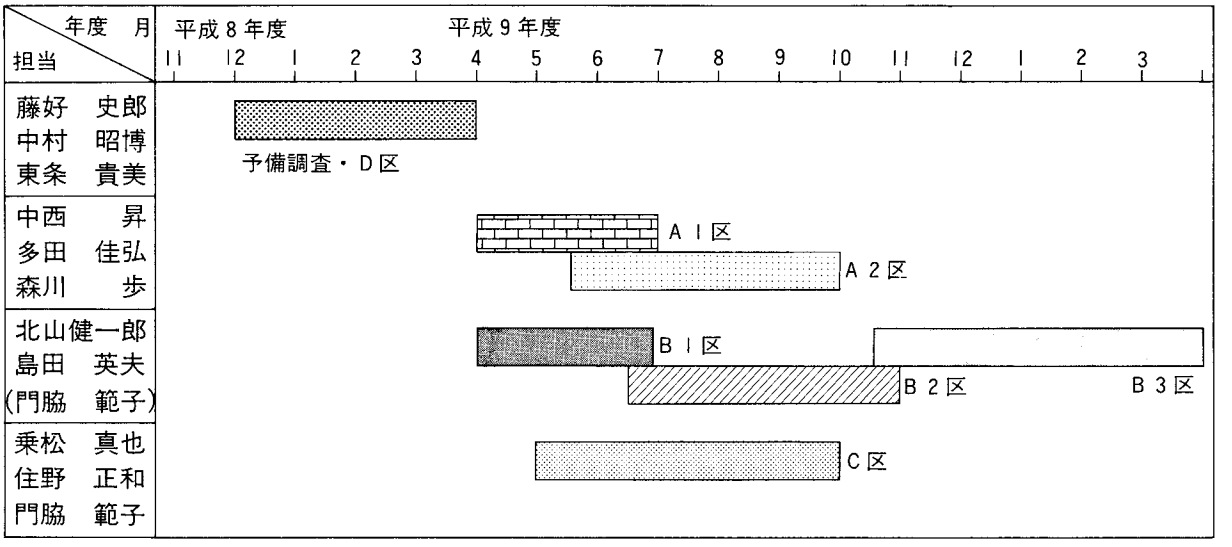
第１図　遺跡位置図(1)（昭和３年　1/25,000地形図
「高松北部」「高松南部」「香西」「白峯山」を50%縮小）



第２図　遺跡位置図(2)　（高松市都市計画図　1/2,500
「香西」「鬼無１」を50％縮小）


46.20
30
40
X =
147.10
147.10
B 3 区
50
00
00
90
90
80
80
C 区
70
70
B 2 区
A 2 区
Y =
46.20
B 1 区
40
50
60
60
A 1 区
D 区
0
100 m

第 3 図　調査区割図



第１表　調査工程表

香川県教育委員会文化行政課			
	平成８年度	平成９年度	平成11年度
総括	課　長　藤原　章夫 課長補佐　高木　一義 課長補佐　北原　和利 副 主 幹　渡部　明夫	課　長　菅原　良弘 課長補佐　北原　和利 副 主 幹　渡部　明夫	課　長　小原　克己 課長補佐　小国　史郎 副 主 幹　廣瀬　常雄
総務	係　長　山崎　隆 主　査　星加　宏明 主　事　國方　秀子(～5.31) 主　事　打越　和美（6.1～）	係　長　山崎　隆 主　査　星加　宏明(～5.31) 主　査　松村　崇史（6.1～） 主　事　打越　和美	係　長　中村　禎伸 主　査　三宅　陽子 主　査　松村　崇史
埋蔵文化財	文化財専門員　木下　晴一 技　師　塩崎　誠司	文化財専門員　木下　晴一 技　師　塩崎　誠司	係　長　西村　尋文 文化財専門員　森　格也 主任技師　塩崎　誠司
財団法人香川県埋蔵文化財調査センター			
総括	所　長　大森　忠彦 次　長　小野　善範	所　長　大森　忠彦 次　長　小野　善範	所　長　菅原　良弘 次　長　川原　裕章
総務	参　事　別枝　義昭 係　長　前田　和也 主　査　西村　厚二(～5.31) 主任主事　西川　大 主　事　佐々木隆司（6.1～）	参　事　別枝　義昭 副 主 幹　田中　秀文（6.1～） 係　長　前田　和也(～5.31) 主　事　佐々木隆司	副 主 幹　田中　秀文 係　長　新　一郎 主任主事　細川　信哉
調査	参　事　近藤　和史 主任文化財専門員　廣瀬　常雄 係　長　藤好　史郎 文化財専門員　中村　昭博 調査技術員　東条　貴美	参　事　近藤　和史 主任文化財専門員　藤好　史郎 主任文化財専門員　中西　昇 文化財専門員　島田　英夫 文化財専門員　北山　健一郎 文化財専門員　多田　佳弘 技　師　住野　正和 技　師　乗松　真也 調査技術員　東条　貴美 調査技術員　門脇　範子 調査技術員　森川　歩	主任文化財専門員　大山　真充 文化財専門員　木下　晴一

第２表　発掘調査および整理調査の体制

3．発掘調査および整理調査の体制

発掘調査および整理調査の体制は，第２表のとおりである。

西打遺跡の調査に携わった方々は以下のとおりである。

現場整理作業員　漆原　陽子，田村加良子，山本　明美

普通作業員　有岡　雄一，井戸　　等，尾崎　信明，乙武　孝男，景山　　弘，北迫　高男，黒田　　修，香西　正俊，澤井　　清，杉山　周二，高尾　司之，高橋　辰男，瀧　　勇，竹内　保男，田中　高義，塚原　　進，東郷　　勲，中津喜代年，長町　志郎，橋本　忠治，林　　俊雄，福田　彰浩，細谷　祐義，本田　昌男，松本　康弘，丸川　正則，満丸　文二，三村　　旺，宮武　吉栄，山本　秀雄，山本　政市，横井　　等，渡辺　喜彦

軽作業員　穴吹みどり，家田アキミ，伊賀　悦子，伊勢　恵子，稲田　寿子，井下美佐子，井下ミチコ，大西トク子，大林チエ子，岡　シズエ，小田　葉子，葛城　美香，上村智枝子，唐渡　安子，川田　悦子，川田　房子，河西　雅子，川渕ひな美，久利　文子，鍬島美智子，桜又タカ子，佐藤　紀江，村主　啓子，高橋　妙子，高橋　秀子，田中　キヨ，田中　由美，筒井　幸子，中野　良枝，中原トヨ子，西村　和代，野生須フミエ，橋本　敏子，林　テル子，平田　圭子，松本　悦子，松本　和子，真鍋　恵子，三谷　恵子，満丸香代子，三宅至名子，宮武　和子，峰　　春子，山下　初代，山下ヒロ子，山地フジ子，山本シゲ子，湯谷テル子，脇　千代枝

学生アルバイト　木下　祐美，東山　和憲，大野　宕和

整理調査（平成11年度）に携わった方々は以下のとおりである。

整理補助員　猪木原美恵子，市川　孝子，陶川真由美

整理作業員　藤川　洋代，福永　光恵，門脇　範子，佐々木明子，田中　宏美

第２章　遺跡の立地と環境

第１節　地理的環境

西打遺跡は，香川県の県都高松市の中心街の西，紫雲山山地と五色台山地[1]に挟まれた東西幅約２㎞の沖積平野上に位置する。北側にひろがる瀬戸内海から現状で約２㎞内陸（Ｄ区）で，標高はＴ.Ｐ.2.0m（Ｂ３区）～4.3m（Ｄ区）を測る。この沖積平野は主として香東川と本津川によって形成されたものである。第４図の等高線図の観察などから，両山塊に挟まれた南半分は扇状地に特徴的な，扇頂部を中心とする同心円状の等高線のパターンを示し，香東川が形成した緩傾斜の扇状地が主体となる。第５図は昭和37年撮影の空中写真判読により作成した地形分類予察図である。地形帯の内容や配列などについては，高橋学の地形分類成果に基づいている[2]。以下に各地形帯の景観を略述する。

遺跡周辺は，①東西の山地・②西側山地の東麓に拡がる山麓の緩傾斜面・③香東川が形成した扇状地・④扇状地北側の三角州帯よりなる。

東西の山地は，花崗岩塊の頂部に浸食を受けにくい安山岩が被さるもので，頂部が平坦で斜面が急傾斜となる特徴的なメサと呼ばれる山容を呈している。西側の五色台山地の東側山麓には崖錐を中心とする堆積物よりなる山麓傾斜面が発達しているが，山地には顕著な開折谷が発達していない。ここは水田・畑地として開墾されているが，坪内の地割は地形の影響で乱れているものの下位の地形帯に認められる条里型地割が見られる。また，この地形面は段丘化しているが，開折谷には条里型地割の東西阡陌線に合致するものが見られる。

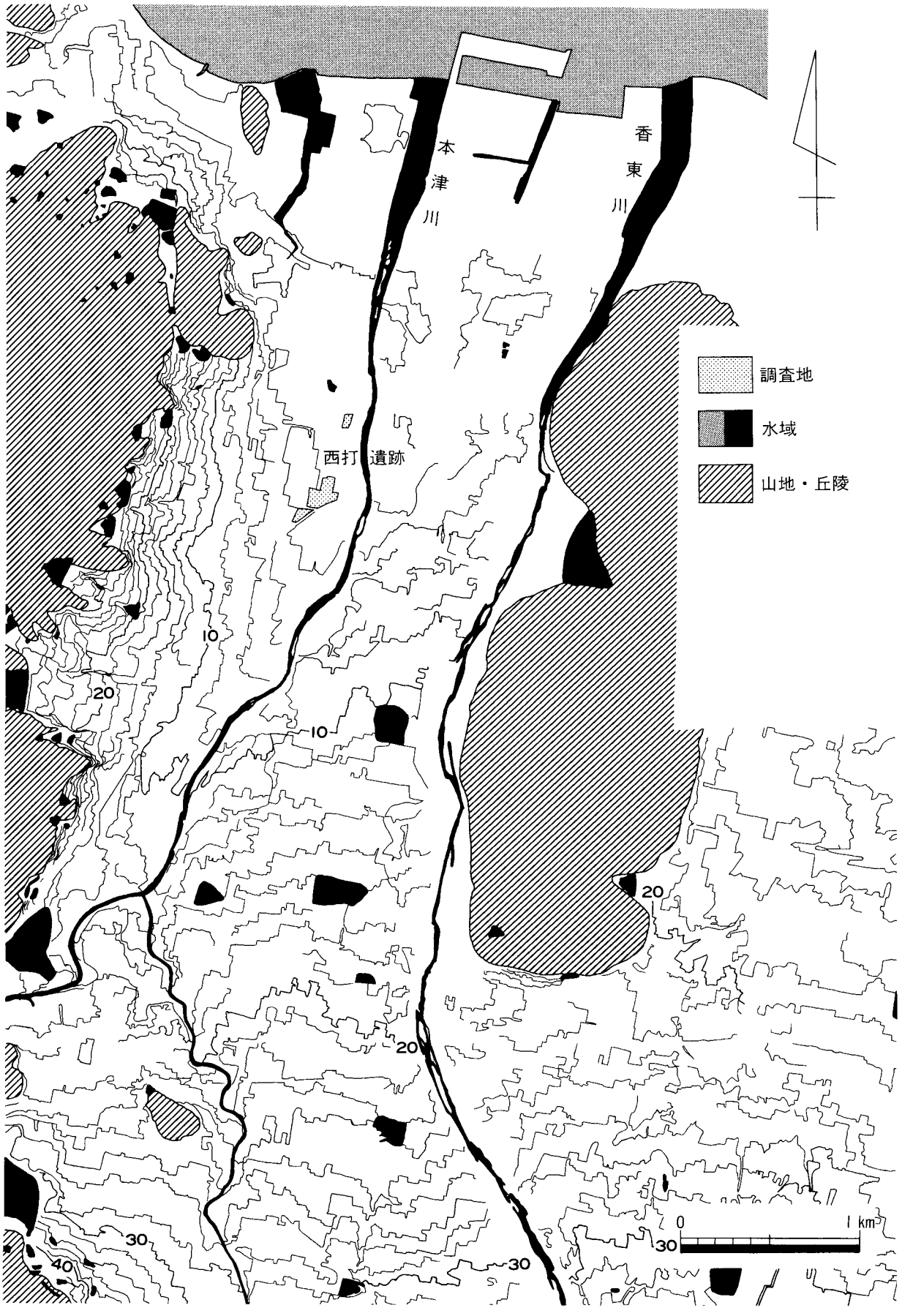
西打遺跡の所在する地形帯は扇状地帯に分類される。ここには条里型地割が整然と施工されている。地表面は平坦で，存在が想定される微高地や旧河道の大半は，平坦化するまで埋没しており，空中写真上で色調の差として暗示的に判読されるにすぎない。

香東川，本津川は扇状地帯を開折しており，本津川で250～400m程度，香東川で150～300m程度の幅の氾濫原面を形成している。氾濫原面と扇状地帯とは現状で0.5～２ｍの段丘崖で画されている。この面には明瞭な条里型地割は存在しない。氾濫原面の形成による河床の低下によって扇状地帯から氾濫原面に流れ込む河道も下刻され，扇状地帯に微凹地として刻印されている。西打遺跡Ｂ３区や香西南西打遺跡では，至近に旧河道が存在しており遺跡の性格を検討するうえで示唆的である。また，このほかに香東川から本津川に流れ込む数条の旧河道が認められる。

扇状地帯の海側には，氾濫原面の形成以降に急速に発達したと考えられる三角州帯が拡がる。ここにも明瞭な条里型地割は認められない。三角州帯は地割のパターンの相違から２面に分類される。海側の三角州帯Ⅱは近世の新田開発に見られる整然とした水田地割が卓越する。本津川西側の扇状地帯の海側には砂堆（堆積物の内容が不明なため予察段階では砂堆と呼称することとする）が東西方向に延びている。香西の集落が拡がる地形面である。三角州帯Ⅱの海側には塩田が後に埋め立てられた埋立地が拡がっている。

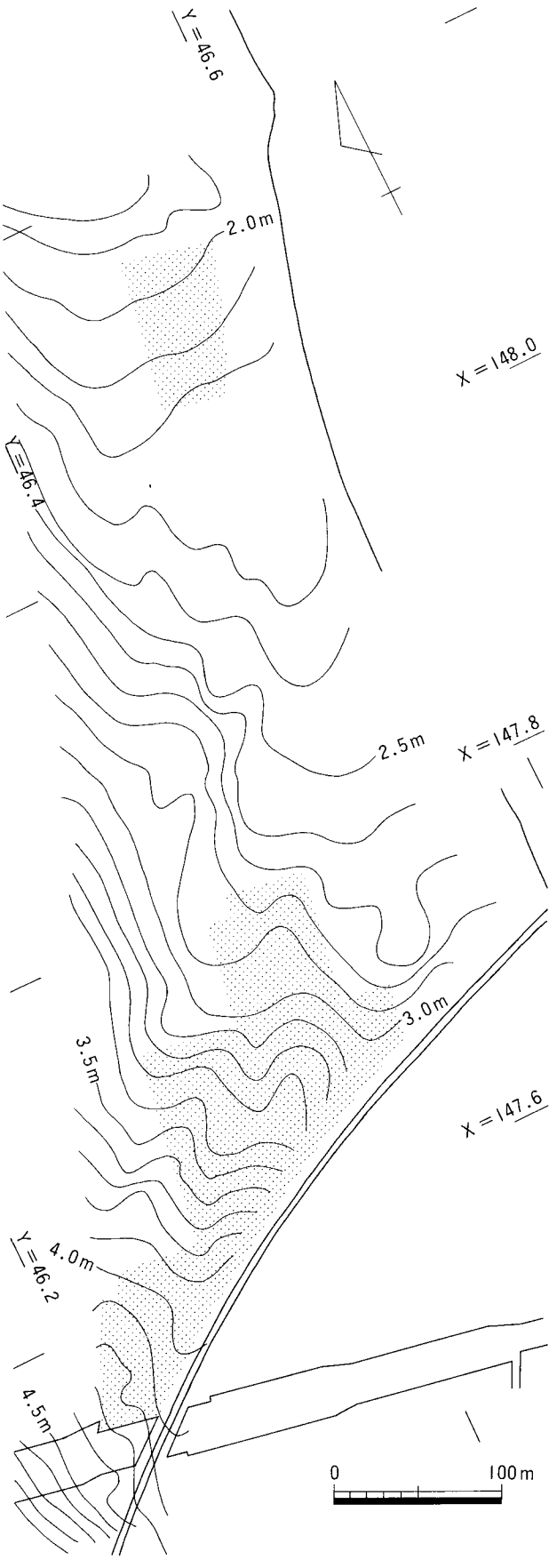
各々の地形帯，地形面の形成年代を知る資料は今のところ不充分であり，今後の資料の増加によって検討する必要がある。

次に西打遺跡周辺の微地形について，第６図の10cm等高線図によって検討する。10cm等高線は水田の



第4図　1m等高線図

第5図　微地形分類予察図



第６図　10cm等高線図

標高を割り込んで作成したもので，この微起伏が水田造成以前の微地形を示すと考えられる。作成できた範囲が狭いことからやや不正確な情報になるが，遺跡付近は北から南および西から東の方向に標高を減じており，Ｄ区で中世の居館が検出された地点は微高地に相当する。その東側にはＤ区，Ａ１区，Ｂ１，Ｂ２区につながる微凹地が連続しており，旧河道の存在が推定される。この部分が下層包含層として報告する縄文時代，弥生時代の遺物を包含する「暗褐色シルト質土層」の堆積範囲に巨視的に合うものと考えられる。この凹地の東には尾根状の微高地が推定される。Ａ１区，Ｂ２区，Ｃ区の弥生時代や中世の集落の立地する微高地である。この東側にも微凹地があり，下層包含層の堆積範囲であるとともに，縄文時代前期の遺物を包含する旧河道にあたると考えられる。Ｃ区北側にも東北から西南方向の微凹地が認められる。これは予備調査トレンチ12，24，33などで検出された旧河道に相当すると考えられる。西打遺跡の南部調査区の東側は等高線間隔が広くなっているが，先述の扇状地帯と氾濫原面との地形面の相違を示すと判断できる。Ｂ３区は扇状地帯と氾濫原面との境界付近に位置し，等高線では明瞭に表れないが空中写真判読により旧河道に挟まれた扇状地帯に位置すると考えられる。

このように10cm等高線図に示される微起伏は，西打遺跡で検出された縄文時代前期末頃以降の土地の微起伏をよく反映しているといえる。

(1)　地域区分の名称は建設省国土地理院『土地条件図　高松南部』『同　丸亀』1986によった。

(2)　高橋学「高松平野の地形環境分析Ｉ」高松市教育委員会『高松市太田地区周辺遺跡詳細分布調査概報　太田第２土地区画整理事業にともなう遺跡詳細分布調査』1987

第2節　歴史的環境

1．旧石器時代

本遺跡Ｂ１区の西約250mの香西南西打遺跡（高松市教育委員会調査）から数十点の旧石器が出土している。[1] 本遺跡と同一の地形面で，本遺跡で地山と認定した層に類似する層中から出土しているが，本遺跡出土遺物（今年度整理対象地）には旧石器の可能性のあるものが微量あるのみである（未報告）。

2．縄文時代

本遺跡Ｄ区南側の鬼無藤井遺跡（高松市教育委員会）で幅10m以上の自然河川が検出され，埋土中に晩期の精製，粗製の浅鉢などが出土している。[2]

3．弥生時代

鬼無藤井遺跡で前期中葉の二重の環濠が検出されている。環濠の直径は約70mと推定される。[2]

4．古墳時代

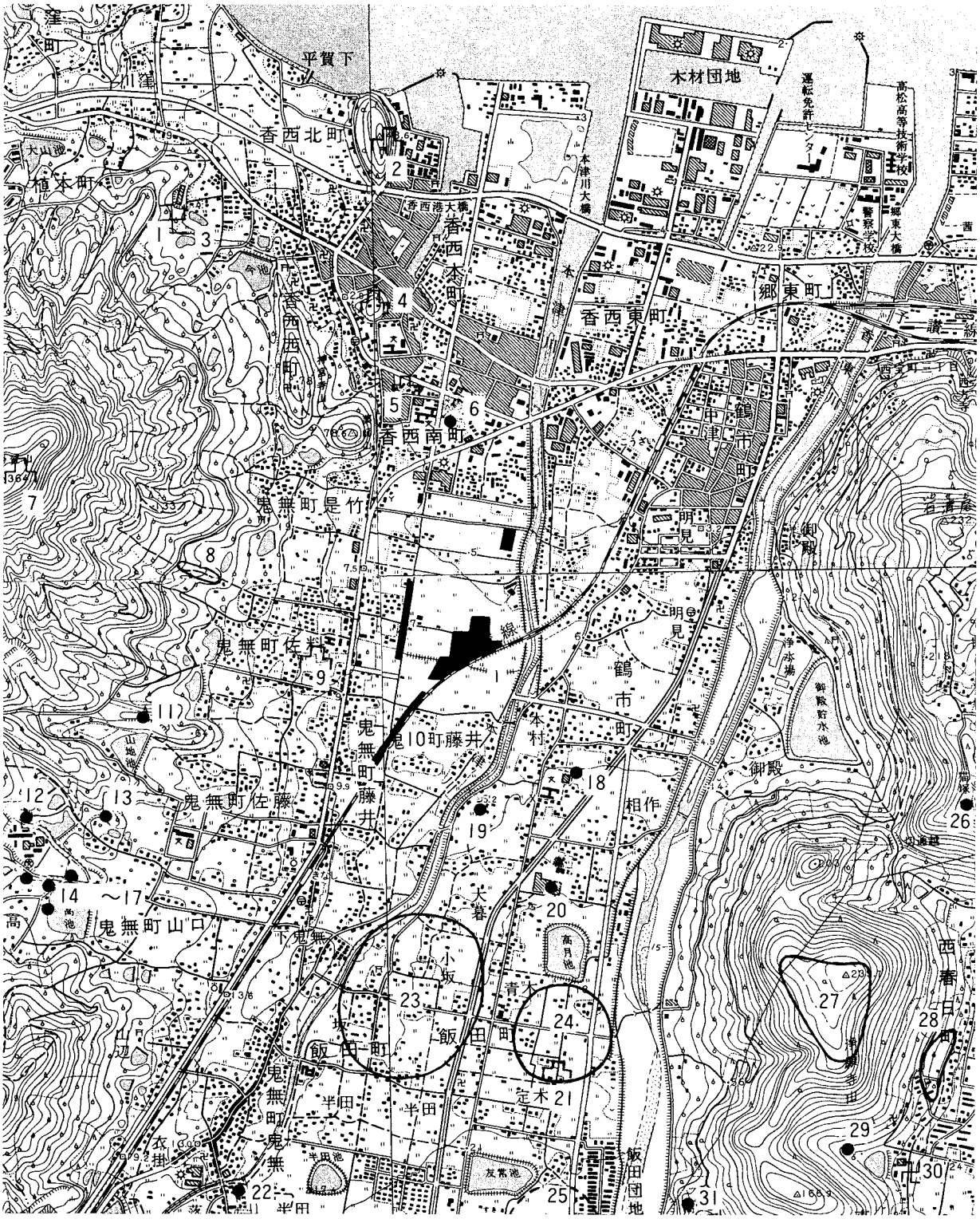
東方の石清尾山地中に全長41.5mの積石の前方後円墳である鶴尾神社４号墳を初めとして，前期に属する多数の積石塚が築造され，石清尾山古墳群を形成している。[3] 中期の古墳としては勝賀山から南東に派生した尾根上に全長71.7mの前方後円墳，今岡古墳が所在する。主体部は不明であるが，墳丘上から円筒埴輪片，形象埴輪片が採集されているほか，前方部から長持形石棺と同構造の陶棺が出土している。今岡古墳の北約650mの尾根上に３基の円墳からなるかしが谷古墳群が所在する。２号墳，３号墳が調査され，２号墳は竪穴石室と箱式石棺がＴ字形に配置されていた。[4]

後期の古墳として，袋山北麓の緩傾斜面に古宮古墳・大塚古墳・平木１号墳・こめ塚古墳などの巨石で構築された横穴式石室からなる神高池古墳群が所在するほか，南方の御厩町大塚には，沖積平野上に巨石で構築された横穴式石室が単独で所在している。また，飯田町や檀紙町には，数多くの塚が群集している。これらには中世の武将の墓という伝えのあるものがあるほか，相作牛塚古墳のように挂甲小札，杏葉などの遺物が出土した古墳も含まれている。さらに石清尾山地中の浄願寺山の山頂付近には50基余りの大小の横穴式石室からなる群集墳が所在している。

5．古代・中世

古代の遺跡として，川原寺式が退化した瓦当文様をもつ軒瓦が出土する坂田廃寺のほか勝賀廃寺が知られている。また，片山池瓦窯は坂田廃寺の瓦を焼成した窯跡である。[5]

中世の遺跡としては，筑城城跡，香西南西打遺跡の調査が行われている。[2] 筑城城跡は13世紀後半から14世紀前葉にかけてと16世紀代の集落の一部が調査された。[6] 検出遺構は溝跡13条，井戸跡１基，土坑１



1　西打遺跡　2　芝山城跡　3　勝賀廃寺　4　藤尾城跡　5　作山城跡
6　香西南西打遺跡　7　勝賀城跡　8　かしが谷古墳群　9　佐料城跡
10　鬼無藤井遺跡　11　今岡古墳　12　平木古墳群　13　大塚古墳　14　神高池北西古墳　15　神高池西古墳　16　こめ塚古墳　17　古宮古墳　18　筑城城跡
19　王墓古墳　20　相作牛塚古墳　21　飯田城跡　22　御厩大塚古墳　23　半田・小坂塚群　24　青木塚群　25　紙漉塚群　26　猫塚古墳　27　浄願寺山古墳群
28　南山浦古墳群　29　片山池1号窯跡　30　坂田廃寺　31　がめ塚古墳

第7図　周辺の主な遺跡

基，柱穴跡などである。香西南西打遺跡は，16世紀を主として13世紀から19世紀にかけての遺構・遺物が検出されている。内容は「コ」字状に配された堀状の区画溝とその内部の柱穴，土坑，井戸などである。当地は，管領細川家の家臣として活躍した香西氏の根拠地として知られ，関連が想定されている。この他に勝賀山山頂に築かれた詰め城の勝賀城，平時の居館である佐料城，作山城，藤尾城，芝山城など今日地表面上に痕跡を遺す城跡が存在し，香西氏の伝承を遺す寺，神社なども多く所在している(7)。なお，近世に著された『香西記』や『南海通記』などのいわゆる往古聞き書きによると，香西氏は承久の乱（1221）での戦功で鎌倉幕府から阿野・香川郡を与えられたと伝えられるが，確実な史料では，建武四（1337）年のものが最も古いようである(8)。先述の2遺跡のほか本遺跡の中世遺構と香西氏の関連については今後の検討を必要とする。

遺跡周辺には，国土座標北から14°東に振る方向に条里型地割が認められる（第98，99図参照）。条里の坪付については関連史料，遺存地名が僅少であるため，野原荘の四至と海岸線との関連や南海道が里界線の基準になるとする前提で復原案が示されている(9)。なお，条里型地割については第5章のまとめで再述する。

6．近　　世

近世では香東川の分離・分流工事が行われている。香東川は香川町大野付近で二股に分かれていた。一流は現在の御坊川の流路にあたり，室山の東から石清尾山東麓を通り高松市街への流れで，もう一流は石清尾山西麓の現在の流路である。寛永年間生駒高俊の世に西島八兵衛により，高松城下の水防等のため現在の流路に固定されたことが知られている。この工事は香東川のつけ替えなどとも呼ばれ，全く新しい河道を掘削したという解釈もあるが，地理的環境の項で記したように氾濫原面が存在していることから，二流に分かれていた河道を現在の流れに固定した工事であったと判断できる。

文　献

(1) 香川県教育委員会『香川県埋蔵文化財調査年報　平成10年度』2000

(2) 香川県教育委員会『香川県埋蔵文化財調査年報　平成9年度』1999

(3) 本項は丹羽佑一・藤井雄三『遺跡が語りかける　高松の古代文化』美巧社（高松）1988を参考とした。

(4) 藤井雄三ほか『かしが谷2号墳・3号墳発掘調査報告書　高松市鬼無町是竹所在の円墳の調査』高松市教育委員会　1986

(5) 香川県教育委員会『香川県埋蔵文化財調査年報　平成6年度』1995

(6) 川畑聰ほか『高松市立弦打公民館改築に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書　筑城城跡』高松市教育委員会　1999

(7) 池田誠「瀬戸内の港津都市と戦国期城下町――讃岐香西浦と塩飽笠島浦――」『帝京大学山梨文化財研究所研究報告　第3集』1990

(8) 田中健二・大藪典子「細川家内衆香西氏の年譜　香西又六の山城守護代任命まで」『香川史学』第17号　1988

(9) 金田章裕　「条里と村落生活」香川県『香川県史　第1巻　通史編　原始・古代』四国新聞社　1988

第３章　調査の成果

第１節　予備調査

条里型地割が明瞭に遺存するJR貨物操車場事業地は約８haと広大な面積を占めるため，最初に遺跡の内容を把握し，取扱いを決めるための資料を得る調査から始められた。調査は，重機により幅２ｍのトレンチ（試掘溝）を掘削し，人力による掘削断面および床面の精査によって遺構・遺物の内容を把握するという内容である。平成８年12月４日から翌１月14日までの期間で，51本のトレンチ調査を行った。

第８図はトレンチの配置図である。遺構の検出されたトレンチ(近現代のものと旧河道は除く)，遺物の出土したトレンチ（近現代のもの，時期不明の細片が微量出土したものを除く）を区別して図示している。トレンチ配置は，微地形との関連が検討できるように直線的に連続するように設定し，また，条里地割関連の遺構の有無を確認するために，坪界線が想定される部分では，畦畔を断ち切ってトレンチを設定した。第９図～第19図は，各トレンチの概要を平面略測図と土層の柱状図で示したものである。これらは，略測図であること，土層はトレンチ全体の総合的な観察によって注記しているのではなく，個別の観察にとどまっていることをおことわりしておく。

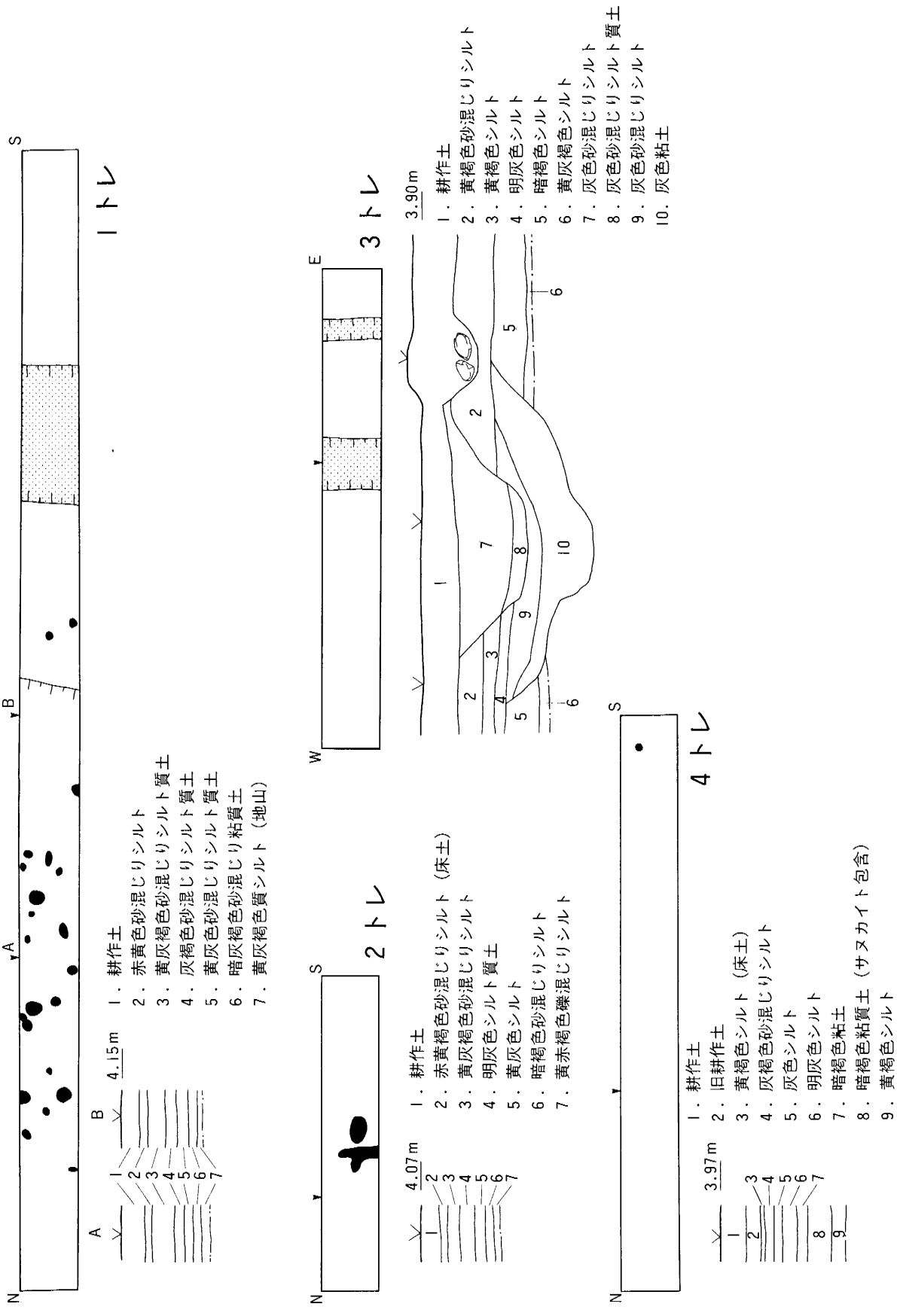
予備調査によって，遺構が検出されたトレンチは，事業地南部と北部に集中する傾向が認められる。中部についてはトレンチ数が不足するように見えるが，第６図10cm等高線図に示されたように，Ｃ区西側とＢ３区西側の旧河道の影響を受けた相対的に標高の低い微凹地であったと判断され，トレンチの内容と照合しても遺跡が拡がる可能性は無いと判断された。事業地南部で検出された遺構は中世の溝・柱穴・土坑などで，遺物は中世の遺物，下層包含層から弥生時代前期・後期の土器，縄文時代晩期の土器片などが出土した。なお，下層包含層とは中世の遺構面の下層のサヌカイトや弥生土器片などを包含する暗褐色シルト質土層であるが遺構は確認されなかった。以上のことから，Ｃ区，Ｂ２区の西側に流れる遺物を包含しない旧河道の東側を中心とする地域が本調査が必要な範囲と判断した。

北部においては，41トレンチで中世に属する柱穴多数と溝，50トレンチで条里坪界線に対応する溝，45トレンチでは明灰褐色砂で埋没する旧河道を検出した。なお，44トレンチ検出の柱穴は深さや底の状態からみて遺構とするよりも自然の落ち込みの可能性が高く，46トレンチ検出の遺構は埋土の状況から近現代のものと判断される。このうち41，50トレンチを中心とする範囲5,000㎡を本調査対象地とし，45トレンチ検出の遺物を包含する旧河道については，事業地の端に僅かにかかるのみであるため予備調査によるトレンチ調査によって調査を終了することとした。

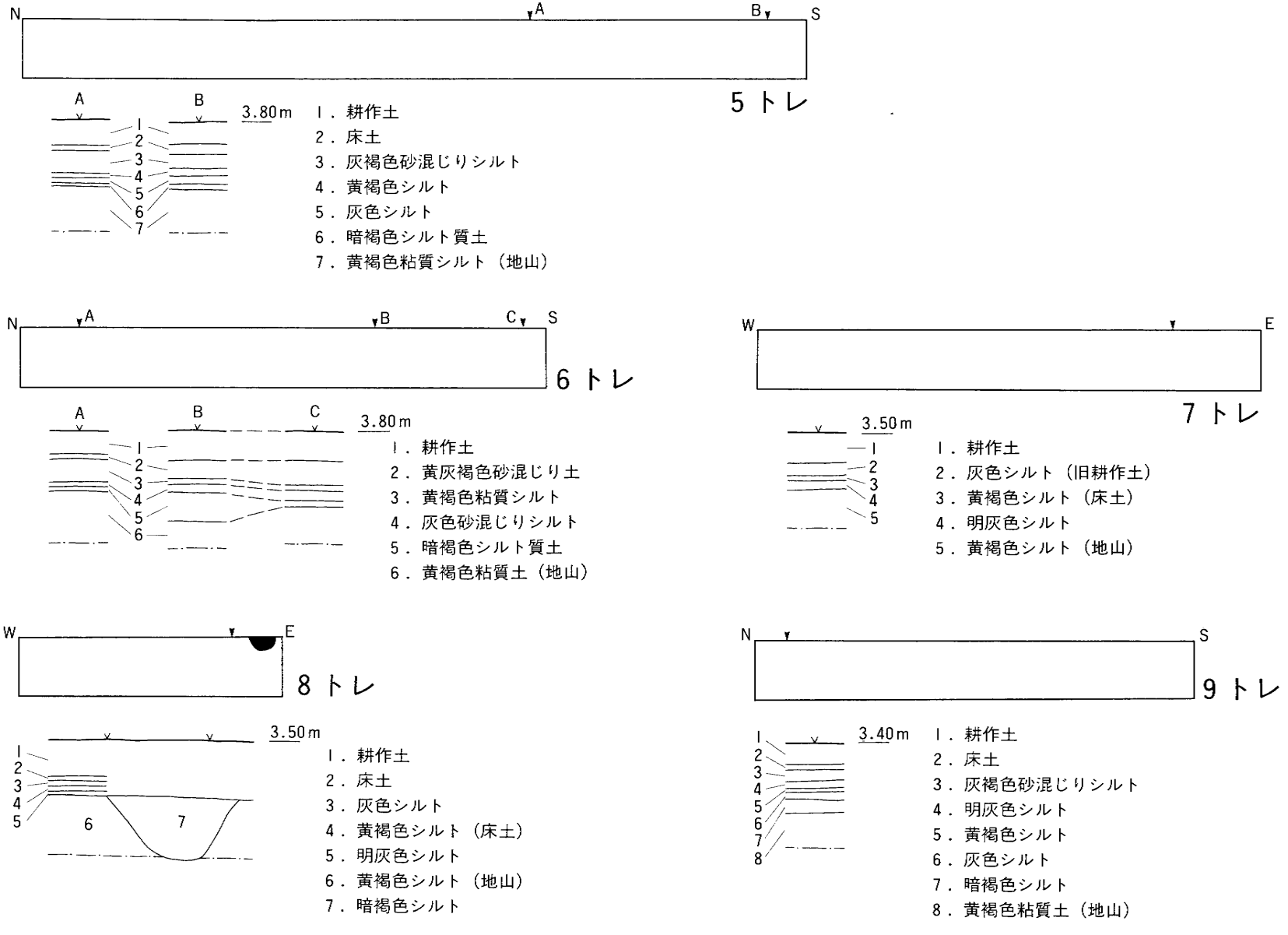
第20，21図は予備調査によって出土した遺物実測図である。

１は１トレンチ（南）で出土した土師器小皿である。底部は回転ヘラ切りされ，のちに板状の圧痕が見られる。２は28トレンチで出土した円盤状高台の杯か椀，底部は回転糸切りである。３は19トレンチ検出のピットから検出された杯，４は３トレンチ検出の溝状遺構から出土した杯である。５，６は28トレンチから出土したもの。５は両黒の黒色土器椀である。口縁端部内面に一条の沈線が巡り，端部はやや外側に開き尖り気味である。内外面に緻密にヘラミガキが施されている。６は青磁碗の底部破片である。７は19トレンチのピットから出土した土師器土釜，８は44トレンチから出土した土師器土釜である。８は直立する体部にしっかりとした鍔が付くのにたいし，７は内傾する体部に形骸化した鍔の付くもの

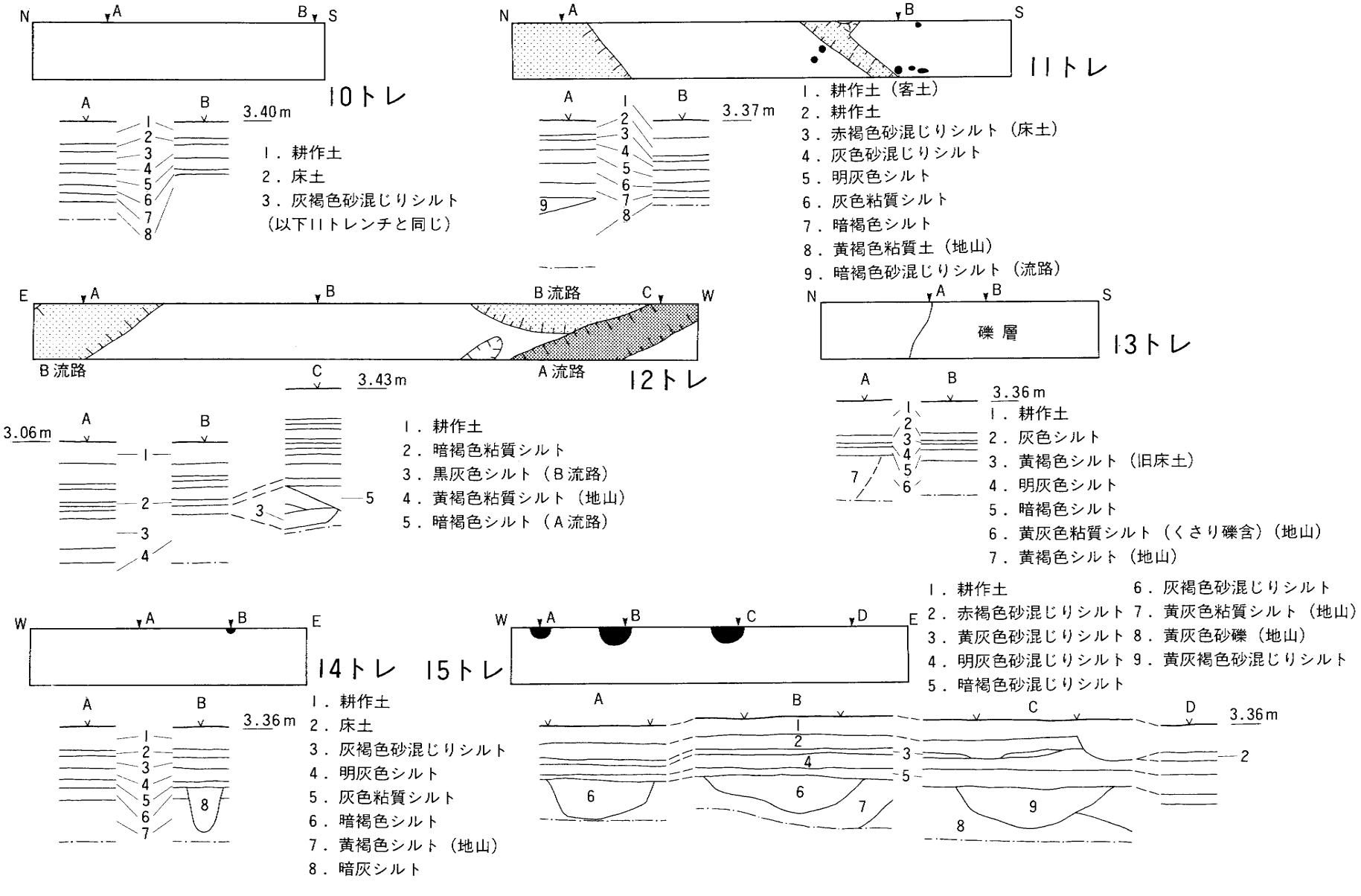
第8図　予備調査トレンチ配置図



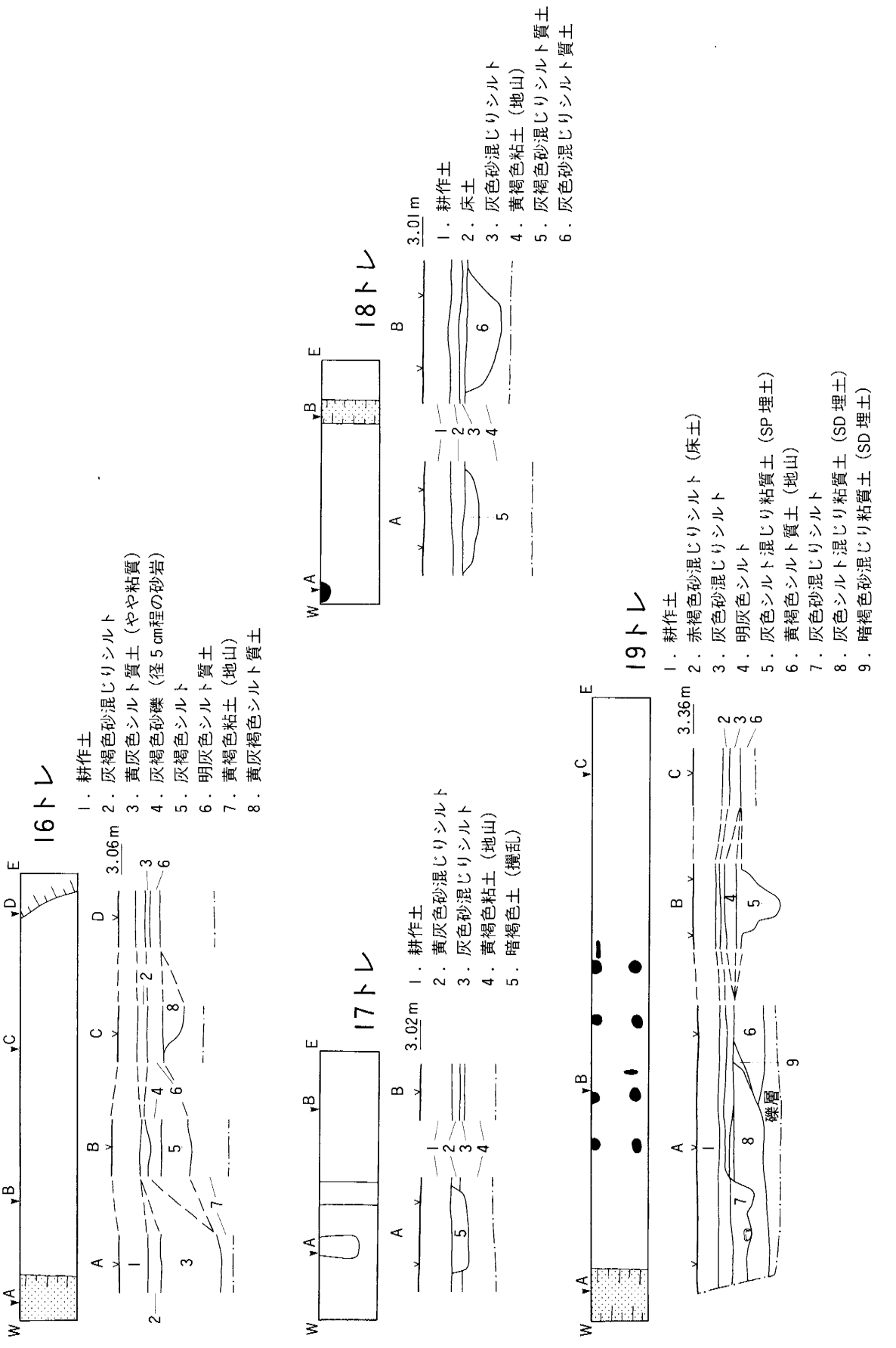
第９図　予備調査トレンチの概要(1)（１～４トレンチ）



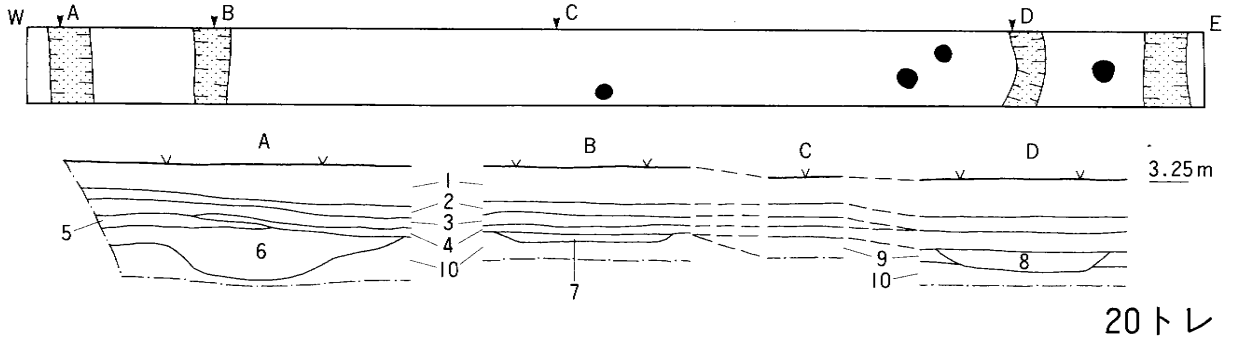
第10図　予備調査トレンチの概要(2)（5～9トレンチ）



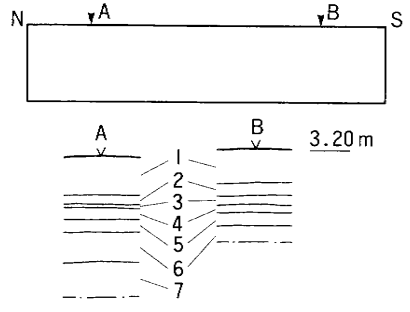
第11図　予備調査トレンチの概要(3)（10～15トレンチ）



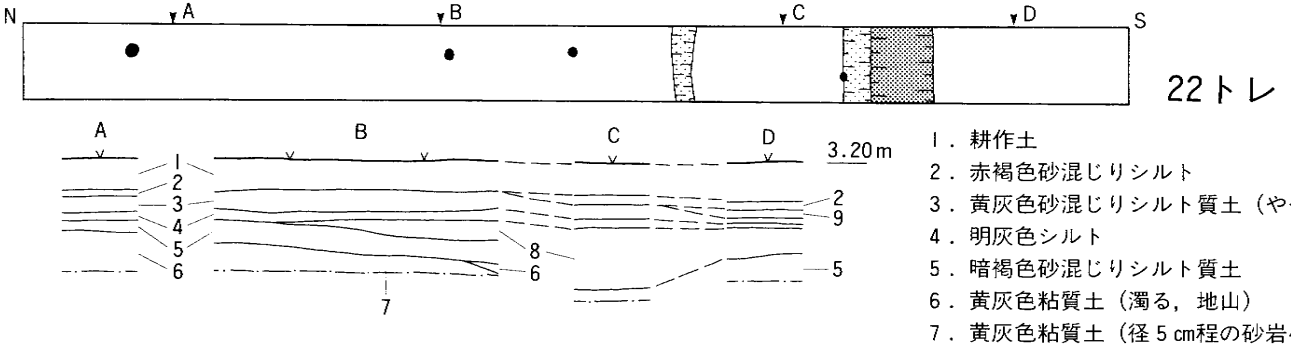
第12図　予備調査トレンチの概要(4)（16～19トレンチ）



1．耕作土
2．赤褐色砂混じりシルト（床土）
3．黄灰色シルト質土（やや粘質）
4．明灰色シルト質土（やや粘質）
5．灰色シルト
6．灰色砂混じりシルト
7．暗灰色砂礫混じり粘質土
8．黒灰色砂混じり粘質土
9．暗褐色砂礫混じりシルト質土（弥生土器包含）
10．黄灰色粘質シルト（地山）
暗灰色砂礫混じり粘質土（SP 埋土）

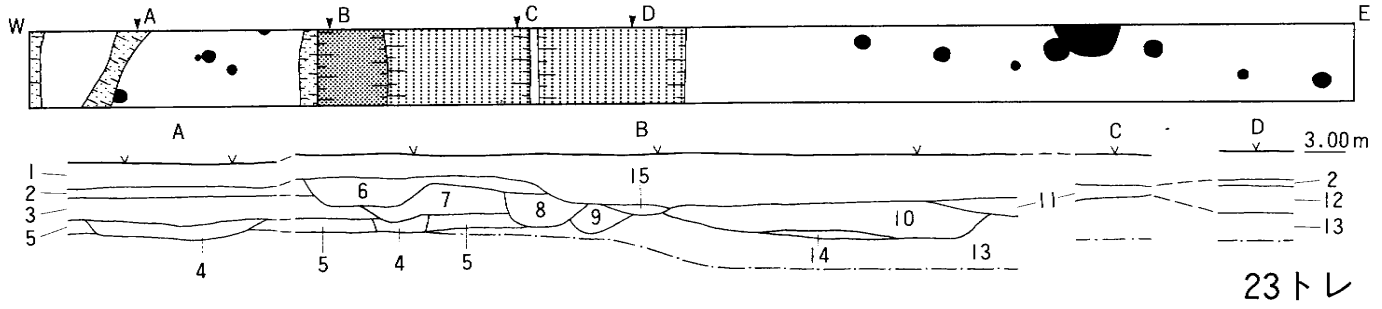


1．耕作土
2．赤褐色砂混じりシルト（床土）
3．灰色シルト
4．黄灰色シルト
5．明灰色シルト
6．灰褐色砂混じりシルト
7．黄灰色粘質シルト（地山）

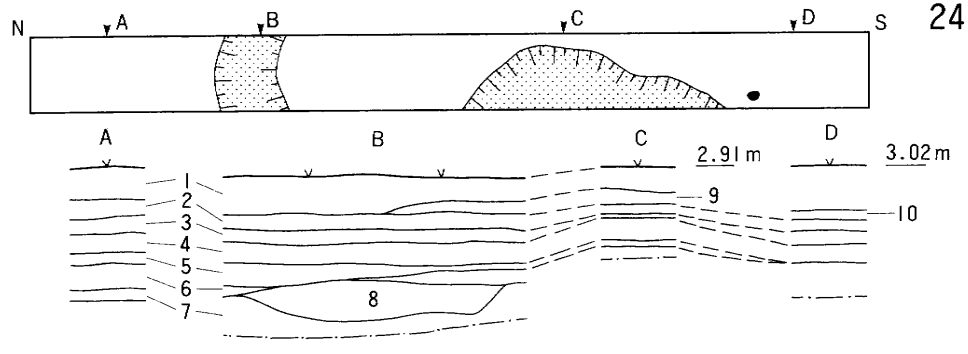


1．耕作土
2．赤褐色砂混じりシルト
3．黄灰色砂混じりシルト質土（やや粘質）
4．明灰色シルト
5．暗褐色砂混じりシルト質土
6．黄灰色粘質土（濁る，地山）
7．黄灰色粘質土（径 5 cm程の砂岩小礫含）
8．暗褐色粘質土
9．灰色砂混じり粘質土

第13図　予備調査トレンチの概要(5)（20～22トレンチ）

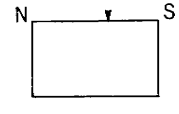


1．耕作土
2．赤褐色砂混じりシルト
3．黄灰色シルト質土（やや粘質）
4．暗褐色砂混じりシルト質土
5．灰褐色砂混じり粘質土
6．攪乱
7．明灰色シルト
8．灰色砂（中，細砂主体）
9．暗褐色粘質シルト
10．灰色砂礫混じり粘質シルト
11．淡灰褐色中砂
12．暗灰褐色砂礫混じり土
13．黄色粘質土（地山）
14．灰赤褐色砂礫混じり粘質シルト
15．灰色シルト
暗褐色砂混じりシルト（SP埋土）

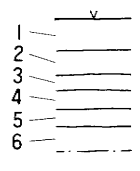


24トレ

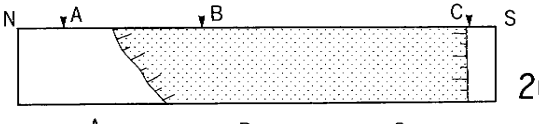
1．耕作土
2．明灰色シルト質土
3．黄灰色砂混じりシルト質土
4．暗褐色砂混じりシルト質土
5．灰色細砂混じりシルト
6．黄色粘質シルト（地山）
7．黄灰色粘土（地山）
8．暗褐色粘質土
9．暗灰色土
10．赤褐色砂混じりシルト（床土）



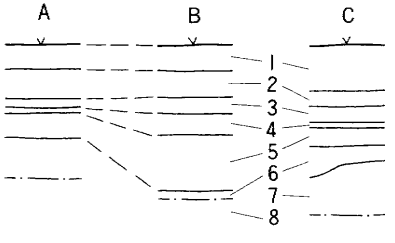
25トレ



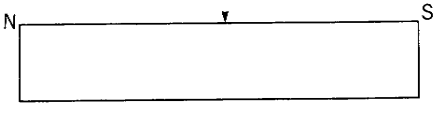
1．耕作土
2．暗灰色砂混じりシルト質土
3．灰色砂質土（細砂主体）
4．黄灰色砂混じり粘質土
5．灰色粘質シルト
6．暗褐色砂混じりシルト



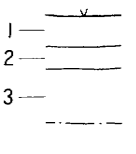
26トレ



1．耕作土
2．暗灰色砂混じりシルト質土
3．灰色砂質土（細砂主体）
4．黄灰色砂混じり粘質土
5．灰色粘質シルト
6．暗褐色砂混じりシルト
7．黒褐色粘土
8．黄灰色粘質土（5cm程の砂岩礫含）（地山）

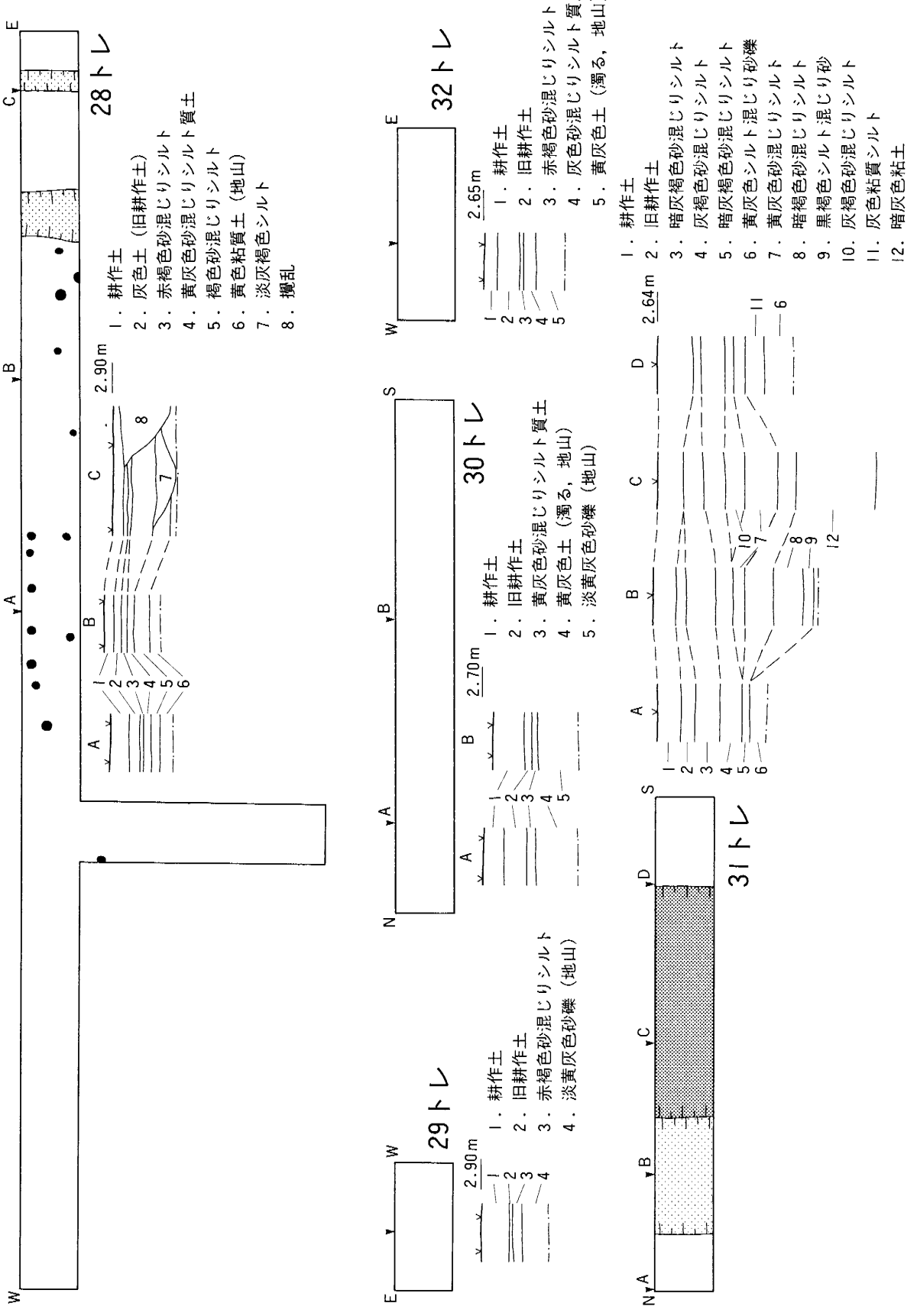


27トレ

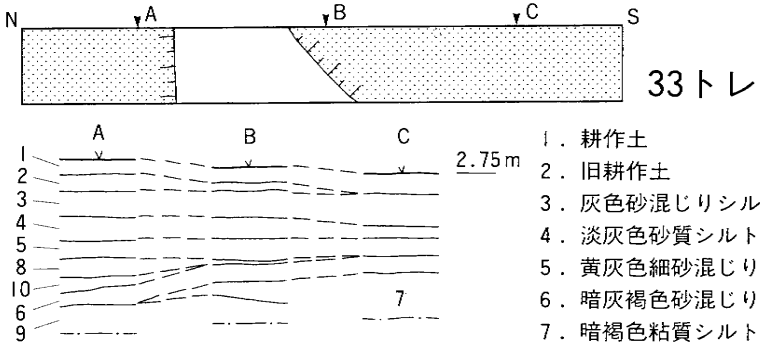


1．耕作土
2．暗灰色砂混じりシルト質土
3．黄灰色砂混じり粘質土（地山）

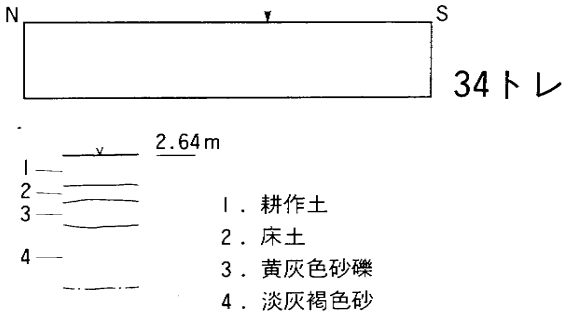
第14図　予備調査トレンチの概要(6)（23～27トレンチ）



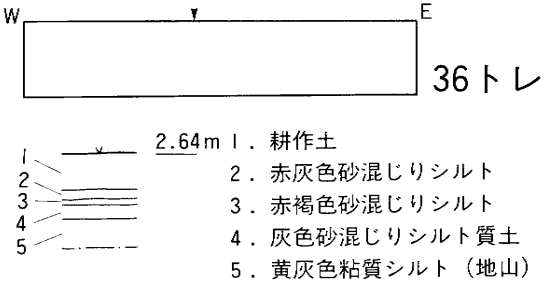
第15図　予備調査トレンチの概要(7)（28～32トレンチ）



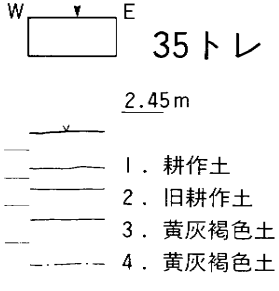
1．耕作土
2．旧耕作土
3．灰色砂混じりシルト質土
4．淡灰色砂質シルト
5．黄灰色細砂混じりシルト
6．暗灰褐色砂混じりシルト質土
7．暗褐色粘質シルト
8．灰色粘質シルト
9．暗黄灰色砂混じり粘質土
10．明灰色粘質シルト



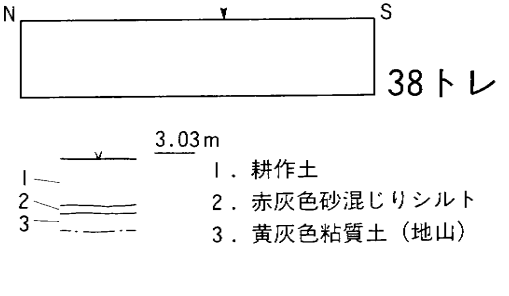
1．耕作土
2．床土
3．黄灰色砂礫
4．淡灰褐色砂



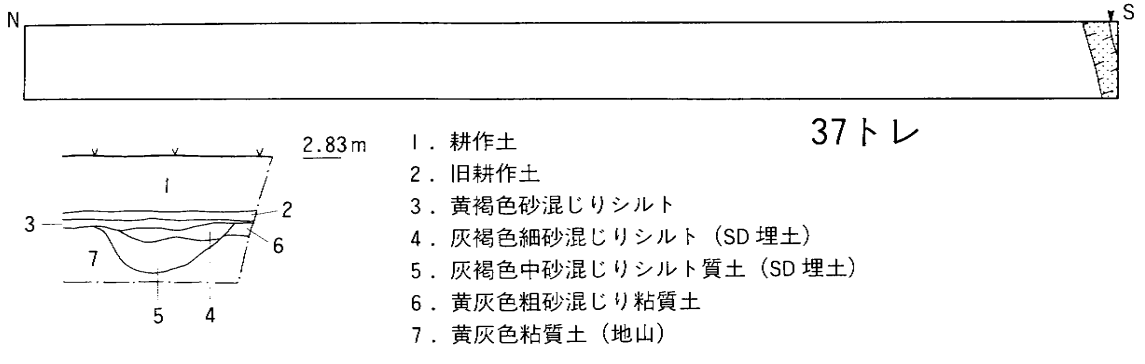
1．耕作土
2．赤灰色砂混じりシルト
3．赤褐色砂混じりシルト
4．灰色砂混じりシルト質土
5．黄灰色粘質シルト（地山）



1．耕作土
2．旧耕作土
3．黄灰褐色土（中砂～シルト主体，ややグライ化）
4．黄灰褐色土（中砂～シルト主体）

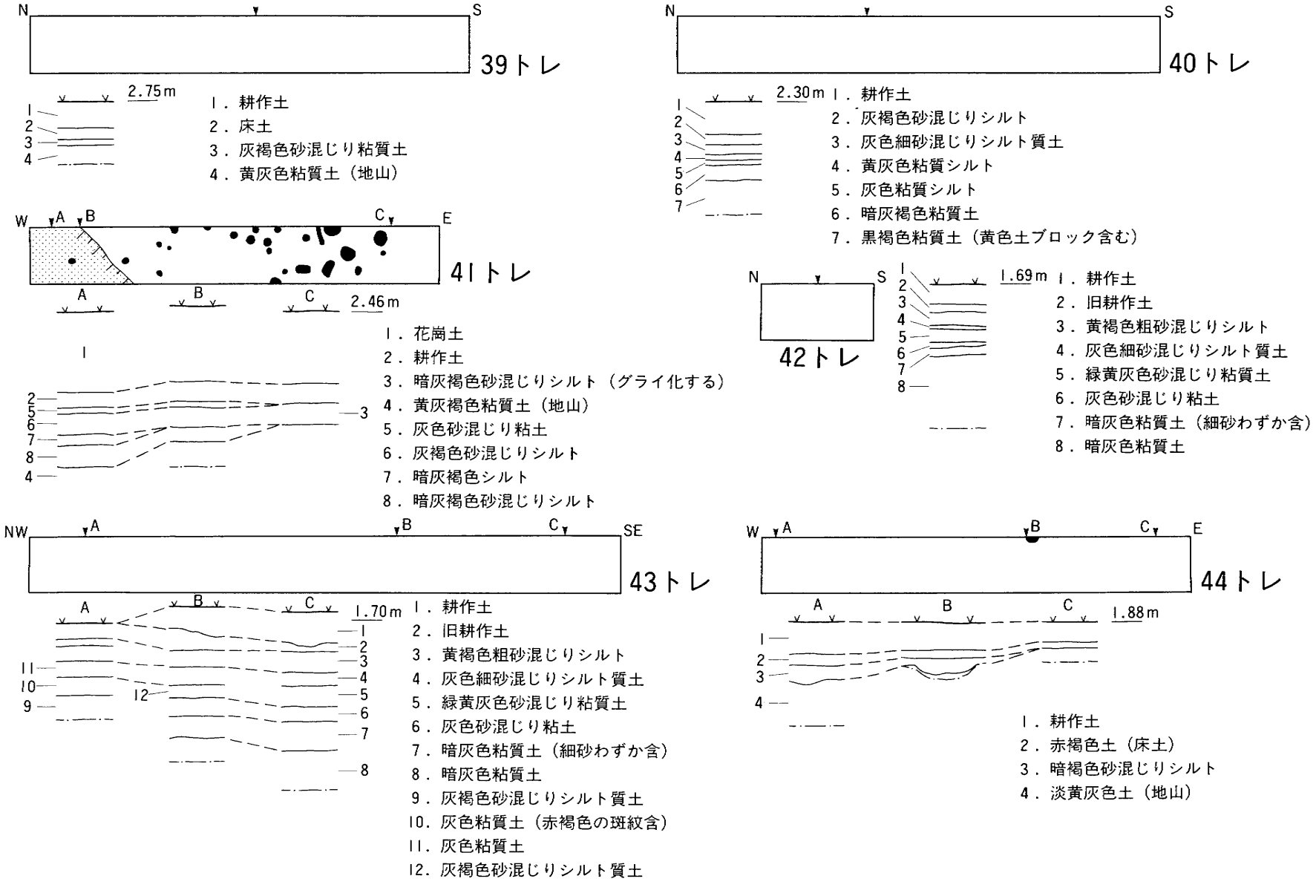


1．耕作土
2．赤灰色砂混じりシルト
3．黄灰色粘質土（地山）

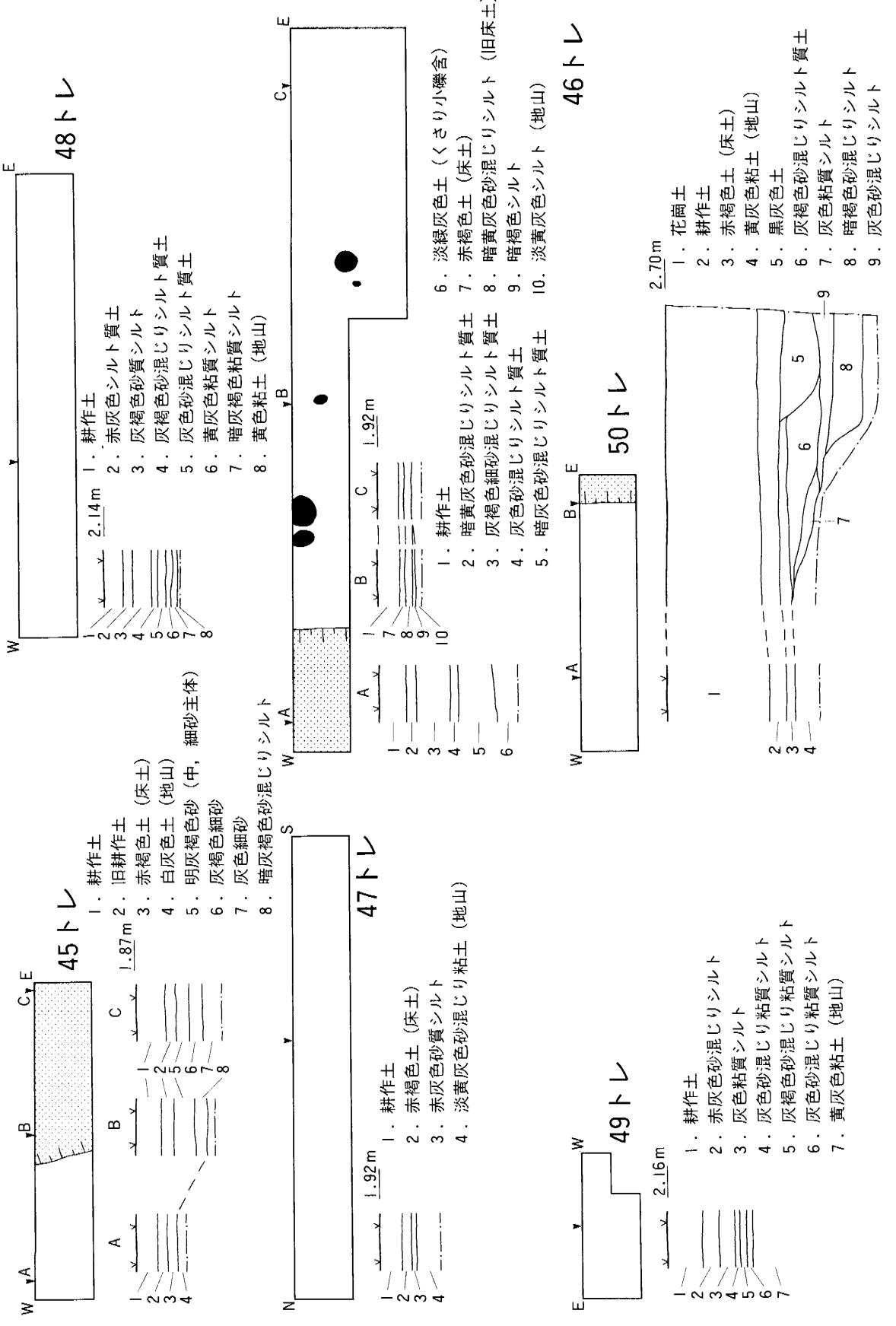


1．耕作土
2．旧耕作土
3．黄褐色砂混じりシルト
4．灰褐色細砂混じりシルト（SD 埋土）
5．灰褐色中砂混じりシルト質土（SD 埋土）
6．黄灰色粗砂混じり粘質土
7．黄灰色粘質土（地山）

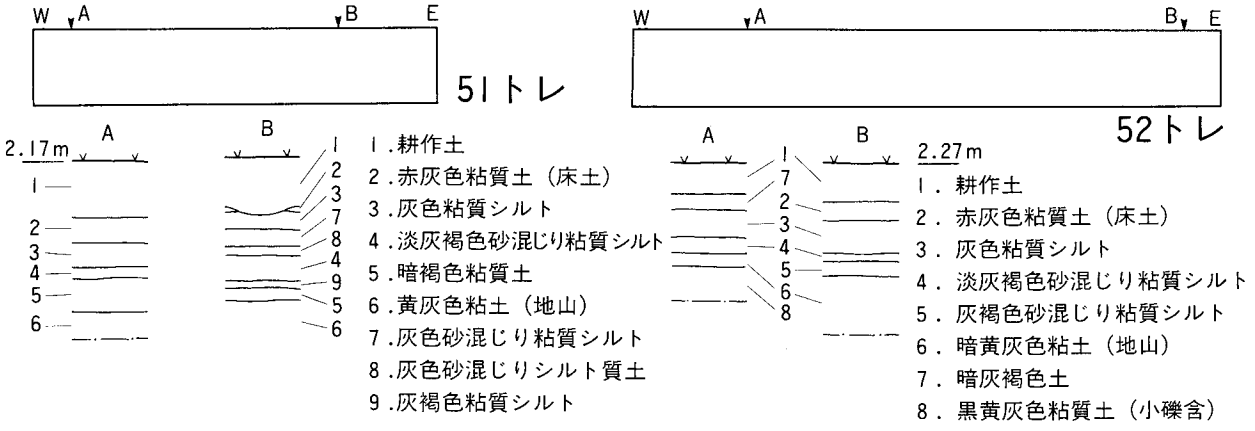
第16図　予備調査トレンチの概要(8)（33～38トレンチ）



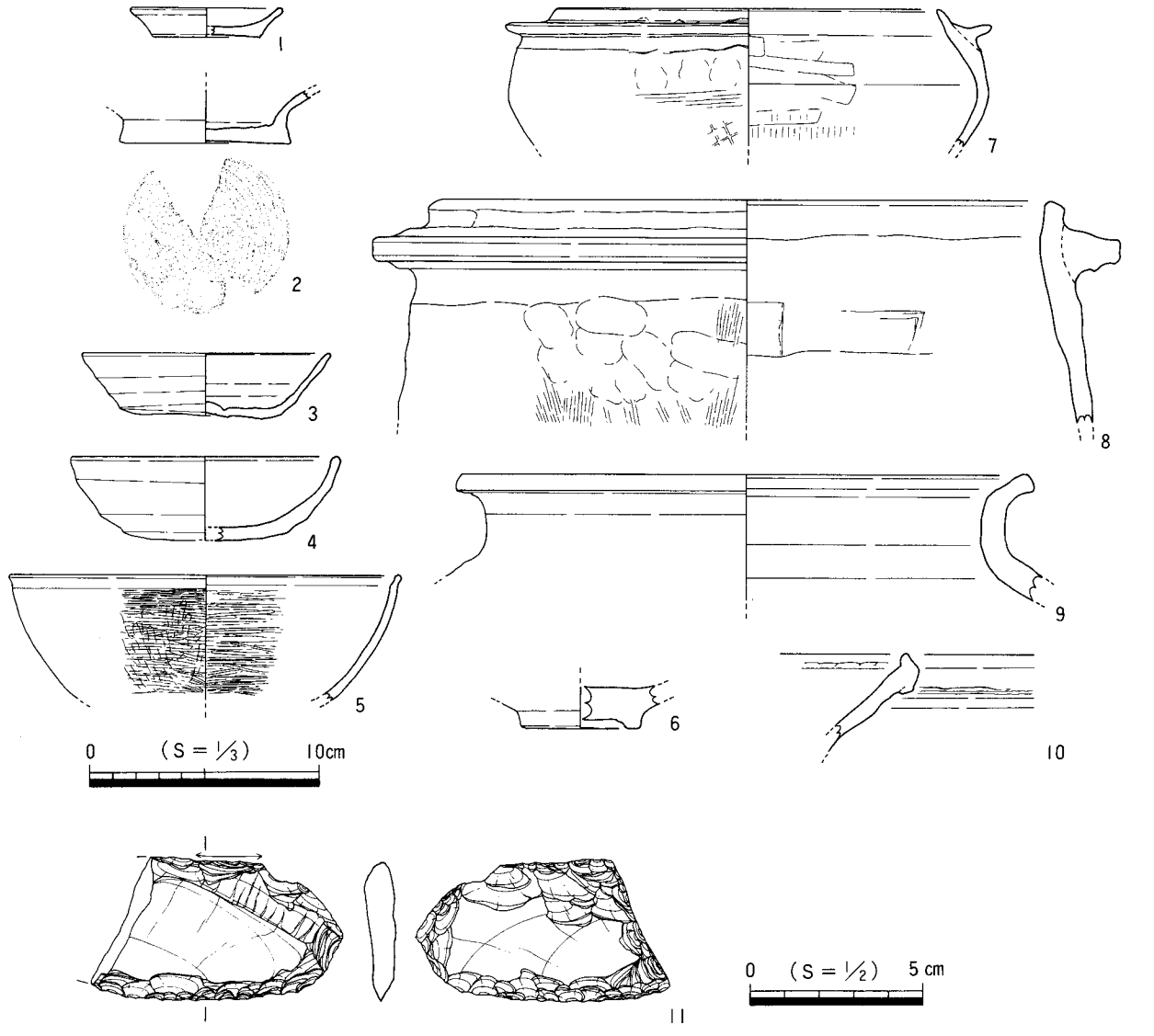
第17図　予備調査トレンチの概要(9)（39～44トレンチ）



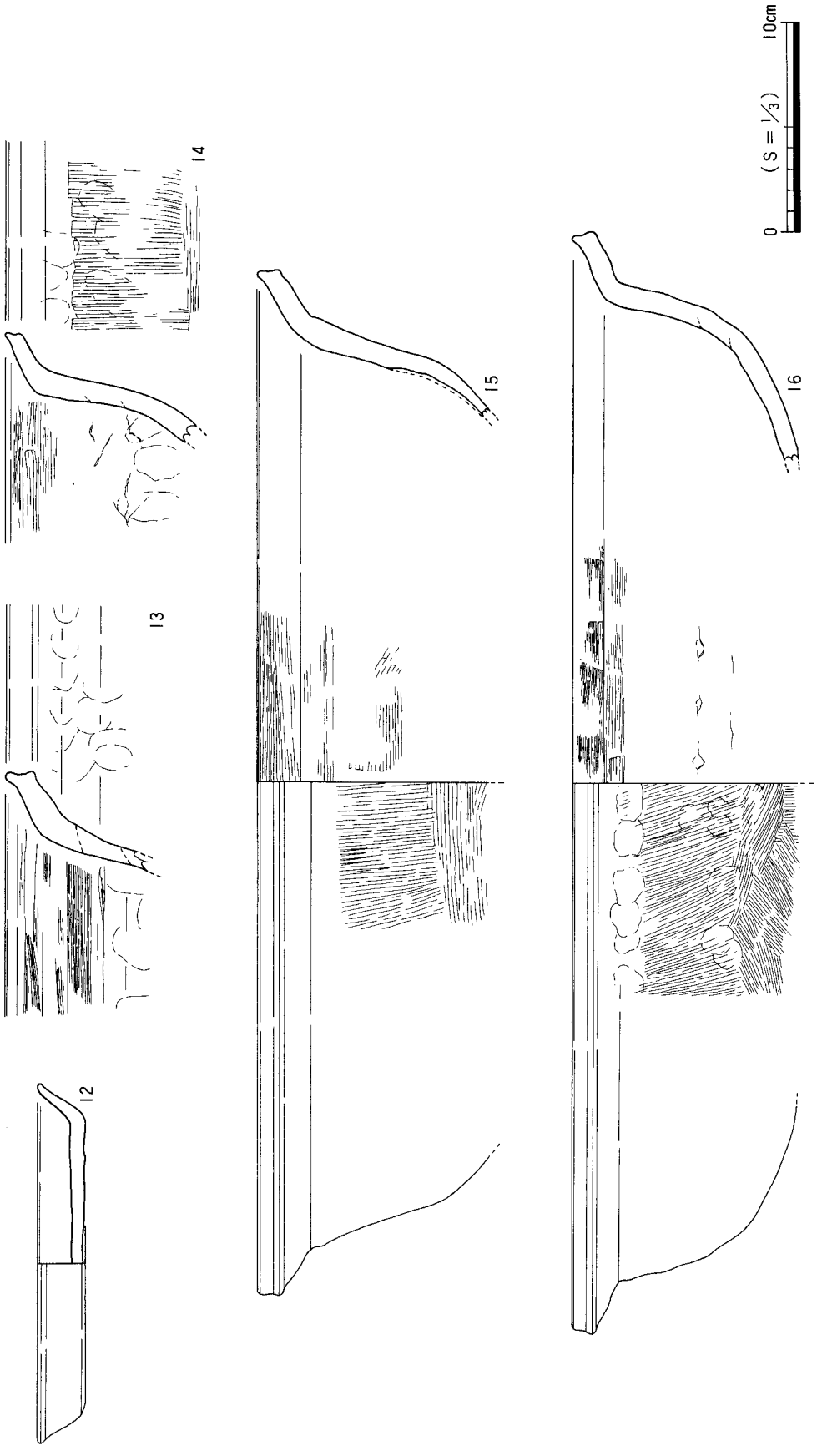
第18図　予備調査トレンチの概要(10)（45～50トレンチ）



第19図　予備調査トレンチの概要(II)（51，52トレンチ）



第20図　予備調査出土遺物実測図(I)



第21図　予備調査出土遺物実測図(2)

である。9は51トレンチ出土の瓦質土器の甕の口縁部破片。体部外面に格子目叩きの痕跡が認められる。10は19トレンチのピット出土の東播系須恵器こね鉢の口縁部破片である。11は22トレンチから出土したスクレイパー。密に剝離を行って刃部を整形している。背面には一部刃潰しが認められる。

第21図は45トレンチ検出の旧河道から出土した遺物実測図である。この旧河道は西岸のみが検出されたもので，川幅7m以上，深さは50cm以上を測る。埋土は上から明灰褐色砂層・灰褐色砂層・淘汰の良い灰色細砂層からなる。28㍑コンテナ2箱分の遺物が出土した。遺物は12の焼成不良の須恵器皿の破片以外は，土鍋の破片であり，少なくとも8個体分以上がある。13～16は土鍋である。口径に対して器高が浅く，半球状の断面形を呈し，緩く屈曲し端部を上方に摘み上げる口縁部形態である。体部外面に縦方向の粗いハケ，内面に横方向のハケ，底部外面に不整方向のハケが認められる。

第２節　Ｄ区の調査

１．調査成果の概要

Ｄ区は，西打遺跡の南端に位置する調査区である。この調査区からは堀で囲繞された13世紀後半から14世紀前半代と推定される居館の東半部が検出された。また，居館は微高地に選地するが，東部および北部に拡がる低地部に堆積する包含層中から縄文時代早期から晩期にいたる遺物が出土した。以下に堆積状況と検出した遺構・遺物について報告する。

２．土　　層

第23図の土層断面①は調査区西壁のSD01付近の断面図，②は調査区西壁のSD41付近の断面図，③は調査区東端部の調査区北壁の断面図，④は調査区東壁のSD67付近の断面図である。

土層断面①は，中世居館の北辺にあたる。ここではSD01の北岸付近から11層が北方に落ち込みながら堆積しているが，この11層が「下層包含層」と呼称する縄文時代の遺物を包含する層である。中世の遺構は11層上面もしくは地山と考えられる12層上面で検出した。土層断面③，④は調査区東端部であるが，11層が20cm以上の厚さで堆積する（この付近での11層の層厚は，予備調査トレンチ３，４により約20cmである）。この付近では，中世の遺構は11層上面で検出した。なお，11層より上層（土層断面①では２～６層）は，中世以降の旧水田耕作土層と考えられる。

Ｄ区での11層が堆積する範囲は，巨視的にはＤ区SD01以北，SD55以東である。このことは逆に中世居館が微高地に選地していることを示している。

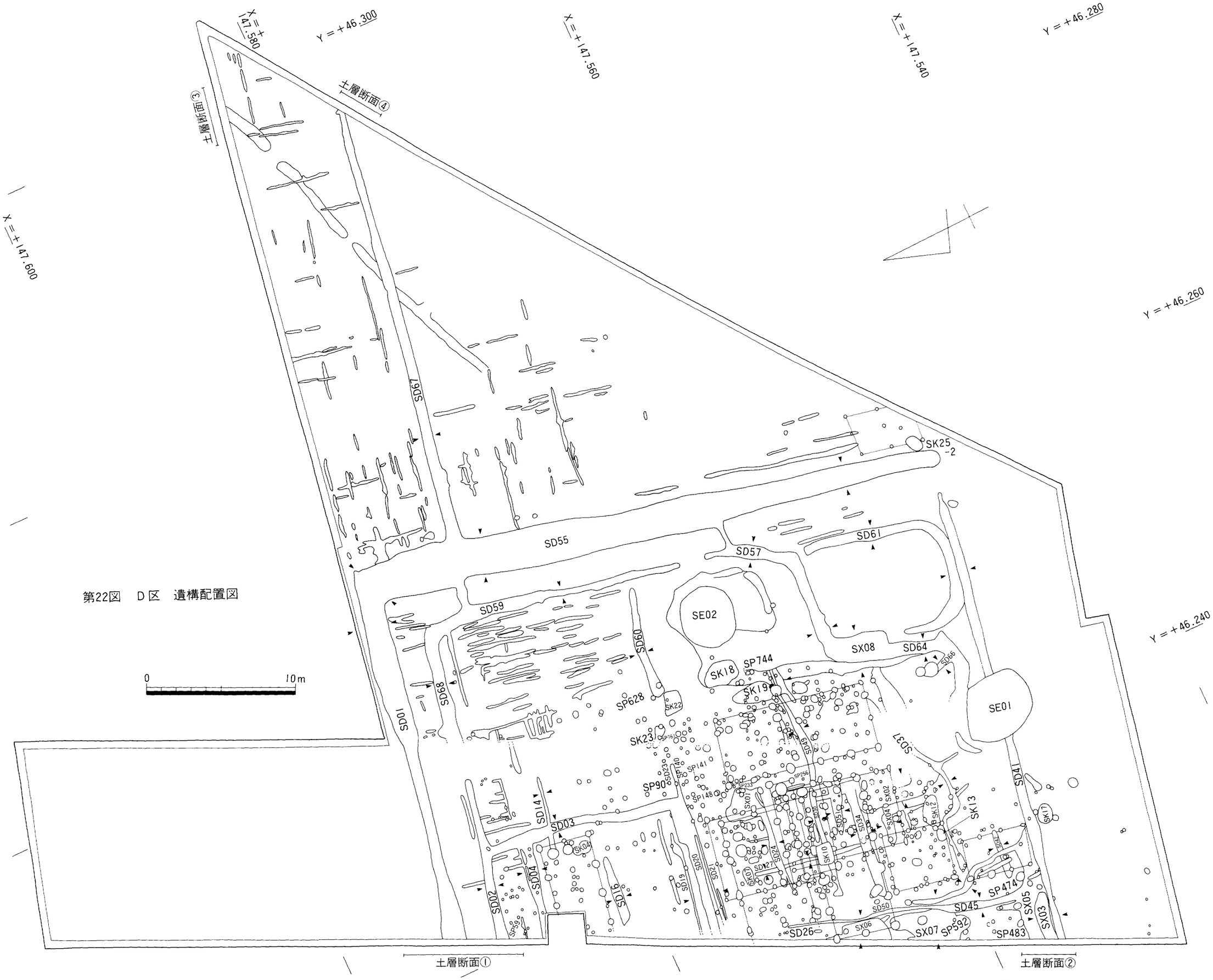
３．遺構・遺物

(1)　Ｄ区　下層包含層出土遺物

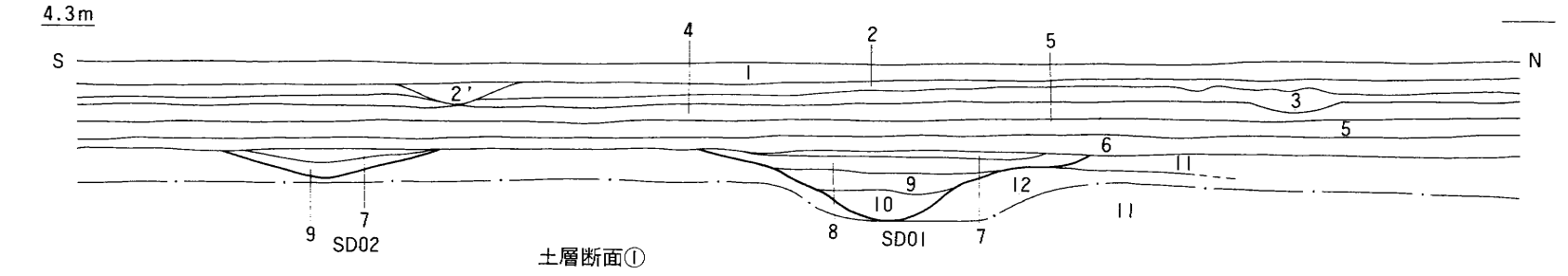
第24図17～19，第25図20～34はＤ区下層包含層から出土した遺物実測図である。第24図はＸ＝＋147.556，Ｙ＝＋46.225付近で検出されたもので，当初柱穴（SP749，750）と考えたが，その後の調査で包含層から出土したものと判断した。17，18は縄文時代晩期の浅鉢である。同一個体と考えられる。口縁部内側に一条の沈線が巡る。17は小破片，18も口縁部は小破片であるが，全体の形状から波状口縁になると考えられる。19は打製石斧基部の破片。刃部は折損する。一側縁の剝離が不十分で，刃潰しも見られないなど未製品と考えられる。

第25図20は異形局部磨製石器（トロトロ石器）である。全長約3.5cmの小型のもので石材はメノウである。脚部はやや外側に突起している。先端部は一部折損し，２次的な加工を受けている。本来は丸味のある形状であったと考えられる。表裏面の中央部（側縁の押圧剝離の及ばない部分）は磨滅している。異形局部磨製石器は縄文時代早期の押型文土器後半期に伴うものとされるが，(注) 当該期のその他の遺物は出土していない。また，県内では三豊郡仁尾町の仁尾中学校所蔵品中に１例あるといわれているが詳細不明である。

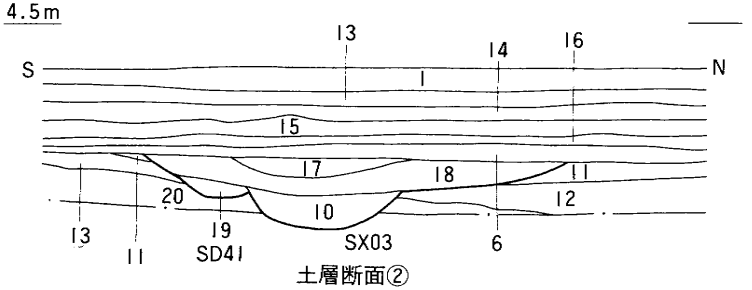
21は柳葉形の石鏃。断面の厚い状態での両側からの剝離のため，刃部の断面はトタン板のような凹凸



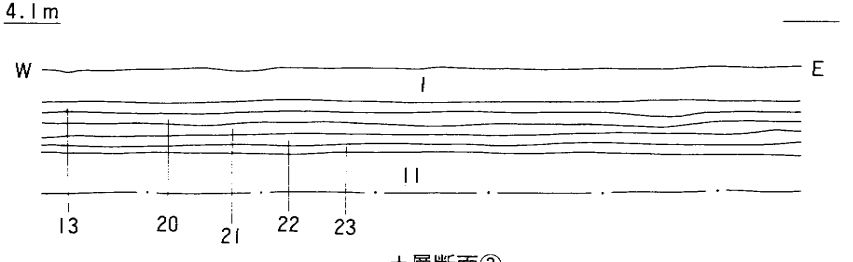
第22図　D区　遺構配置図



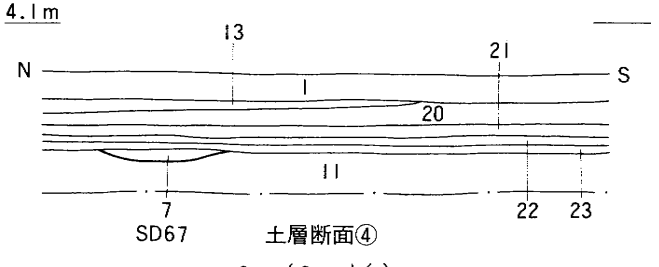
土層断面①



土層断面②



土層断面③



土層断面④

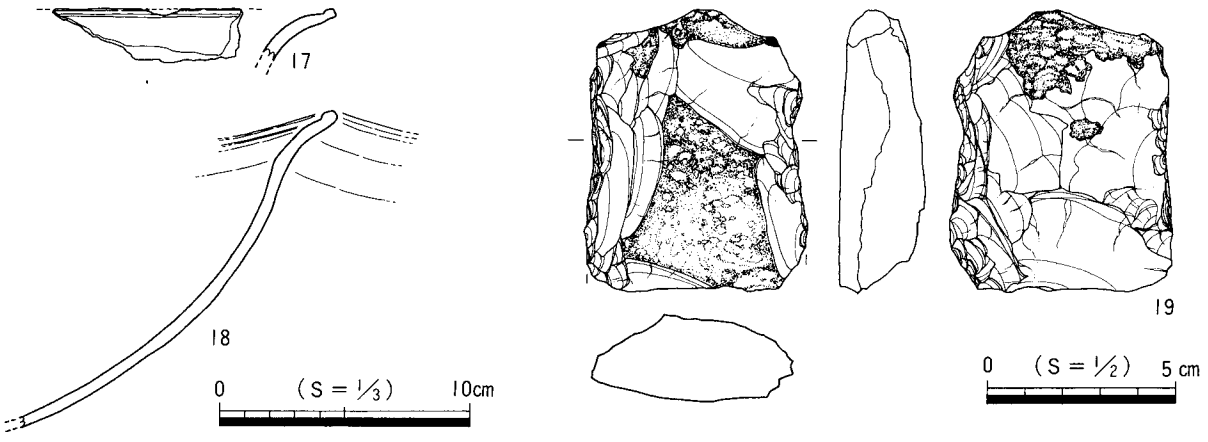
0 (S = 1/40) 1m

1．耕作土
2．白灰色砂層
2'．赤褐色砂層
3．灰色細砂（赤褐色斑を含）
4．灰褐色砂混じりシルト
5．灰褐色砂混じりシルト
（4層より色調暗く，砂多く含）
6．明灰色シルト
7．明灰色シルト（6層より細砂多く含）
8．明灰色シルト（7層より色調暗い）
9．暗灰褐色シルト
10．暗灰色粘質土（SX03）
11．暗黄灰褐色砂混じりシルト
12．黄灰褐色砂混じりシルト
13．旧耕作土
14．赤褐色砂混じりシルト（砂多く含）
15．灰褐色砂混じりシルト
16．灰褐色砂混じりシルト（15層より色調明るい）
17．暗黄灰褐色砂混じりシルト ］ (SX05)
18．暗灰褐色シルト ］ (SX05)
19．暗黄灰褐色砂混じりシルトのブロック（SD41）
20．弱黄灰褐色砂混じりシルト
21．黄灰褐色シルト
22．明灰褐色シルト
23．黄褐色シルト

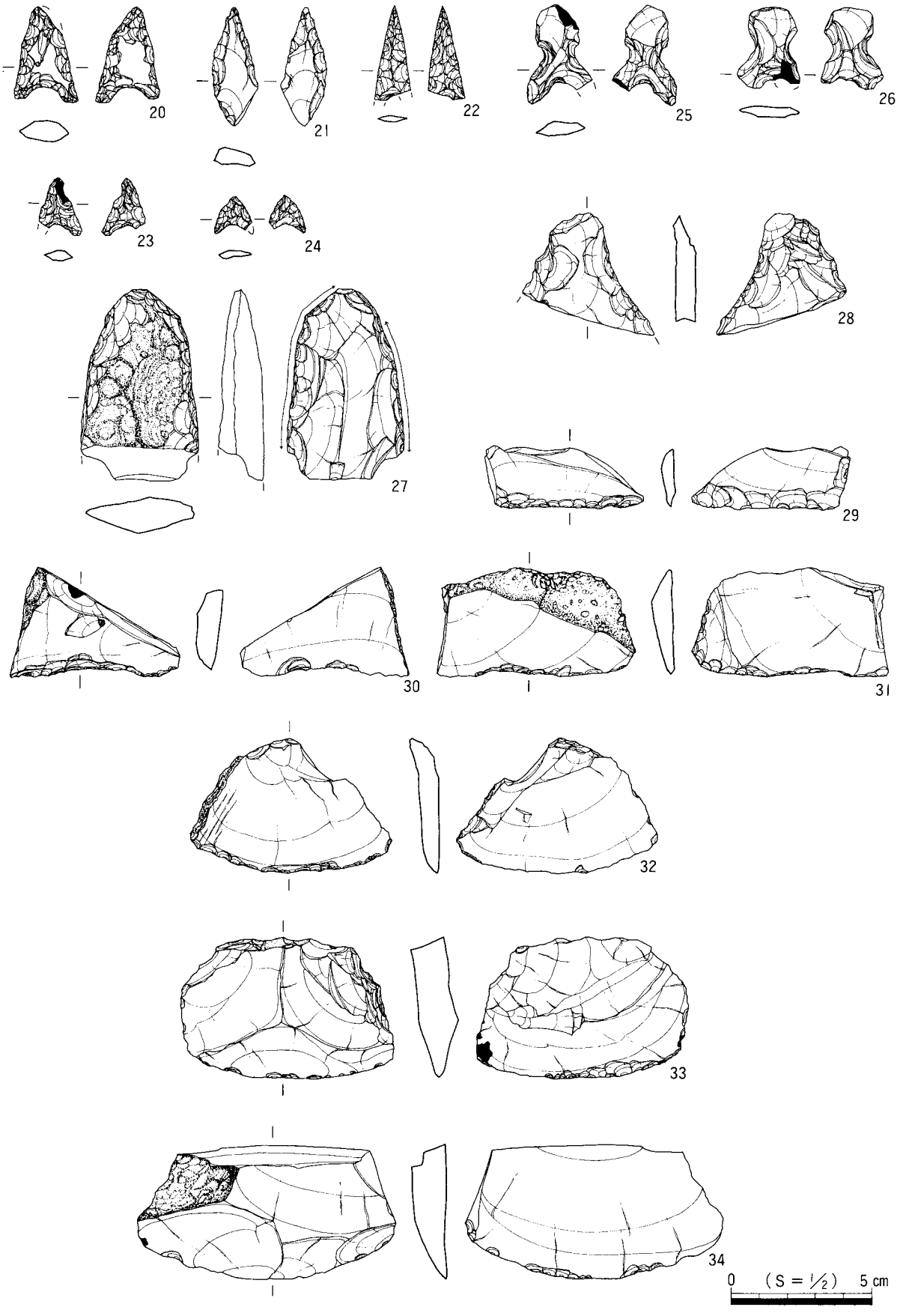
第23図　D区　土層断面図

ができている。22～24は凹基式石鏃である。24は0.36gときわめて小型のものである。25，26は石鏃の未製品と考えられる。先端付近が尖らずに左右に拡張し，この部分の押圧剝離が充分でないことが根拠である。石鏃の製作工程を示すものとして興味深い資料である。27は打製石斧の基部。刃部は折損する。側縁に刃潰れが見られる。28はC形態になると思われる石匙の破片である。刃部は折損する。29～34はスクレイパーである。30，32は主として片面からのみ押圧剝離を施し，31，33，34は押圧剝離を僅かに施すのみで鈍い刃部である。

（注）岡本東三「トロトロ石器考」麻生優編『人間・遺跡・遺物　わが考古学論集１』1983



第24図　D区　下層包含層出土遺物実測図(1)



第25図　D区　下層包含層出土遺物実測図(2)

(2) 掘立柱建物

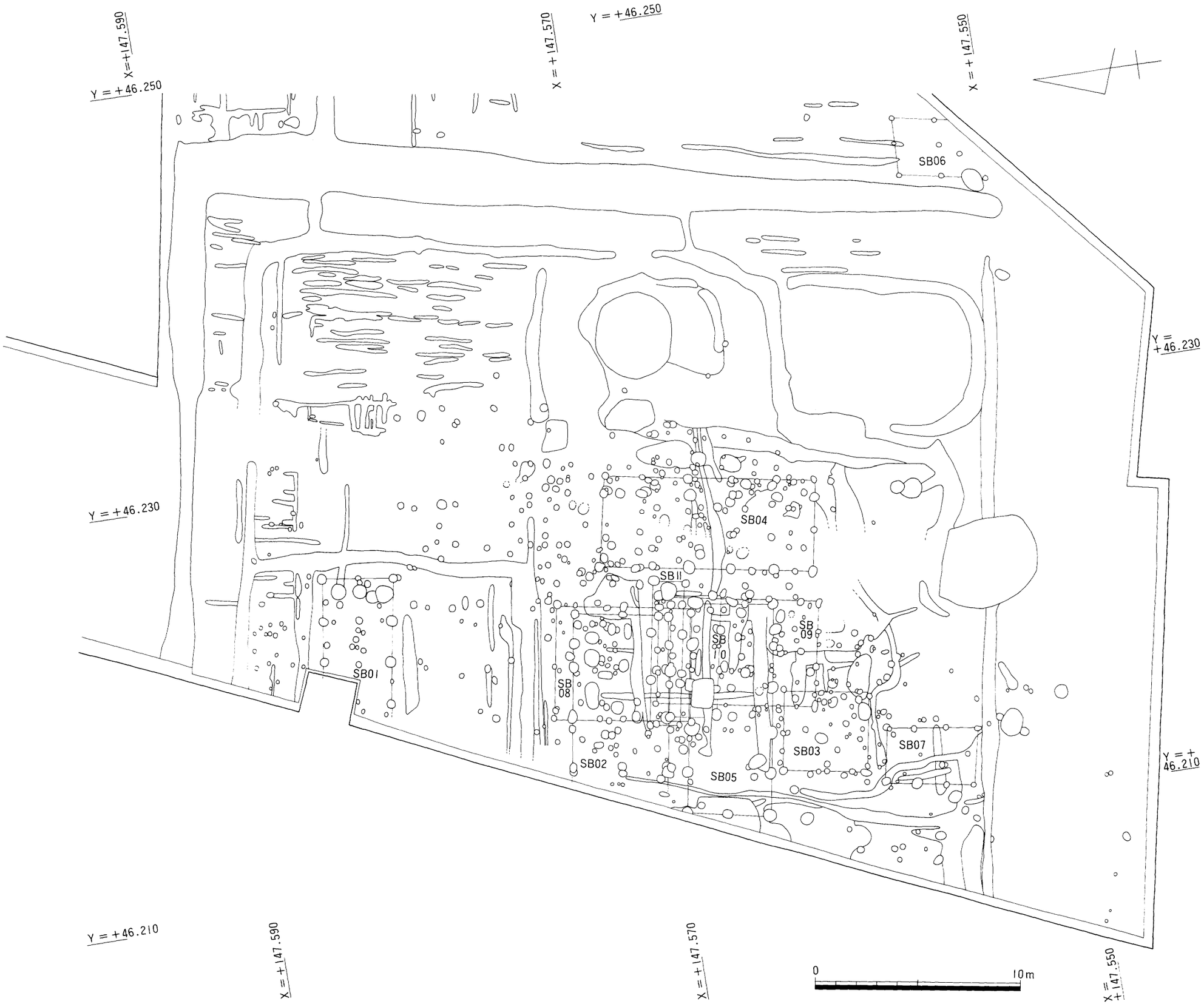
D区　SB01

X＝＋147.584，Y＝＋46.223付近で検出した2間×3間以上の総柱の掘立柱建物である。桁行の方向は座標北から西へ約81°振った方向で，西側は調査区外に延びるか，SP100が西南隅になるのかは不明である。桁行6.0m以上，梁行3.4m，床面積20.4m²（6.2坪）以上を測る。各柱間は桁側で2.0m前後，梁側で1.6～1.7mほどで整った配列である(第41図)。SD03，16，04は雨落ち溝，SK02～04はSB01に伴う土坑と考えられる。なお，SK02～04が建物に伴うものと仮定すると，総柱の構造を呈するが倉庫よりも一般の居宅を想定するべきであろう。

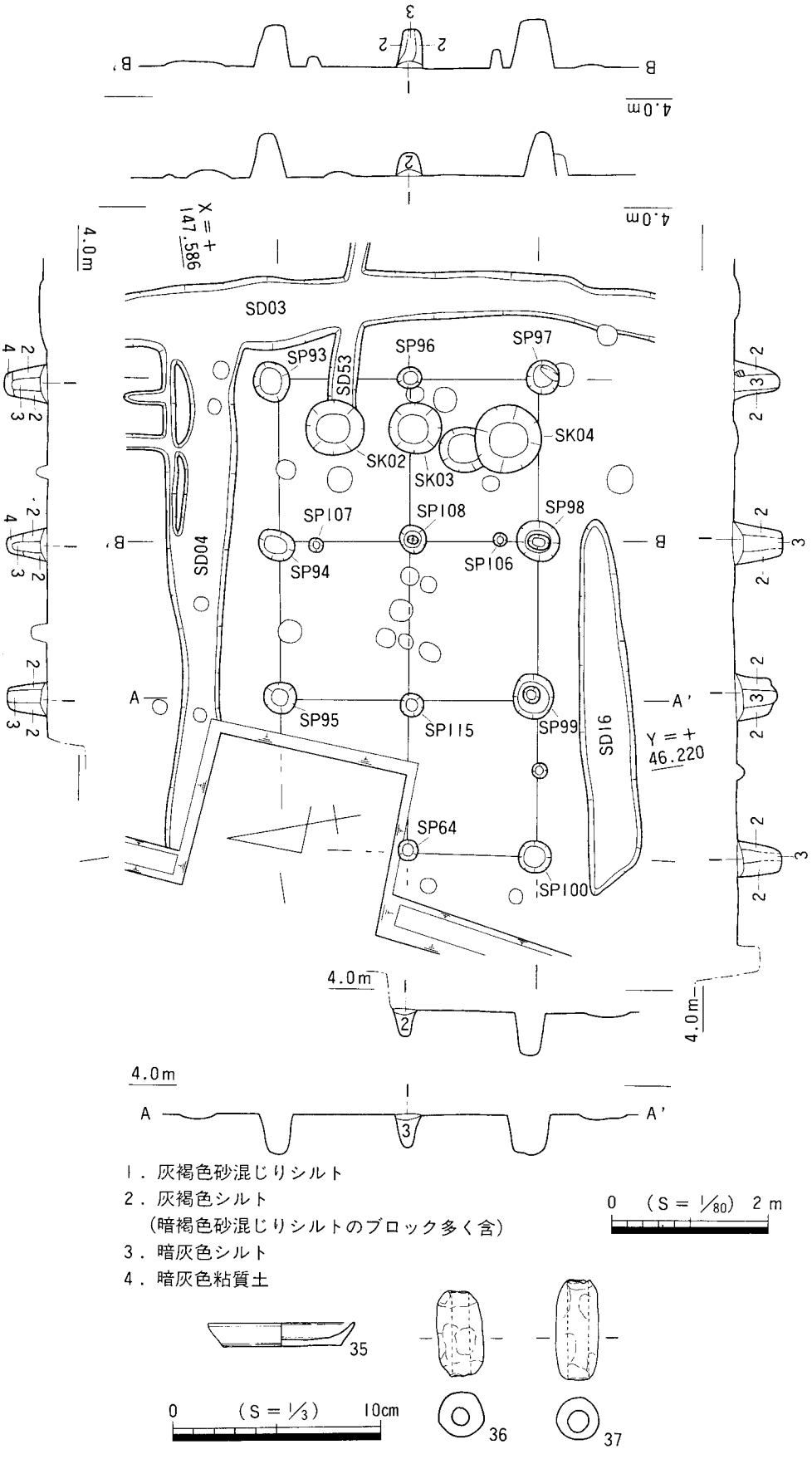
第27図35～37はSB01出土の遺物実測図である。35はSP98から出土した土師器小皿である。36，37はSP93から出土した土錘である。2点とも完形で出土した。このほかにSP64，93，95，98，100，115から土師器の杯か小皿の小破片が出土している。

D区　SB02

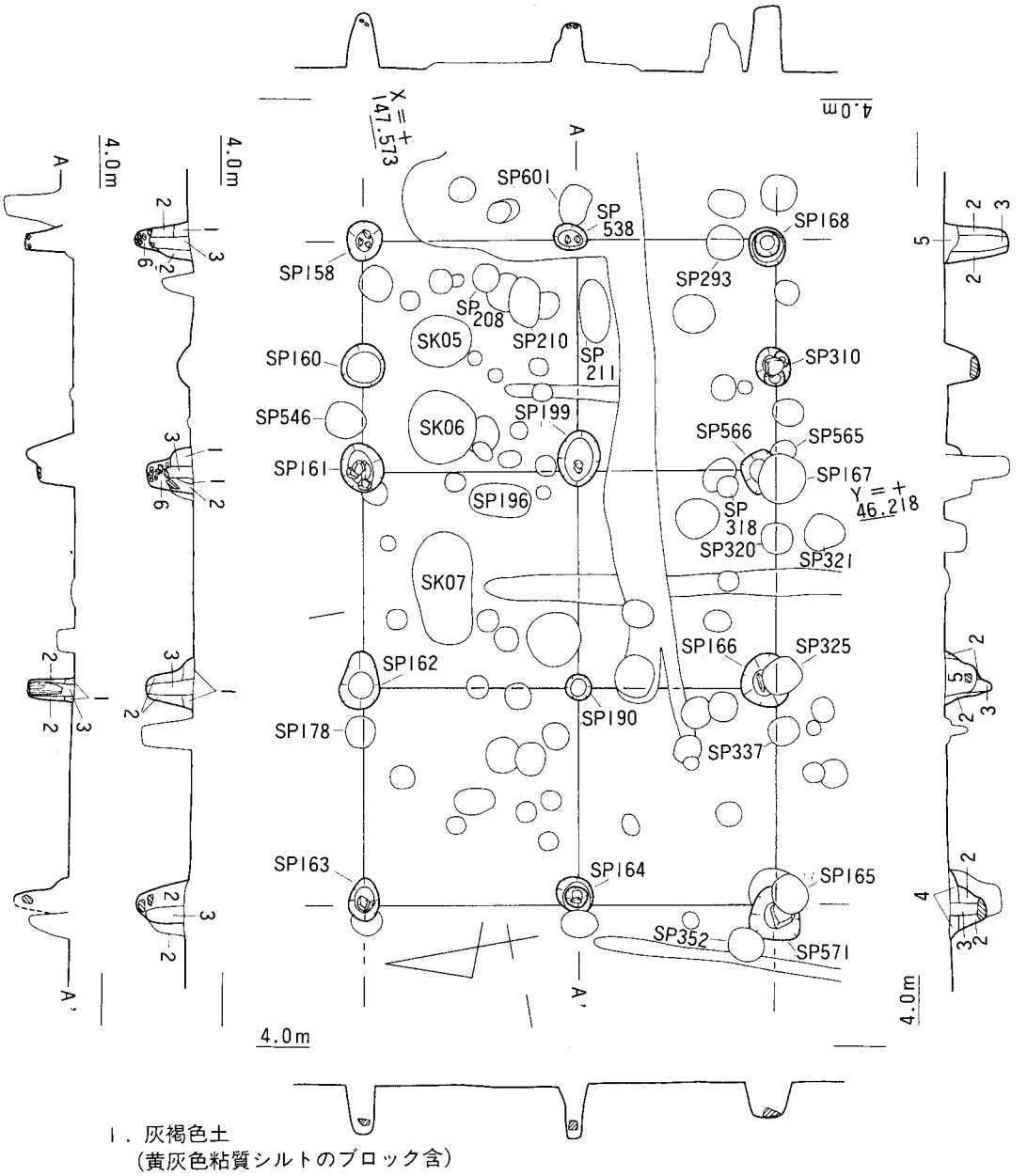
X＝＋147.571，Y＝＋46.218付近で検出した2間×3間以上の総柱の掘立柱建物である。桁行の方向は座標北から西へ81°振った方向で，西側は調査区外に延びるか，SP571が西南隅になるのか不明である。桁行7.35m以上，梁行4.5m，床面積33.1m²（10坪）以上を測る。各柱間は桁側で2.3～2.6m，梁側で2.15～2.35mで整った配列である(第41図)。SB10と切り合い関係があり，SB10より古い。SK05～07はSB02かSB08に伴う土坑と考えられる。第28図38～45はSB02出土遺物実測図である。38，39，41はSP160から出土した土師器小皿である。38は完形で出土し，39，41は小破片で出土した。40はSP161から出土した土師器小皿，42，43はSP162から出土した土師器杯である。42はSB04のSP666出土の破片と接合している。43はほぼ完形の状態で出土している。44はSP166から出土した土師器杯である。38～44はいずれも底部は回転ヘラ切りである。45はSP538から出土した土釜口縁部の小破片である。また，105，106は第43図に掲載しているが，SB02を構成するSP199から出土したもので，105は小片，106は3/4ほど遺存する。106は厚い底部をもつ土師器杯である。この他図化していないが，SP158，161～163，168，566から土師器杯か小皿の小片，SP165，166から杯か小皿の小片，器種不明の土師器片，SP178から杯口縁部片，器種不明の土師器片，SP310から杯小片，SP538から杯か小皿の小片，土鍋の口縁小片，器種不明の土師器小片，SP566から杯か小皿の小片，器種不明の瓦質土器小片が出土している。また，SP190，566には柱材が遺存しており樹種同定の結果ヒノキであることが判明している。



第26図　D区　柱穴集中部　遺構配置図

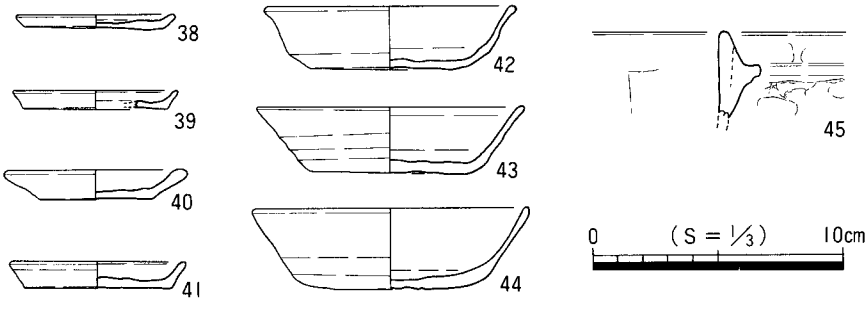


第27図　D区　SB01平・断面図，出土遺物実測図

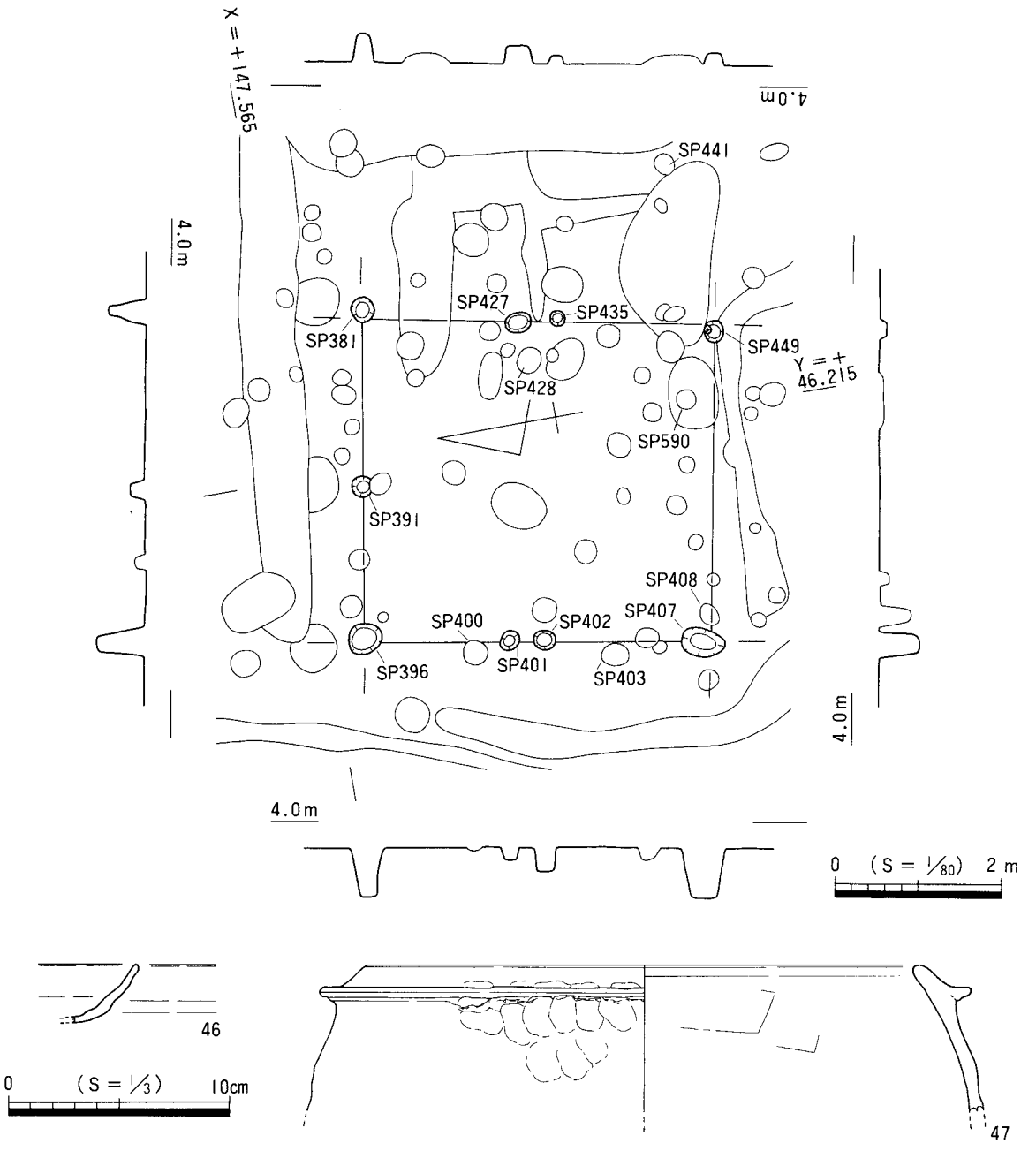


1．灰褐色土
（黄灰色粘質シルトのブロック含）
2．暗灰褐色砂混じりシルト
3．暗灰色砂混じりシルト
4．灰褐色砂混じりシルト
5．灰褐色土
（黄灰色粘質シルトのブロックわずか含）
6．黄灰褐色礫混じり砂質土（粗砂主体）

0 （S＝1/80） 2 m



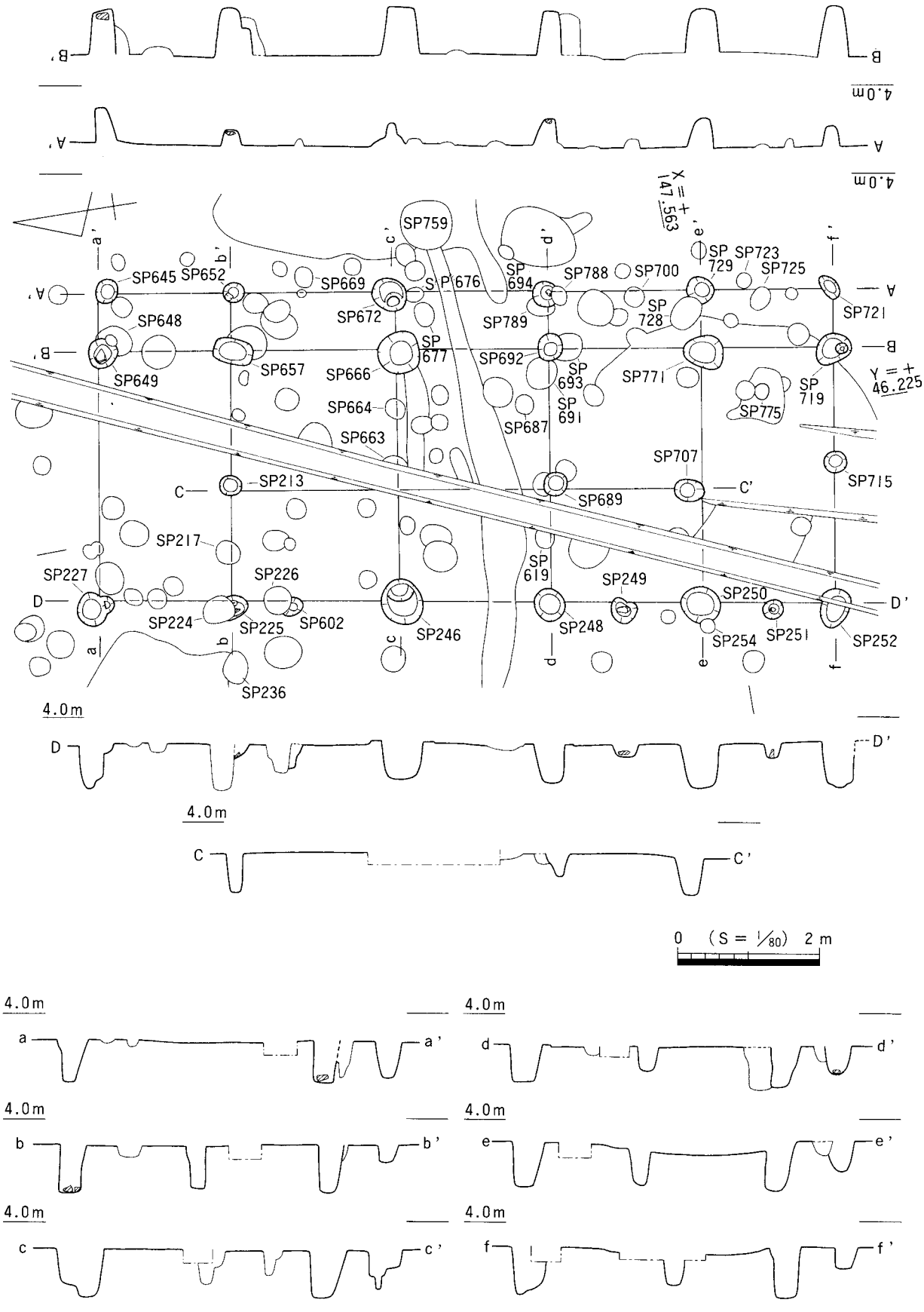
第28図　D区　SB02平・断面図，出土遺物実測図



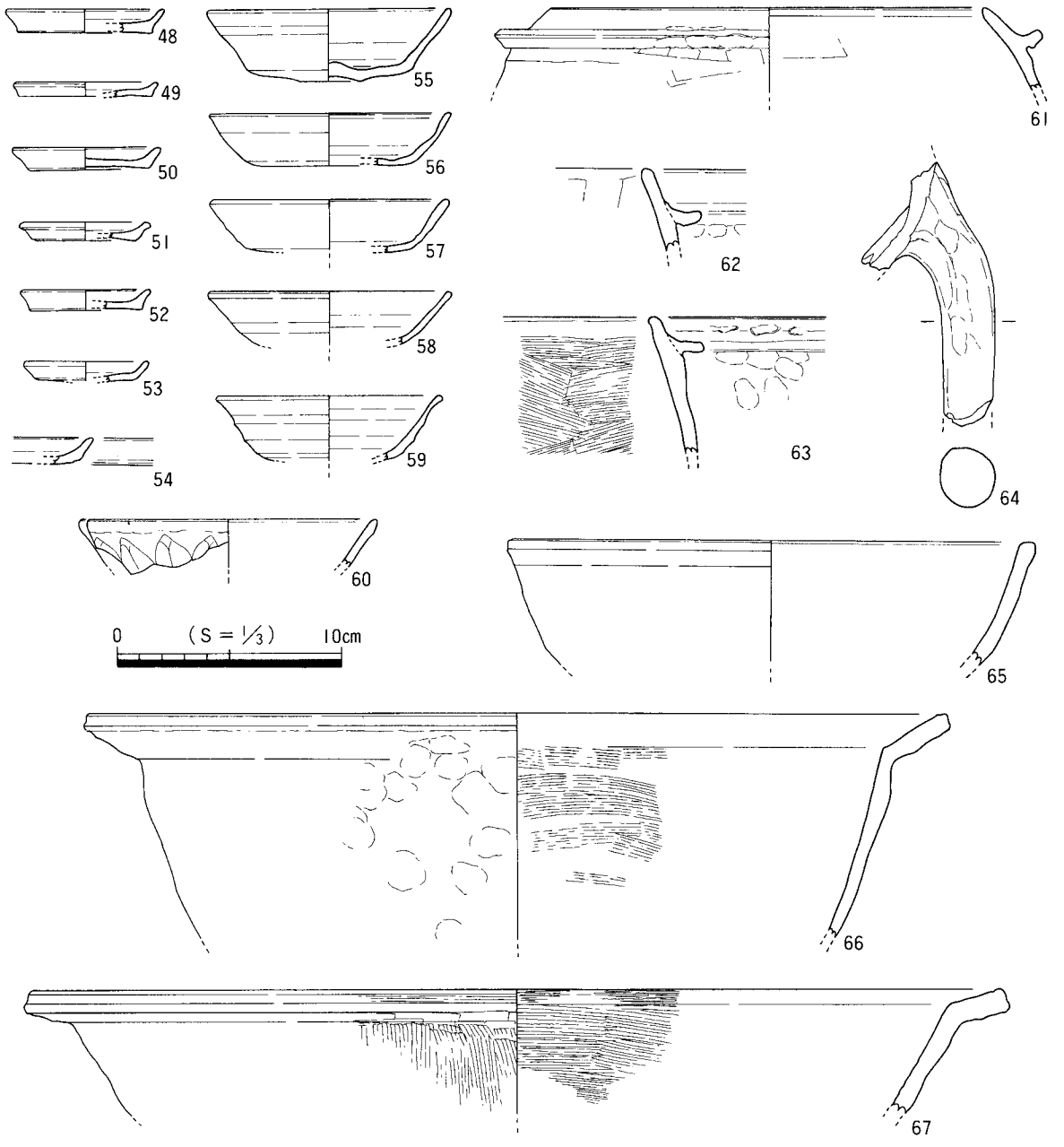
第29図　D区　SB03平・断面図，出土遺物実測図

D区　SB03

X＝＋147.562，Y＝＋46.215付近で検出した側柱の掘立柱建物である。桁行は座標北から東へ10°振った方向で，桁行4.2m，梁行3.95m，床面積16.6m²（5坪）の規模である。桁側中央は50cmほどの間隔で2柱あるが，巨視的には桁行2間とするべきであろう。第29図46，47はSP449から出土した遺物である。46は土師器杯の小片，47は土師器土釜の口縁部である。内傾する体部で形骸化した鍔がつく。外面に煤が付着する。この他図化していないがSP381から土師器杯か小皿の小片，SP396から土師器杯か小皿，須恵器の供膳具の小片，焦土，SP402から土師器杯口縁と器種不明の小片，SP407，427から器種不明の土師器小片，SP449から土師器の杯と土釜の小片が出土している。



第30図　D区　SB04平・断面図

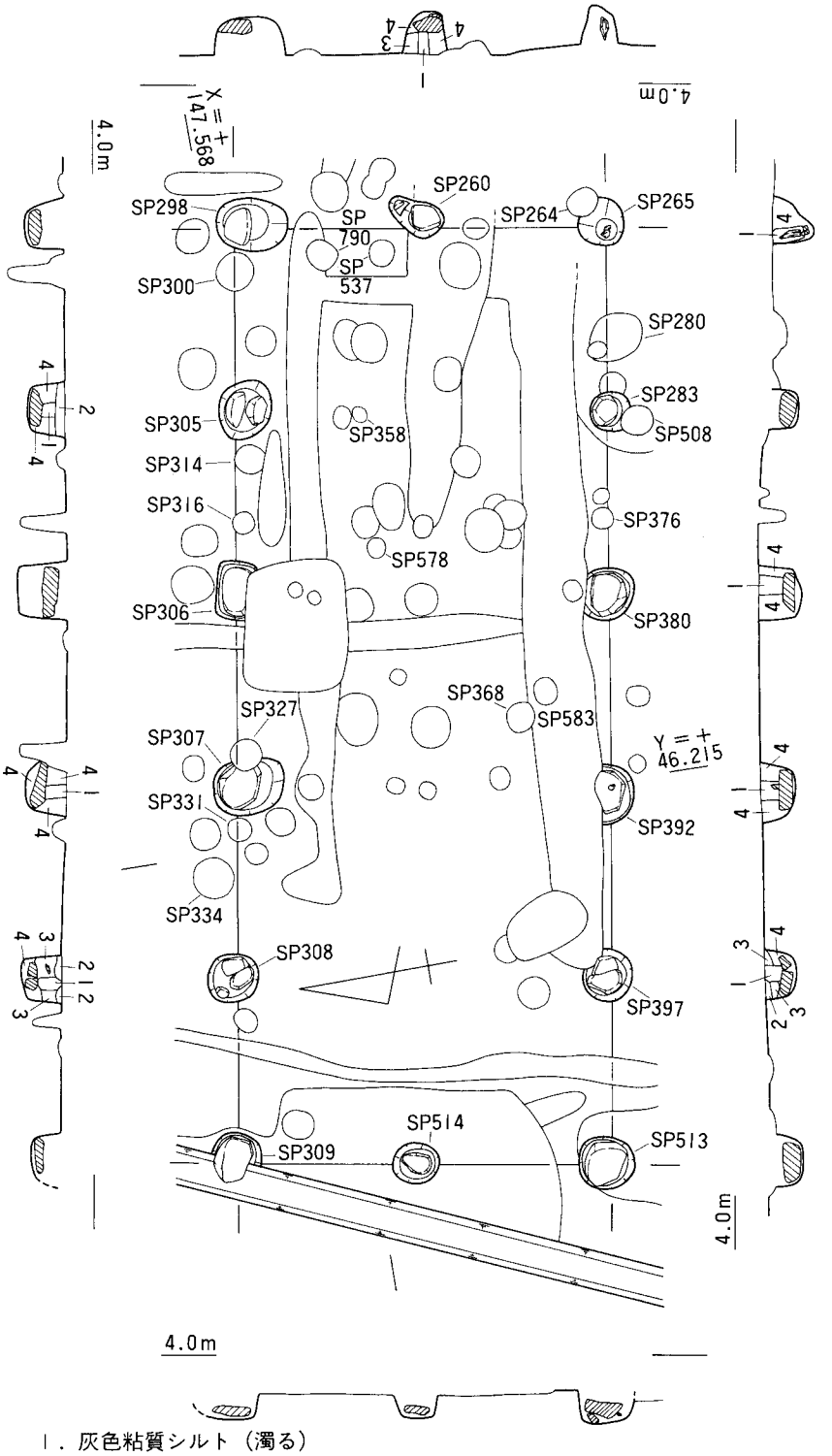


第31図　D区　SB04出土遺物実測図

D区　SB04

X＝＋147.566，Y＝＋46.225付近で検出した東面に庇を持つ巨視的に5間×2間の掘立柱建物である。桁行は座標北から東へ10°振った方向で，桁行10.2m，梁行4.45m，床面積45.4m²（13.8坪）の規模である。母屋と庇との関係も含めて四周は整然とした柱穴配置で，桁側中央部の3間のみ総柱的な柱配置となっているのは室の構造と関連するのであろう。D区の掘立柱建物では最大規模であり，後述するようにSB11がSB04の中門廊と呼ばれる施設になる可能性もあることから，D区居館の中心的な建物の可能性が考えられる。

第31図はD区SB04出土の遺物実測図である。48～54は土師器小皿である。48はSP252，49はSP248，50はSP666，51はSP657，52はSP246，53はSP672，54はSP227から出土した。いずれも小片である。55～59



1．灰色粘質シルト（濁る）
2．灰褐色砂混じりシルト
（黄灰色粘質シルトのブロック含）
3．灰褐色砂混じりシルト
4．灰褐色砂混じりシルト
（黄灰色粘質シルトのブロック含）

0 （S＝1/80） 2 m

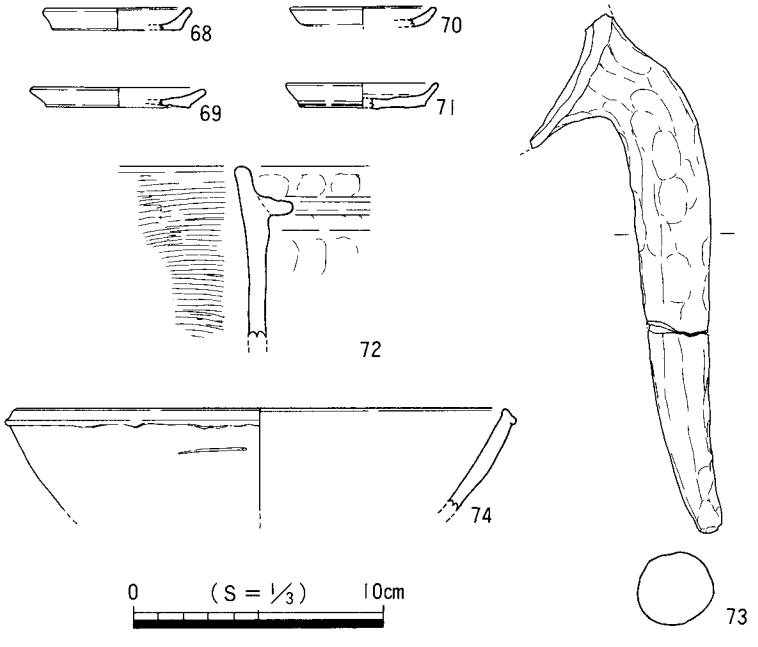
第32図　D区　SB05平・断面図

は土師器杯である。55はSB05SP265出土の破片と接合している。56はSP249，57はSP248，58はSP645，59はSP666から出土したもので，いずれも小片である。59はロクロによる凹凸が明瞭に見られる。60はSP771出土の青磁椀片。外面に鎬蓮弁が見られる。61～64は土師器土釜。いずれも小片で，内傾する体部に形骸化した鍔がつく形態である。65はSP246出土の土師器こね鉢である。小片で磨滅が著しい。66はSP719，67はSP666出土の土鍋である。いずれも小片で，67は口縁部内面にもハケ目調整が見られる。この他図化していないがSP213，250，649，692，694，721，729から遺物が出土している。土師器の杯，小皿，土鍋，土釜，須恵器の供膳具片，備前焼と思われる小片などである。また，SB04に伴うかどうか不明であるが，SP251とSP728に柱材が遺存し，樹種同定の結果，SP251がマツ属複維管束亜属にSP728がコウヤマキであることが判明している。

D区　SB05

X＝＋147.566，Y＝＋46.216付近で検出した二間×五間の側柱の掘立柱建物である。桁行は座標北から西へ81°振った方向で，桁行10.2m，梁行3.95～4.0m，床面積40.3m²（12.2坪）の規模である。SB05で特徴的なのは大型の根石を伴っていることである。これは柱穴の直径と同規模の大きさの安山岩塊などを上面が平らになるように据えているもので，このような丁寧な地形（じぎょう）は類例に乏しく，機能的には礎石と変わらないものである。柱間寸法は1.95～2.15mで，整然とした柱配置である。SB05はSB04に次ぐ規模を有する点も含めてD区居館の中心的な建物と考えられる。D区SB08と切り合い関係があり，SB08より古い。また，SB09，10と重複する。

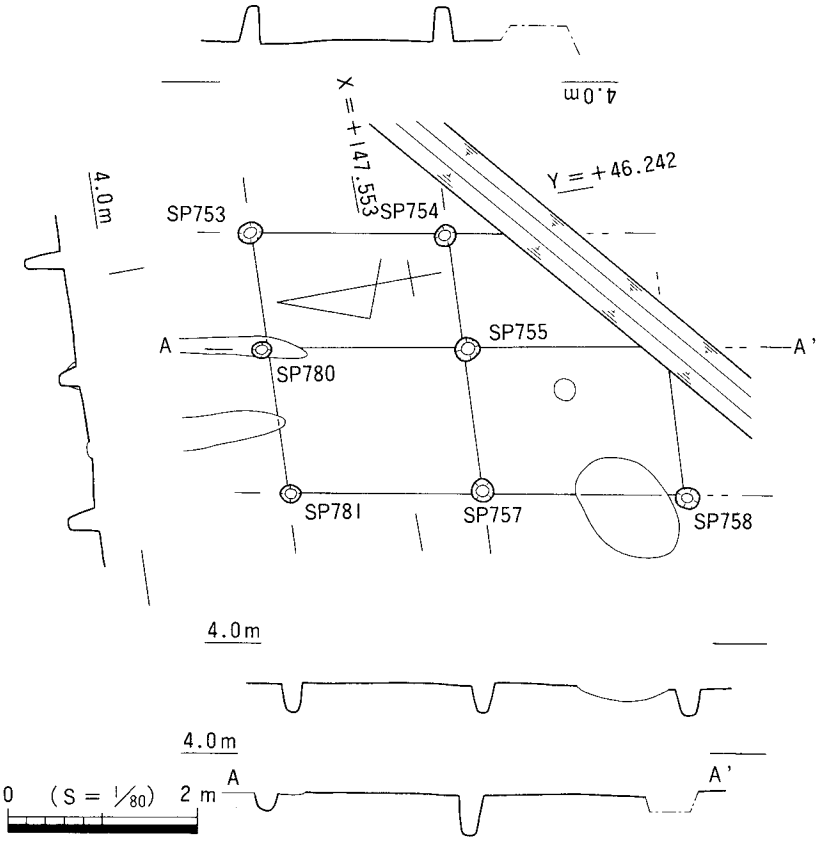
第33図68～74はD区SB05出土の遺物実測図である。68～71は土師器小皿。68はSP265，69はSP306，70はSP308，71はSP305からいずれも小片で出土した。72はSP265から出土した土師器土釜の口縁部小片。内面に横方向のハケが施される。外面には煤が付着する。73はSP280出土の土師器土釜の脚部，74はSP308出土の須恵器こね鉢の口縁部小片である。この他図化していないが，SP260，264，265，280，283，298，300，305，307～309，314，316，322，327，331，376，380，392，508，513，514から遺物が出土している。また，SP265に柱材が遺存し樹種同定の結果マツ属複維管束亜属であることが判明している。



第33図　D区　SB05出土遺物実測図

D区　SB06

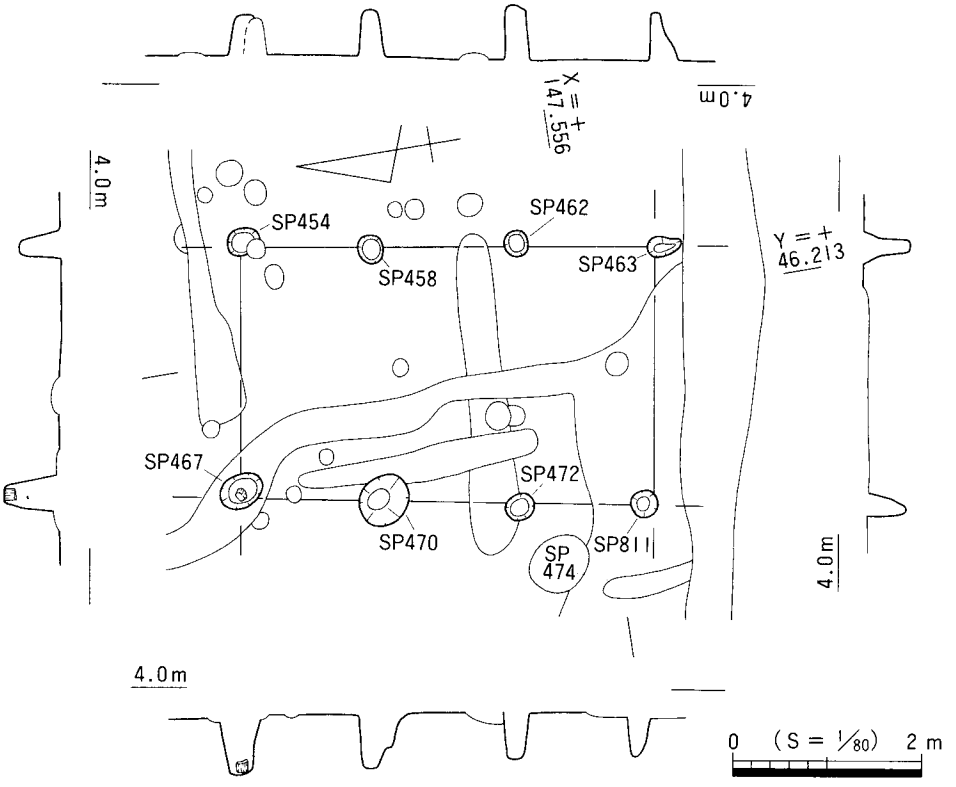
X＝＋147.552，Y＝＋46.241付近で検出した二間×二間以上の総柱の掘立柱建物である。南側は調査区外に延びる可能性がある。桁行は座標北から東へ12°振った方向で，桁行4.25m以上，梁行2.8m，床面積11.9m²(3.6坪)以上の規模である。D区居館の堀であるSD55の外側に位置し，ほかの掘立柱建物とは異なる性格を持つ可能性がある。このことと関連するのか柱穴規模は相対的に小型で，柱配置が菱形である。ただし，柱間寸法はかなり整っている（第41図）。図化できる遺物は無かったが，SP753，754，758，780から遺物が出土している。いずれも土師器の杯か小皿の小片である。



第34図　D区　SB06平・断面図

D区　SB07

X＝＋147.557，Y＝＋46.212付近で検出した一間×三間の側柱の掘立柱建物である。桁行は座標北から東へ9°振った方向で，桁行4.4m，梁行2.7m，床面積11.9m²(3.6坪)の規模である。柱間寸法に若干のばらつきがあるが，巨視的には整った柱配置である。図化できる遺物は無かったが，SP467，470，472から器種不明の土師器小片，焦土片が出土している。また，SP467には木材が遺存しており，同定の結果ヤナギ属と判明した。ヤナギ属は柱材に選択されることは少ないとのことであるが，出土状況からみて柱材の可能性が高いと判断できる。



第35図　D区　SB07平・断面図

D区　SB08

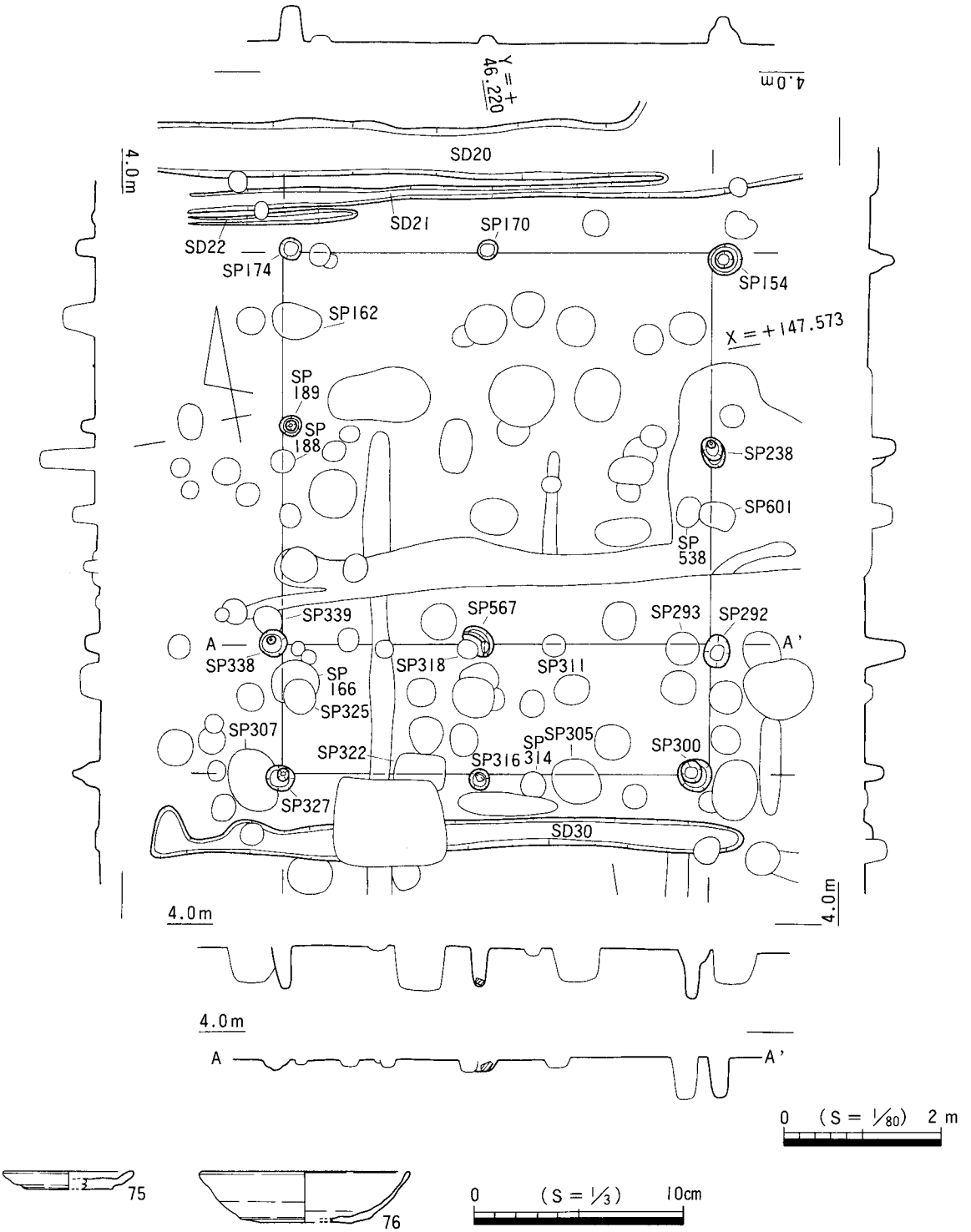
X＝＋147.571，Y＝＋46.219付近で検出した二間×三間の掘立柱建物である。桁行は座標北から東へ11°振った方向で，桁行6.5m，梁行5.5m，床面積35.4m²(10.7坪)の規模である。柱配置から見るとSP601，190もSB08を構成する柱穴のように見えるが，SP190はSB02に伴うものである。D区SB05，SB09と切り合い関係があり，SB05より新しくSB09より古い。SD21，22，30は雨落ち溝である可能性があるが，この場合，寄棟の屋根を想定する必要がある。SK05～07はD区SB02か08に伴うものと思われる。

第36図75の土師器小皿，76の土師器杯はSP300から出土したもので，ともに小片である。

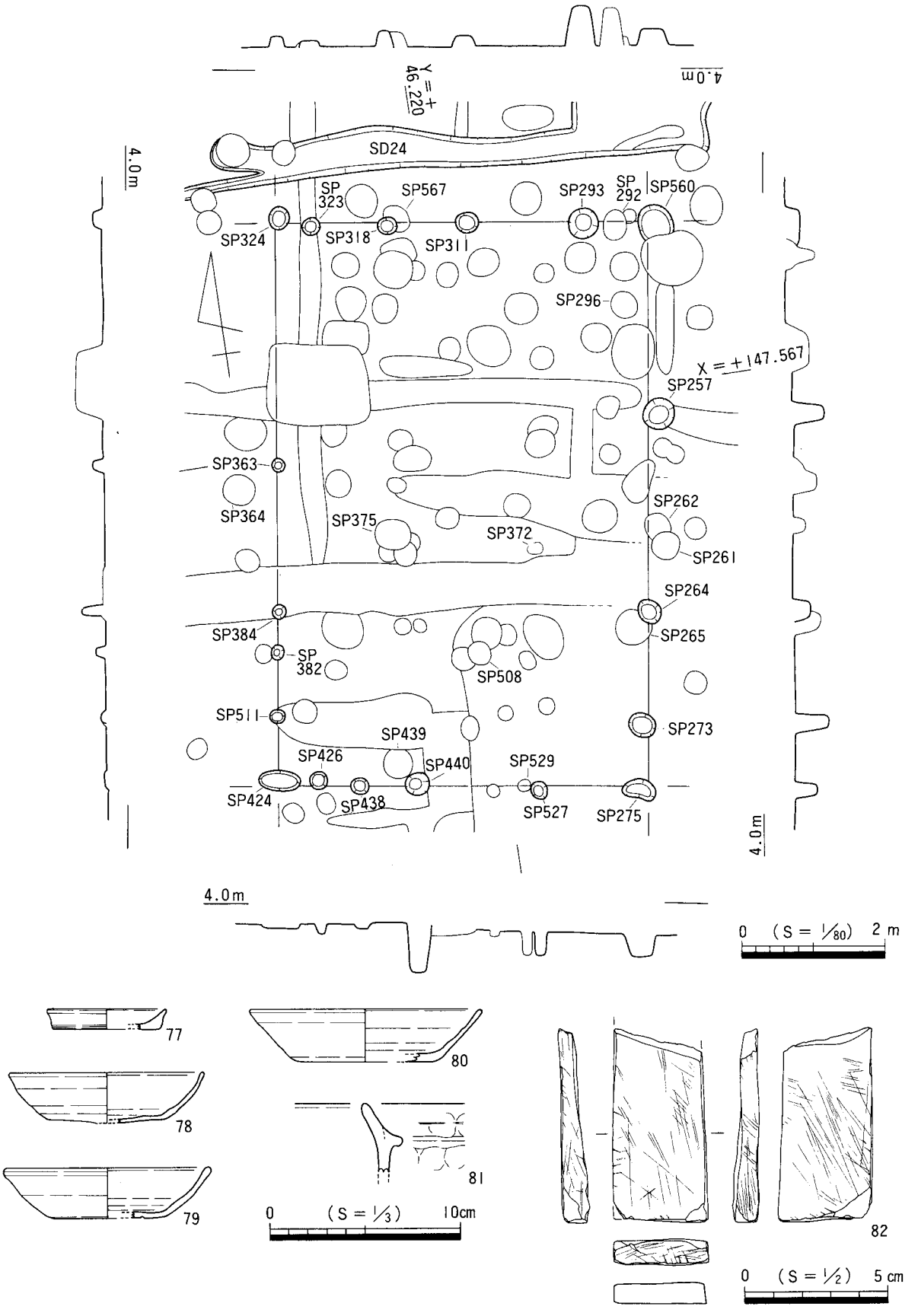
この他図化不能であるが，SP154，170，174，189，238，292，300，316，327，338，567から遺物が出土している。土師器の杯か小皿，土釜脚部などの小片であるが，SP327からは瓦質土器の杯と思われる小片が出土している。

D区　SB09

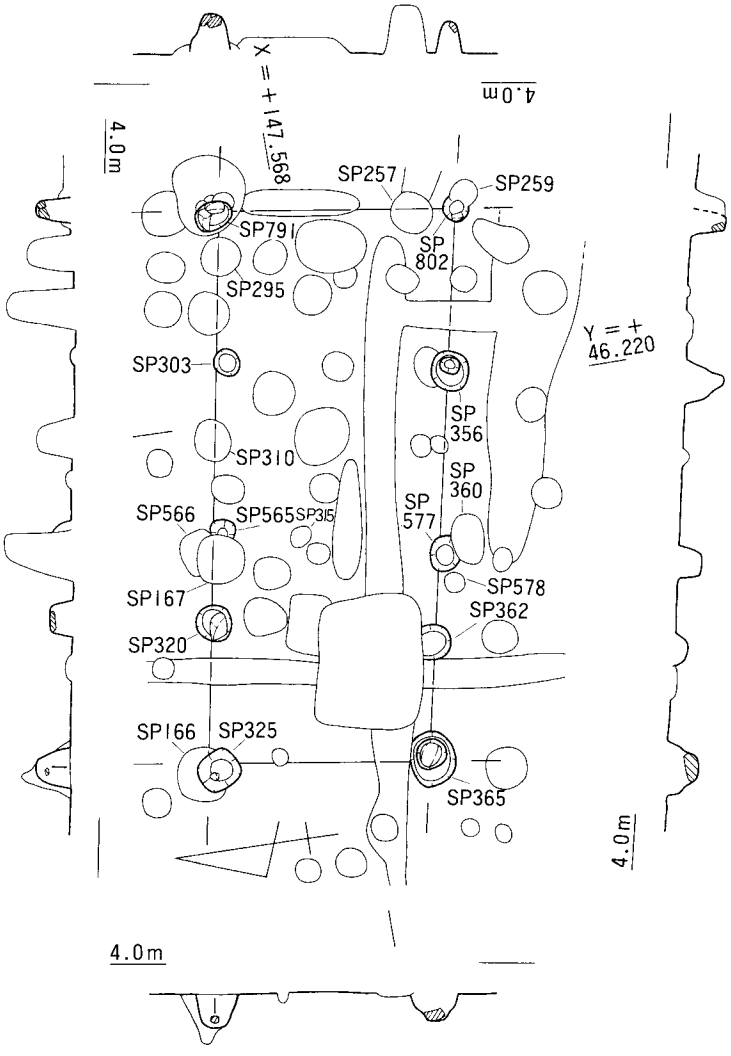
X＝＋147.566，Y＝＋46.219付近で検出した側柱の掘立柱建物である。桁行は座標北から東へ11°振った方向で，桁行7.8m，梁行5.1m，床面積39.5m²（12坪）の規模である。D区SB09は他の掘立柱建物のように整った柱配置ではなく，想定される桁・梁行の上に柱穴が乗ってくることにより復原したものである。柱穴の径や深さも不揃いであることから，他の掘立柱建物と比べるとやや根拠が弱い。D区SD24が雨落ち溝になる可能性がある。第37図77～82はD区SB09出土の遺物実測図である。77～79はSP257，80はSP264，81はSP440，82はSP318から出土したもので，土器はいずれも小片である。82は砥石。折損



第36図　D区　SB08平・断面図，出土遺物実測図

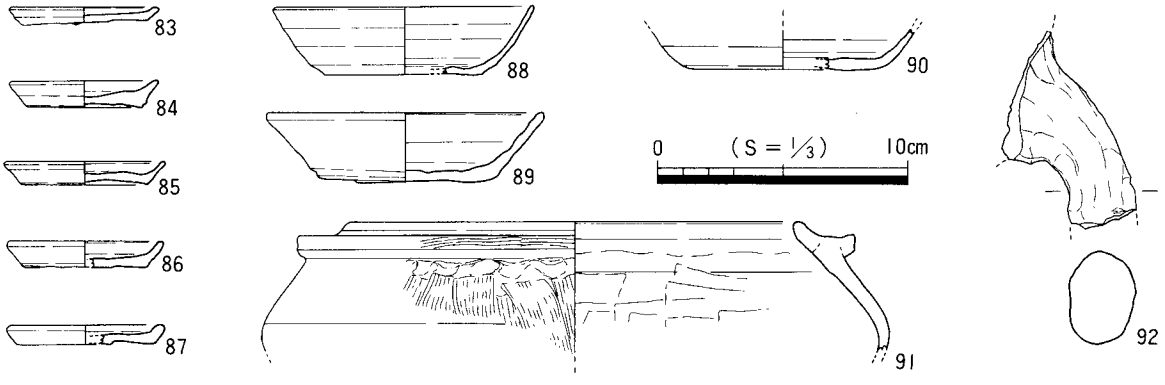


第37図　D区　SB09平・断面図，出土遺物実測図



1．灰褐色土
（黄灰色粘質シルトのブロックわずか含）

0 （S = 1/80） 2 m

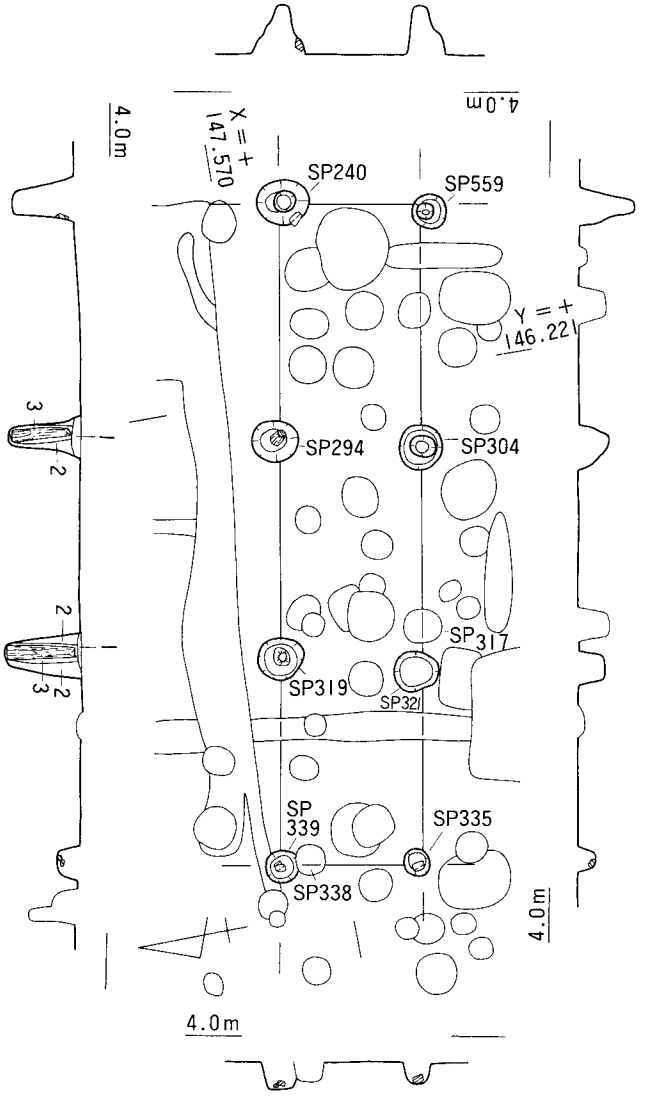


第38図　D区　SB10平・断面図，出土遺物実測図

部を除いてすべての面に線状の擦痕が見られる。研磨による顕著な窪みは見られない。石材は流紋岩である。この他に図化不能であるが，SP273，275，311，424，438，527，560から遺物が出土している。土師器杯か小皿の小片，器種不明の小片，須恵器の器種不明の小片である。また，SP293からは種子が出土している。

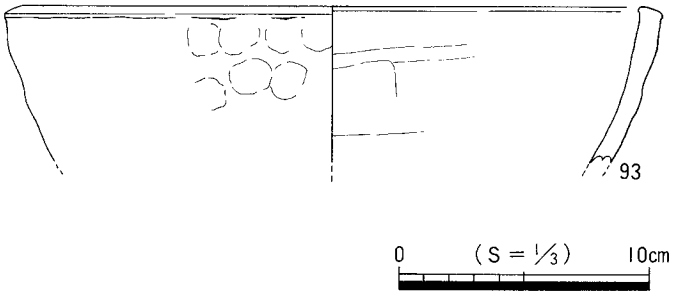
D区　SB10

X＝＋147.568，Y＝＋46.219付近で検出した一間×四間の側柱の掘立柱建物である。桁行は座標北から東へ80°振った方向で，桁行5.85m，梁行2.35m，床面積13.8㎡（4.2坪）の規模である。D区SB09と同様に柱配置は他の掘立柱建物と比べて，やや不規則である。D区SB02と切り合い関係があり，SB02より新しい。第38図83～92はD区SB10出土の遺物実測図である。83，84，87，88，91はSP303から出土した。83，84は全体の3/4程度が遺存したが，他は小片である。85はSP565，86はSP320，89，92はSP365，90はSP791から出土した。いずれも小片である。91の土釜は小片から径や傾きを復原している。この他図化不能であるが，SP325，356，362，577から遺物が出土している。土師器の杯か小皿，土釜脚部，器種不明の小片，須恵器の甕と思われる底部小片などである。



1．灰褐色砂混じりシルト
2．暗灰褐色粘質シルト
（黄灰色粘質シルトのブロック含）
3．暗灰色粘質シルト

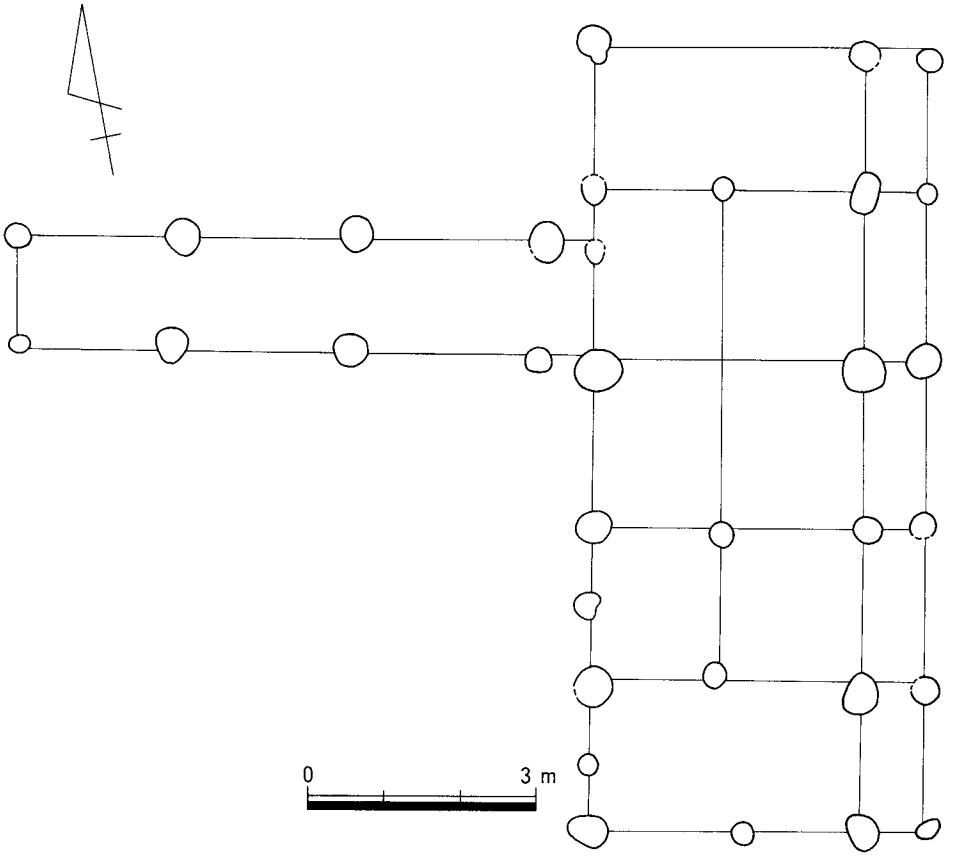
0　（S＝1/80）　2m



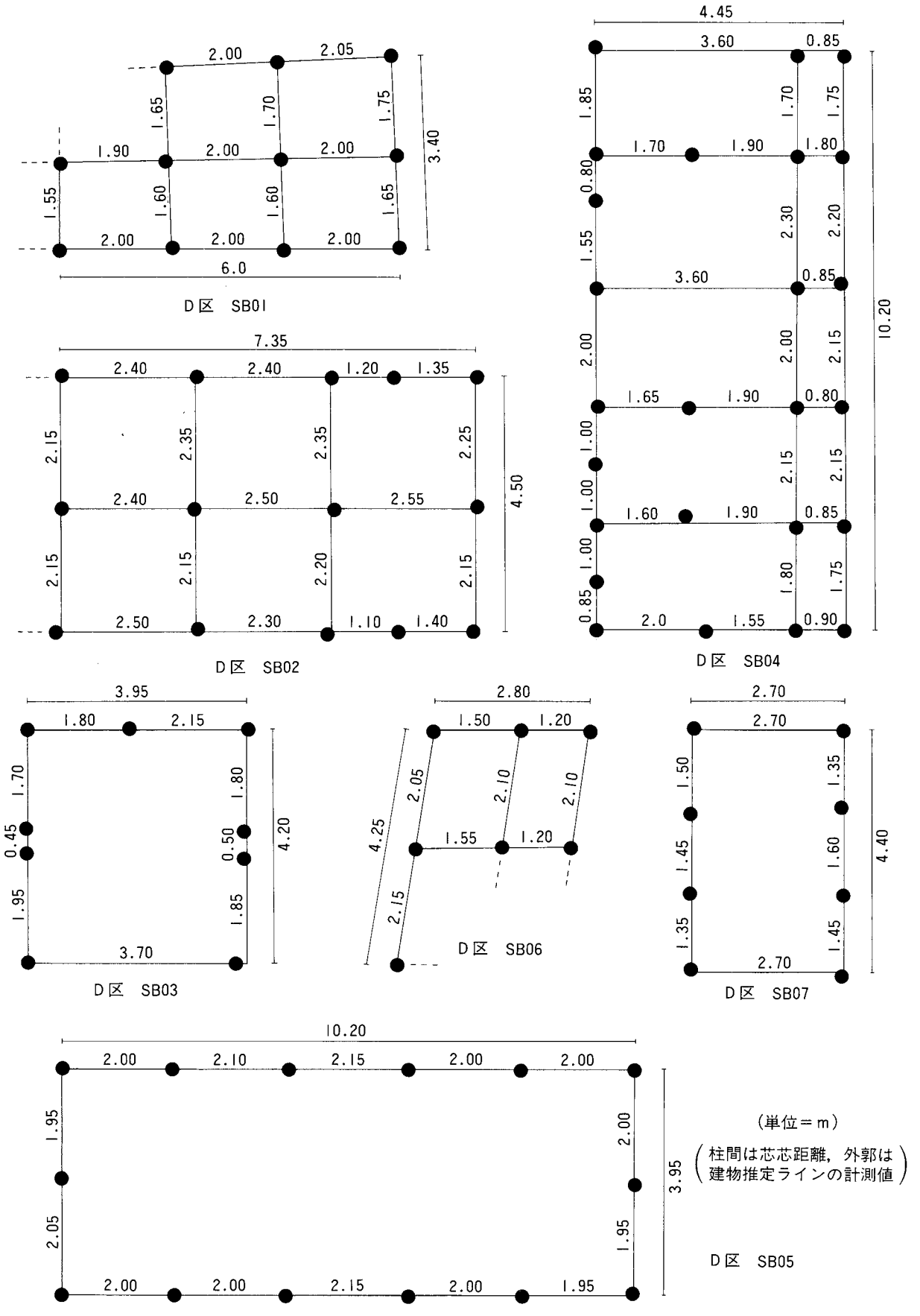
第39図　D区　SB11平・断面図，出土遺物実測図

D区　SB11

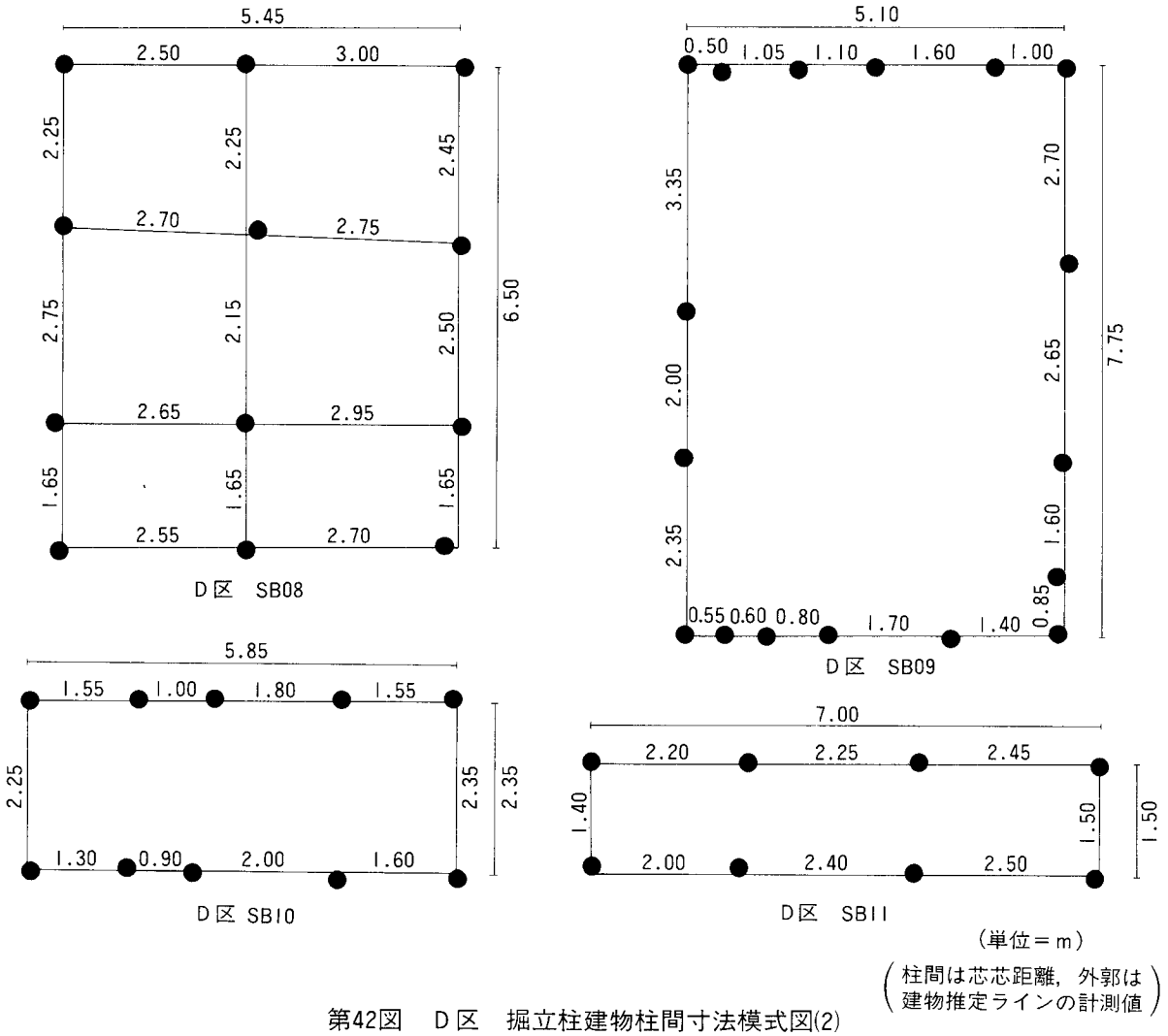
X＝＋147.569，Y＝＋46.219付近で検出した一間×三間の側柱の掘立柱建物である。桁行は座標北から東へ80°振った方向で，桁行7.0m，梁行1.5m，床面積10.5m²(3.2坪)の規模である。D区SB11はしっかりとした柱穴を持つこと，梁行が1.5mと通常の掘立柱建物では極めて狭いことが特徴である。東側のSP226，246の2柱穴もD区SB11に含めると，南側桁行がD区SB04の柱列と一致すること，SP226もD区SB04の西側桁行と一致することから第40図のような平面構造の建物であった可能性があり，『法然上人絵伝』に描かれる「源時国邸」のような機能があったと思われる。しかし，D区SB04とSB02，SB05の出土遺物が接合したという事実を，3棟の掘立柱建物が同時併存したと解釈するならば，D区SB11はD区SB02と重複しSB05とも20cmほどで接しており，SB04と一体のものという解釈は成立しない。まとめで触れるように確定的なことは不明である。第39図93はSP319から小片で出土した土師器こね鉢である。内面は板なでされている。この他図化不能であるが，すべての柱穴から遺物が出土している。土師器杯，小皿，土釜脚部の小片，備前焼かと思われる小片などである。また，SP294，319には柱材が遺存しており，樹種同定の結果両方ともヒノキと判明している。



第40図　D区　SB04，11平面図



第41図　D区　掘立柱建物柱間寸法模式図(1)

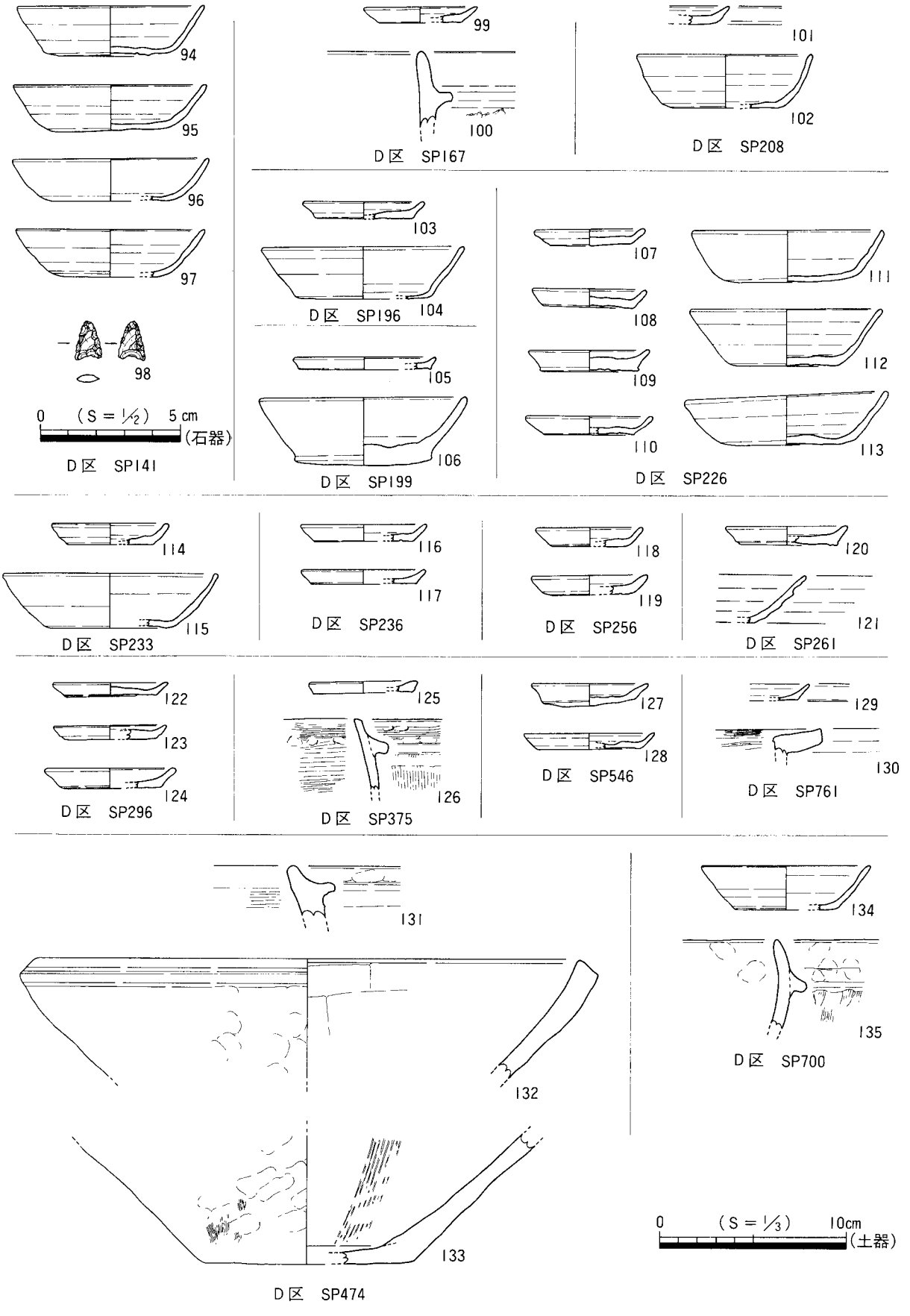


第42図　D区　掘立柱建物柱間寸法模式図(2)

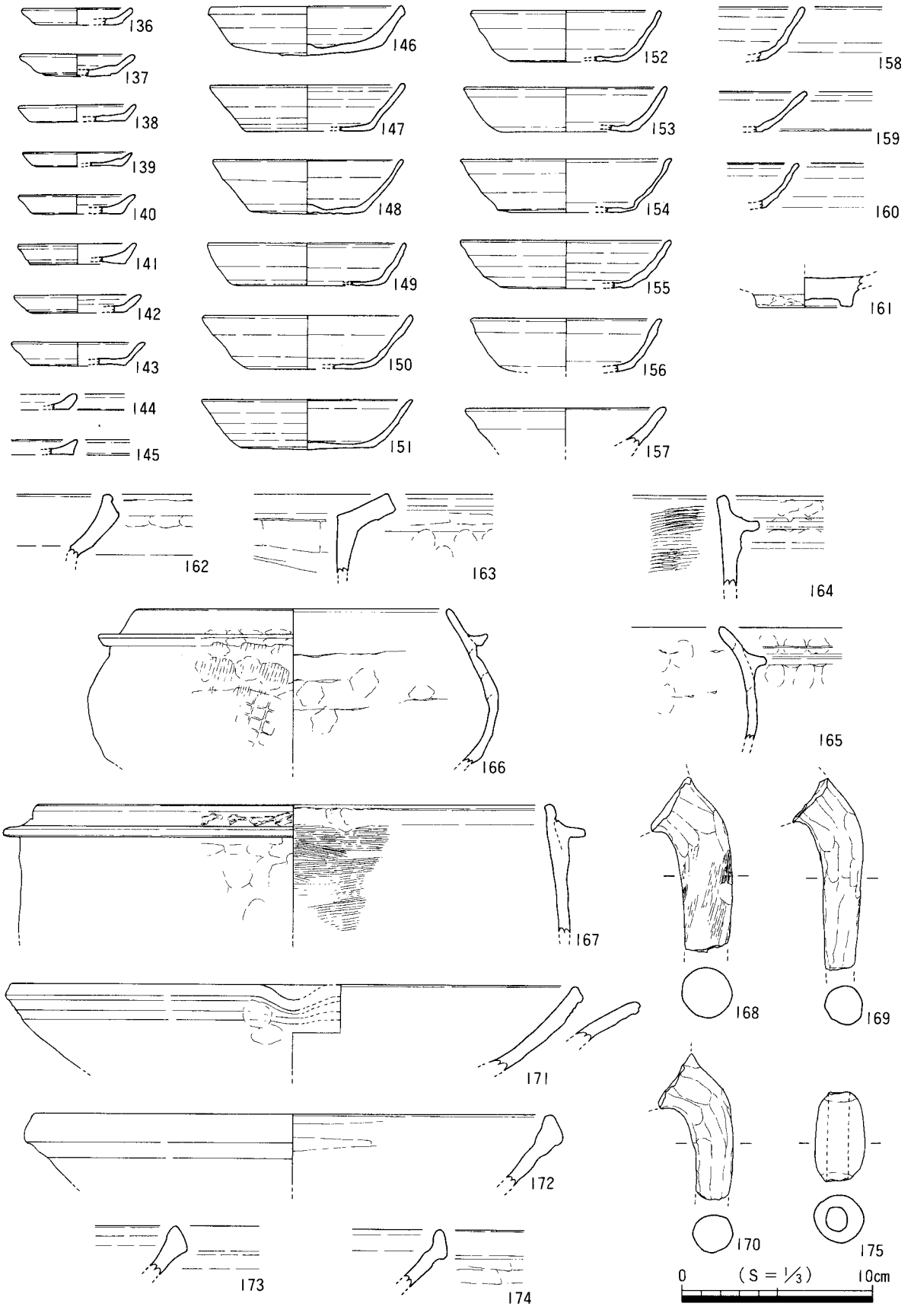
(3) SP出土遺物

第43～45図は，掘立柱建物に復原できなかった柱穴から出土した遺物実測図である。位置は第3表に記載している。第43図94～98はSP141出土の遺物である。94，95の杯はほぼ完形で出土し，96，97は小片で出土した。出土状況は不明である。98は小型の凹基式石鏃である。99，100はSP167出土。ともに小片である。101，102はSP208から小片で出土した。103，104はSP196から小片で出土した。105，106はSB02を構成するSP199から出土した。

107～113はSP226から出土した。SP226は先述のようにD区SB04，11に伴う可能性がある柱穴である。107，108の土師器小皿，111～113の杯はほぼ完形で出土しているが，出土状況は不明である。114，115はSP233から破片で出土した。116，117はSP236，118，119はSP256から小片で出土した土師器小皿である。120，121はSP261出土。121外面はロクロによる凹凸が明瞭に見られる。122～124はSP296から破片で出土した土師器小皿である。125，126はSP375から小片で出土した。127，128はSP546から出土した小皿で，127は3/4ほど遺存している。129，130はSP761から出土したもの。130は土師器土鍋の口縁部の小片である。131～133はSP474から出土したもの。132，133は土師器スリ鉢である。8条の卸し目が認められる。両者は接合できないが胎土・色調から同一個体である。134，135はSP700から小片で出土した。



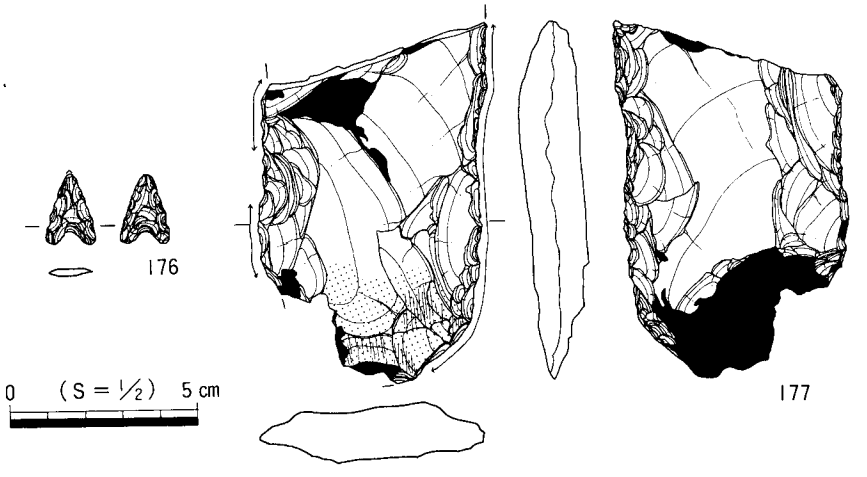
第43図　D区　SP出土遺物実測図(1)



第44図　D区　SP出土遺物実測図(2)

第44図136～145は土師器小皿，146～160は土師器杯である。148が完形で出土したほかは小片で出土した。161は青磁椀の底部である。162，163は土師器土鍋の口縁部の小片，164～170は土師器土釜である。166の土釜は鍔部下半に叩きの後にハケを施し，以下には格子目の叩きが見られる。171は土師器の片口のこね鉢，172，173，174は東播系の須恵器こね鉢，175は土師器土錘である。出土した柱穴については遺物観察表を参照されたい。

第45図176はSP583出土の風化した凹基式石鏃，177はSP590出土の石斧刃部の破片である。刃部先端に線状の擦痕と磨滅痕が，側縁に刃潰れが認められる。



第45図　D区　SP出土遺物実測図(3)

遺物番号	遺構番号	位置掲載図	遺物番号	遺構番号	位置掲載図	遺物番号	遺構番号	位置掲載図
94～98	S P 141	第22図	140	S P 619	第30図	160	S P 217	第30図
99,100	S P 167	第28図	141	S P 677	第30図	161	S P 211	第28図
101,102	S P 208	第28図	142	S P 321	第28図	162	S P 508	第37図
103,104	S P 196	第28図	143	S P 372	第37図	163	S P 441	第29図
105,106	S P 199	第28図	144	S P 334	第32図	164	S P 262	第37図
107～113	S P 226	第30図	145	S P 428	第29図	165	S P 439	第37図
114,115	S P 233	第22図	146	S P 314	第32図	166	S P 648	第30図
116,117	S P 236	第30図	147	S P 592	第22図	167	S P 669	第30図
118,119	S P 256	第22図	148	S P 687	第30図	168	S P 759	第30図
120,121	S P 261	第37図	149	S P 059	第22図	169	S P 368	第32図
122～124	S P 296	第37図	150	S P 210	第28図	170	S P 376	第32図
125,126	S P 375	第37図	151	S P 723	第30図	171	S P 775	第30図
127,128	S P 546	第28図	152	S P 148	第22図	172	S P 578	第32図
129,130	S P 761	第22図	153	S P 358	第32図	173	S P 140	第22図
131～133	S P 474	第35図	154	S P 178	第28図	174	S P 790	第32図
134,135	S P 700	第30図	155	S P 090	第22図	175	S P 628	第22図
136	S P 315	第38図	156	S P 744	第22図	176	S P 583	第32図
137	S P 691	第30図	157	S P 537	第32図	177	S P 590	第29図
138	S P 320	第28図	158	S P 318	第28図			
139	S P 364	第37図	159	S P 483	第22図			

第３表　D区　SP出土遺物一覧

(4) 土坑・井戸

D区　SK02

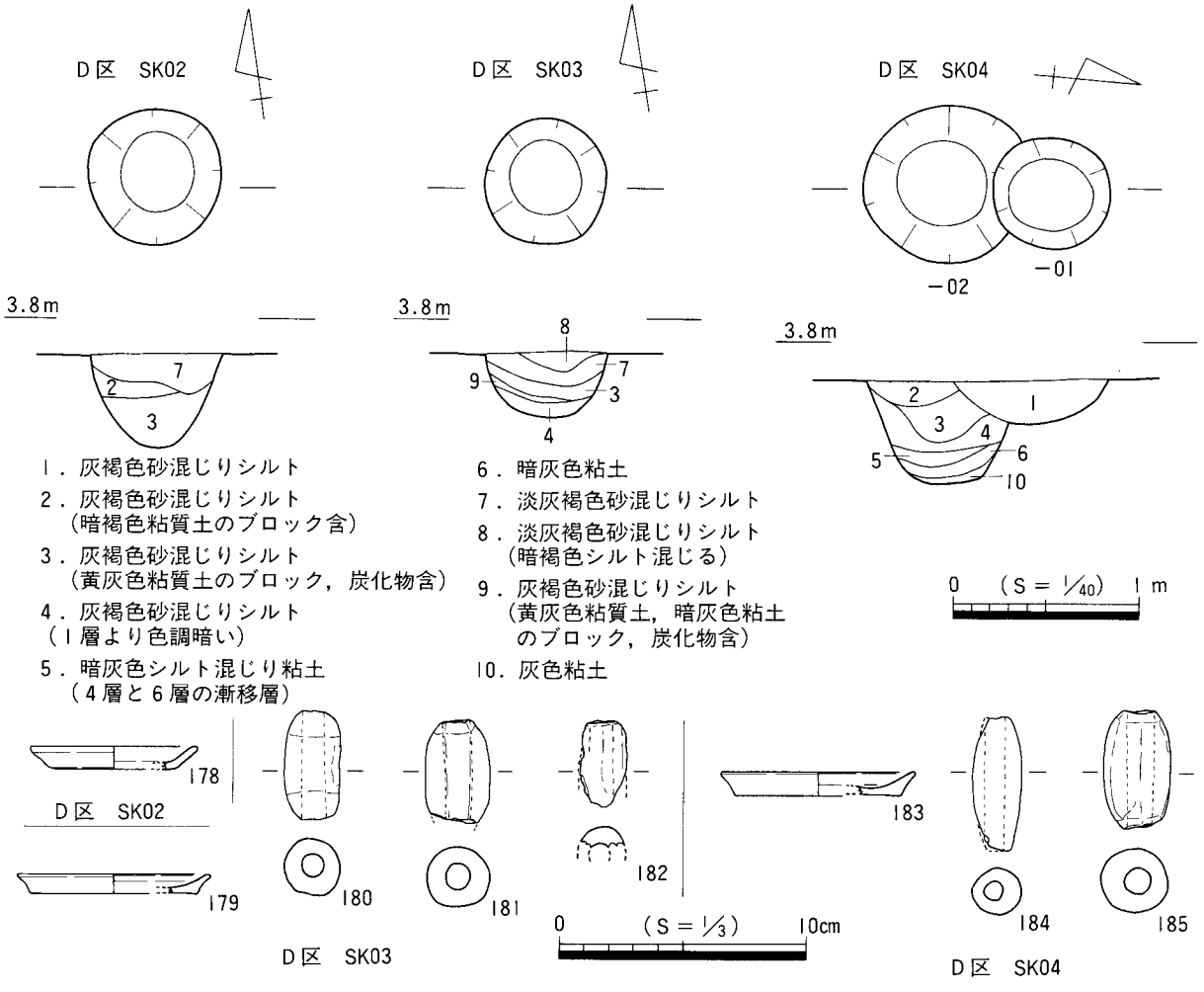
X＝＋147.584，Y＝＋46.225付近で検出した円形の平面形の土坑である。規模は径約70，深さ約50cmで埋土は3層よりなる。出土遺物は第46図178の土師器小皿の小片と杯か小皿の小片のみである。

D区　SK03

X＝＋147.583，Y＝＋46.225付近で検出した円形の平面形の土坑である。規模は径65，深さ35cmで埋土は5層よりなる。出土遺物は第46図179～182の土師器小皿，土錘のほか杯か小皿の小片が出土している。180，181の土錘はほぼ完形で出土している。

D区　SK04-1，2

X＝＋147.582，Y＝＋46.224付近で検出した円形の平面形の土坑である。平面図を見て明らかなように2基の土坑が切り合っており，新しい方のSK04-1が径63，深さ23cm，古い方のSK04-2が径84，深さ55cmの規模である。出土遺物はSK04-1から184の土錘のほか土師器杯，瓦質土器杯の小片が出土している。



第46図　D区　SK02～04平・断面図，出土遺物実測図

SK04-2からは183の土師器小皿のほか土師器杯の小片が出土している。185の土錘はどちらから出土したのか不明である。

D区SK02と03は約30cm，03と04-2は約40cmの間隔でD区SB01の東端に南北に並列しており，各々が関連をもち，また，SB01とも関連する土坑群と考えられる。

D区　SK05

X＝＋147.573，Y＝＋46.221付近で検出した楕円形の平面形の土坑である。規模は長径70，短径60，深さ24cmである。埋土は灰褐色砂混じりシルトである。出土遺物は第47図186，187の土師器小皿の小片のほか，杯か小皿，土釜の鍔の小片，須恵器の供膳具小片，甕の小片などである。

D区　SK06

X＝＋147.573，Y＝＋46.220付近で検出した円形の平面形の土坑である。規模は径85，深さ34cmである。埋土は2層よりなる。第47図190～196はD区SK06出土の遺物実測図である。190～193は土師器小皿，194は杯である。いずれも小片で出土した。195，196は小型の凹基式石鏃である。この他，土鍋と思われる小片などが出土している。

D区　SK07

X＝＋147.573，Y＝＋46.218付近で検出した楕円形の平面形の土坑である。規模は長径130，短径約65，深さ33cmである。埋土は2層よりなる。出土遺物は第47図188の土師器杯，189土師器土鍋のほか杯か小皿の小片が出土している。189の土鍋は口縁部内面にハケ調整が見られる。D区SK05と06は20cm，06と07は70cmの間隔で並んでいることから3者は関連があるものと思われる。D区SK02～04がD区SB01に関連する位置関係にあるとしたように，D区SK05～07はD区SB02もしくはSB08と関連するものと思われる。

D区　SK08

X＝＋147.572，Y＝＋46.217付近で検出した円形の平面形の土坑である。規模は径62，深さ33cmである。埋土は灰褐色砂混じりシルトである。出土遺物は第47図197の土師器杯の小片，198の石匙のほか土鍋の小片が出土している。198の石匙は横形，刃部を折損するが左右対称で身部が円形を呈する形態である。

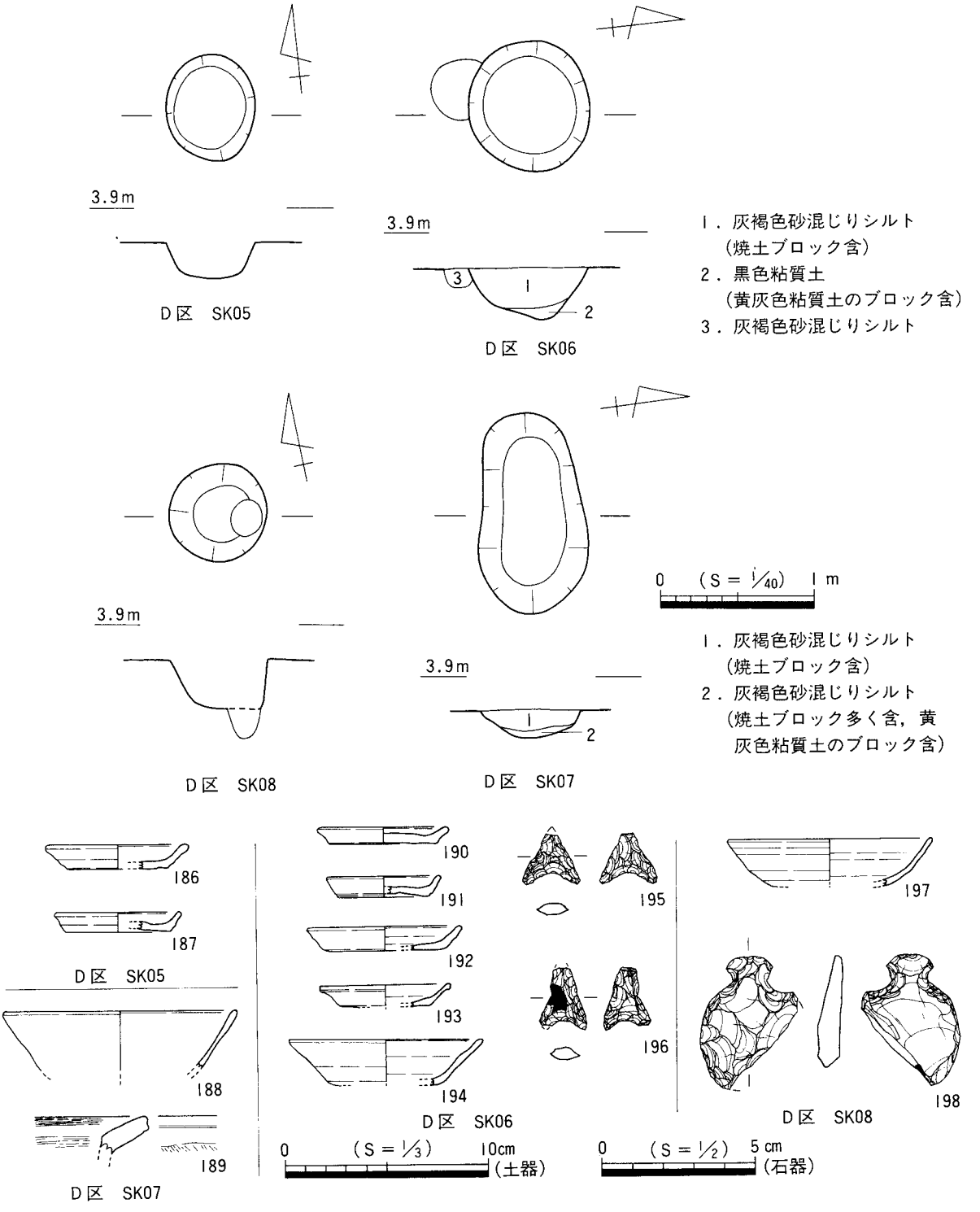
D区　SK09

X＝＋147.569，Y＝＋46.223付近で検出したそら豆状の平面形の土坑である。規模は長径87，短径74，深さ7cmを測る。埋土は灰褐色砂混じりシルトである。第49図199～201はD区SK09より小片で出土した遺物の実測図である。201の土師器土釜の外面には格子目の叩きの痕跡が見られる。このほかSK09からは土師器の杯，小皿，土釜脚部の小片，器種不明の瓦質土器片などが出土している。

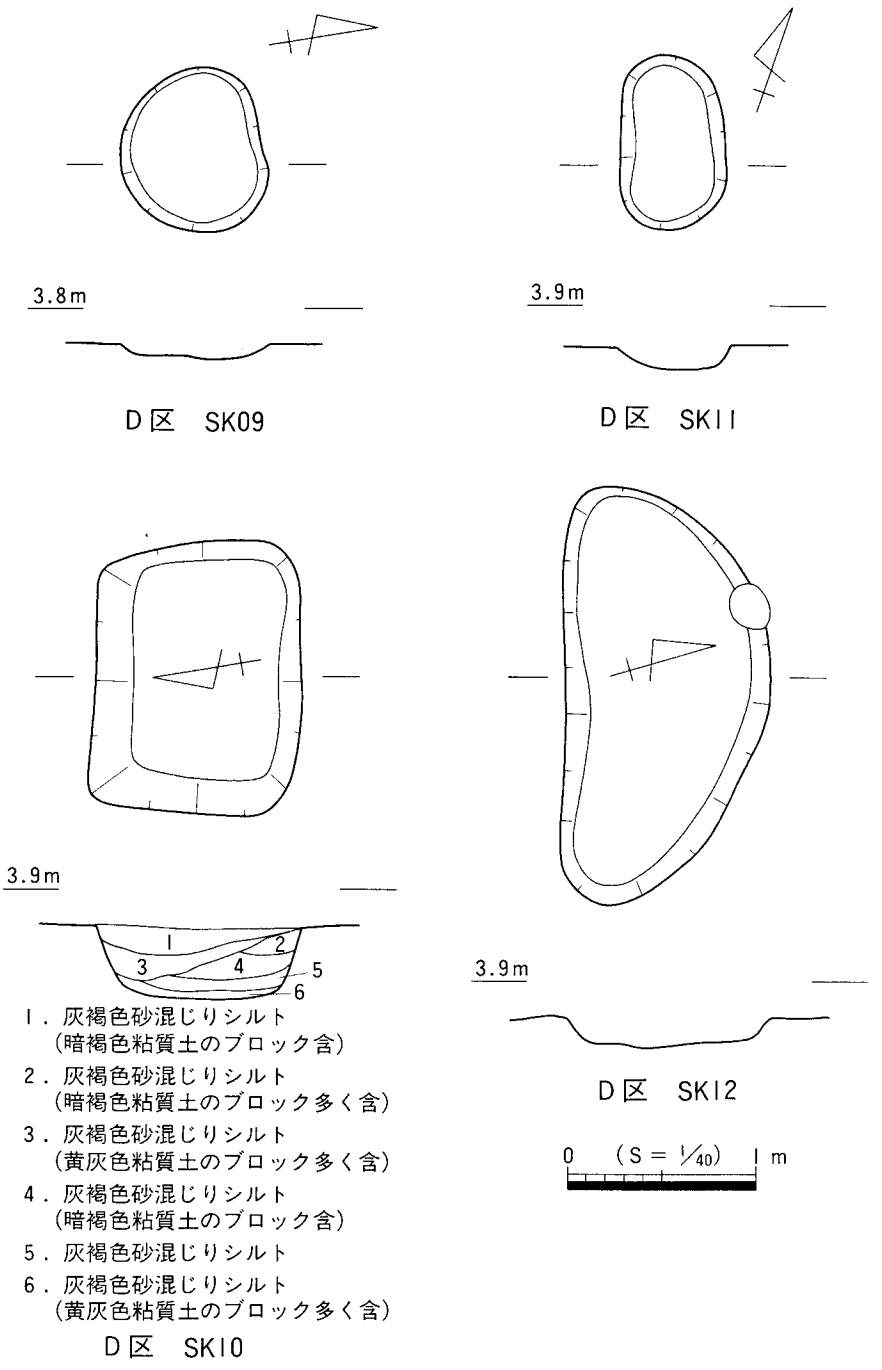
D区　SK10

X＝＋147.568，Y＝＋46.217付近で検出した隅丸長方形の平面形の土坑である。規模は長辺143，短辺108，深さ37cmを測る。埋土は6層よりなる。第49図202～206はD区SK10から小片で出土した遺物実測

図である。このほかSK10からは銅銭（「元豊通宝」行書）１枚，土師器土釜の脚部小片，器種不明の須恵器片，瓦質土器片，青磁片が出土している。



第47図　D区　SK05～08平・断面図，出土遺物実測図



第48図　D区　SK09～12平・断面図

D区　SK11

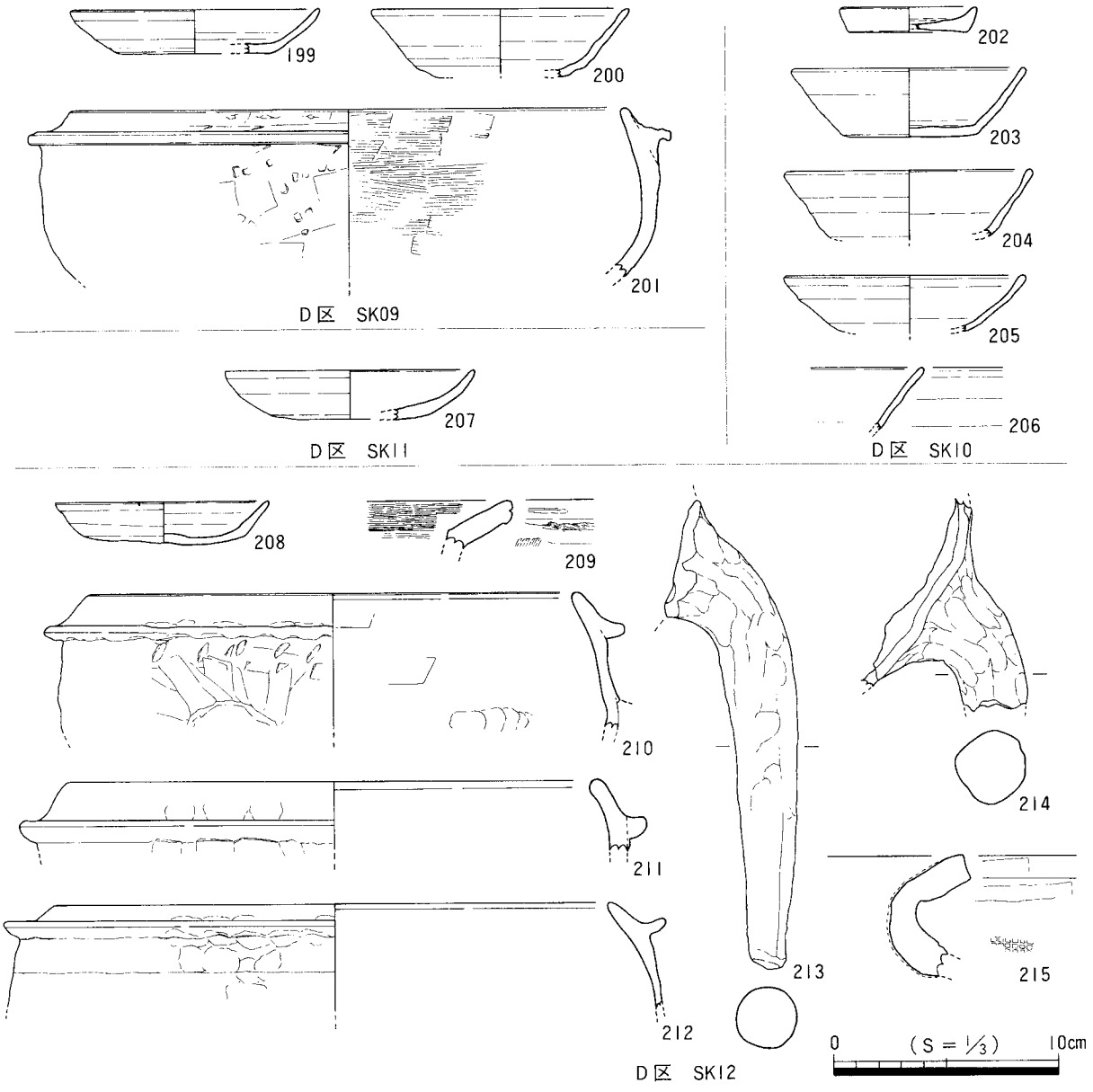
X＝＋147.566，Y＝＋46.214付近で検出した楕円形の平面形の土坑である。規模は長径92，短径55，深さ12cmを測る。埋土は灰褐色砂混じりシルトである。第49図207はD区SK11から小片で出土した土師器杯である。このほかSK11からは土師器土釜口縁の小片などが出土している。

D区　SK12

X＝＋147.560，Y＝＋46.217付近で検出した凸レンズ状の平面形の土坑である。規模は長径220，短径108，深さ12cmを測る。埋土は灰褐色砂混じりシルトである。第49図208～215はD区SK12から出土した遺物実測図である。208の土師器杯が3/4程度遺存していた以外は，いずれも小片で出土した。209は土師器土鍋の口縁部小片である。口縁部内面にもハケ調整が見られる。210～212の土師器土釜は球胴形を呈するものである。210外面の鍔の下部には，鍔接合の際の工具による圧痕が見られる。215は亀山焼の甕の口縁部の破片である。内面は剝落している。このほかD区SK12からは28㍑入りコンテナ1/4箱分の土器小片が出土している。

D区　SK13

X＝＋147.560，Y＝＋46.215付近で検出した隅丸長方形の平面形の土坑である。規模は長辺86，短辺57，深さ7cmを測る。埋土は灰褐色砂混じりシルトである。遺物は出土しなかった。



第49図　D区　SK09～12出土遺物実測図

D区　SK15

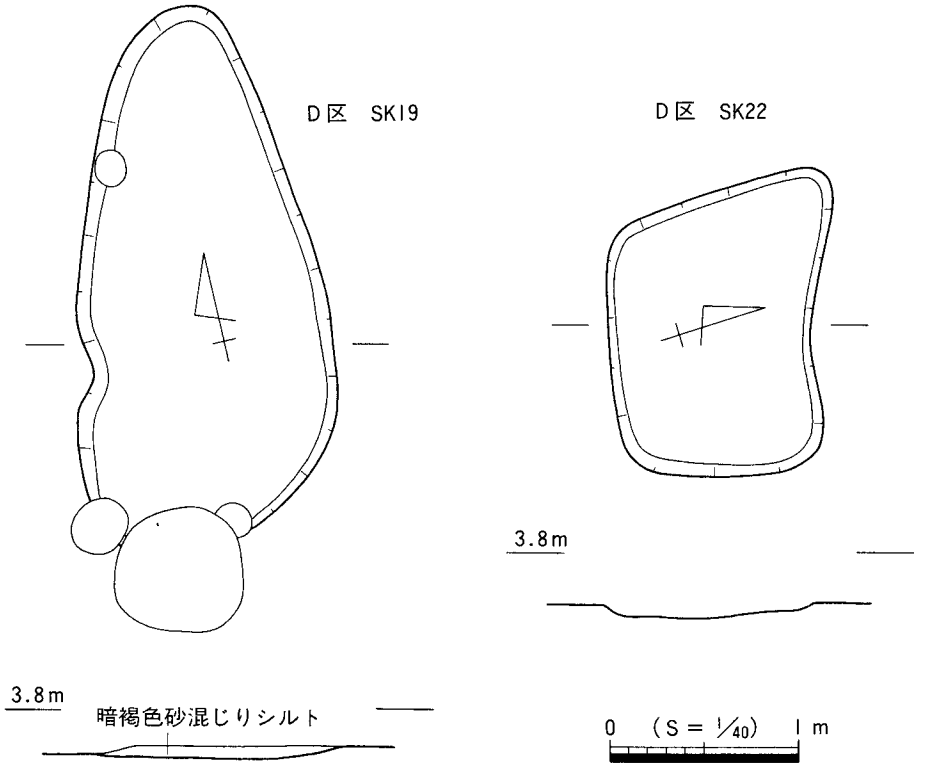
X＝＋147.553，Y＝＋46.214付近で検出した長軸の長いやや不整な楕円形の平面形の土坑である。規模は長径143，短径33，深さ6cmを測る。埋土は淡灰褐色シルトである。遺物は出土しなかった。

D区　SK17

X＝＋147.553，Y＝＋46.214付近で検出した不整な円形の平面形の土坑である。規模は長径131，短径100，深さ23cmを測る。埋土は淡灰褐色シルトである。遺物は出土しなかった。

D区　SK18

X＝＋147.569，Y＝＋46.231付近で検出したやや不整な楕円形の平面形の土坑である。規模は長径

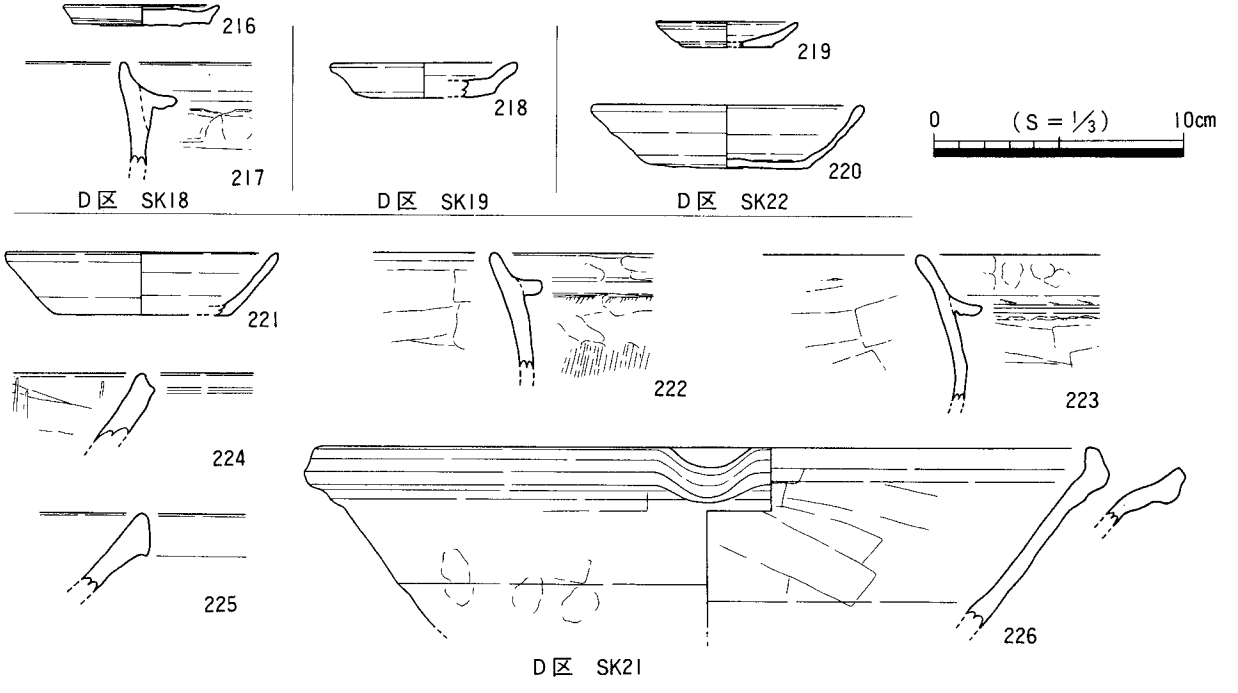


第50図 D区 SK19, 22平・断面図

239, 短径162, 深さ25cmを測る（第55図)。埋土は淡灰褐色シルトである。第51図216の土師器小皿, 217の土師器土釜はD区SK18出土のものである。このほか土師器杯, 土釜脚部の小片などが出土している。

D区 SK19

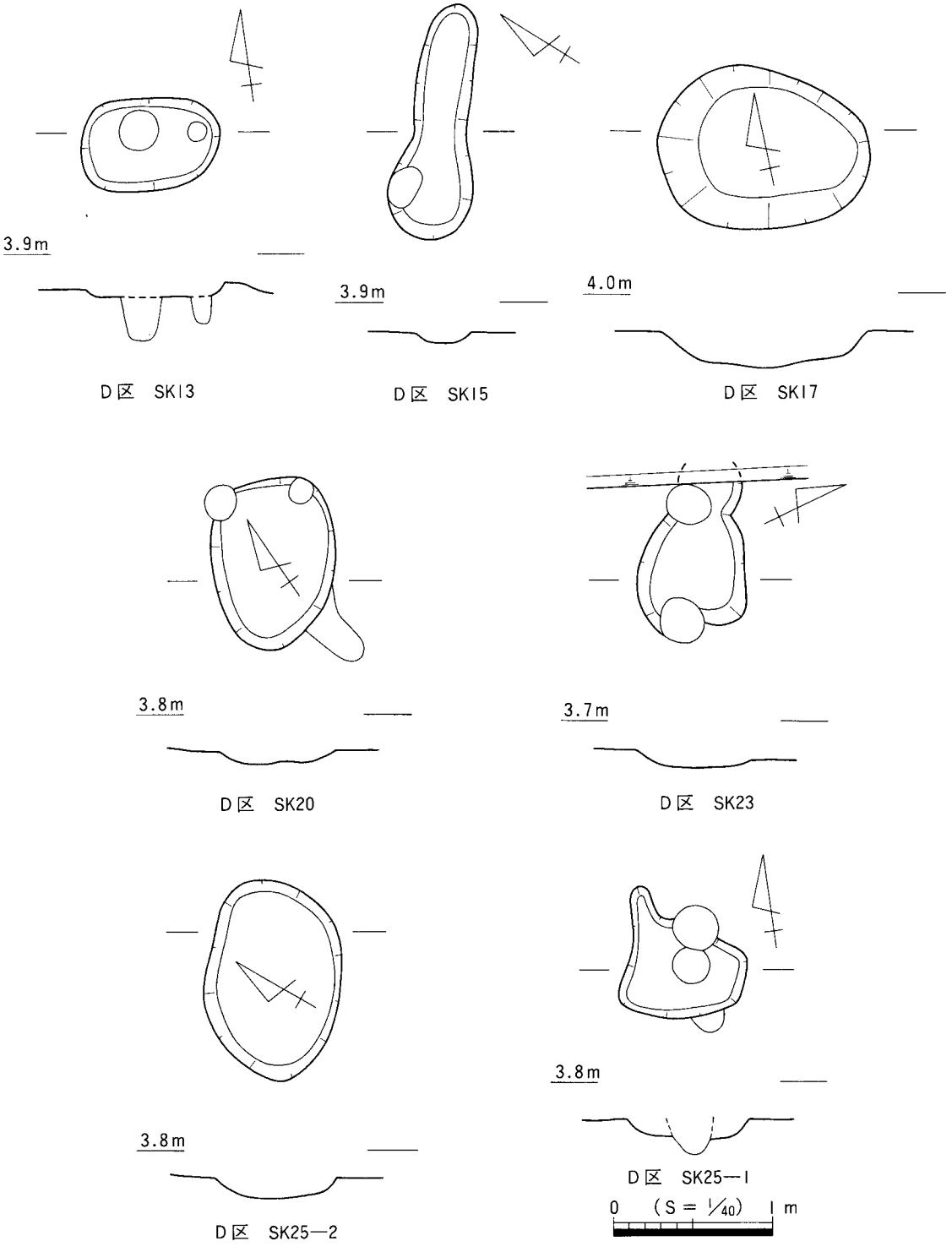
X＝＋147.568, Y＝＋46.229付近で検出した長軸の長い楕円形の平面形の土坑である。規模は長径265, 短径125, 深さ6cmを測る。埋土は暗褐色砂混じりシルトである。第51図218はD区SK19から小片で出土した土師器小皿である。このほかに土師器杯, 土釜口縁, 須恵器の小片などが出土している。



第51図 D区 SK18, 19, 21, 22出土遺物実測図

D区　SK20

X＝＋147.565，Y＝＋46.228付近で検出したやや不整な楕円形の平面形の土坑である。規模は長径107，短径74，深さ8cmを測る。埋土は暗灰褐色砂混じりシルトである。出土遺物は図化不能であるが土師器の杯か小皿の小片が出土している。



第52図　D区　SK13，15，17，20，23，25-1，-2平・断面図

D区　SK21

X＝＋147.563，Y＝＋46.220付近で検出した落ち込みである。遺構検出時には土坑の可能性を考えたが，包含層の落ち込みと考えられる。径2.5m程の三日月形の落ち込みで，D区SB04と切り合いがあり，SB04よりも古い。第51図221～226はD区SK21出土の遺物実測図である。いずれも小片で出土している。224は須恵器スリ鉢の口縁部である。225，226は東播系の須恵器こね鉢である。

D区　SK22

X＝＋147.573，Y＝＋46.231付近で検出したやや不整な隅丸長方形の平面形の土坑である。規模は長辺150，短辺105，深さ7cmを測る。埋土は暗褐色シルトである。第51図219，220はD区SK22出土の遺物である。219は小片，220は1/2程残存していた。このほか土師器の杯か小皿の小片が10×7cmビニール袋1袋分出土している。

D区　SK23

X＝＋147.575，Y＝＋46.229付近で検出した不整形の平面形の土坑である。規模は長軸100以上，短軸40，深さ8cmを測る。埋土は灰褐色砂混じりシルトである。遺物は出土しなかった。

D区　SK25-1

X＝＋147.562，Y＝＋46.225付近で検出した不整形の平面形の土坑である。規模は長軸80，短軸75，深さ10cmを測る。埋土は暗灰褐色砂混じりシルトである。出土遺物に土師器の杯か小皿の小片があるが，後述のSK25-2出土のものである可能性がある。

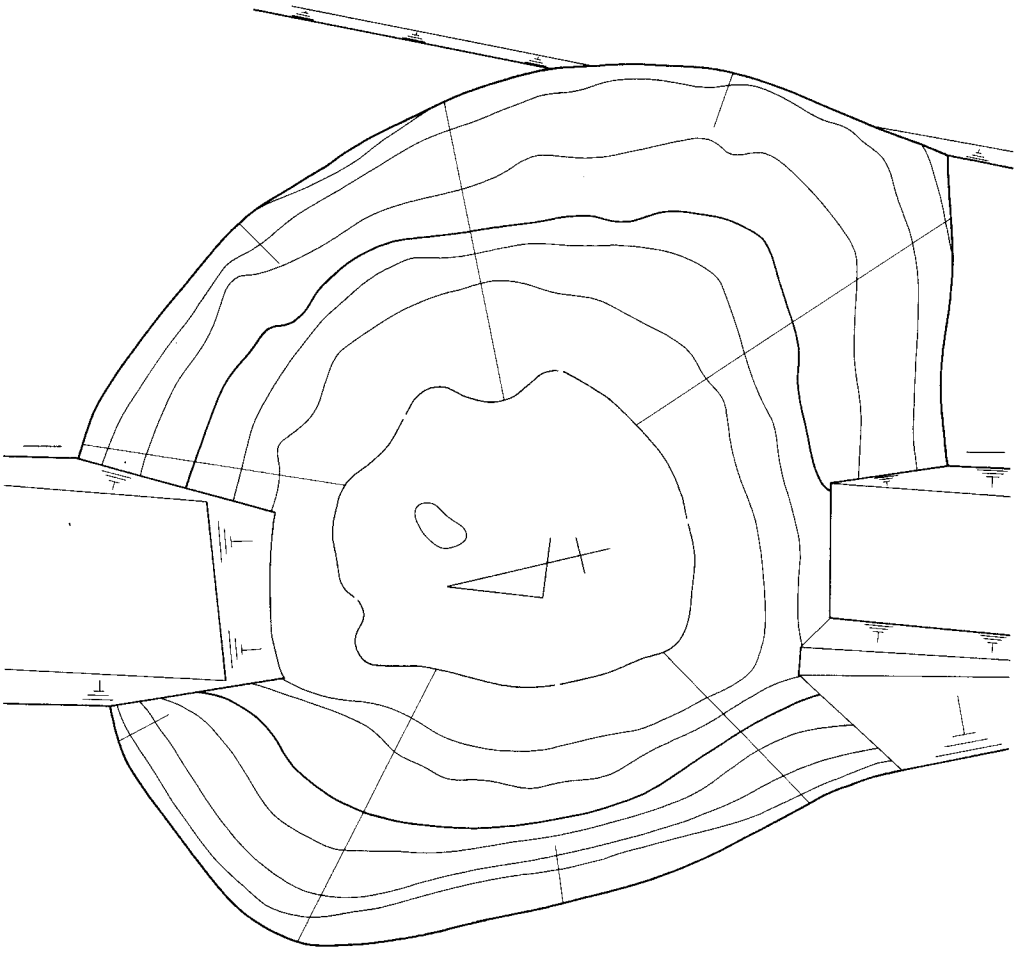
D区　SK25-2

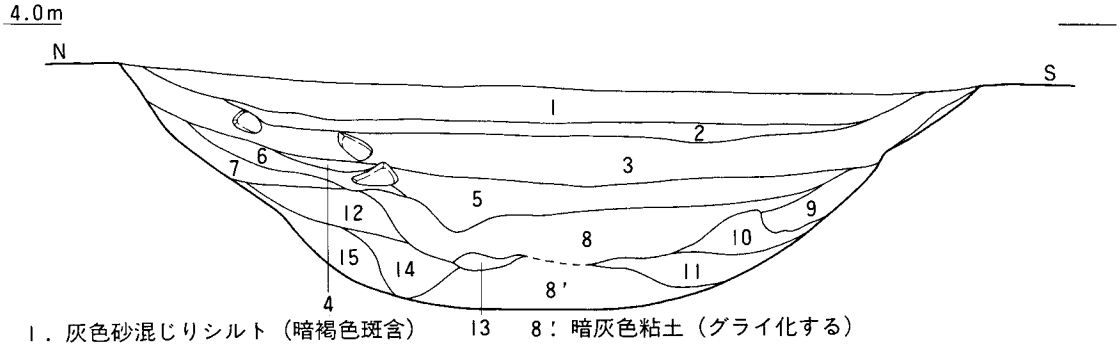
X＝＋147.551，Y＝＋46.240，D区SB06付近で検出した楕円形の平面形の土坑である。規模は長径125，短径77，深さ13cmを測る。埋土は不明である。

D区　SE01

X＝＋147.553，Y＝＋46.221付近で検出した井戸である。やや不整な楕円形の平面形，半球状の断面形を呈し，長径5.4，短径4.2m，深さ117cmを測る。遺構面の下層の砂礫混じり層に達し，調査時には自然湧水が認められた。自然埋没を伺わせる堆積状況で，埋土は粘土・粘質土といった細粒堆積物が顕著である。以上の状況から井戸と判断できるが，井戸側などの構造物は痕跡も認められなかった。緊急的・短期的な使用のために掘削されたものとも考えられる。D区SE01はSD41と重複するが，SE01最上層とSD41の埋土が同一であることから，両者は同時併存していたと考えられる。

D区SE01からは28㍑入りコンテナ1箱分の中世土器が出土した。第54図227～242はD区SE01出土の遺物実測図である。227は土師器小皿。上層から完形で出土した。228の土師器杯，229の鎬連弁の見られる青磁椀も上層出土。いずれも小片である。230～235の土師器土釜は，230，235が下層から出土したと推定される以外は層位不明である。いずれも小片で出土した。236～239の土師器土鍋はいずれも小片で出土した。236が上層出土，237が最下層出土のものである。240は亀山焼の甕である。小片で出土した。層位不明。241は土師器こね鉢である。口縁下部に穿孔が見られる。小片，下層出土と推定される。242は東播系のこね鉢である。

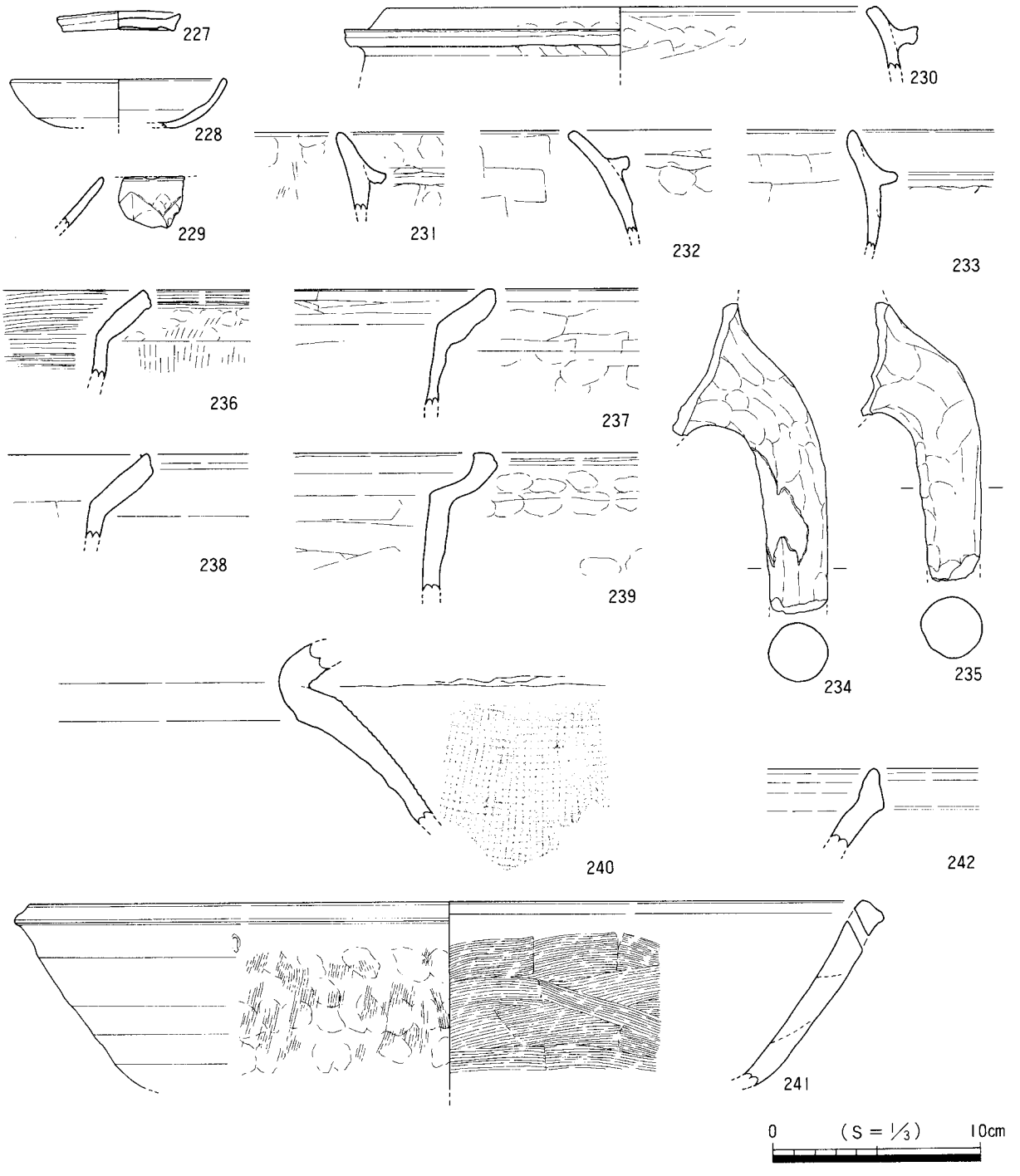




1．灰色砂混じりシルト（暗褐色斑含）
2．灰色砂混じりシルト（黄赤褐色斑多く含）
3．暗灰色砂混じりシルト（締まりやや悪い）
4．明褐色中砂
5．黒灰色粘土
6．黒灰色砂混じり粘土
7．灰色砂混じり粘土
8．暗灰色粘質土（ややグライ化する）
8'．暗灰色粘土（グライ化する）
9．黄赤褐色中砂（礫わずか含）
10．暗灰色砂混じり粘質土
11．暗灰色中砂
12．9層と10層が混合した層
13．暗灰色中砂
14．暗灰色砂
15．明灰色中砂

0 (S = 1/40) 1 m

第53図　D区　SE01平・断面図

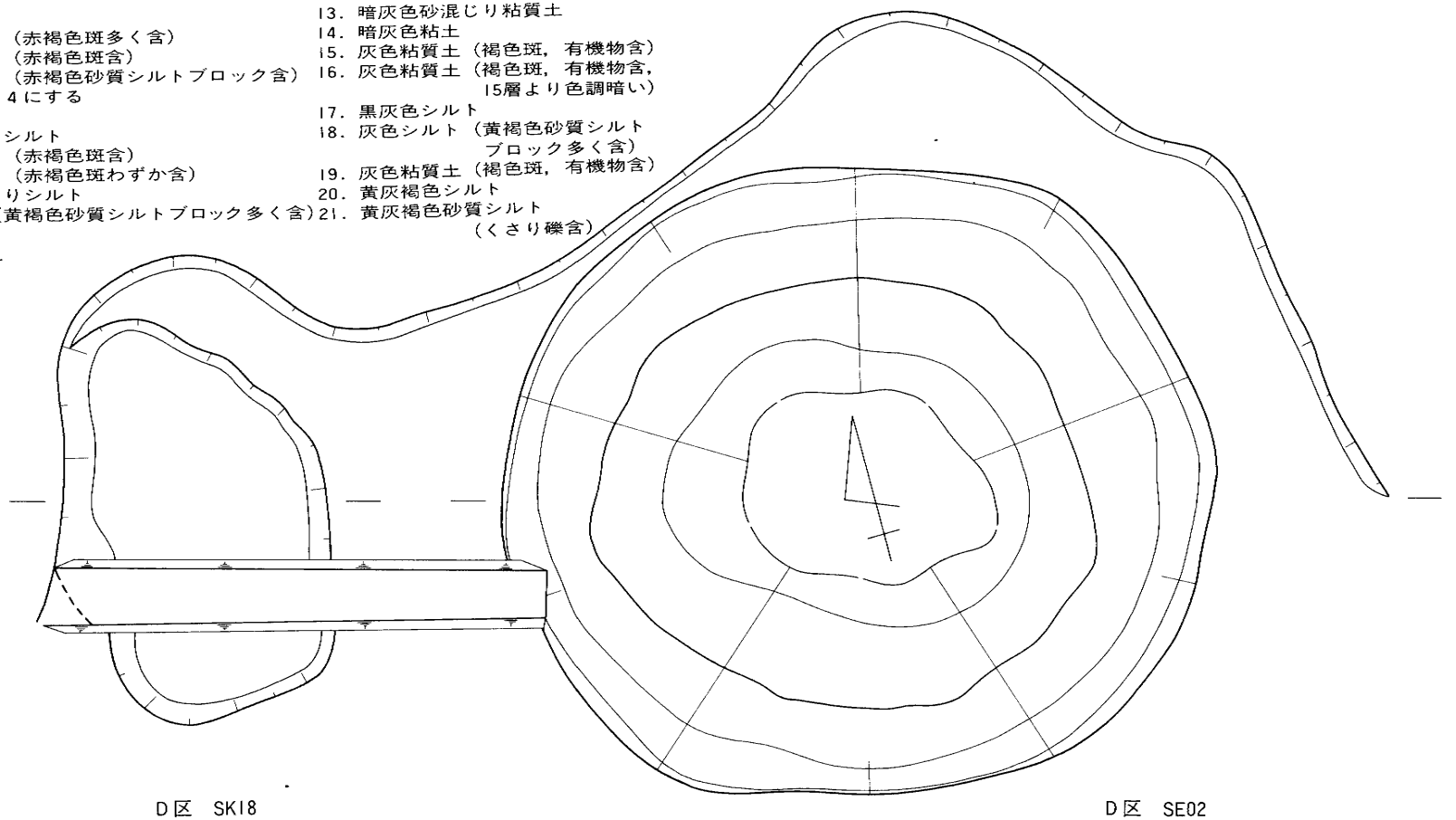


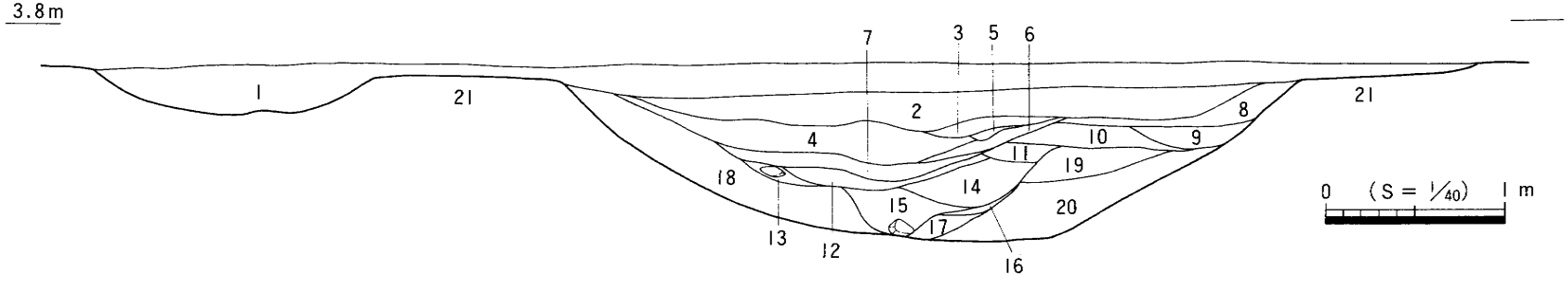
第54図　D区　SE01出土遺物実測図

D区　SE02

X＝＋147.568，Y＝＋46.235付近で検出した井戸である。やや不整な円形の平面形で，半球状の断面形を呈する。規模は長径4.1，短径3.7，深さ1mを測る。遺構面下層の砂礫層に達し，調査時には自然湧水が認められた。断面観察からある程度埋没した後に，再掘削されているようである。井戸側などの構造物は痕跡も認められなかった。D区SE01と同様に本来は緊急的・短期的な使用のために掘削されたものかもしれない。

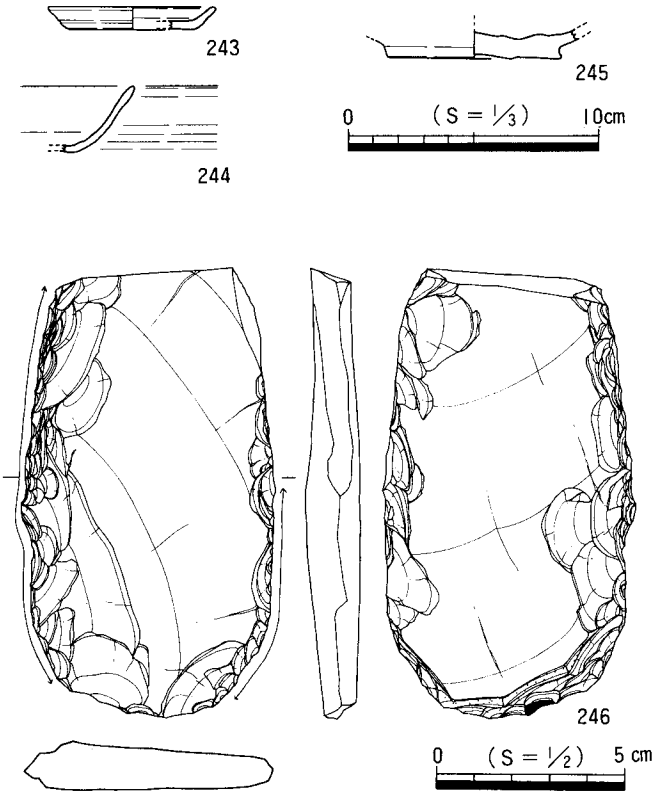
1．黒灰色シルト
2．灰褐色シルト（赤褐色斑多く含）
3．灰褐色シルト（赤褐色斑含）
4．暗灰色シルト（赤褐色砂質シルトブロック含）
　　5層は4にする
5．暗灰色シルト
6．灰色砂混じりシルト
7．灰褐色シルト（赤褐色斑含）
8．灰褐色シルト（赤褐色斑わずか含）
9．赤褐色砂混じりシルト
10．灰色シルト（黄褐色砂質シルトブロック多く含）
11．暗灰色粘土
12．黒灰色粘質土
13．暗灰色砂混じり粘質土
14．暗灰色粘土
15．灰色粘質土（褐色斑，有機物含）
16．灰色粘質土（褐色斑，有機物含，
　　15層より色調暗い）
17．黒灰色シルト
18．灰色シルト（黄褐色砂質シルト
　　ブロック多く含）
19．灰色粘質土（褐色斑，有機物含）
20．黄灰褐色シルト
21．黄灰褐色砂質シルト
　　（くさり礫含）





第55図　D区　SK18，SE02平・断面図

D区SE02からは28㌔入りコンテナ1/4箱分の遺物が出土したが，細片が多い。第56図243～246はD区SE02出土の遺物である。243，244の土師器小皿，杯は最上層から小片で出土した。245は土師器こね鉢の底部である。上層から出土した。246は石斧である。刃部も剝離は階段状になるが，使用痕と思われる磨滅が認められる。



第56図　D区　SE02出土遺物実測図

(5) 溝状遺構・性格不明遺構

① 居館を囲繞する堀状遺構

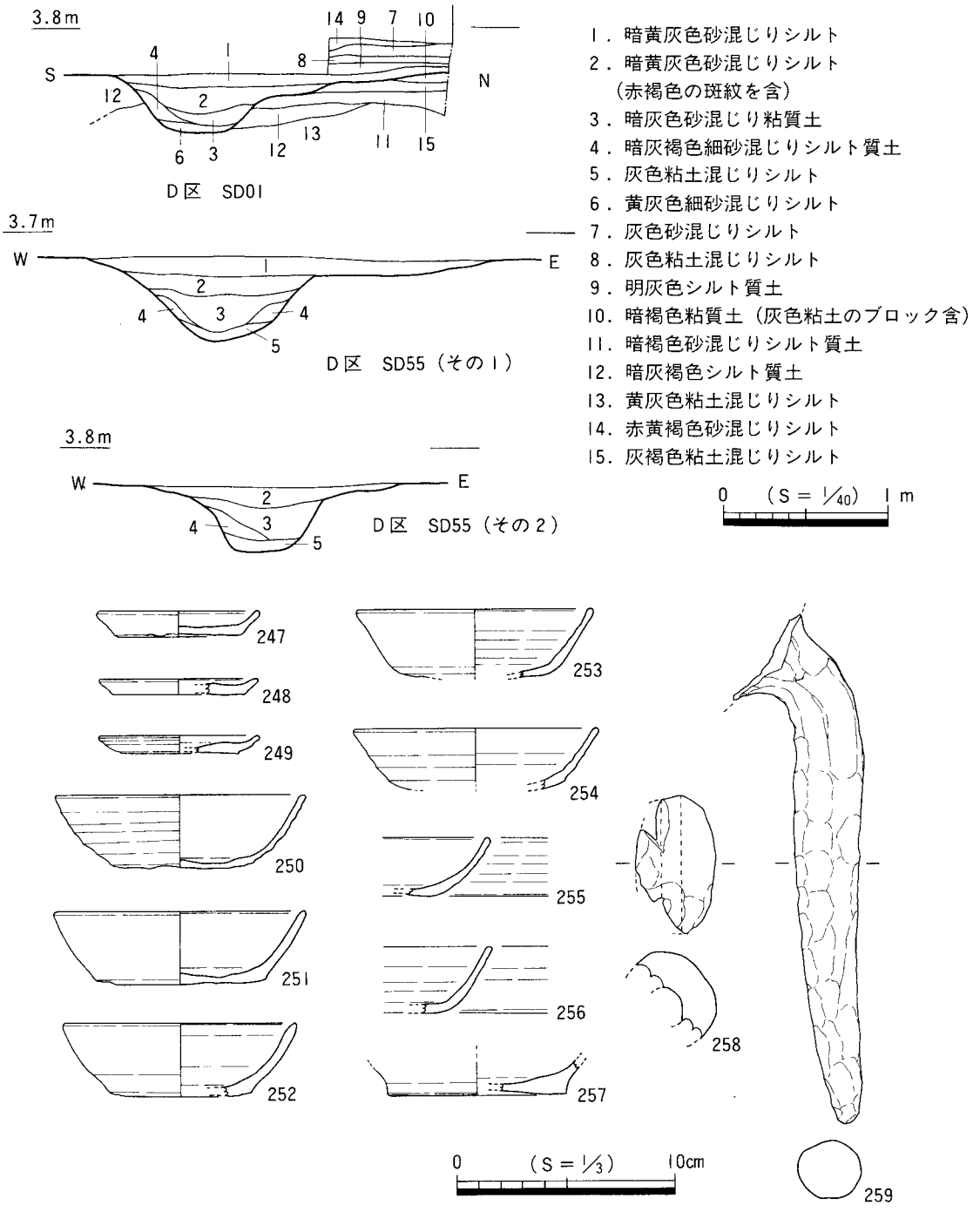
D区　SD01・55

中世居館を囲繞する堀と考えられる遺構である。東西方向をD区SD01，南北方向をD区SD55と呼称するが，両者は連続する。また，D区SD59・68，SD57・58，SD67と合流するが，切り合い関係は見られず同時併存したものである。

D区SD01は座標北から西へ79°振った方向でほぼ直線に掘られたもので，延長25m検出し，西は調査区外に延びる。規模は幅約2.2m，深さ約0.4mを測る。断面形は深さ12cm以下の浅い部分と，幅1m，深さ0.4mの「U」字状の部分に二段掘りされている。したがって水量の乏しい時には，1mほどの幅しかないが，満水状態では2.2mほどの幅になる。これは，少ない水量で溝幅を出来るだけ広く見せようとした意図を読みとれると思う。堀の機能を想定する理由である。

D区SD01は直角に折れて，座標北から東へ11°振った方向へ直線に南進し，約40mで収束する。D区SD55の幅は最大で3.1mを測る。第23図土層断面①，第57図はD区SD01・55の断面図である。例えばD区SD55（その1）では5，4層による埋積後に再掘削された状況が観察されるが，シルトを中心とする細粒堆積物によって静穏に埋没したことが伺われる。

出土遺物は少なく，全体で28㌔入りコンテナ1/3箱分の中世土器が出土した。第57図247～259はD区SD01・55出土の遺物実測図である。247，250，251は完形で出土し，それ以外は小片で出土した。なお，251はSD01・55の屈曲部の最深部から，付せられた状態で出土した（第58図）。ここは居館の鬼門にあたることから何らかの祭祀の可能性が考えられるものの詳細は不明とせざるを得ない。

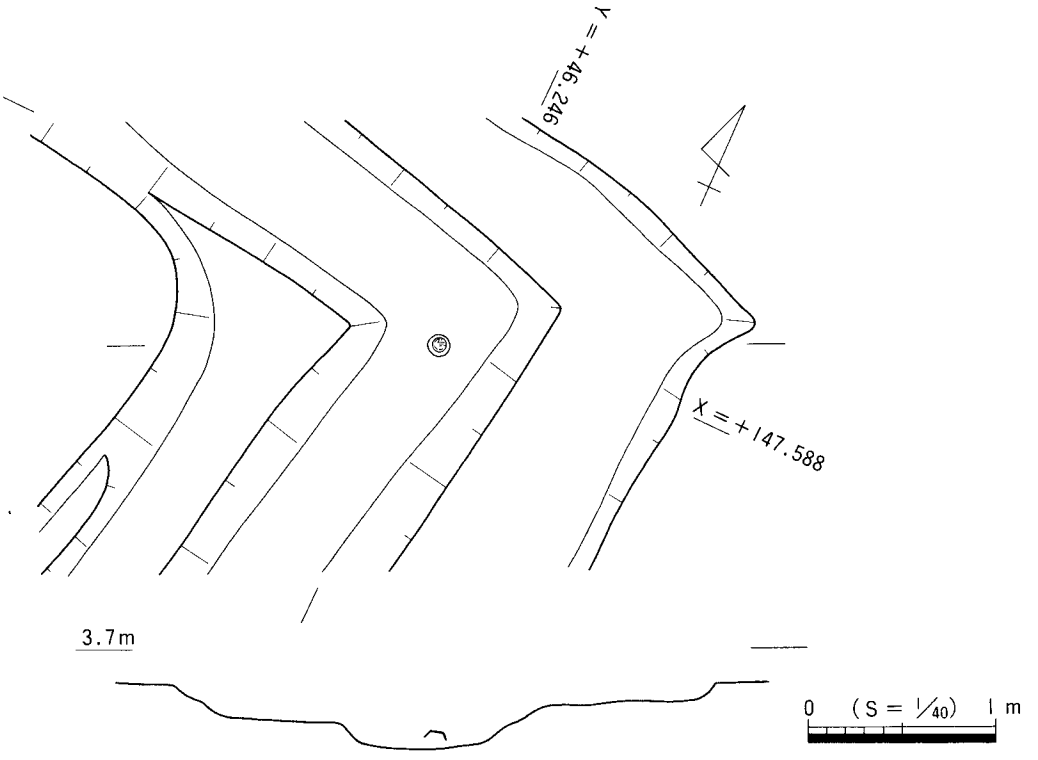


第57図　D区　SD01，55断面図，出土遺物実測図

② D区西北部の溝状遺構・性格不明遺構

D区　SD02

D区西北角で検出した溝状遺構である。D区SD01と約2～2.5m（SD01南岸～SD02北岸）離れた距離で，SD01と平行に流れ，途中から「T」字状にSD03に接続し，南側で逆「T」字状にSD20に接続する。東側は一端途切れた後にSD68に連続する。西側は調査区外に延びる。D区SB01の雨落ち溝と考えられるSD04とも接続する。D区SD02は幅40～60cm，深さ8cmほどの規模で，検出長は約11mである。第60図

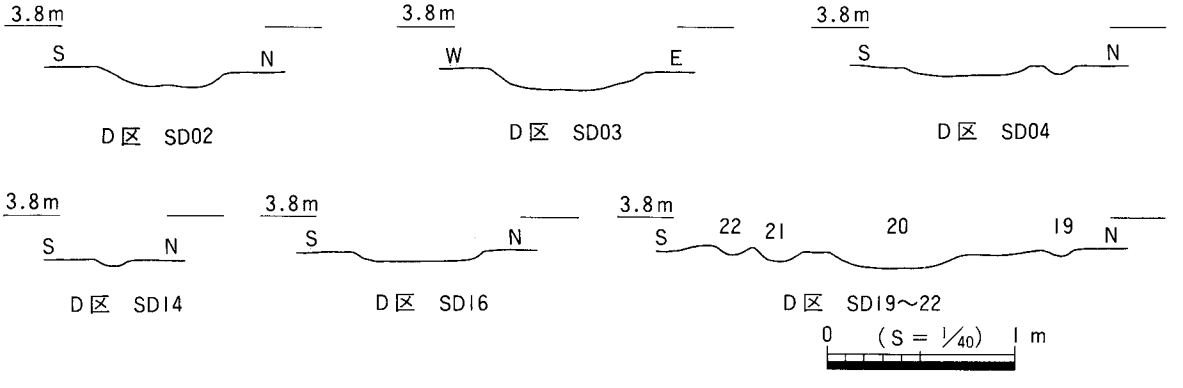


第58図　D区　SD55遺物出土状況平・断面図

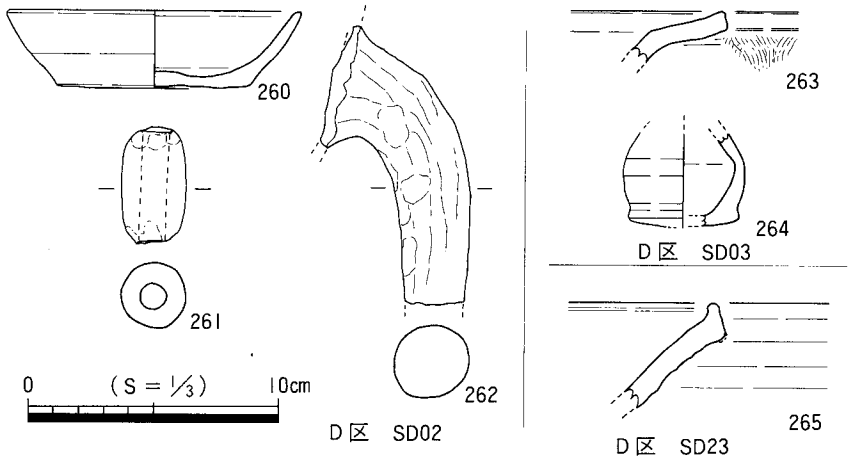
260～262はD区SD02出土の遺物実測図である。261の土錘はほぼ完形で出土し，ほかは小破片で出土している。このほかSD02からは土師器の杯か小皿の小片，サヌカイト片が出土している。

D区　SD03

D区SD02とSD20間をN-11°-Eの方向に流れる溝状遺構である。幅50～90cm，深さ10cm，長さ約12.5mを測る。第60図263，264はD区SD03出土の遺物実測図である。264は瓦質の瓶子底部の小片である。このほかD区SD03からは土師器の杯か小皿の小片が出土している。



第59図　D区　西北部SD断面図



第60図　D区　西北部SD出土遺物実測図

D区　SD04

D区SB01の北側に，SB01の桁行と平行に流れる溝状遺構である。SD16とともにSB01の雨落ち溝と考えられる。幅45～90cm，深さ4cmで検出長は6.5mを測る。東側はSD03と合流し，西側は調査区外に延びる。図化できる遺物は無かったが，土師器の杯か小皿の小片のほか亀山焼と思われる遺物小片，鉄滓片が出土している。

D区　SD16

D区SB01の南側を流れる，SB01の雨落ち溝と考えられる溝状遺構である。幅65cm程度，深さ約4cm，長さ4.8mを測る。遺物は出土しなかった。

D区　SD14

D区SK02から，D区SB01の桁行に平行して東方に流れる溝状遺構である。SK02との前後関係は不明である。遺物は出土しなかった。

D区　SD19～23

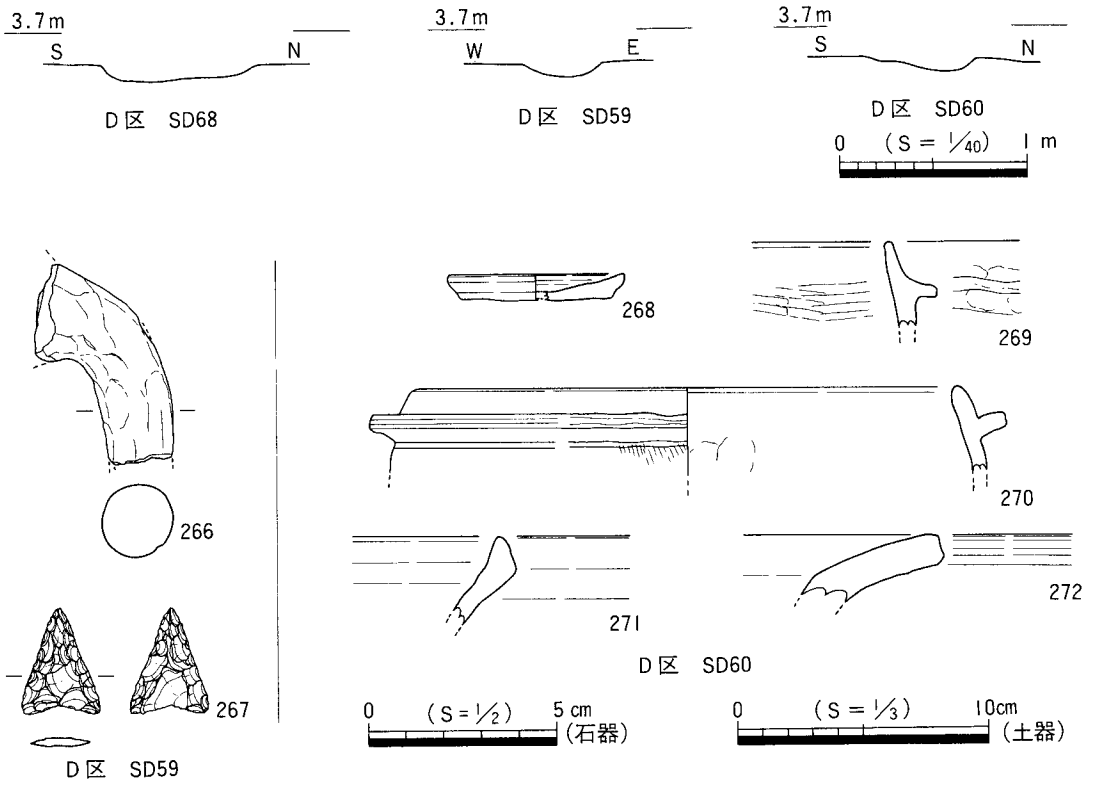
D区SD03に直角に接続するSD20とそれから派生，平行して流れる溝状遺構群である。D区SD20は幅70cmほどの規模で，SD21と合流して東側は130cmほどの規模となる。図化できる遺物は無かったが，土師器の杯，小皿，土釜，土鍋，東播系のこね鉢など20×14cmビニール袋1袋分の遺物が出土した。第60図265はD区SD03と20の屈曲部から東へ延びるSD23から出土した東播系こね鉢である。

③　D区居館東北部の溝状遺構

D区SD02の延長線上に位置するSD68と，D区SD20の延長線上に位置するSD60およびそれらと直交するSD59と先述したD区SD03の4条の溝状遺構で東西約14m，南北約13mの小区画が作られる。また，SD68と59は連続する溝で，居館の堀（D区SD01，55）と1.8mほどの間隔で平行して流れている。小区画内の東側は耕作痕と考えられる小溝群が，西南側は柱穴がまばらに見られ，西北側は東側とはやや様相が異なる小溝群が見られる。

D区　SD68

D区SD68は幅約90cm，深さ8cm，SD59は幅90cmほどから次第に細くなって収束し，1.7mほどあけて



第61図　D区　居館東北部SD断面図，出土遺物実測図

SD57が現れる。SD59と57は各々から小溝がSD55に合流していることから同時併存であると判断できる。第61図266，267はSD59出土の遺物実測図である。

D区　SD60

D区SD20の延長線上に位置する溝状遺構である。幅50cm，深さ8cm，長さ7.5mを測る。第61図268～272はSD60出土遺物の実測図である。いずれも小片で出土した。268は土師器小皿，269，270は土師器土釜，271は東播系の須恵器こね鉢，272は亀山焼と考えられる須恵器甕である。

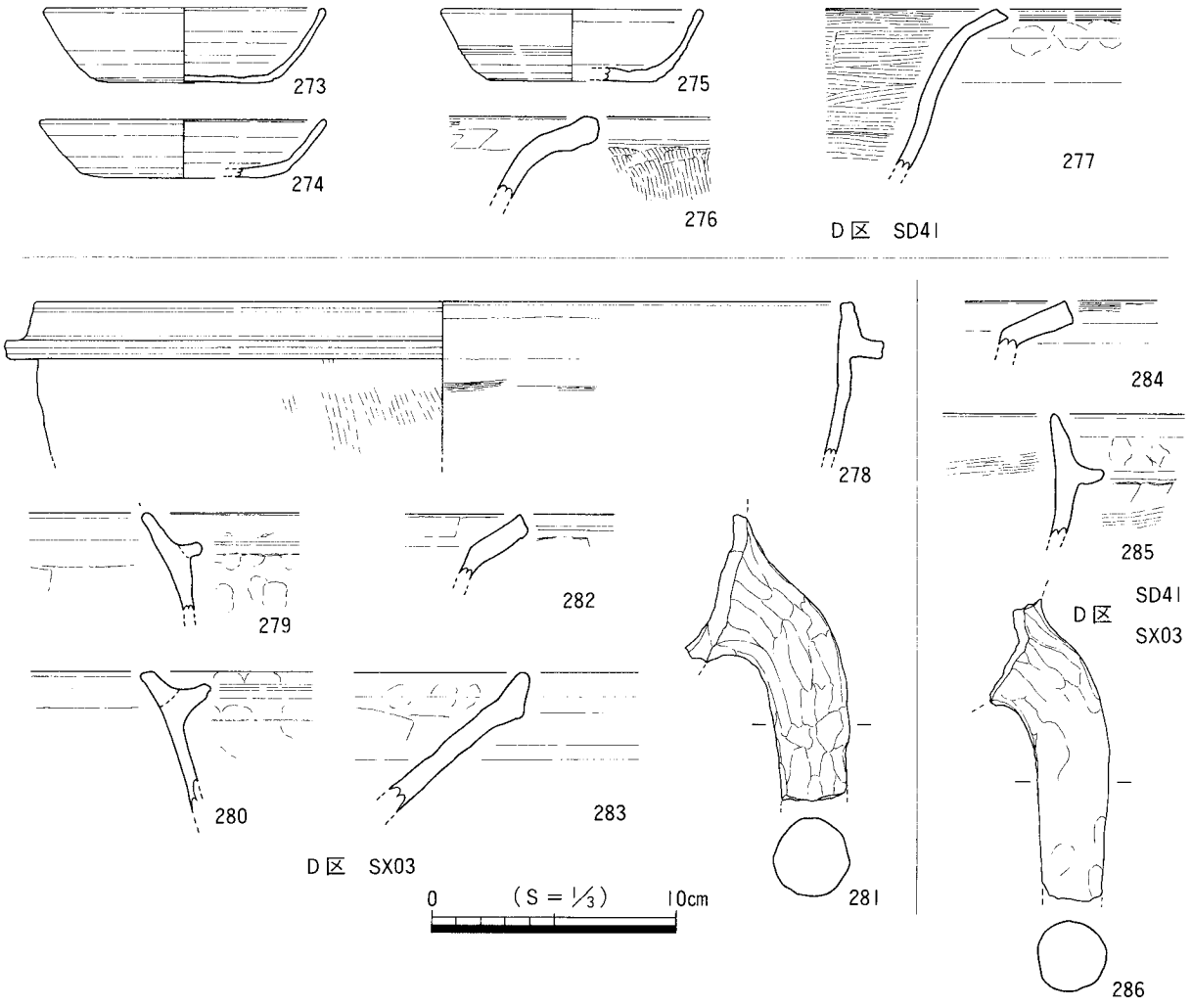
④　D区　SD41，SX03

D区　SD41・SX03

D区SD41は堀と考えられるSD55がD区南部で途切れる地点から東西方向に延びる溝状遺構である。この溝を境に南側は柱穴の分布が疎になることから，SD01，55と同様の堀となる可能性があるが，SD01，55に比較してやや小規模であること，SD41の南側は調査区境まで約7.5mほどであるため，調査区外に東西方向の堀が存在し，SD41はSD02や20といった居館内を小区画する溝状遺構である可能性もある。

D区SD41は幅30～90cm，深さ15～20cmで砂岩礫をわずかに含む暗灰色シルト質土で埋没する。(断面図は第23，64，66図）検出長は約31mで西側は調査区外に延びる。

D区SX03は調査区南西隅で検出した幅85cm，深さ15cmほどの落ち込みである。西側は調査区外に延びる。SD41と平行する。



第62図　D区　SD41，SX03出土遺物実測図

第62図273～277はD区SD41，278～283はD区SX03，284～286はSD41もしくはSX03から出土した遺物実測図である。いずれも小片で出土した。273～275は土師器杯，276，277は土師器土鍋である。277の口縁部は緩やかに外湾し稜を持たない。内面はハケが施されている。278～281は土師器土釜，282は土師器土鍋，283は東播系須恵器こね鉢，284は土師器土鍋，285，286は土師器土釜である。

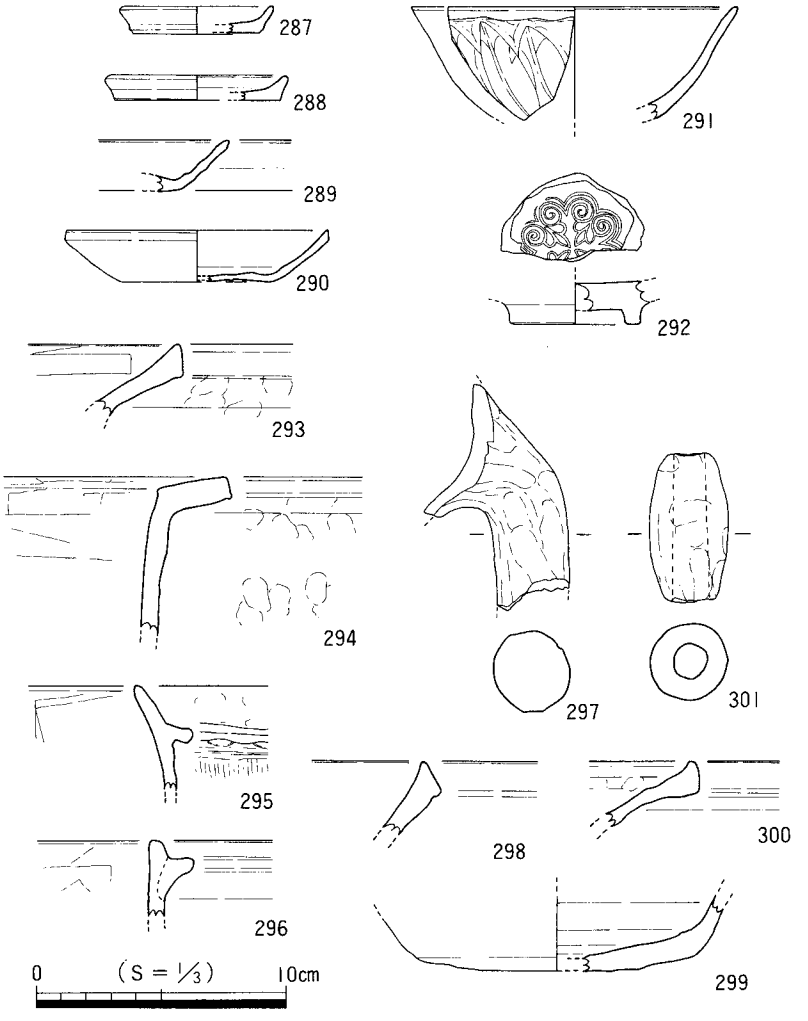
⑤　D区西南部の溝状遺構，性格不明遺構

D区　SX02

D区西南部で検出された落ち込み。明瞭な平面形をもたず，遺構とするよりも自然形成の落ち込みと考えられる（断面図は第64図）。比較的多量の中世土器が包含され，28㌢㍑入りコンテナ1/3箱分が出土した。第63図はSX02出土の遺物実測図である。301の土錘が完形で出土したほかは小片で出土した。287，288は土師器小皿，289，290は土師器杯，291，292は青磁椀である。291は外面に鎬蓮弁が，292は見込みに唐草文のスタンプ文が見られる。293，294は土師器土鍋，295～297は土師器土釜である。298，299は土師器こね鉢である。298の外面には煤が付着する。300は須恵器こね鉢，森田編年第Ⅷ期第２段階に属すると思われる。301は土錘である。

D区　SD34

X＝＋147.565, Y＝＋46.217付近に所在する溝状遺構。流向はN-82°-Eで，幅約70cm，深さ約15cm，長さ約7.5mを測る。切り合い関係からD区SB05より新しい。第65図302～309はD区SD34出土の遺物実測図である。302の土師器小皿は完形で出土した。303～305の土師器杯は相対的に肉厚である。306は土師器土鍋，307～309は土師器土釜である。このほかD区SD34からは27×20cmビニール袋1袋分の中世土器片が出土している。



第63図　D区　SX02出土遺物実測図

D区　SD26，45，50

D区調査区西南隅で検出した溝状遺構である。異なる遺構番号を付すが一条のものである。南端はD区SX05と合流し，北端は自然消滅する。検出長約16m，巨視的にはN-18°-E方向に直線的に流れるが，細かくは屈折している。SX07と切り合いがあり，SX07よりも新しい。溝幅は約10～55cm，深さ約4cmを測る。第65図310はSD45出土の土師器土鍋である。口縁部内面までハケが施されている。このほか土師器杯，小皿，器種不明の須恵器片などが出土している。

D区　SD51

X＝＋147.566, Y＝＋46.220付近で検出した溝状遺構。周辺の掘立柱建物の主軸と同一の方向をもつ。幅60cm，深さ7cm，検出長3.3m。第65図311はD区SD51出土の須恵器こね鉢の小片である。このほか土師器の杯か小皿の小片が出土している。

D区　SX04

X＝＋147.562，Y＝＋46.217付近で検出した溝状遺構。周辺の掘立柱建物の主軸と同一方向をもつ。幅約60cm，深さ約4cm，検出長約2.7mで東側の平面形は不明瞭である。SD35，36と共に企画的な配置を呈する。第65図312はD区SX04から小片で出土した土師器小皿である。このほかSX04からは土師器の杯

か小皿の小片など若干量が出土している。

D区　SX05

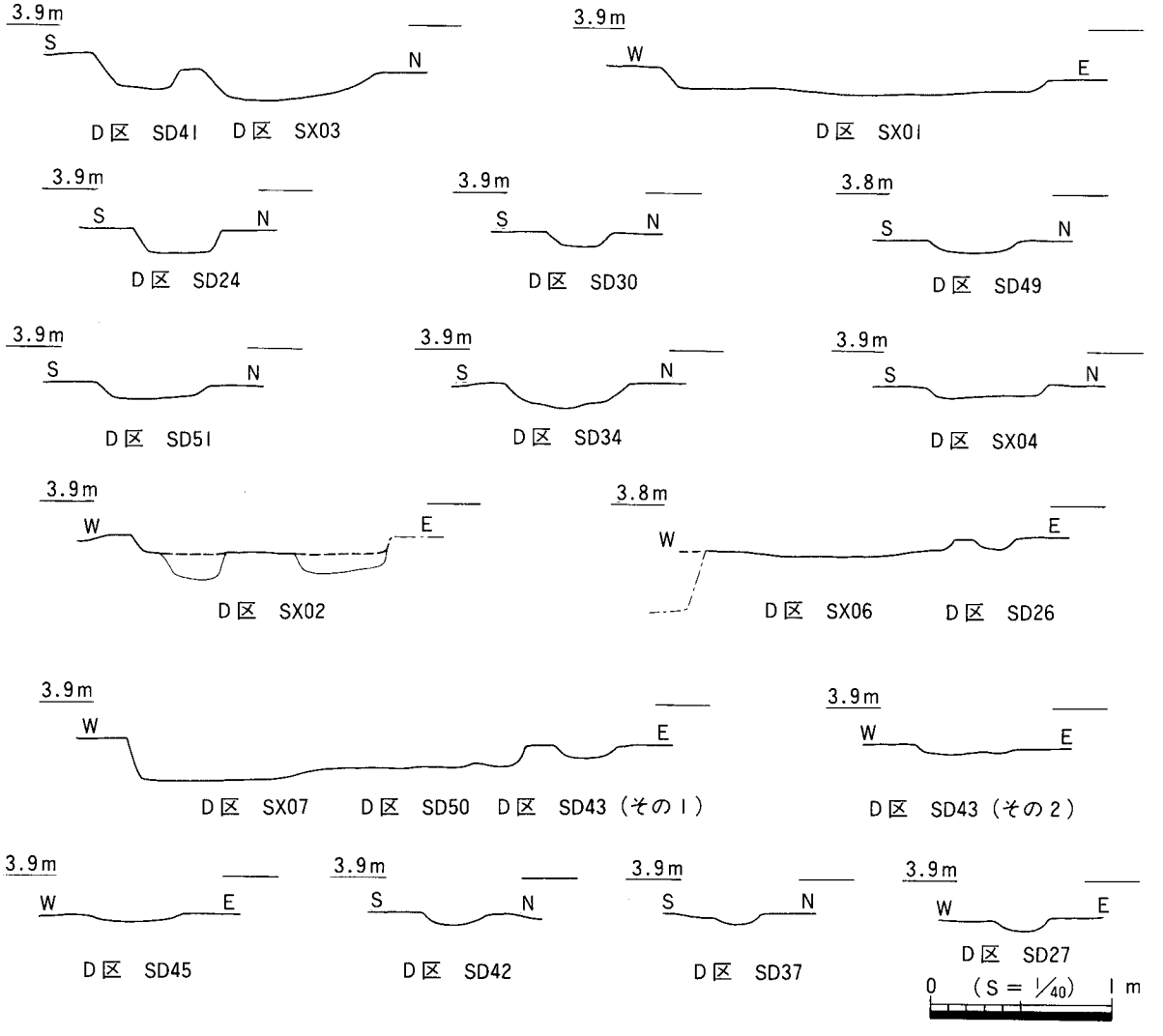
調査区西南でD区SD41，SX03の上面に堆積する暗黄灰褐色砂混じりシルトと暗灰褐色シルト層の落ち込み。D区SD45，SD43が合流している。第65図313はD区SX05から小片で出土した土師器杯である。このほか土師器の杯か小皿の小片が数片出土している。

D区　SX06

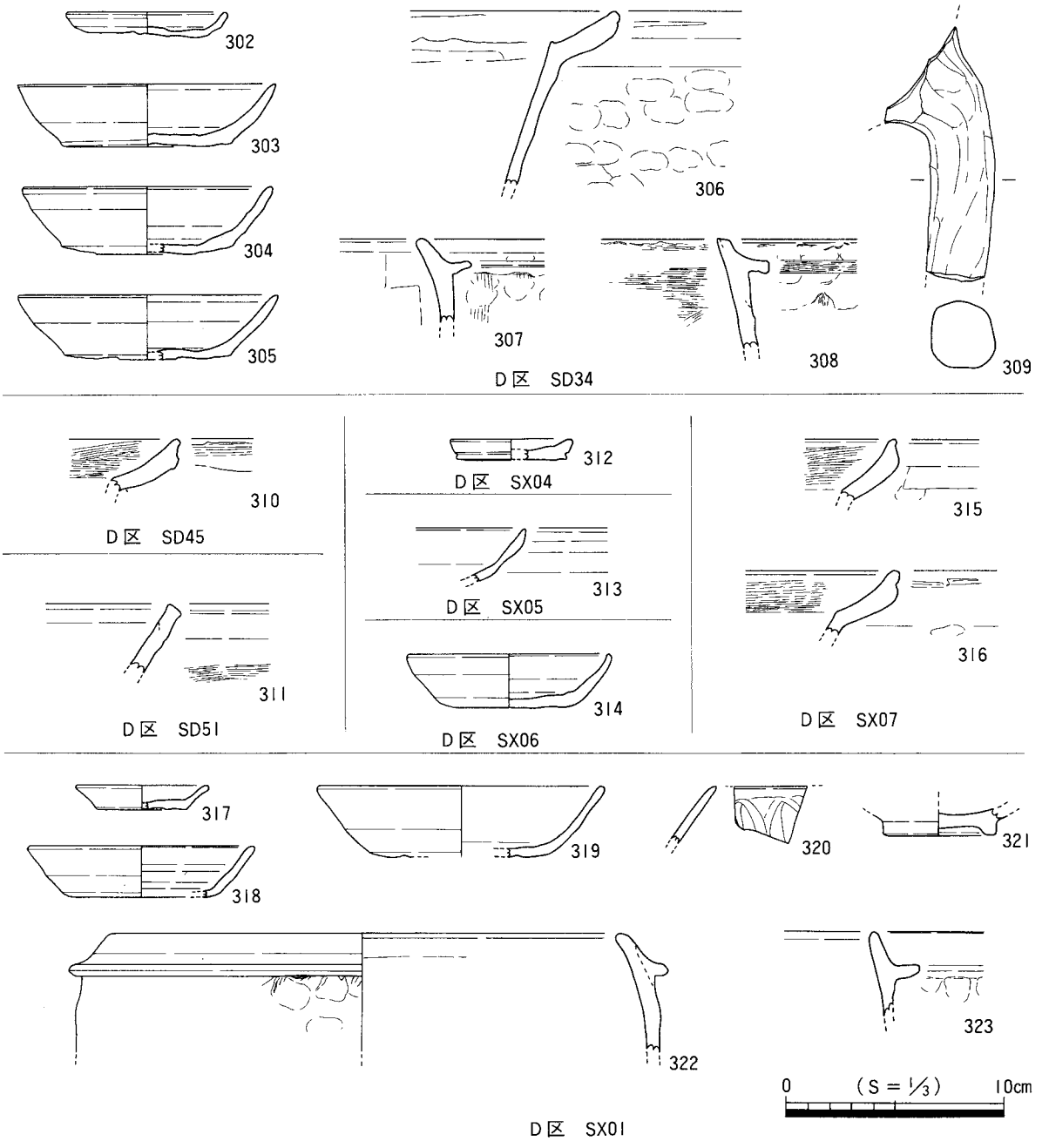
D区SB05の西側の調査区西端で検出した深さ10cmほどの落ち込み。調査区外に延びるため平面形は不明である。土師器杯の小片（第65図314）が出土している。

D区　SX07

D区SB03の西側の調査区西端で検出した深さ20cmほどの落ち込み。D区SD26，45，50と切り合いがあ



第64図　D区　西南部SD，SX断面図



第65図　D区　西南部SD，SX出土遺物実測図

り，SD26より古い。口縁部内面をハケ調整した土師器土鍋（第65図315，316）のほか，土師器小皿，杯，土釜，青磁椀などの小片が出土している。

D区　SD24，SX01

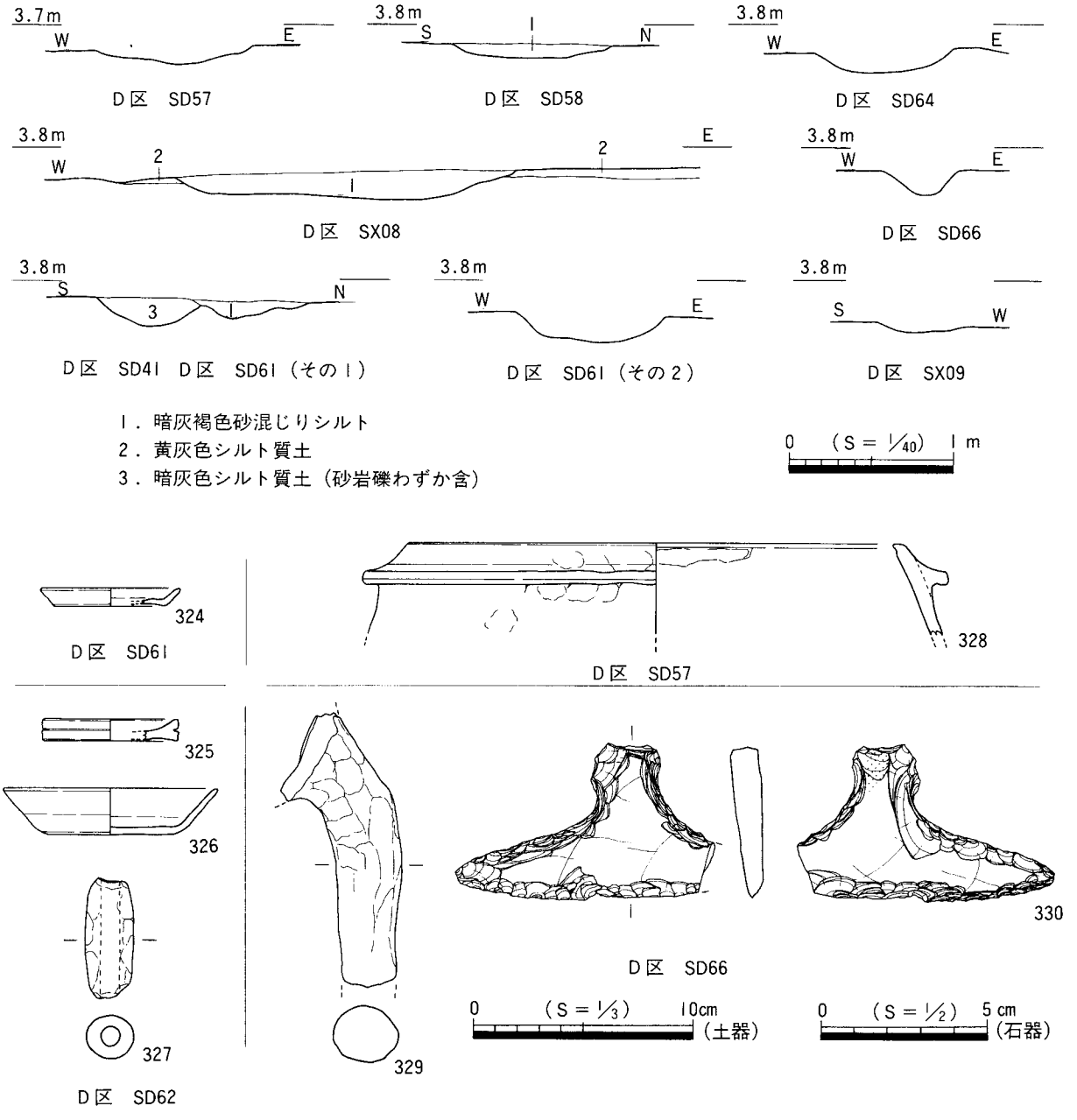
D区SD24は，D区SB11の北側に掘立柱建物の桁行と平行する幅50cm，深さ10cmほどの溝状遺構である。西側は自然消滅，東側はD区SX01に接続する。D区SX01は東西2m，南北2.5m，深さ10cmほどの不定形の落ち込みである。位置関係からD区SB09の雨落ち溝の可能性がある。

第65図317～323はD区SX01出土の遺物実測図である。いずれも小片で出土しており，318，319の土師

器杯の径についてはやや不正確である。320は鎬蓮弁のある青磁椀，321は畳付以外すべてに施釉した白磁椀である。322，323は土師器土釜である。

D区　SD30，49

D区SB05の建物内部に相当する位置にある東西方向の溝状遺構である。一端途切れるがSD49と連続するものと考えられる。幅30cm，深さ8cmほどの規模で，図化していないが土師器の杯か小皿，土釜脚部，器種不明の須恵器小片が出土している。

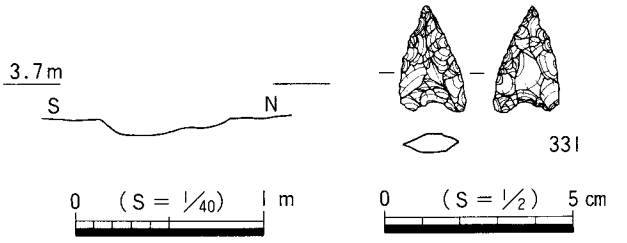


第66図　D区　東南部SD，SX断面図，出土遺物実測図

⑥　D区東南部の溝状遺構，性格不明遺構

D区　SD61

居館の堀（SD55）とD区SD41の接点の西北側の「釣針」状の平面形の溝状遺構である。後述するD区SD58とで南北約9m，東西6mの小区画をつくるが，区画内部に遺構は検出されず，土地利用の内容は不明である。規模は幅80cm，深さ20cmほどである。SD41と接するが前後関係の有無は確認できなかった。第66図324の土師器小皿のほか，土師器土釜，古墳時代のものと考えられる須恵器蓋杯の小片が出土している。



第67図　D区　SD67断面図，出土遺物実測図

D区　SD57，58，SX08，SD64，62

居館の堀（SD55）の内側に小溝が平行しているが，D区SD57もその一部分である。南北方向に約6m流れ，南側で西に向きを変え（SD58），約7.5mで再び南に屈曲，約7.5m（SX08，SD64）南流したのち再び西流する（SD62）。先述のD区SD60とで南北約11m，西側に区画溝は見られないがD区SB04を西限とすると，東西約10mの小区画をつくっている。区画内部には井戸（SE02）が中央やや北寄りに所在する。

第66図325～327はD区SD62，328はD区SD57，329，330はSD62から派生するSD66から出土した遺物である。327がほぼ完形で出土した以外は小片で出土した。330は横形A形態の石匙である。茎部に磨滅が見られる。

⑦　D区　SD67

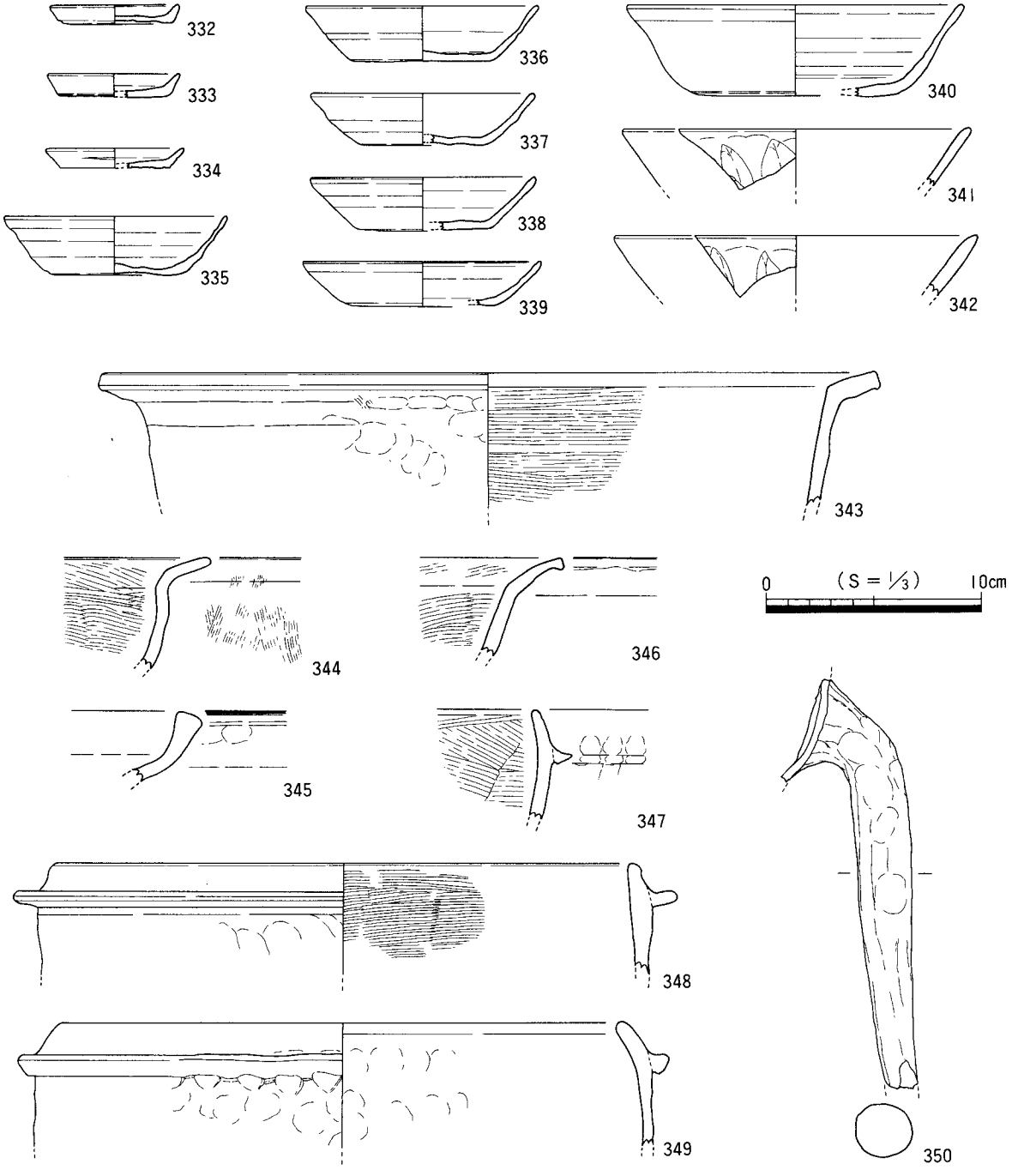
D区　SD67

居館の堀（SD55）から条里地割の方向に合致して東流する溝状遺構である。SD55と切り合いはなく同時併存のものである。幅約70cm，深さ約10cmで，第67図331の石鏃のほか土師器の杯か小皿，器種不明の小片が出土している。

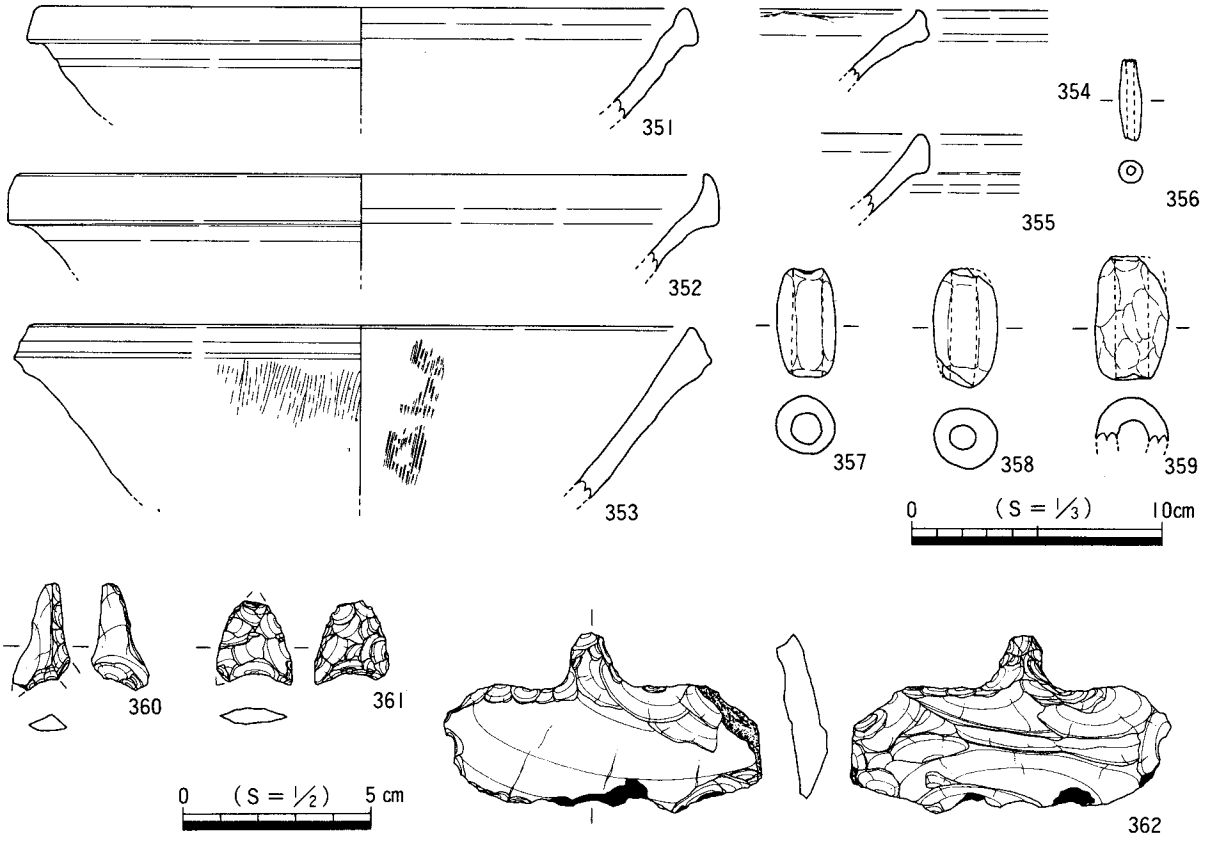
(6)　D区　上面精査・包含層出土遺物

第68，69図332～362は上面精査時および中世遺構面より上層の包含層より出土した遺物実測図である。

332～334は土師器小皿，335～340は土師器杯である。底部は333が磨滅，339が不明のほかは，すべて回転ヘラ切りされている。341，342は青磁椀。外面に鎬蓮弁が見られる。343～346は土師器土鍋の口縁部である。口縁部形態は，鋭く屈曲するもの（343），緩やかに屈曲するもの（344，346），内湾気味のもの（345）がある。347～350は土師器土釜。351，352，354，355は須恵器こね鉢，353は須恵器スリ鉢である。352は森田編年の第IX期第2段階のものと思われる。D区で出土した東播系須恵器のなかでは新しい様相をもつ。また，354は森田編年第VIII期第2段階と思われ，D区では古い様相をもつものである。356～359は土錘。360，361は凹基式の石鏃，362は石匙である。



第68図　D区　上面精査・包含層出土遺物実測図(1)



第69図　D区　上面精査・包含層出土遺物実測図(2)

第３節　Ａ１区の調査

１．調査成果の概要

Ａ１区はＤ区の北側に接する調査区である。この調査区は黒褐色粘質土の下層包含層の上面で中世の遺構を検出し，下面で時期不明の遺構を検出した。中世の遺構は，条里型地割の坪界線に沿う二条の溝状遺構のほか，耕作に伴う多数の鋤溝，下層遺構は，柱穴・土坑・性格不明の落ち込みである。出土遺物は28㌻入りコンテナ６箱である。第71図は下層遺構の配置図，第72図は上層遺構の配置図である。

２．土　　層

Ａ１区の堆積状況を第76図Ａ１区SD01，02断面図をもとに記述する。第76図によると耕作土下に数層の灰色・灰黄色の旧耕土起源と考えられる包含層が堆積し，黒褐色粘質土層が堆積する。この黒褐色粘質土層はＤ区で暗褐色シルト質土層と呼称された層と同一層であり，サヌカイト片や器種不明の土器細片を包含する。層厚はＡ１区全域で20～25cmを測る。その下層は黄灰色シルト質土層で地山と認定している。

３．下層検出の遺構・遺物

①　下層の遺構・遺物

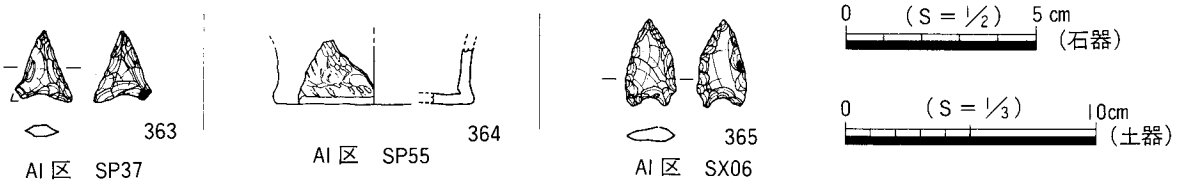
下層では50余りのピット，８ヶ所の性格不明の落ち込みを検出した。ピットには建物を復原できるような規則的な配置は見られない。12個のピットに時期・器種不明の土器細片やサヌカイト剝片などが含まれていた。このうち図化できたのは以下の２点である。第70図363はＡ１区SP37出土の凹基式石鏃である。364はＡ１区SP55出土の縄文土器である。底部の小破片で平面形は円形で平底である。磨滅するが外面にＲの縄文が認められる。

第73図は性格不明の落ち込み（Ａ１区SX03～08）の平・断面図である。

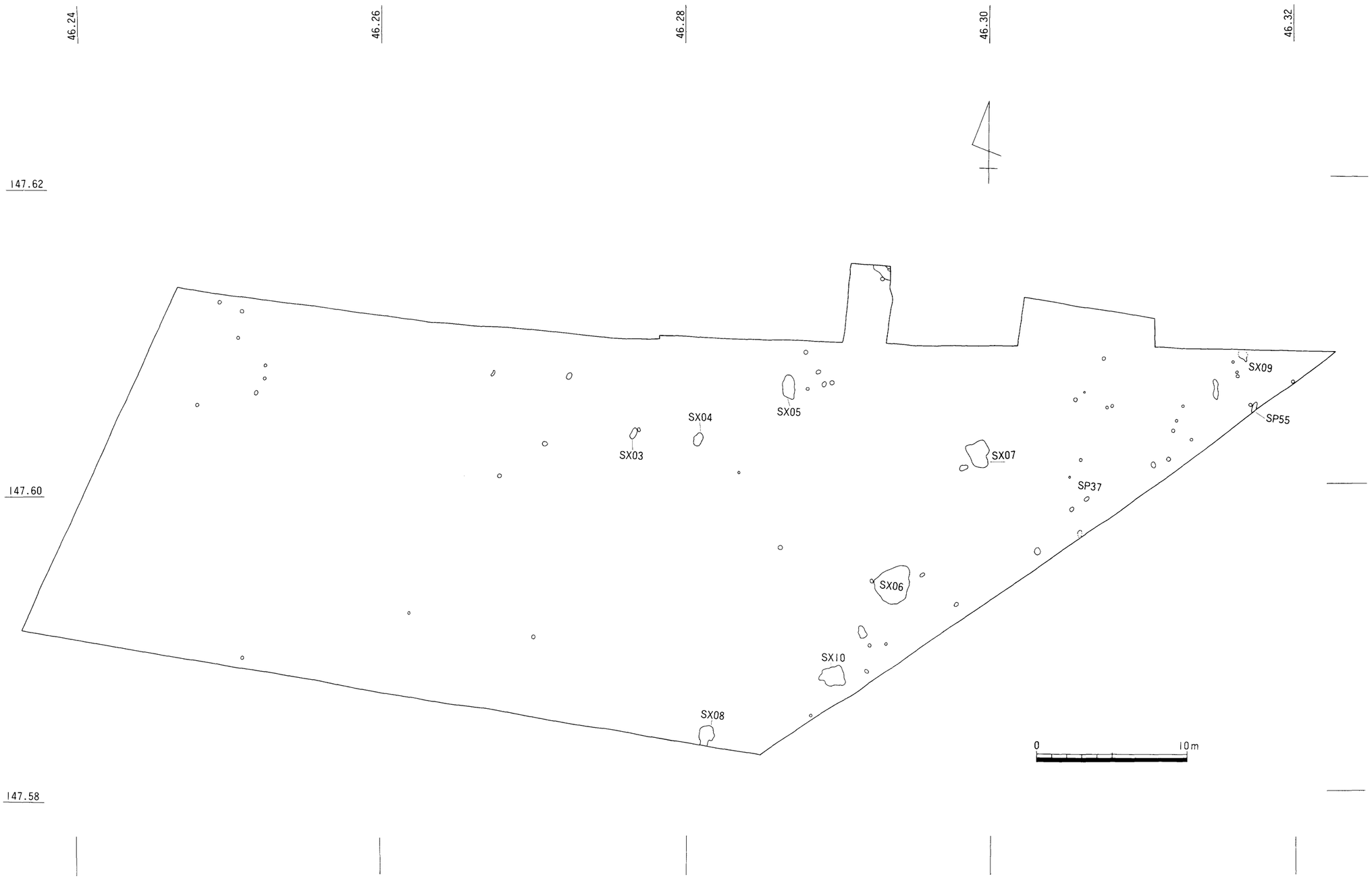
Ａ１区SX03は長径70cm，短径35cmの不整楕円形の平面形で，深さ４cmほどの落ち込みである。遺物は出土しなかった。

Ａ１区SX04は長径85cm，短径55cmの不整楕円形で，深さ12cmほどの落ち込みである。床面は凸凹である。遺物は出土しなかった。

Ａ１区SX05は長径155cm，短径80cmの不整楕円形で，深さ30cmほどの落ち込みである。埋土は５層に細

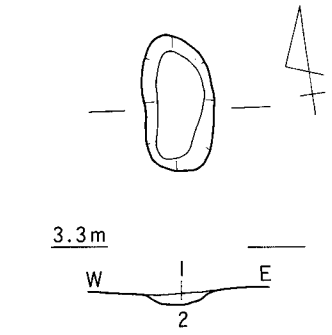


第70図　AI区　SP37，55，SX06出土遺物実測図



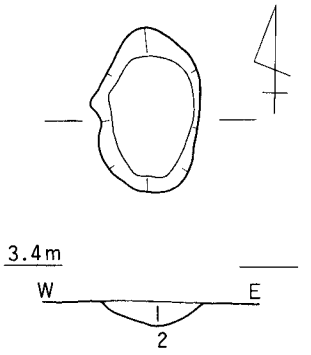
第71図　AI区　下層遺構配置図

第72図　AI区　上層遺構配置図



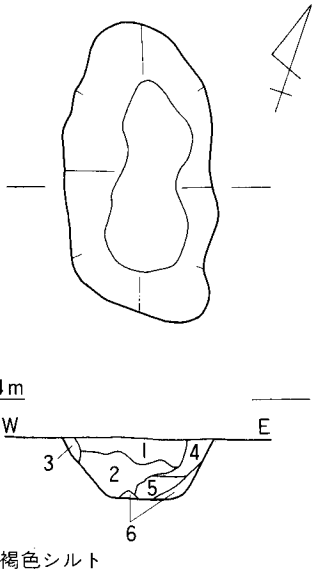
1．灰褐色シルト
（暗灰色粘質土ブロック混じり）
2．暗灰黄色シルト（地山）

AI区　SX03



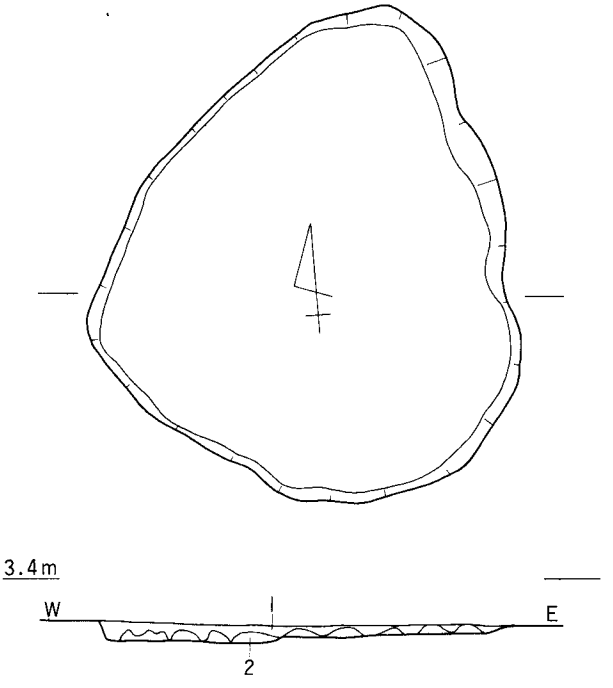
1．暗灰褐色シルト
（暗灰色粘質土ブロック混じり）
2．暗灰黄色シルト（地山）

AI区　SX04



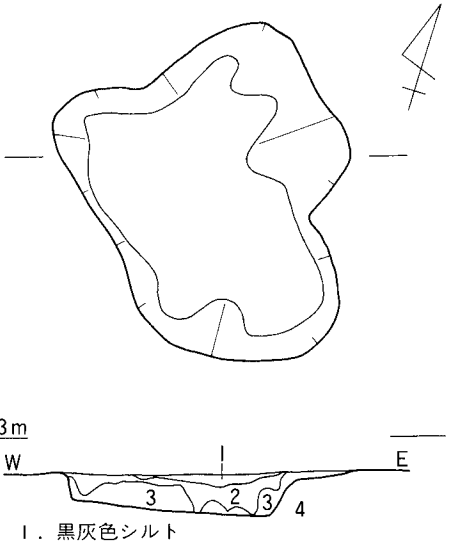
1．暗褐色シルト
2．黒褐色シルト（暗灰色粘質土混じり）
3．茶褐色シルト
4．灰黄色シルト（灰色粘質土混じり）
5．暗灰黄褐色シルト
6．灰黄色シルト（地山）

AI区　SX05



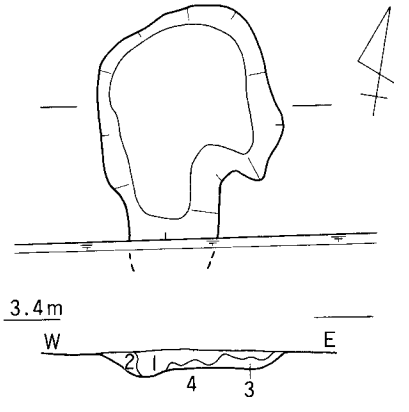
1．暗灰褐色混砂シルト
2．濁灰黄色シルト

AI区　SX06



1．黒灰色シルト
2．暗灰黄色シルト
3．暗灰黄色シルト
（黄灰色シルトブロック混じり）
4．灰黄色シルト（地山）

AI区　SX07

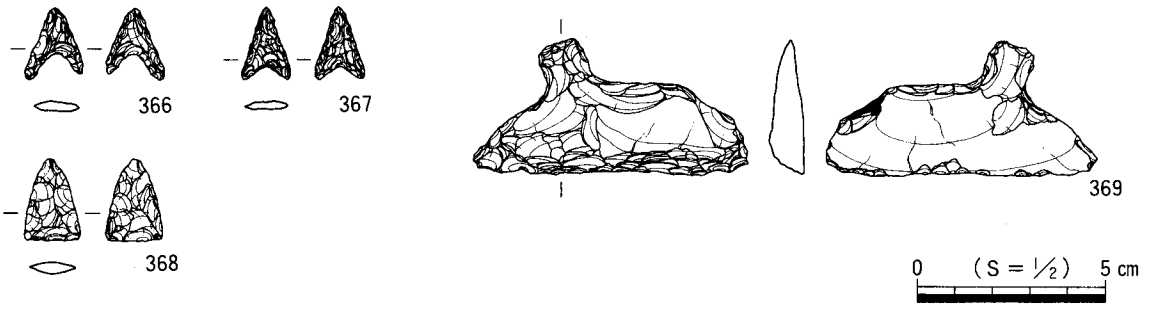


AI区　SX08

1．暗灰褐色粘質土
2．黄灰褐色シルト（灰色粘質土混じり）
3．暗灰褐色シルト（黄褐色シルトブロック混じり）
4．暗灰黄色シルト（地山）

0　（S＝1/40）　1 m

第73図　AI区　SX03～08平・断面図



第74図　AI区　下層上面精査出土遺物実測図

分される。サヌカイト剝片２点が出土した。

Ａ１区SX06は長径260cm，短径220cmの西洋梨形の平面形で，深さ10cm内外の落ち込みである。底は凸凹である。第70図365の凹基式石鏃のほか，器種不明の土器細片１点，サヌカイト剝片10余点が出土している。

Ａ１区SX07は160×130cmの不整形で，深さ20cmほどの落ち込みである。時期・器種不明の土器細片２点，サヌカイトチップ１点が出土している。

Ａ１区SX08は短軸95cm，長軸125cm以上の不整形で，深さ10cmほどの落ち込みである。底は凸凹で，サヌカイトチップ１点が出土したのみである。

このほかＡ１区SX09，10でもサヌカイト片が，Ａ１区SX11ではサヌカイト片と器種不明の土器細片が出土しているが，これらの落ち込みは底面の凹凸が激しく，明瞭な掘り方を持たないことから風倒木などの自然形成の落ち込みの可能性が高い。

② 下層遺構面　上面精査・包含層出土遺物

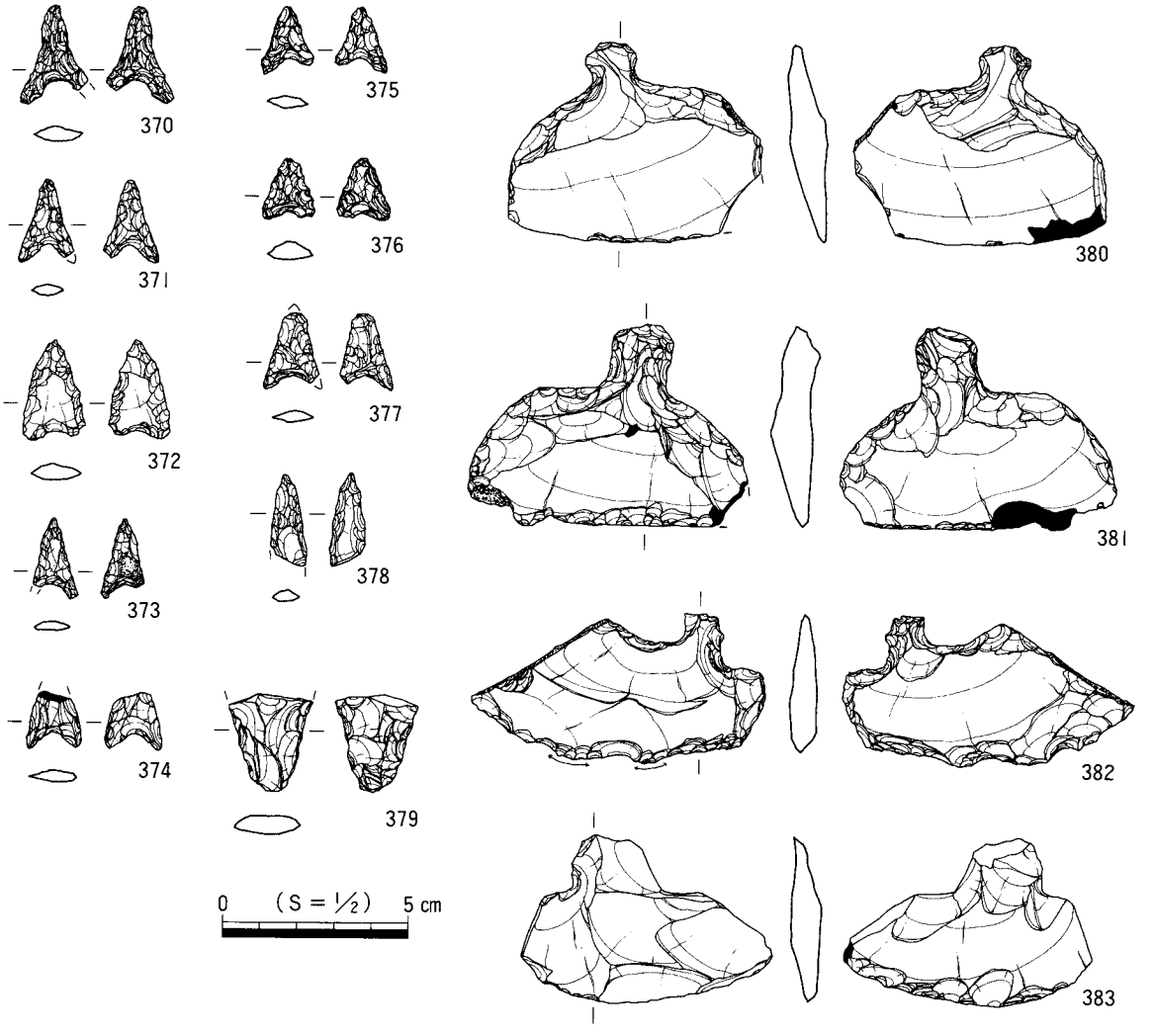
第74図はＡ１区の下層遺構面の上面精査時に出土した遺物実測図である。366は長脚の小型凹基式石鏃，367も小型の凹基式石鏃，368は平基式石鏃である。369は石匙。横形Ａ形態，左右非対称で直線的な刃部，身は三角形状を呈している。

第75図はＡ１区下層包含層（黒褐色粘質土層）から出土した遺物実測図である。370～378はサヌカイト製の石鏃，379は木葉形の尖頭器の基部破片と考えた。380～383は石匙である。いずれも横形Ａ形態で，左右非対称で楕円形の身部形状である。380は鋭利な剝片を利用しており刃部の細部調整がほとんど見られない。382は両面からの押圧剝離で刃部を整形するが，平・断面とも凹凸があり，一部に潰れ痕も見られる。

４．上層検出の遺構・遺物

① 上層の遺構・遺物

上層ではピット１，性格不明遺構１，耕作に伴う鋤溝痕多数のほか，条里型地割の坪界線に相当する位置で，二条の平行する溝状遺構を検出した。走向はN-14°-E（国土座標第Ⅳ系）である。両者は岸と岸の間が約2.3mの間隔で平行に流れており，Ａ１区SD02は調査区北端で途切れてしまっている。検出長

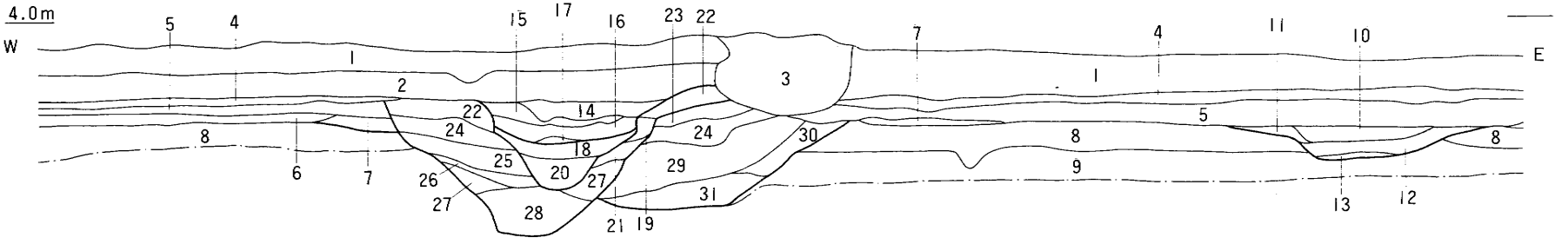


第75図　AI区　下層包含層出土遺物実測図

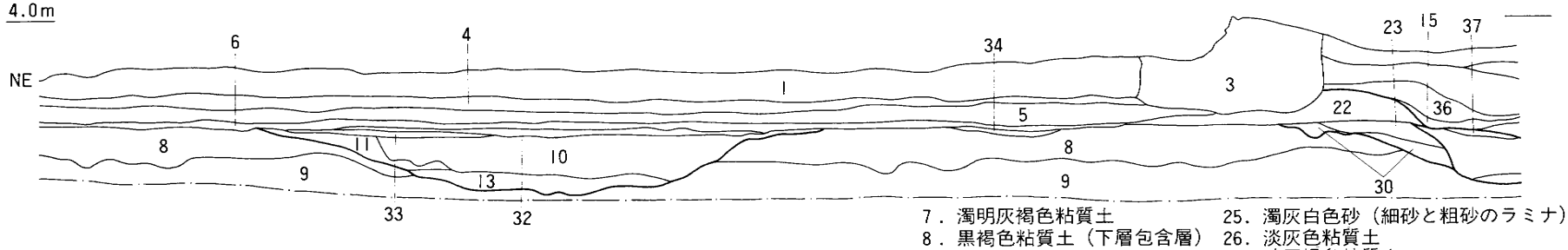
はＡ１区SD01が18m，Ａ１区SD02が13.5mである。なお，Ａ１区SD01も北側のＢ１区では延長部が検出されていない。

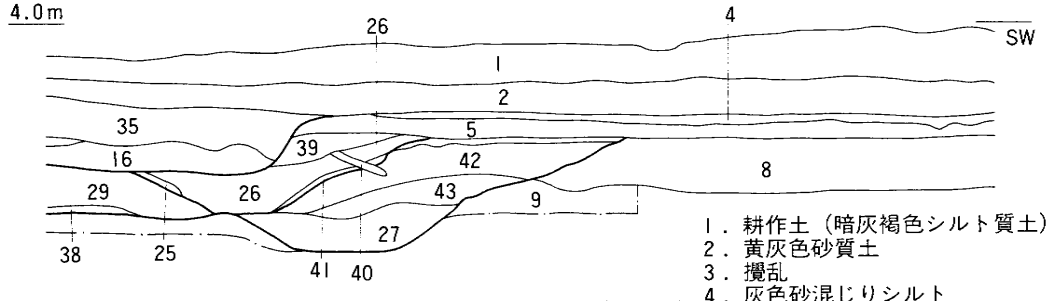
第76図は，調査区北壁と南壁におけるＡ１区SD01，02の断面図である。Ａ１区SD01は４回の掘り直しが認められる。最初に掘られた溝は，調査区北壁断面図の23，24，29，30，31層で８層直上から掘り込まれたものである。２番目に掘られた溝は北壁断面図の19，21，24，25，26，27，28層が埋土である。３番目のものは18，20層が埋土，最後のものは南壁断面で明瞭に識別できるもので，北壁での14～17層が埋土である。最後の溝は北壁での４層上面から掘り込まれており，最初に溝が掘られてから４～６層が堆積する期間を通じて長期的に同一地点に溝が４度も掘られていることがわかる。

一方，Ａ１区SD02は断面観察からは埋没したのち再び掘削されることはなかった。８層直上から掘り込まれ，上面に６層が被ることから，Ａ１区SD01で最初に掘削された溝と同時併存する可能性が最も高い。規模はＡ１区SD01で最初に掘られたものが幅1.5m以上，深さ55cm程度，２番目が幅約2.1m，深さ80cm程度，３番目が幅約1.1m，深さ55cm程度，最後のものが幅約1.7m，深さ35cm程度を測る。Ａ１区SD02は幅約1.6m，深さ35cm程度である。



AI区　SD01，02断面（その1）

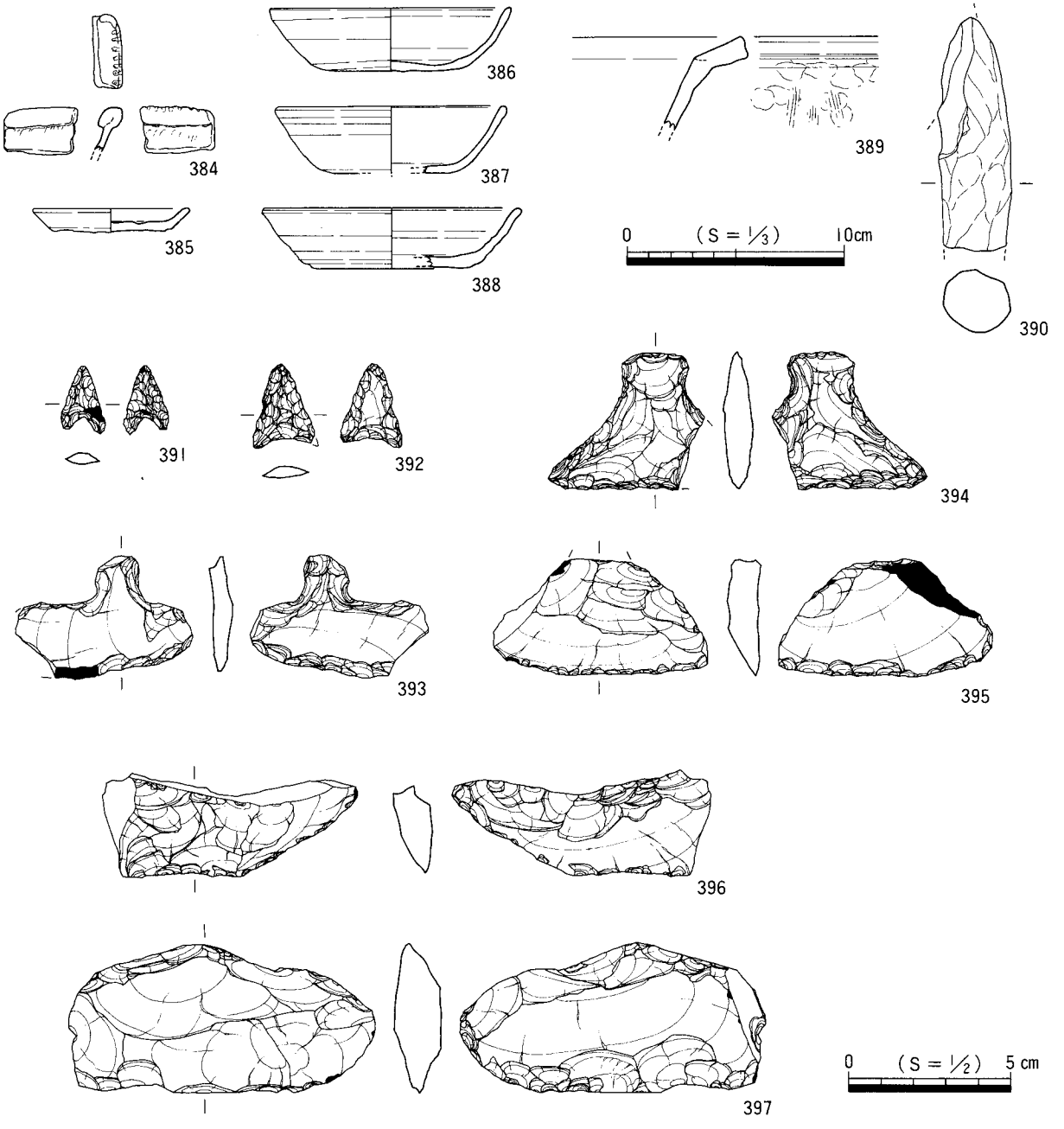




0　（S＝1/40）　1m　AI区　SD01，02断面（その2）

1．耕作土（暗灰褐色シルト質土）
2．黄灰色砂質土
3．攪乱
4．灰色砂混じりシルト
5．黄灰色砂混じりシルト
6．灰黄色細砂混じりシルト
7．濁明灰褐色粘質土
8．黒褐色粘質土（下層包含層）
9．黄灰色シルト質土
10．灰褐色シルト（SD02）
11．灰褐色シルト
（10層より硬質，SD02）
12．灰褐色粘質土（SD02）
13．灰色粘質土
14．淡灰黄色粗砂
15．灰色砂質土（細砂主体）
16．灰黄色粗砂
17．灰黄色細砂
18．灰色粘質土
19．灰褐色砂混じり粘質土
20．灰黄色砂質土
（灰色粘質土のブロック含）
21．灰褐色粗砂
22．淡灰色砂混じり粘質土
23．灰黄色砂質土
24．灰褐色砂混じりシルト
25．濁灰白色砂（細砂と粗砂のラミナ）
26．淡灰色粘質土
27．暗灰褐色粘質土
28．暗灰色粘質土
29．灰褐色粘質土
30．濁灰褐色粘質土
31．淡灰色粘質土
32．黄灰色シルト
33．淡灰色シルト
34．淡灰色シルト（やや粘質）
35．灰黄色シルト混じり砂質土
36．濁灰黄色シルト混じり粗砂
37．灰色細砂混じり粘質土
38．灰色粘質土
39．灰黄色シルト（やや粘質）
40．灰色粘質土（軟質）
41．茶灰色粘質土
42．濁灰褐色砂混じり粘質土
43．濁灰褐色砂混じり粘質土
（42層より色調暗い）

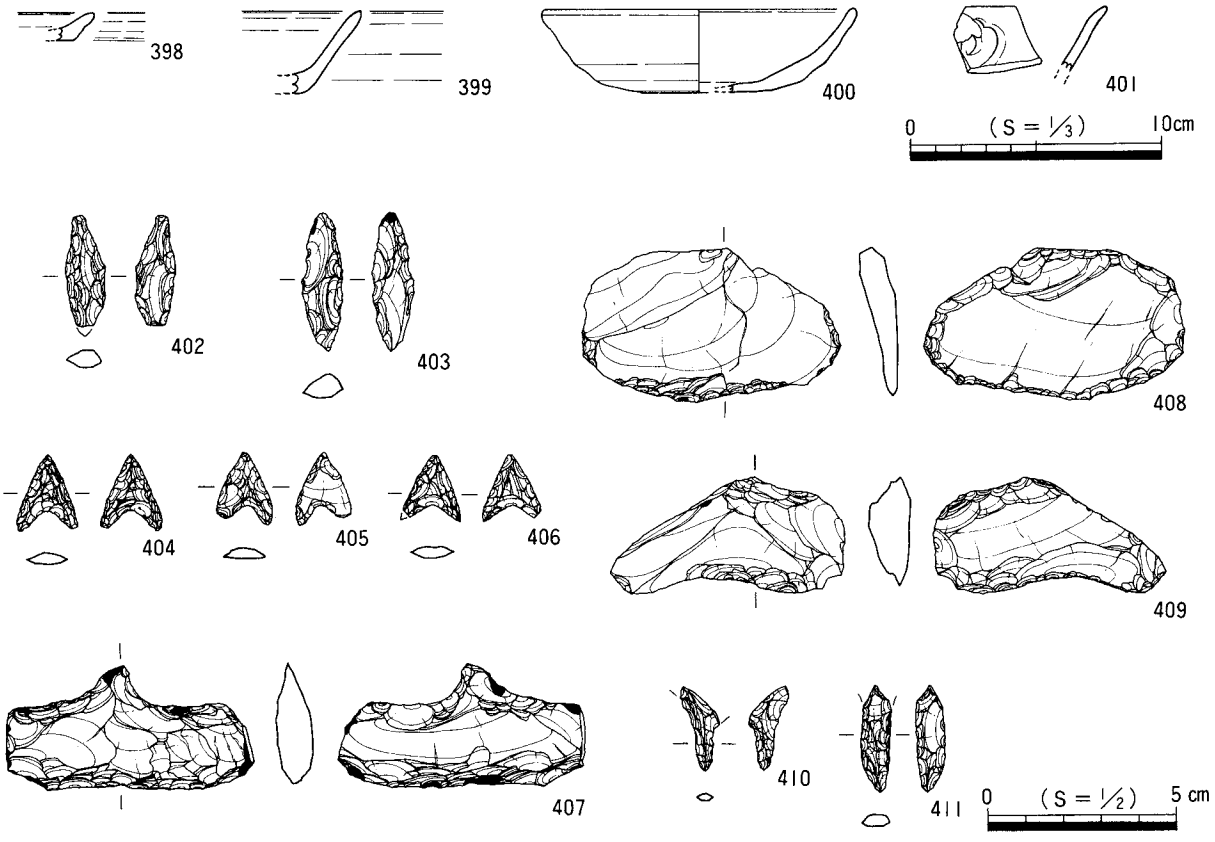
第76図　AI区　SD01，02断面図



第77図　AI区　SD01出土遺物実測図

A１区SD01からは28㌔入りコンテナ1/2箱分の遺物が出土した。第77図はA１区SD01出土の遺物実測図である。385～390が溝の埋没年代を検討するに足る遺物であるが，385が２番目の溝底，386，387，390が１番目の溝底，389が１番目の溝埋土中から出土した土器である。

384は縄文土器口縁部の小破片である。口縁部を内側に折り返して肥厚させたもので，磨滅しているが，端部上面に刻み目が施されている。前期末のものか。385は土師器小皿，386～388は土師器杯である。いずれも底部は回転ヘラ切りである。389は土師器土鍋，390は土師器土釜脚部の破片である。391，392は凹基式石鏃，393～395は石匙である。394はC形態，丁寧な加工によって二等辺三角形の平面形をつくりだしている。395も二等辺三角形の身部を呈するがやや粗い加工，A形態に属するものである。396はス



第78図　AI区　SD02出土遺物実測図

クレイパーとした。全体としてねじれたような剝片を用いているが，平面的に屈曲する刃部の側面は直線状につくられている。397もスクレイパーとした。一辺に押圧剝離によって刃部をつくるが，肉厚な断面によるためか階段状の剝離面を呈するものが多く，鋭利な刃部とはなっていない。石器，縄文土器片は下層からの混入であろう。385～390の中世土器は13～14世紀代のものと考えられるが，４期の溝の年代を特定することは困難である。

Ａ１区SD02からは28㌔入りコンテナ1/2箱分の遺物が出土した。第78図はＡ１区SD02出土の遺物実測図である。398は土師器小皿の小破片，399，400は土師器杯である。401は青磁椀の小破片，内面に蓮華文が見られる。横田・森田分類の龍泉窯系青磁椀のＩ類２のものである。

402～406は石鏃，402，403は尖基式のもの。403の下半部一側辺は自然面がのこり，刃部を整形するのは上半部のみである。404～406は凹基式の石鏃。405はほとんど片面からの押圧剝離によって整形している。407，408は石匙。407は横形Ａ形態，両面から刃部を整形する。左右対称形で身部は四角形を呈する。408は側辺から背面の一部を整形していることから茎部を折損した石匙と考えた。Ａ形態，外湾する刃部をもち楕円形の身部を呈する。409の刃部の剝離は密のところと粗のところがあり，平・断面とも湾曲し整っていない。また，背面にも整形を加えており，その形状から石匙の未製品と思われる。410は石錐の破片としたが，長脚の凹基式石鏃の可能性ものこる。411は上部の折損の状態および形状から石錐の錐部と考えられる。402～411の石器および石器未製品は下層からの混入であろう。

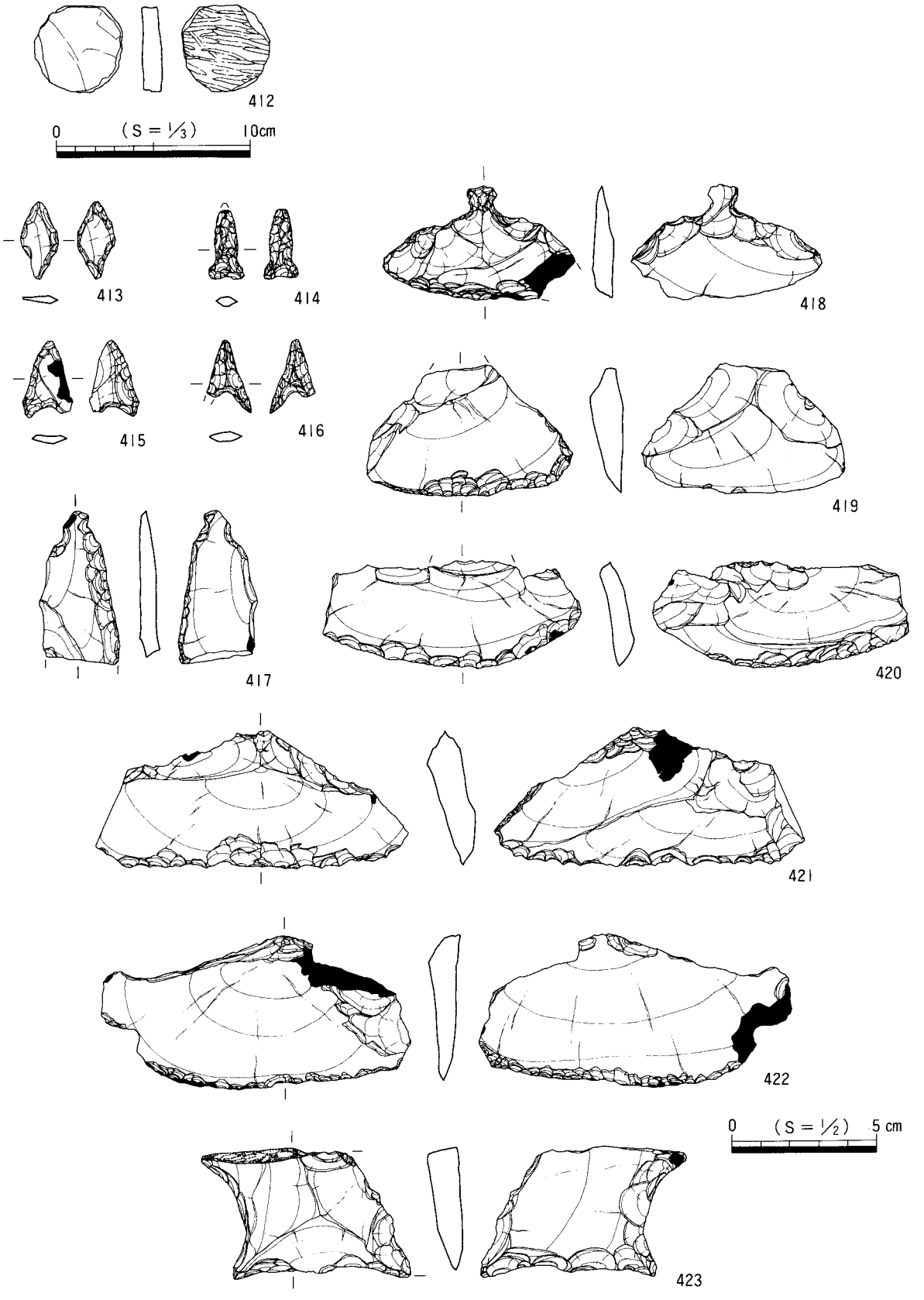
Ａ１区SD02は，398～401の中世土器が埋没年代を示し，401が横田・森田分類の龍泉窯系青磁椀のＩ類

2と考えられることから，12世紀後半を中心とし14世紀前半代にかけての時期幅が考えられる。

このほか，Ａ１区上層では条里型地割の方向に一致する幅５～20cm，深さ１～５cm程度の鋤溝とか素掘り溝と呼称される溝群が検出されている。このうちの15地点で遺物が出土している。多くは器種不明の土器小片やサヌカイトチップであり図化不能であるが，土師器の杯か小皿の小片，青磁の小片が含まれていることから中世に属するものと考えられる。

② 上層遺構面　機械掘削・上面精査出土遺物

第79図はＡ１区の機械掘削時，上層の上面精査時に出土した遺物実測図である。412は円盤状土製品である。須恵器製品を転用したもので，一面には叩き目が見られる。413～416は石鏃。413は尖基式の石鏃。側辺に微小な窪みがあり，これを茎部と考えている。414は凹基式石鏃に分類されるが，先端は尖基式のような平面形で基部は外側に延びる短脚をもっており異形のものである。417～420は石匙。417は茎の主軸に対して刃線がほぼ平行する縦形の石匙である。418は左右対称形で身部が凸レンズ状を呈する横形の石匙である。419の平面形は二等辺三角形を呈するがＡ形態のものである。420は茎が折損したものとして石匙としたが，両面からの等質の押圧剥離によって刃部をつくっておりスクレイパーとすべきかもしれない。421～423はスクレイパーとした。421は剥片の一端を密度の粗い剥離によっているため，刃部の平・断面は凹凸が目立つ。422は剥片を利用し僅かな押圧剥離によって刃部を整形する。423は一辺に刃部をつくり，側辺は内湾状の平面形をつくっている。

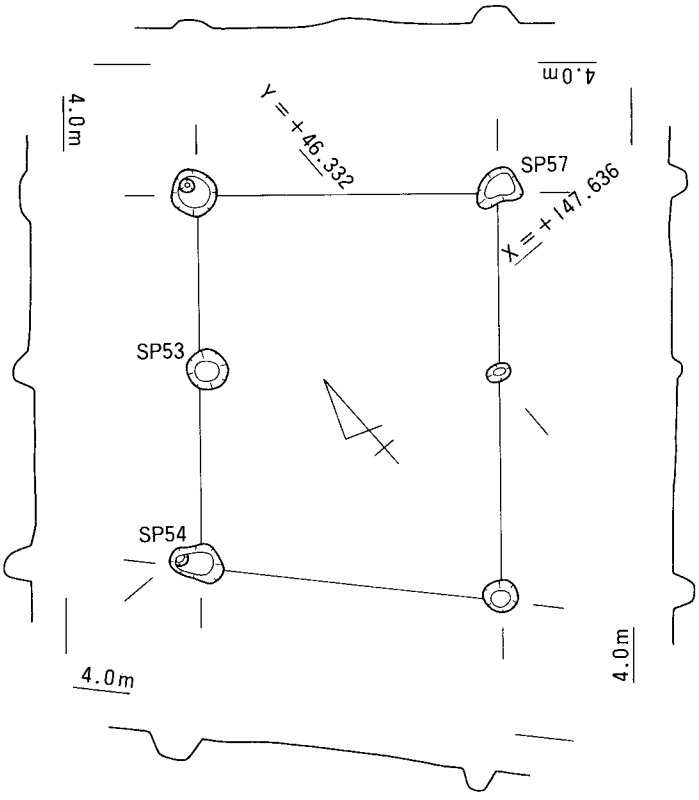


第79図　AI区　機械掘削，上層上面精査出土遺物実測図

第４節　Ｂ１区の調査

１．調査成果の概要

Ｂ１区はD区・Ａ１区の北側の調査区である。この調査区の東半分には下層包含層（暗褐色シルト質土層）が堆積しており，２面の遺構面が存在する。西半分は遺構面は１面であった。Ｂ１区からは縄文時代前期末の土器・石器を包含する旧河道および性格不明遺構，時期不明の掘立柱建物１棟，中世の溝状遺構数条・ピット・土坑などを検出した。遺物は28㌔入りコンテナ11箱である。



0　（S＝1/80）　2 m

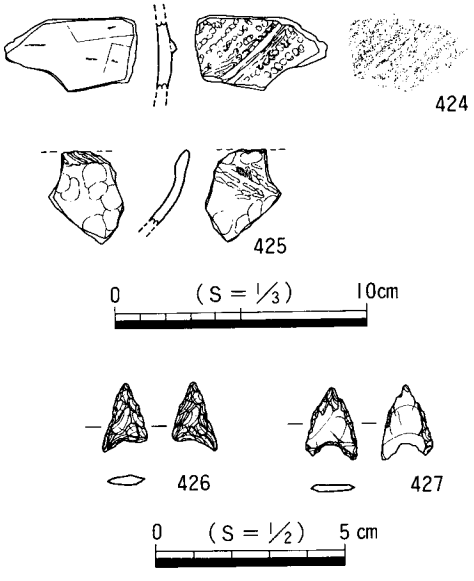
第80図　BI区　SB01平・断面図

２．遺構・遺物

第82図はＢ１区の遺構配置図である。Ｂ１区ＳＲ01以東に５～20cmの厚さで下層包含層（暗褐色シルト質土層）が堆積し，その上面で検出された上層遺構はＢ１区SP01，SD01～04，SX02およびその北側の鋤溝である。また，下層包含層除去後の下層で検出された遺構はＢ１区SK01，02，SP63～67である。それ以外の遺構は同一遺構面で検出された。以下に掘立柱建物・ピット・土坑・性格不明遺構・溝状遺構・旧河道の順で内容を報告する。

(1)　掘立柱建物・柱穴

Ｂ１区南部でピットが40基ほど集中する区域がある。このうちの６つのピットの平面配置より１棟の掘立柱建物が復原できた。Ｂ１区SB01は桁行方向がN-40°-E（国土座標）で１間×２間（310～315cm×390～425cm）の掘立柱建物である。Ｂ１区SP53，54，57から遺物が出土している。これらはＢ１区SP53，54に，磨滅のため不明瞭であるが縄



第81図　BI区　SP41出土遺物実測図

文が施されていると推定される細片が各１点含まれるほかは，時期不明の土器細片とサヌカイトチップである。このほかＢ１区SB01周辺のピットのうち，遺物が出土したものも同様の状況で，Ｂ１区SP41で縄文土器片２点，石鏃２点，SP51で凹基式石鏃の残欠が出土しているのみである。第81図はＢ１区SP41から出土した遺物実測図である。424は曲線状の特殊突帯(細い貼り付け突帯の上を半截竹管状工具で押し引きするもの）が付される破片である。突帯は強く押し引きされている。地文は縄文（L），内面はヘラ削りが施される。前期末のもの。425も縄文土器口縁部の破片。口縁部に内傾する平坦面をつくり縄文を施している。これは里木Ｉ式に特徴的な形状である。外面にＲの縄文が見られる。426，427は凹基式の石鏃。427は薄い剝片を利用し，片面からの押圧剝離のみで器形・刃部を整形している。

以上のようにＢ１区SB01と周辺のピットから出土した遺物のうち，時期の判明するものは縄文時代前期末のものであるが，中世の溝にも同様の縄文土器の磨滅した細片の混入が認められることから，混入の可能性が高いと考えられる。概報段階では，Ａ２区（次年度報告調査区）で検出された竪穴住居などの弥生時代後期の遺構との位置関係や埋土の状況から弥生時代のものと推定しているが，明確な根拠はなく年代不明である。

(2) 土坑・性格不明遺構

Ｂ１区では２基の土坑，６ヶ所の性格不明の落ち込みを検出した。(SXは01～08まであるが，03，06は調査時に自然の落ち込みと判断されている)

Ｂ１区SK01は下層遺構面で検出されたもので，長径80cm以上，短径87cm，深さ36cmの土坑である。埋土は暗褐色粘質土で，サヌカイトチップが出土している。

Ｂ１区SK02も下層遺構面で検出されたもので，長径140cm，短径109cm，深さ44cmの平面は楕円形，断面はＵ字状を呈する土坑である。埋土は暗褐色粘質土で，弥生土器と思われる土器細片が80点近くとサヌカイト剝片・チップが60点近く出土している。

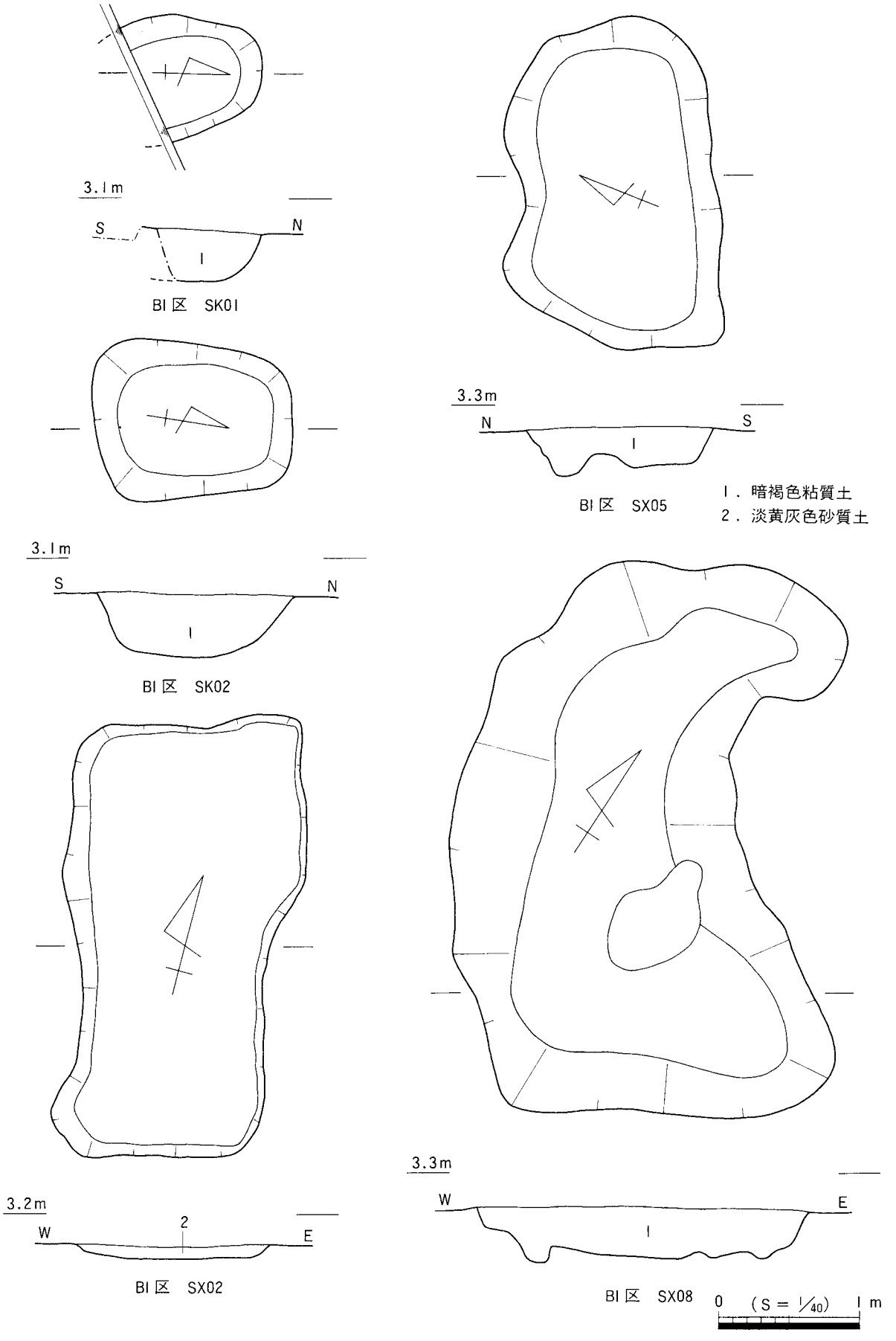
Ｂ１区SX02は上層遺構面で検出されたもので，長辺300cm，短辺130～170cm，深さ８cmの浅い落ち込みである。埋土は淡黄灰色砂質土で，器種不明の土器細片(ビニール10×７cm１袋)，サヌカイト剝片・チップ（ビニール10×７cm１袋）が出土している。器種不明の土器細片の中には中世土師器の小皿か杯と考えられる細片を含んでいる。

Ｂ１区SX04は，調査区西部の現代用水路に沿って検出された落ち込みである。検出範囲が狭小なため遺構の性格は不明である。埋土は不明であるが，中世土師器の杯と思われる細片と石匙，サヌカイトチップが出土している。第84図428はSX04出土の石匙である。横形Ａ形態，一部折損するが左右対称形，身部は凸レンズ状を呈するものである。

Ｂ１区SX05は，長辺230cm，短辺130cmほどの歪んだ長方形の落ち込みである。深さは30cmほどで底面は凹凸がある。埋土は暗褐色粘質土，出土遺物は縄文土器細片２点のほか器種不明の土器細片（ビニール10×７cm１袋)，サヌカイト剝片・チップ(ビニール10×７cm1.5袋)が出土している。第84図429はSX05出土の二次加工を有するものである。器種不明である。

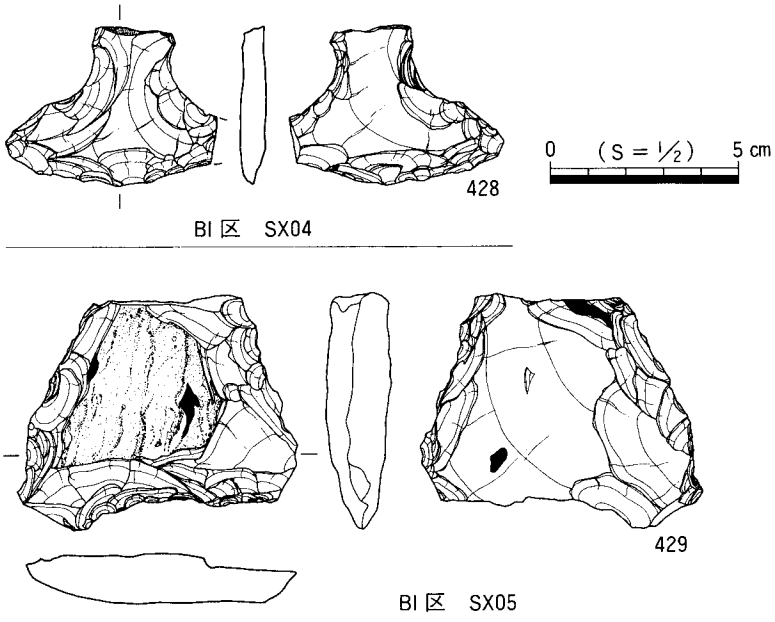
Ｂ１区SX08は，長軸４ｍ，短軸２ｍほどの不整形の落ち込みである。深さは35cmほどで，埋土は暗褐色粘質土である。第85図はSX08出土の遺物実測図である。430は縄文土器口縁部の破片である。内傾する平坦面をつくりＬの縄文を付す。また，端部外面には刻み目を付し，後述の円形の特殊突帯の上側に突出部を付している。外面は円形とそこから斜め方向に延びる２条の特殊突帯とその下の１条の特殊突帯

第82図　BI区　遺構配置図

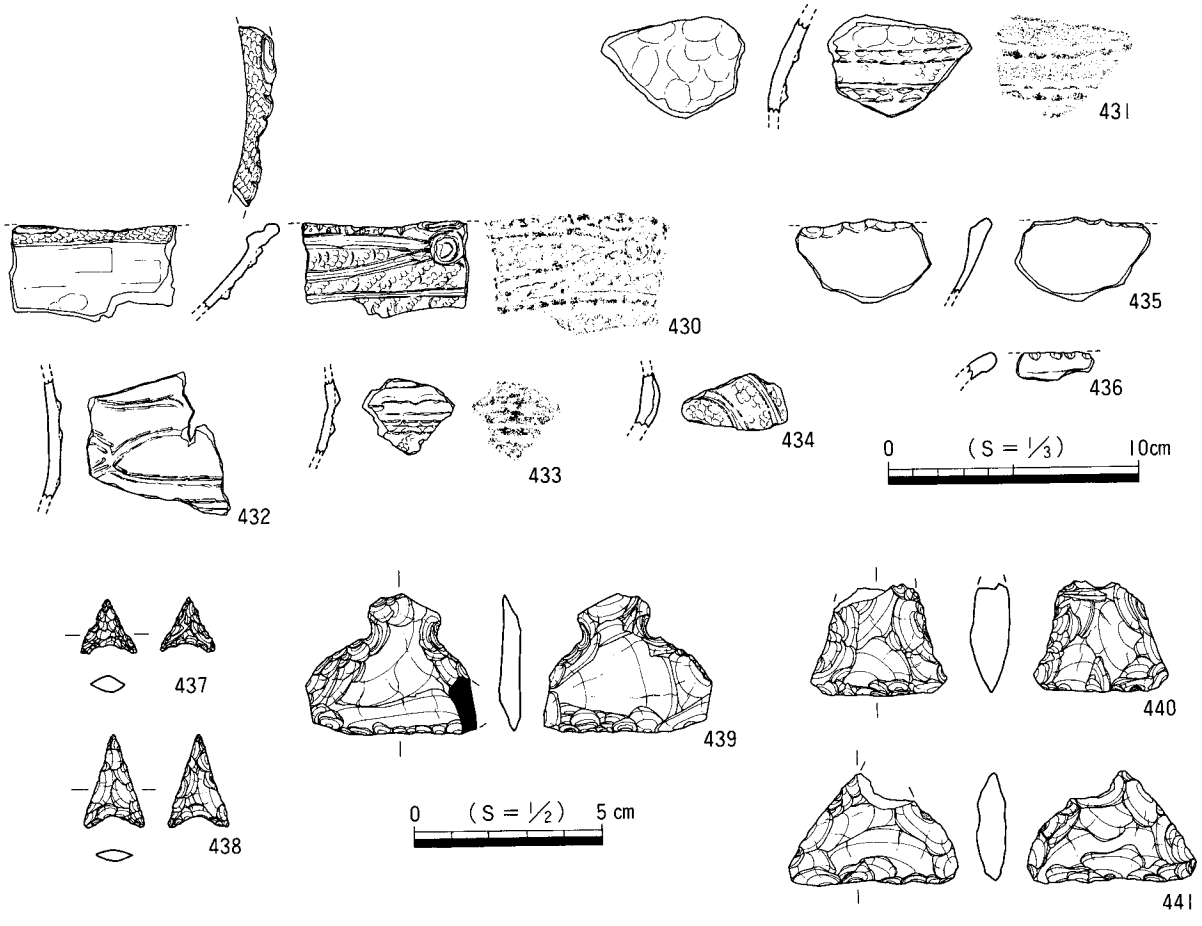


第83図　BI区　SK，SX平・断面図

を付す。地文はLの縄文で，突帯間に縦方向の爪形文が見られる。431は2条の平行する特殊突帯文のある小片である。この特殊突帯は半截竹管状工具で強く押し引きされているため，鎖状の突帯となっている。432は「鎖」状とその上下に横方向の強く押し引きされた特殊突帯が付されている。433は小片のため図の天地・傾きは根拠がない。地文は縄文で，上側は剝落するが2条の平行する特殊突帯が付されている。434も地文は縄文で，曲線状に平行する2条の特殊突帯が付されている。435は口縁部の小片。内傾する平坦面をつくり，



第84図 BI区 SX04，05出土遺物実測図



第85図 BI区 SX08出土遺物実測図

磨滅のため詳細不明であるが刻み目状の凹凸が見られる。436も口縁部の小片，刻み目が付されている。437，438は凹基式石鏃，437はほぼ正三角形の平面形である。439～441は石匙。439は横形A形態，左右対称で身部は楕円形を呈する。440は刃部の整形がやや粗雑という疑問はあるが，形態から石匙と考えた。茎部を折損するが内湾する側辺形状からC形態の銀杏葉形を呈するものと思われる。441も茎部を折損する横形のもの，C形態で二等辺三角形を呈する。

このほかB１区SX08からは縄文土器と思われる土器細片（ビニール10×21cm１袋），サヌカイト剥片・チップ（ビニール10×21cm１袋）が出土している。出土遺物のうち時期のわかるものは縄文時代前期末のものに限られ，明らかに異なる年代の遺物が含まれないことから，B１区SX08は当該期のものと判断される。なお，平面形状からみて遺構とするよりも自然形成の落ち込みと考えたい。

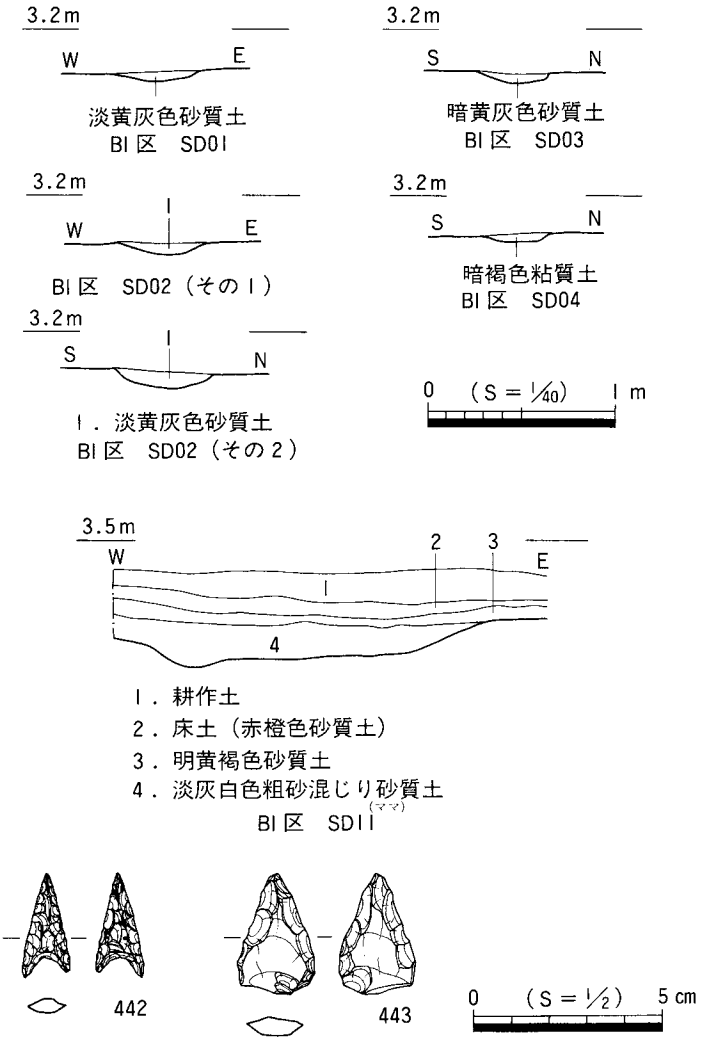
(3) 溝状遺構

B１区では４条の溝状遺構を上層遺構面で検出している。

B１区SD01，02は現代用水路に平行し，条里型地割の阡陌方向に合致する小溝である。両者は30～50cmほどの間隔で流れて途中で交わる。切り合い関係がありB１区SD01が新しい。

B１区SD01は，幅40cm，深さ５cmほどの規模で，淡黄灰色砂質土で埋まる。出土遺物は図化不能の小片のみで，中世土師器の杯，小皿の小片，土師器椀の底部片，備前焼と思われる陶器片などが出土している。

B１区SD02は調査区南部で直角方向の流れが分岐している。規模は幅40cm，深さ４cmほどで淡黄灰色砂質土で埋まる。出土遺物は図化不能の小片のみで，近・現代と思われる土器片１点，中世土師器の杯か小皿の小片２点以外は器種不明の土器細片とサヌカイト片が出土している。近・現代の土器片を混入と理解すべきなのか，出土している遺物の破片のみでB１区SD01，02の埋没時期を把握することはできない。また，西側に併走する現代用水路や，耕作土以下の堆積層との層位的関係も不明なため，B１区SD01，02の時期は不明である。



第86図 BI区 SD断面図，SD03出土遺物実測図

Ｂ１区SD03は，西から北へ10°振った方向で８ｍほど長さをもち，90°北東方向に屈曲し10mほどで現代用水路に切られる溝状遺構である。現代用水路とSD02の間では検出されていないことから，現代用水路部分でもともと途切れていると考えられる。規模は幅35cm，深さ５cmほどで埋土は暗黄灰色砂質土である。中世土器片，土錘と思われる小片，器種不明土器片，サヌカイト片などが出土している。第86図442，443はＢ１区SD03出土の遺物実測図である。442は凹基式石鏃。片面に微量の黒色物質が斑点状に付着している。443は剝片段階での打点の位置から尖頭器のような形状にはならず，平基式の石鏃と思われる。なお，第95図586の白磁椀はSD03の断面確認のためのトレンチから出土したもので，SD03から出土した可能性がある。Ｂ１区SD03は中世段階で埋没した可能性が考えられるが，性格は不明である。

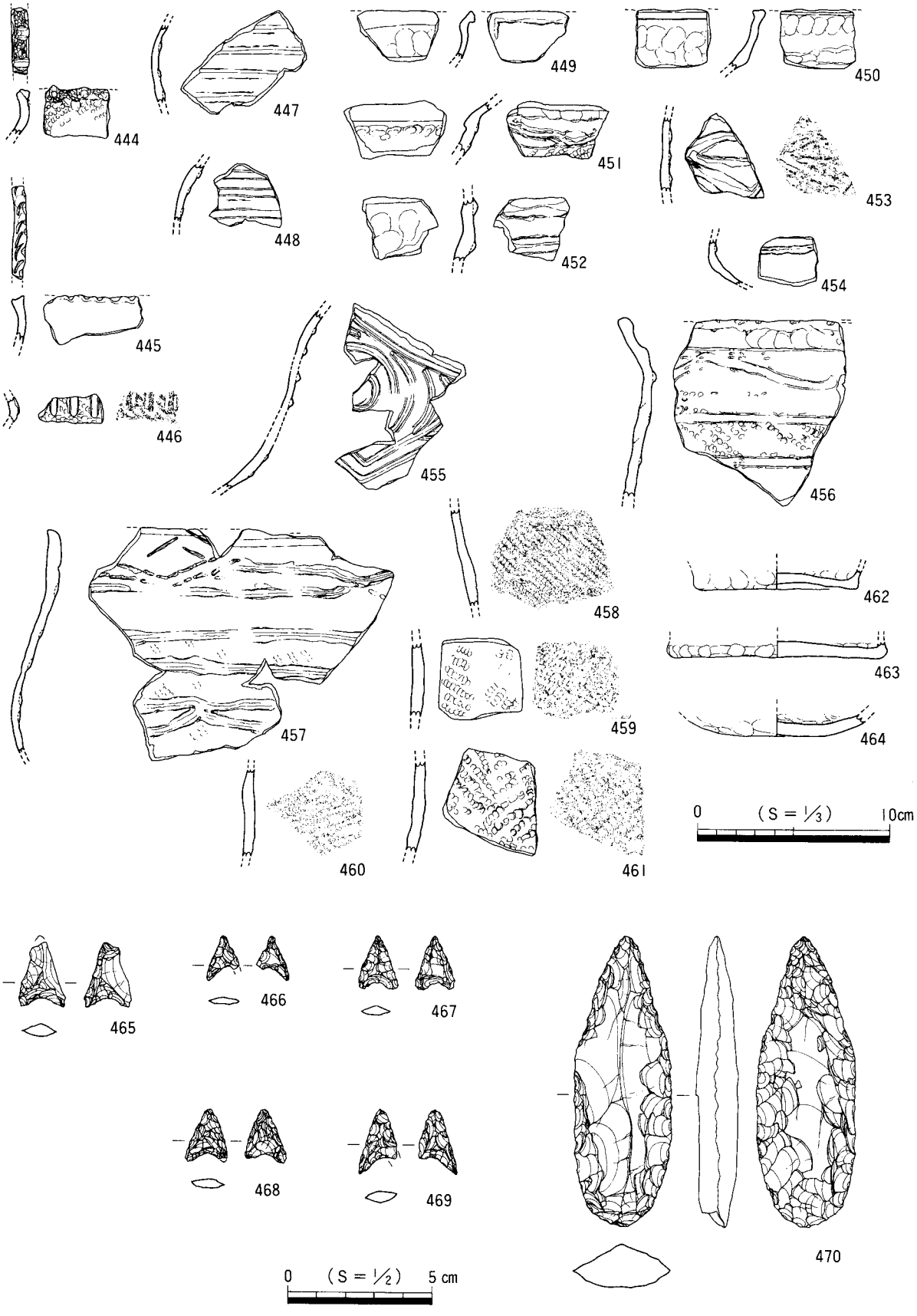
Ｂ１区SD04は，調査区南端付近で延長４ｍほど検出された幅40cm，深さ４cmほどの溝状遺構である。埋土は不明，サヌカイトチップ２点が出土している。

Ｂ１区SD11は，調査区西部の条里型地割の坪界線に合致する現代用水路に沿って検出された溝状遺構である。西岸は調査区外で，幅180cm以上，深さ20cmほどで淡灰白色粗砂混じり砂質土（ママ）で埋積される。器種不明須恵器小片，土器細片，石鏃片，サヌカイト小片が出土している。時期決定できる遺物はない。Ｂ１区SD11は，位置関係からＡ１区SD01の延長上に位置しているが両者の埋土に類似点は少ない。なお，Ｂ１区SD11の延長が次年度整理調査を行う予定のＢ２区でも検出されている。

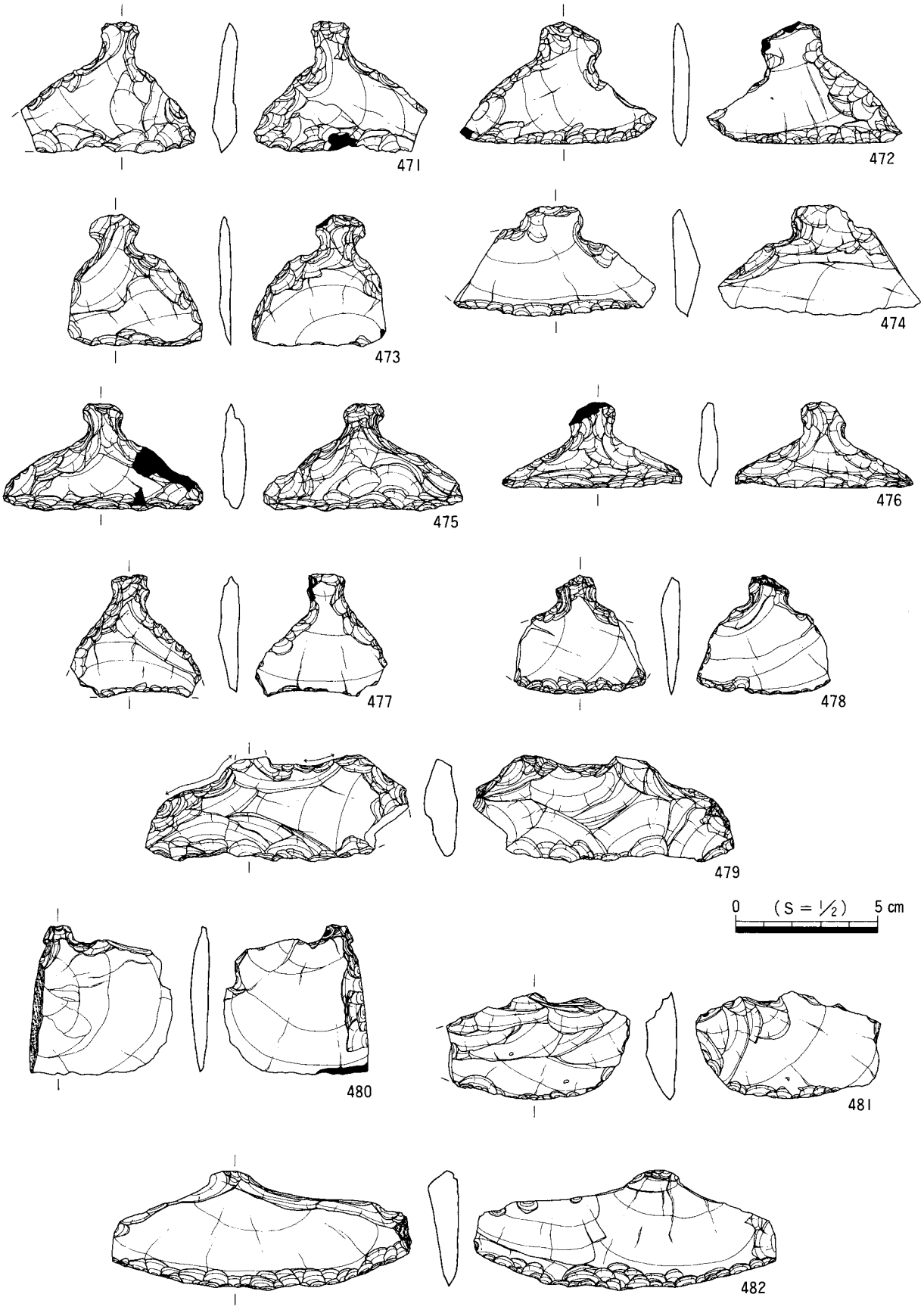
(4) 旧 河 道

Ｂ１区ＳＲ01は南北方向から北東方向へ緩やかに湾曲しながらＢ１区を縦断する落ち込みである。幅９～12m，深さ30cmほどの規模で，非常に緩やかな皿状の断面形の，河道というよりも溜まり状の落ち込みである。28㍑入りコンテナ１箱弱の土器，石器が出土している。中世土器を多く含む１袋を取り上げ時の誤りとすれば，それ以外は縄文時代前期末の遺物が大多数を占める。遺憾なことに数カットの写真が残るのみで，断面図等の記録がないため，埋土の状況や下層包含層との層位関係などは不明である。

第87，88図はＢ１区ＳＲ01から出土した遺物実測図である。444は口縁部の小片。外側に外傾する平坦面をつくり，縄文を施し，さらに縦方向の特殊突帯を付す。外面にＬの縄文が見られる。445も口縁部の小片。外側に拡張してつくりだした平坦面に爪もしくは半截竹管状工具で刻み目を施す。また外面にも同様の刻みを施す。446も口縁部小片。縄文の地文の上に縦方向の特殊突帯を付す。なお，胎土などから446～448と455は同一個体と考えられる。447，448は平行する特殊突帯が付されたもの。磨滅する。449は磨滅した小片，暗示的な湾曲から内外面を決めた。口縁端部を外側に折り曲げ，一見すると突帯を付すように見える。縦方向にも突帯を付す。450も磨滅した小片。外面は口縁下に指おさえによる窪みが連続し，その下に幅広の突帯が付される。口縁端部は肥厚させ上面を平らにしている。451は外面にやや歪な形状の特殊突帯が付される。内面は棒状の工具で整形され段を為している。452は２条のやや幅広の平行する特殊突帯を付した破片。内面には強い指おさえ痕が見られる。453，454は磨滅した小片。図の天地，傾きは不明である。453は曲線と直線で構成される突帯が付される。454は外面に縄文がかすかに認められる。455は特殊突帯により曲線と直線を組み合わせた幾何学的な文様を付したものである。456，457は同一個体である。口縁部は強い指おさえで整形し，以下とは段を形成する。地文は縄文（Ｒ）で，２条の平行する特殊突帯を挟んで，上下に「鎖」状の特殊突帯を付す。456には口縁端部上面に刻み目が認められる。458～461は縄文の見られる破片である。459，461は羽状縄文である。462～464は底部破片。462，463は円形の平面形で，やや上げ底状の平底である。463は，底部縁辺に指もしくは工具の押さえに



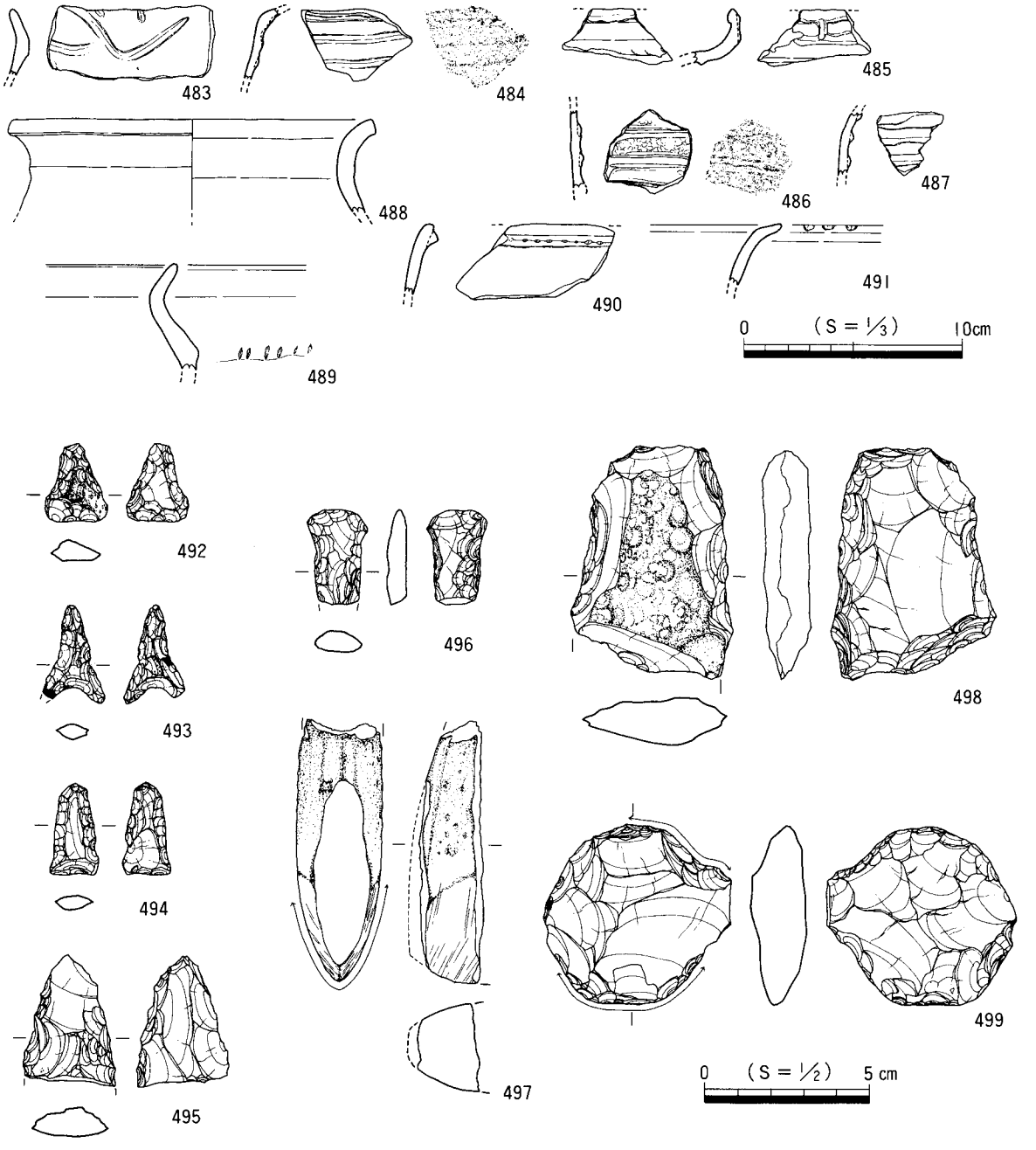
第87図　BI区　SR01出土遺物実測図(1)



第88図　BI区　SR01出土遺物実測図(2)

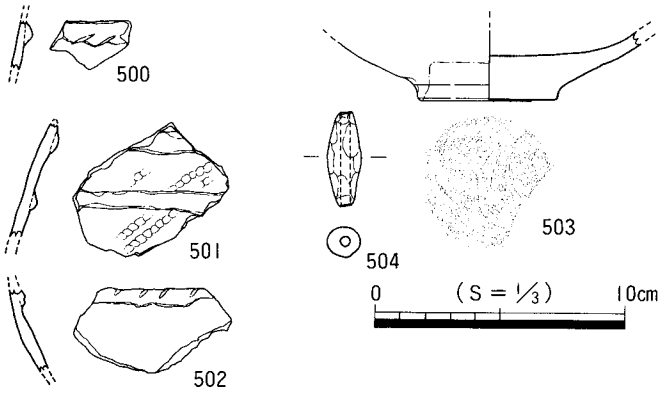
よる窪みが等間隔に付される。里木Ⅰ式に特徴的な手法である。464はやや丸味のある平底の底部。外面に指おさえ痕，内面には指おさえによってついた爪の跡が認められる。

465～469は凹基式石鏃である。470は尖頭器である。基部は弧状に整形する。片面は剝片段階の稜を巧みに利用している。471～479は石匙である。471～474は横形A形態，左右非対称で身部は三角形を呈する。471，472は両面から，473，474は片面から刃部を整形する。475，476は横形A形態，左右対称形で身部は二等辺三角形を呈するもの。477は横形C形態，二等辺三角形の平面形状を呈する。刃部は内湾する。478は両側辺を折損する。479は背面の折損部を茎と考えて石匙とした。背面に刃潰しが見られるの



第89図　BI区　下層包含層，下層上面精査出土遺物実測図

は本遺跡の石匙には類例がない。480は茎部を作り出していることから石匙としたが，刃部の細部調整が行われていないことから未製品と思われる。481，482はスクレイパーである。



第90図　BI区　機械掘削，上層上面精査出土遺物実測図(1)

(5)　下層包含層・下層上面精査出土遺物

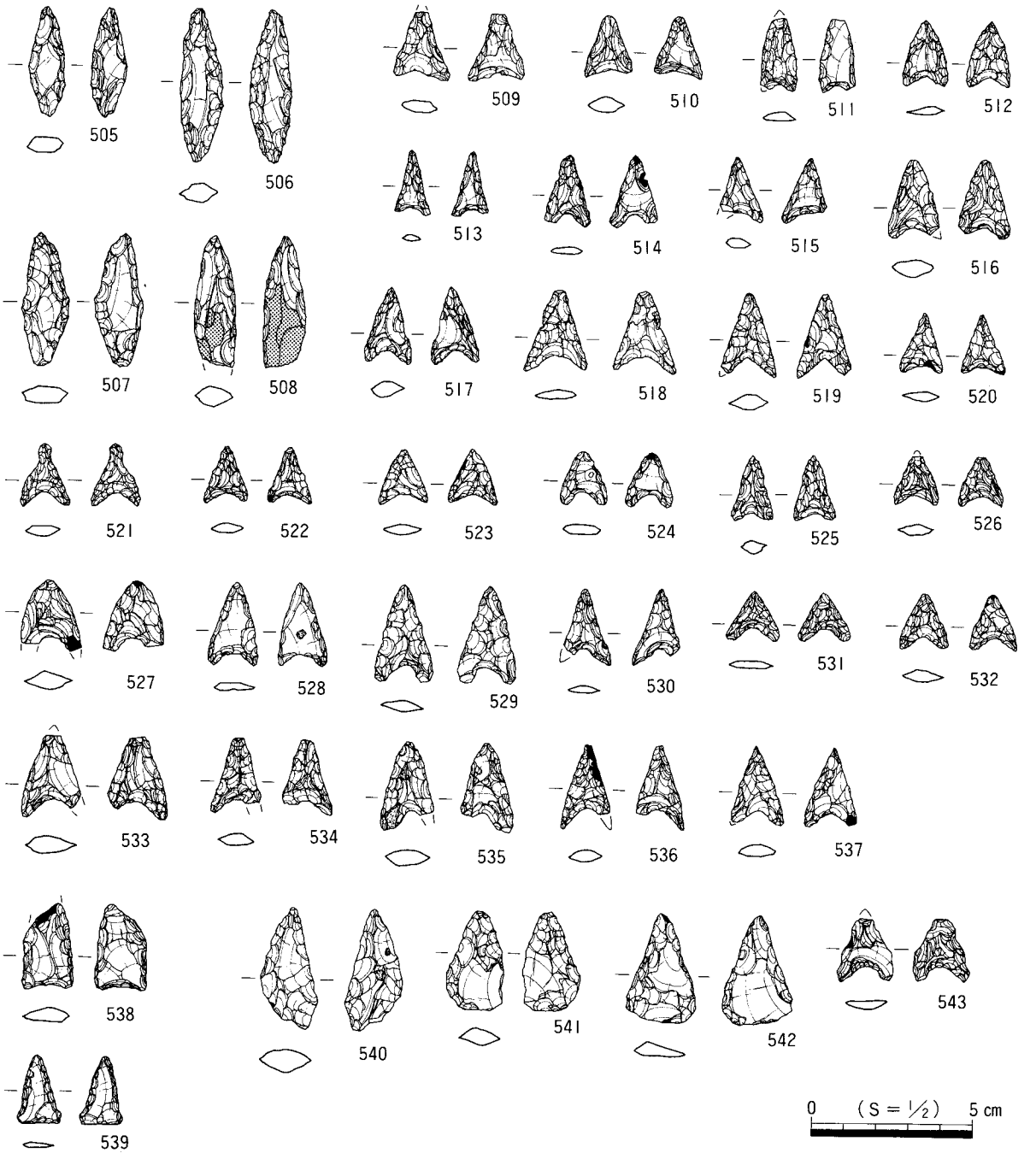
第89図は，下層包含層中および下層遺構面の上面精査時に出土した遺物実測図である。483は磨滅しているため不明確であるが，口縁部の小片である。外面と口縁端部の上面に特殊突帯が付される。484～486も特殊突帯を付す小片である。485は口縁部で，大きく内湾する断面形で，外面に「工」字状に突帯を付す。内面には刻み目状の沈線が認められる。488～491は弥生時代前期の壷と甕の破片である。489の壺は磨滅するが，頸部下に刻み目を施した突帯が巡る。490の甕は口縁部直下に断面三角形の刻み目を施した突帯を貼り付けている。491の甕は如意状の口縁で，端部に刻み目を施している。492は石鏃未製品と考えられる。基部付近で階段状に剥離したため刃部が鈍く歪んだ形状になっている。493は凹基式石鏃。基部付近に黒色の変色部が見られる。494は平基式石鏃。基部にかえりを整形している。495は尖頭器の尖頭部と考えられる。先端が大きく剥離し，それ以下の剥離が不十分なことから未製品である可能性がある。496は縦形の石匙の基部破片と考えられる。497は緑泥片岩製の磨製石斧の破片。先端部に擦痕が見られる。498は打製石斧の基部片。刃部は折損する。499は円形を呈し，周辺から剥離され，一部に刃潰しが見られることから楔形石器と考えた。

(6)　機械掘削・上層遺構面精査時出土遺物

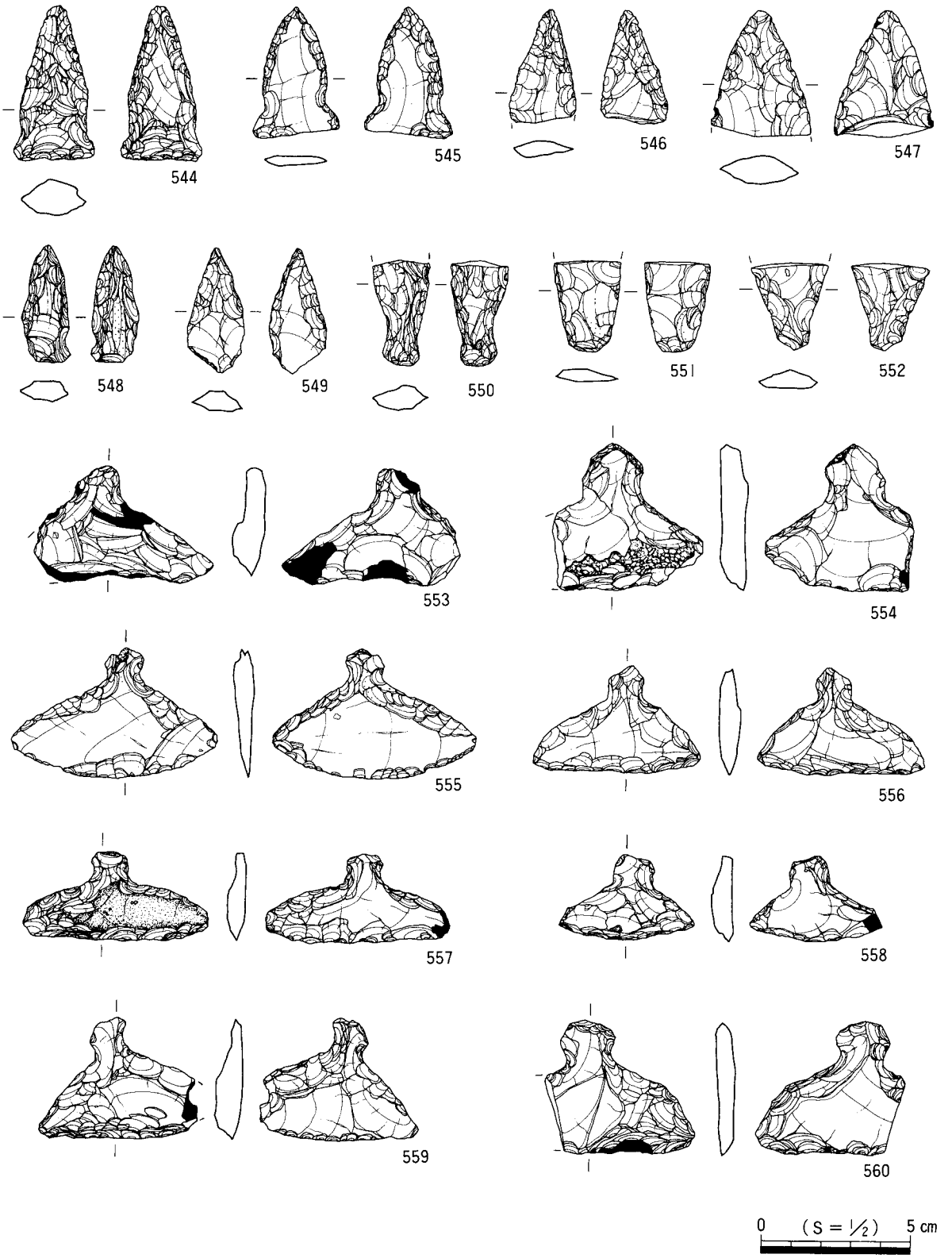
第90～94図は，B 1 区の機械掘削時，上層遺構面の上面精査時に出土した遺物実測図である。500，501は縄文土器小片。500は磨滅が著しいが外面にやや大振りで結節状に押し引きされた突帯が付される。501は天地不明。縄文の地文上に 2 条の特殊突帯が付される。502は突帯を付す小片。磨滅するが刻み目が見られる。弥生時代前期の壺かと思われる。503は見込みと外面の底部以外の部分に釉がかけられる。底部は回転糸切りで高台の削り出しなどは為されていない。504は土師器の小型の土錘である。

505～539は石鏃である。505～508は尖基式の石鏃。508の基部両面には被熱によると思われる石材表面の変質部が認められる。509～537は凹基式石鏃である。512の基部には茶褐色で薄い皮膜状を呈する付着物が認められる。538はわずかに窪むが平基式石鏃の基部である。539は平基式であるが，基部にわずかな突出をつくっている。540～543は石鏃未製品と考えられる。540はひび割れがあり，541，543は意図より大きく剥離したため放棄されたようである。

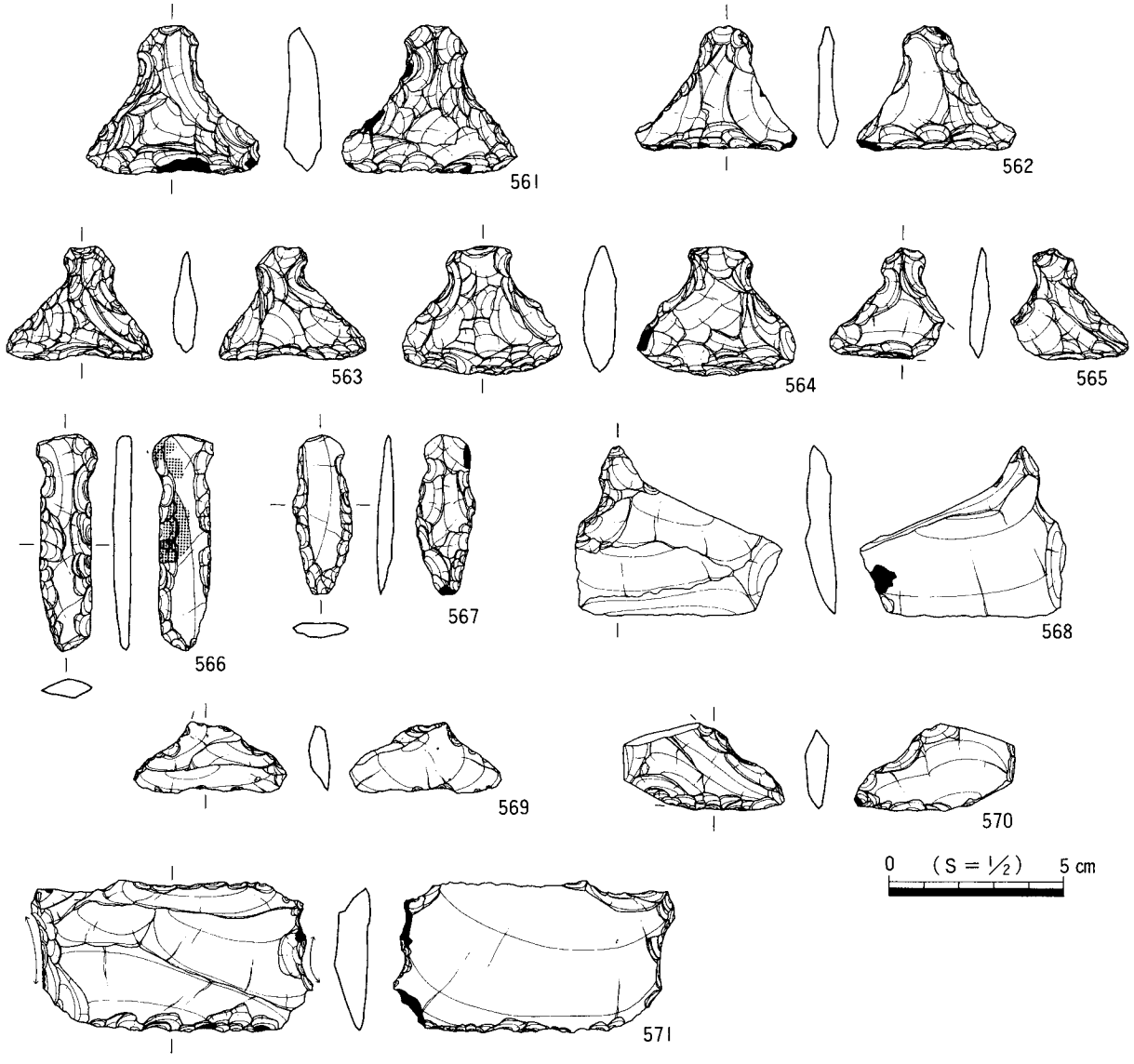
544～552は尖頭器である。544の基端は直線状で，側縁基部に抉りを入れ両側に張り出すかえりを作り出している。545は薄い剥片を利用したもので，544と同様のかえりを作り出している。546，547は尖頭部の破片。547はローリングのためか全体が磨滅する。548も基端は直線状で，一側縁は折損するが基部付近に抉りを入れている。また，基部付近の一部に磨滅が見られる。550～552は基部の破片。550は弧状



第91図　BI区　機械掘削，上層上面精査出土遺物実測図(2)



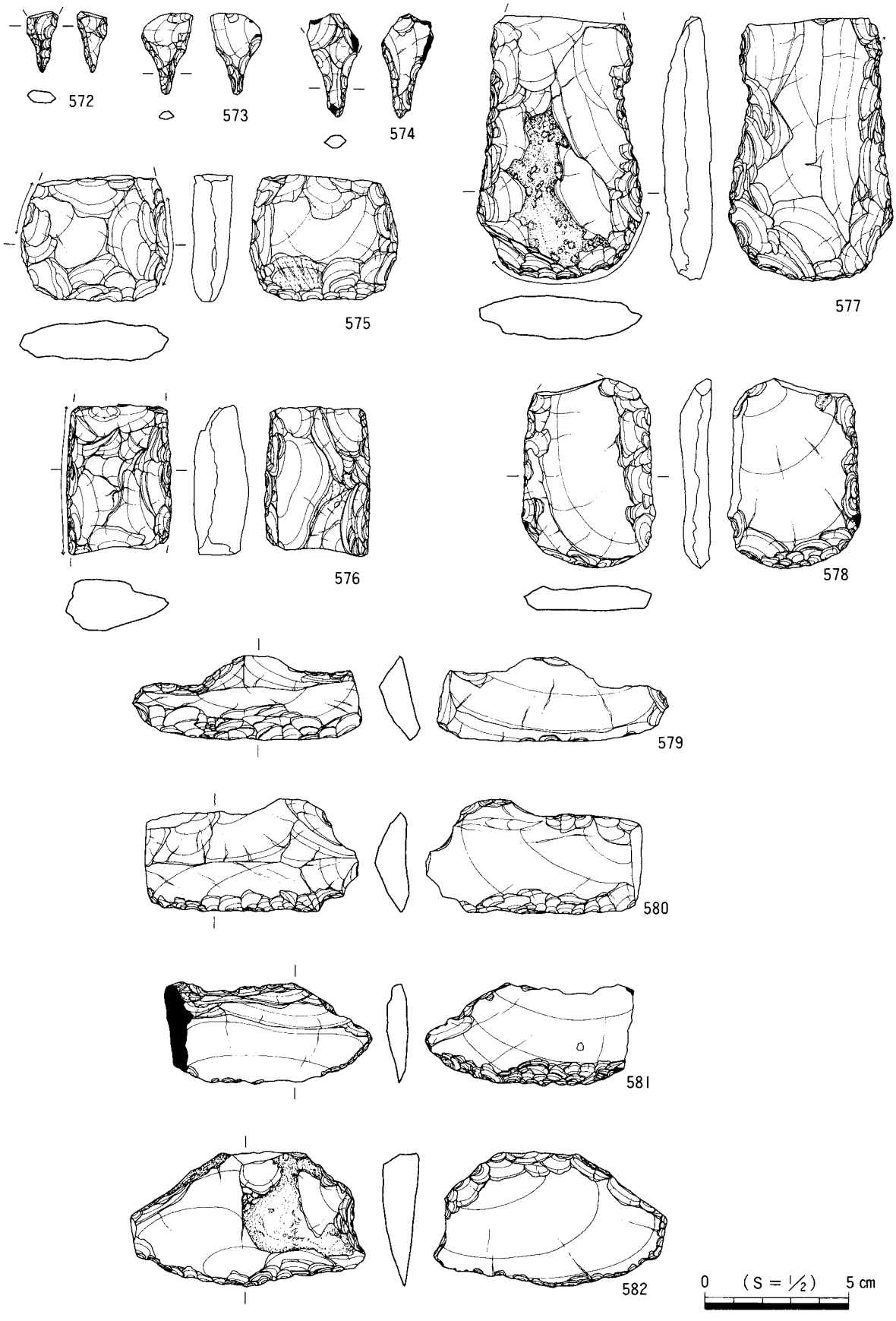
第92図　BI区　機械掘削，上層上面精査出土遺物実測図(3)



第93図　BI区　機械掘削，上層上面精査出土遺物実測図(4)

に狭まってきたものが再び「滴」状に膨らむ形状である。刃部断面の状況などから尖頭器の基部と考えた。551は風化するが一部に使用痕と思われる磨滅が見られる。552も細部調整の状況から基部と考えた。

553～567は石匙である。553，559は横形，A形態。左右非対称で身部は三角形を呈する。片面からの剝離で刃部を整形する。554～558，560はA形態，左右対称で，556，560の身部は二等辺三角形を呈する。刃部は両面から整形する。557の身部は楕円形状，554，555，558の身部は凸レンズ状を呈する。561～565は横形，C形態のもの。丁寧に加工され，正三角形に近い平面形状である。566 567は縦形の石匙である。566は直線状の刃線で，背部もやや外湾するが直線状である。一面に被熱によると見られる変質部がある。567は，扁平な断面形で稜を持たないこと，刃部と背面の細部調整に差があり左右対称にならないこと，抉りも片面にのみ明瞭であることなどから石匙とした。全体的にローリングを受ける。568～570は石匙未製品と考えた。568，569は刃部の加工が為されていない。570は平面形状と刃部の整形が片面からを中



第94図　BI区　機械掘削，上層上面精査出土遺物実測図(5)

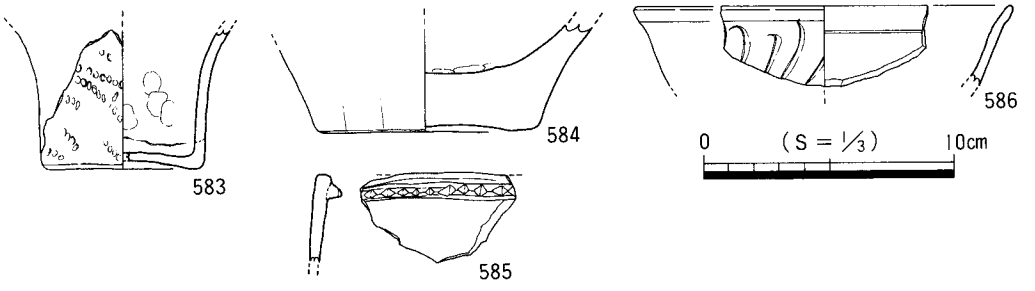
心としていることから石匙とした。571は石包丁である。一側辺の抉りは不明瞭であるが，両辺とも刃潰れが認められる。

572～574は石錐である。574の基部の一面は凹面で基部側縁の細部調整の状況から石鏃になる可能性はないと思われる。

575～578は打製石斧である。575は基部を折損するもの。刃部の一部に擦痕と磨滅が見られ，側縁には潰れ痕が見られる。基部を折損するが，この部分に打点をもつ剝離面が多数あり，折損後の２次的な加工が為されている。576は一側縁に刃潰しが見られ，一部に磨滅が見られる。577は刃部に潰れが見られる。

579～582はスクレイパーとした。579，580，582は片面から刃部を整形している。

第95図はＢ１区出土のもので出土位置不明の遺物実測図である。583は縄文土器。平面形は円形でやや上げ底状の平底である。外面は磨滅するが，縄文（R）が施される。584は弥生時代前期の壺底部と考えられる。585は弥生時代前期の甕の口縁部である。端部直下に刻み目を施した貼り付け突帯を付す。586は白磁の椀である。先述したとおりＢ１区SD03のものである可能性がある。



第95図　BI区　出土位置不明遺物実測図

第４章　自然科学調査の成果

西打遺跡から出土した木製品の樹種

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

西打遺跡では，14世紀代の遺構が検出され，柱材などの木質遺物も出土している。このような木質遺物については，これまでにも周辺遺跡で出土しており，その樹種同定が行われている。しかし，14世紀代の試料について樹種同定を行った例は少ない。

本報告では，出土した柱材の樹種同定を行い，用材選択に関する資料を得る。

１．試　　料

試料は，出土した柱材８点（W1～W8）である。

２．方　　法

剃刀の刃を用いて木口（横断面）・柾目（放射断面）・板目（接線断面）の３断面の徒手切片を作製し，ガム・クロラール（抱水クロラール，アラビアゴム粉末，グリセリン，蒸留水の混合液）で封入し，プレパラートを作製する。作製したプレパラートは，生物顕微鏡で観察・同定する。

３．結　　果

樹種同定結果を第４表に示す。試料は，針葉樹３種類（マツ属複維管束亜属・コウヤマキ・ヒノキ）と広葉樹１種類（ヤナギ属）に同定された。各種類の主な解剖学的特徴を以下に記す。

・マツ属複維管束亜属 (*Pinus* subgen. *Diploxylon*)

マツ科

仮道管の早材部から晩材部への移行は緩やかで，晩材部の幅は広い。垂直樹脂道および水平樹脂道が認められる。分野壁孔は窓状となり，放射仮道管内壁には鋸歯状の突出が認められる。放射組織は単列，１～15細胞高。

番号	遺構名	用途	樹種
W１	SB02SP190	柱材	ヒノキ
W２	SB04SP251	柱材	マツ属複維管束亜属
W３	SB05SP265	柱材	マツ属複維管束亜属
W４	SB11SP294	柱材	ヒノキ
W５	SB11SP319	柱材	ヒノキ
W６	SB07SP467	柱材	ヤナギ属
W７	SB02SP566	柱材	ヒノキ
W８	SP728	柱材	コウヤマキ

第４表　樹種同定結果

・コウヤマキ (*Sciadopitys verticillata* (Thunb.) Sieb. et Zucc.)

コウヤマキ科コウヤマキ属

仮道管の早材部から晩材部への移行は緩やか～やや急で，晩材部の幅は狭い。放射組織は柔細胞のみで構成され，柔細胞の壁は滑らか。分野壁孔は窓状となる。放射組織は単列，1～10細胞高。

・ヒノキ (*Chamaecyparis obtusa* (Sieb. et Zucc.) Endlcher)

ヒノキ科ヒノキ属

仮道管の早材部から晩材部への移行は緩やか～やや急で，晩材部の幅は狭い。樹種細胞が晩材部付近に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成され，柔細胞壁は滑らか。分野壁孔はヒノキ型～トウヒ型で，1分野に1～3個。放射組織は単列，1～15細胞高。

・ヤナギ属 (*Salix*)

ヤナギ科

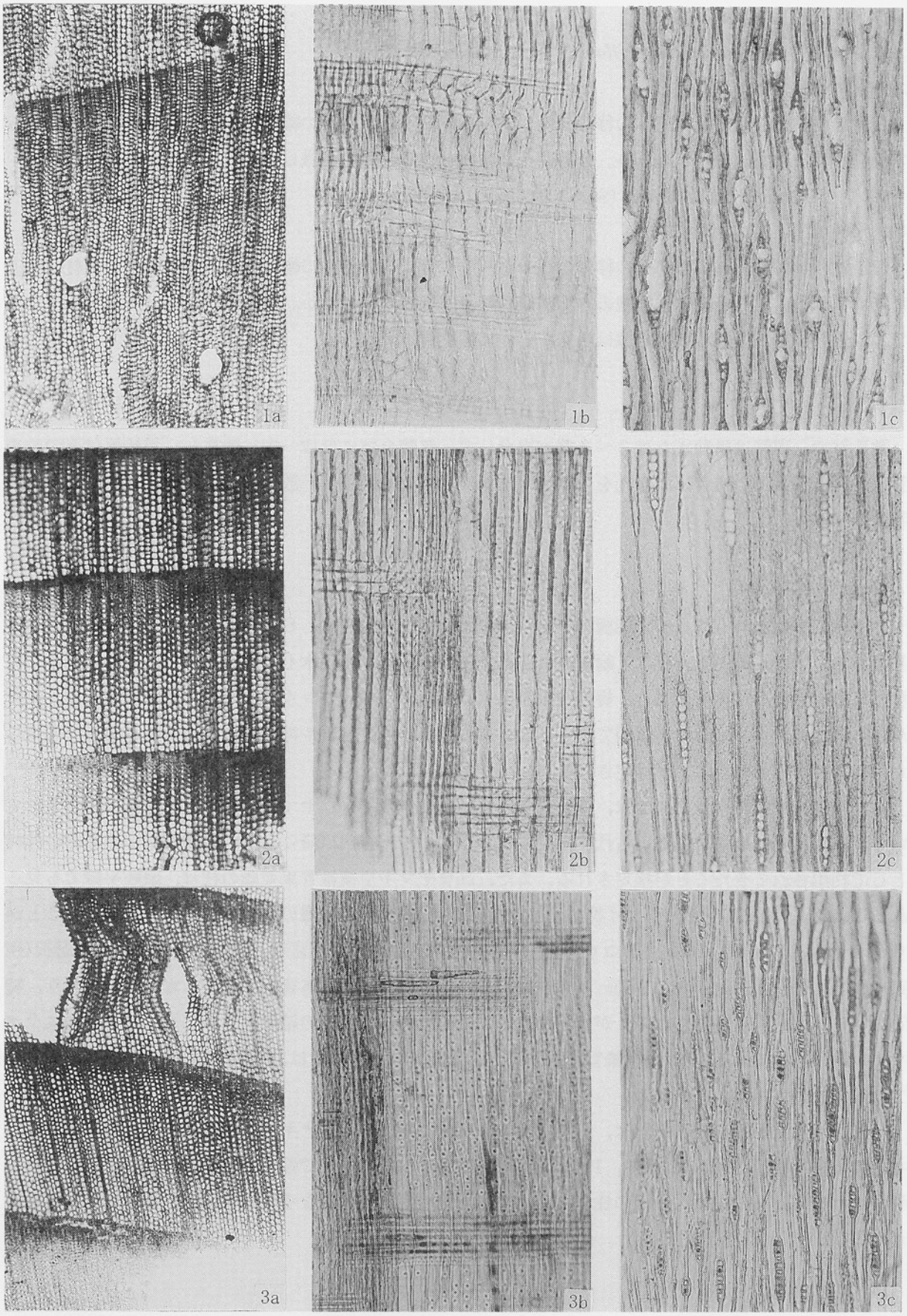
散孔材で，道管は単独または2～3個が複合して，年輪全体にほぼ一様に散在し，年輪界付近でやや管径を減少させる。道管は単穿孔を有し，壁孔は交互状に配列する。放射組織は異性，単列，1～15細胞高。

4．考　察

柱材は，1点を除く7点が針葉樹材であり，とくにヒノキが多い。ヒノキは，木理が通直で加工が容易である。また，防虫性，耐水・耐湿性に優れた材質を有し，大径木も得られる。これらの点から，柱材としては適材といえる。また，複維管束亜属（ニヨウマツ類）やコウヤマキも，耐水性があり，大材が得られる点では，ヒノキと同様である。これらの結果から，材質や得られる材の大きさなどを考慮した用材選択が行われたことが推定される。

本地域周辺で行われた調査では，これまでも柱材にヒノキ，コウヤマキ，複維管束亜属が確認されている。また，同様の用材選択は古代にも見られることから，古代以降これらの針葉樹材が建築物の柱材として利用されてきたことが推定される。また，コウヤマキや複維管束亜属の柱は，讃岐平野でも見られることから（パリノ・サーヴェイ株式会社，1993），広い範囲で同様の用材選択が行われていたことがうかがえる。このうち，ヒノキやコウヤマキについては，畿内の平城宮などにおける柱材の用材選択（伊東・島地，1979；島地ほか，1980）とも一致している。これは，日本書紀の記述とも一致しており，特定の木材を選択的に利用したことが推定される。そのため，本地域の結果についても，ヒノキやコウヤマキが利用されている建物と，複維管束亜属が利用されている建物では，建物の性格や用途などが異なっている可能性がある。

一方，W6（D区SB07SP467）は，広葉樹のヤナギ属であった。ヤナギ属の木材は，民俗事例では器具などには多く利用されるが（平井，1982；柳下，1995），一般に軽軟で強度や保存性も低いため柱材には利用されない。そのため，今回の柱材については，他の柱材とは異なる用途・目的に利用された可能性がある。

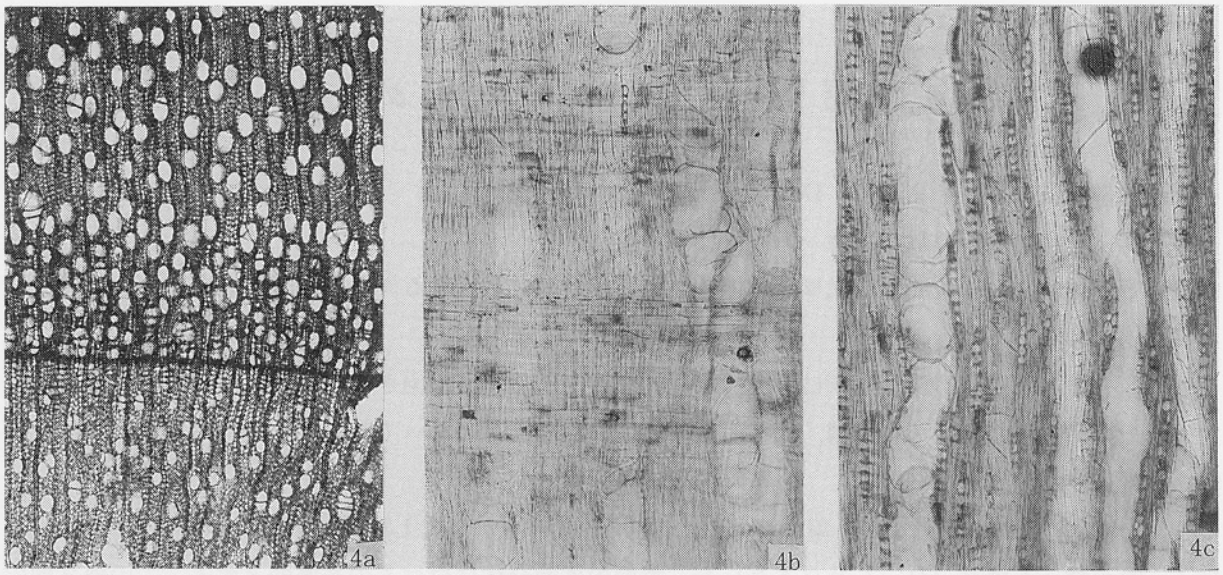


1．マツ属複維管束亜属（W3）
2．コウヤマキ（W8）
3．ヒノキ（W4）

a：木口，b：柾目，c：板目

200μm：a
200μm：b，c

第96図　木　　材(I)



4．ヤナギ属（W6）　a：木口，b：柾目，c：板目

200μm：a
200μm：b，c

第97図　木　　材(2)

引用文献

平井信二（1982）木の事典　第16巻．かなえ書房

伊東隆夫・島地　謙（1979）古代における建造物柱材の使用樹種．木材研究・資料，14，p.49-76，京都大学木材研究所

パリノ・サーヴェイ株式会社(1993) 郡家一里屋遺跡出土木材等分析委託業務報告．「四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告　第十二冊　郡家一里屋遺跡」，p.227-233，香川県教育委員会ほか．

島地　謙・伊東隆夫・林　昭三（1980）古代における宮殿・官衙の使用樹種．古文化財編集委員会編「考古学・美術史の自然科学的研究」，p.249-260，日本学術振興会．

柳下貞一（1995）柳の文化誌．249p.，淡交社

第5章　ま　と　め

今回報告するＡ１区・Ｂ１区・Ｄ区の調査成果について概括する。

１．　縄文時代早期・前期の遺物

Ｄ区下層包含層中から縄文時代早期の押型文土器の時期に見られる異形局部磨製石器（トロトロ石器）１点が出土した。

Ｂ１区を中心に縄文時代前期末に位置付けられる遺構・遺物が検出された。これらは瀬戸内海を挟んだ対岸の岡山県浅口郡船穂町船穂，北谷にある里木貝塚の調査によって設定された「里木Ｉ式土器」の特徴に共通する。

『倉敷考古館研究集報第７号　里木貝塚』に述べられる「里木Ｉ式土器」の特徴は，「厚さ３～４㎜で，細く，節の整った縄文（Ｒ，Ｌ共にあり）を，器面の外面全体に付けるのを原則とする。この縄文地の上に，細い貼付凸帯を平行，又は曲線状に付け，その上を半截竹管状の工具で，押し引きをしているものと，縄文を付けているものがある。口縁部は波状，又は，小隆起部を持つものなどで，端部を拡張したものが多い。特に，口縁の内部は折り返し状に作られ，その部分に縄文を付している。内面折り返し部のないものも，口縁内面に，縁取りをしたように縄文を施す。地文が無文と思われるものの中に，内外両面に，人の爪形を思わす様な圧痕が，続いて付けられるものがあるなど，爪形が認められるものがある。底部はやや大き目の平底で，僅かに内湾するものもある。総じて，底部縁辺は丸味をもって胴部に移行するので，底部周辺が僅かに外湾したように見えるものが多い。また，底部縁辺に指圧による凹部がめぐるものがある。」などの諸点であるが，西打遺跡出土の縄文土器の様相も，里木Ｉ式土器の特徴と同一とみてよい。(注)

里木貝塚出土の石器・石製品・貝輪のうち，里木Ｉ式土器に伴うものとして，磨製石斧・石匙・削器・片岩製装身具・貝輪がある。また，石匙は中期（古）（里木Ｉ式よりも新）では全体に横形であるが，三角形に近い形のものが増加し，中期の新しい時期になると，すべて縦形の石匙になることが指摘されている。

西打遺跡Ａ１・Ｂ１・Ｄ区で多量に出土した石器は，石鏃，石槍，石匙，スクレイパーなどである。これらは，縄文時代前期末に特定できるＢ１区SX08やＢ１区ＳＲ01以外は下層包含層から出土したものが大半である。下層包含層は縄文時代早期から弥生時代後期までの遺物を含む層で，出土石器の時期決定は困難であるが，Ｂ１区SX08などの状況から見て，横形の石匙が目立つ点が注意される。なお，石器組成に関する検討は，石器の大半が時期幅のある下層包含層出土のものであること，採集遺物が相対的に大きな剥片や製品のみを取り上げている場合と微少なチップまで取り上げている場合があり，取り上げ方にバラツキがあると判断されるため，統計処理は行っていない。

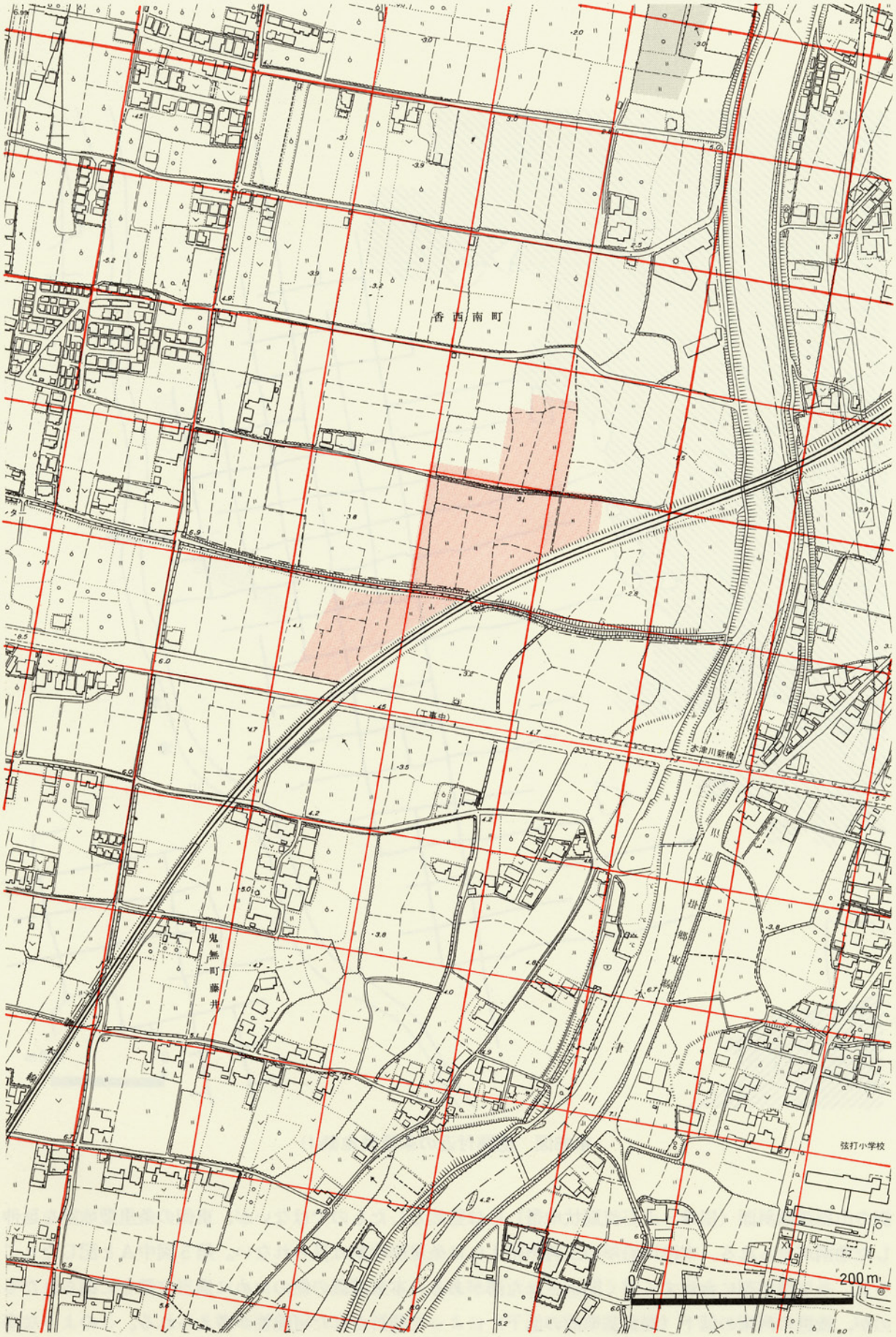
（注）倉敷考古館『倉敷考古館研究集報　第７号　里木貝塚』1971年

２．条里型地割

西打遺跡周辺には整然とした条里型地割が拡がっている。第98図は金田章裕氏の作製した条里型地割分布図を元に作製したものである。(注1) これは香川郡に広域に施工された地割の一部にあたる。坪内の地割は統一性がない。分布域は微地形分類予察図（第５図）の扇状地帯に整然とした地割りが見られ，西

第98図　遺跡付近の条里型地割(1)

側の山麓緩傾斜面（崖錐・土石流扇状地帯）には整然としたものではないが，東側の条里型地割を延伸した地割が見られる。本津川沿岸の三角州帯Ｉには条里形地割は見られない。第５図中Ａと記したところは，条里型地割に合致する深く開折された溝がある。本来灌漑の便のために適当な深さに掘られたものが，後世の河床の低下（浸食基準面の低下）によって開折された可能性が考えられる。このような事例は武久義彦氏によって報告されており，(注2) 本例も同じと考えられ，山麓緩傾斜面の疑似的な条里型地



第99図　遺跡付近の条里型地割(2)

割の施工も河床低下以前（完新世段丘面形成期(注3)）の可能性が高い。このほか遺跡西北方の海岸付近（神在付近）には香川郡条里とはやや方向を異にする条里型地割の小規模な分布が見られる。

香川郡条里の条里坪付については，金田章裕氏により復元されている。香川県の場合は小字の範囲が極めて広く，また小字より小範囲の地名である通称地名の調査が充分に行われていないこともあって，条里坪付の復元は難しい。金田氏は西打遺跡の4.5kmほど南を東西に走る官道南海道が里界線であるという前提のうえに，現在の高松市の市街に所在していた野原庄の四至と海岸との関連などを根拠に坪付の復元を行っている。(注1)

西打遺跡と条里型地割の関連は第99図に示すとおりである。また，D区居館と条里型地割の関連は第100図に示した。第100図は，縮尺１／500の工事用設計図を基図に，周辺の条里型地割を記入した縮尺１／2,500の都市計画図を１／500に拡大し，西打遺跡の１／100遺構配置図を１／500に縮小して，条里坪界線を推定したものである。また，D区居館内部の地割を検討するために一町方格を10等分した線を引いている。なお，後述のように居館と条里界線とは関連があることが確実であるので，西打遺跡の検出遺構を主に，１／2,500都市計画図で復元した条里型地割を従にして，条里坪界線の復元を行った。なお，条里型地割と関連する遺構についての総括は，Ｂ２，Ｂ３，Ｃ区の整理作業の進捗によって検討することとし，以下に条里型地割とD区居館との関連について検討する。

（注１）金田章裕 「条里と村落生活」香川県『香川県史　第一巻　通史編　原始・古代』四国新聞社　1988年

（注２）武久義彦 ALLUVIAL DEPOSITION AND DEEPENNING OF STREAM IN HISTORICAL TIMES，奈良女子大学地理学研究報告II　1986年
木下晴一 「条里地割施工以後の微地形変化――丸亀市飯野町付近の事例――」『香川地理学会報』№11 1991年

（注３）高橋　学 「高松平野の地形環境――弘福寺領山田郡田図比定地付近の微地形環境を中心に――」
高松市教育委員会『讃岐国弘福寺領の調査　弘福寺領讃岐国山田郡田図調査報告書』1992年

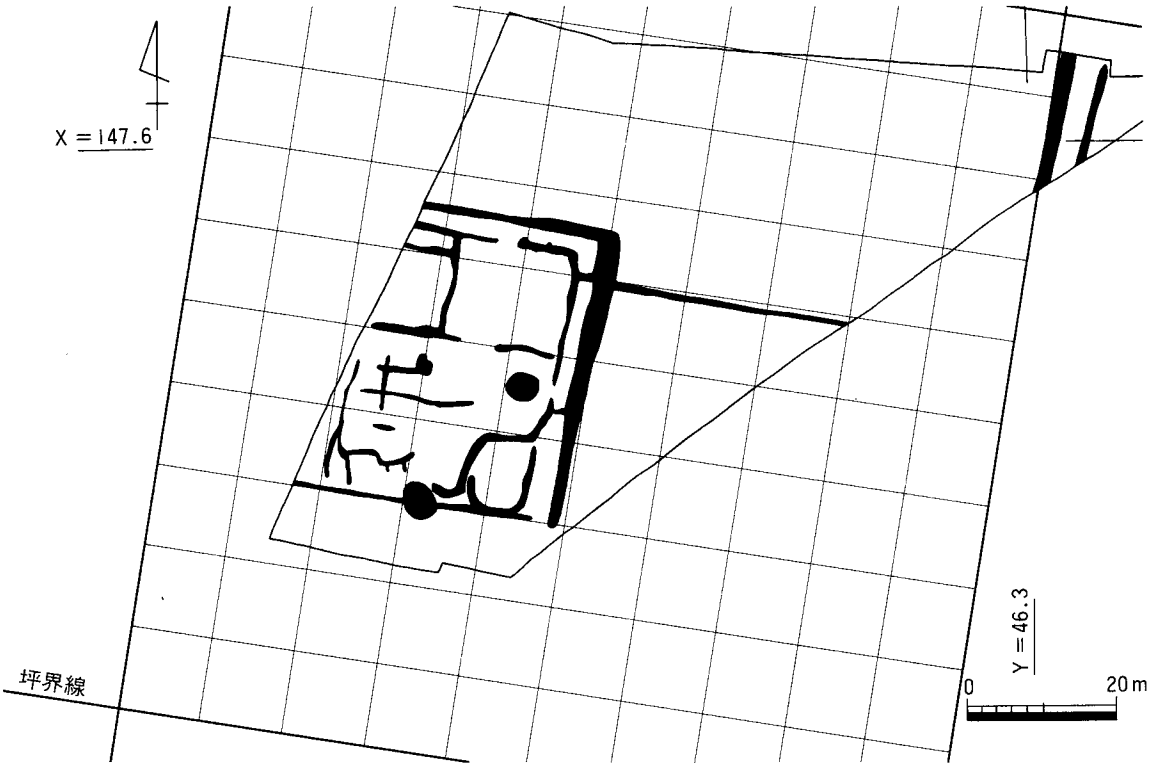
３．D区の中世居館

① D区中世居館と条里型地割

第100図は，条里坪界線とD区居館の関係を示したものである。これによると居館の東を区画する堀状遺構（SD55）が一町方格の東西を二分した位置にあたり，他の溝状遺構も条里型地割の界線の方向や距離に関連することが分かる（もっとも，第100図の条里坪界線は先述の過程で復元したものであるから，東西南北ともに数m程度動く可能性を残している。したがって，D区居館の配置が条里坪界線と関連のあることは指摘できるが，それより細かい関連の検討は不可能である）。このことより，D区居館は条里型地割に影響されて区画を決定したことが分かる。この居館の北限と東限はSD01，55であるが，西限と南限は調査区外になると思われる。D区居館の選地が条里坪界線に影響されたという前提に立つと，西限，南限ともに坪界線を越えることは無いと考えられ，東西幅は第100図に示す一町方格の西側阡陌線までの約54m，南北幅は南側阡陌線までの約71mの範囲に収まるであろう。

② 居館と考える根拠

これまでD区居館について，充分な根拠を示すことなく「居館」と呼称してきたが，その根拠につい



第100図　D区　居館と条里型地割の関係

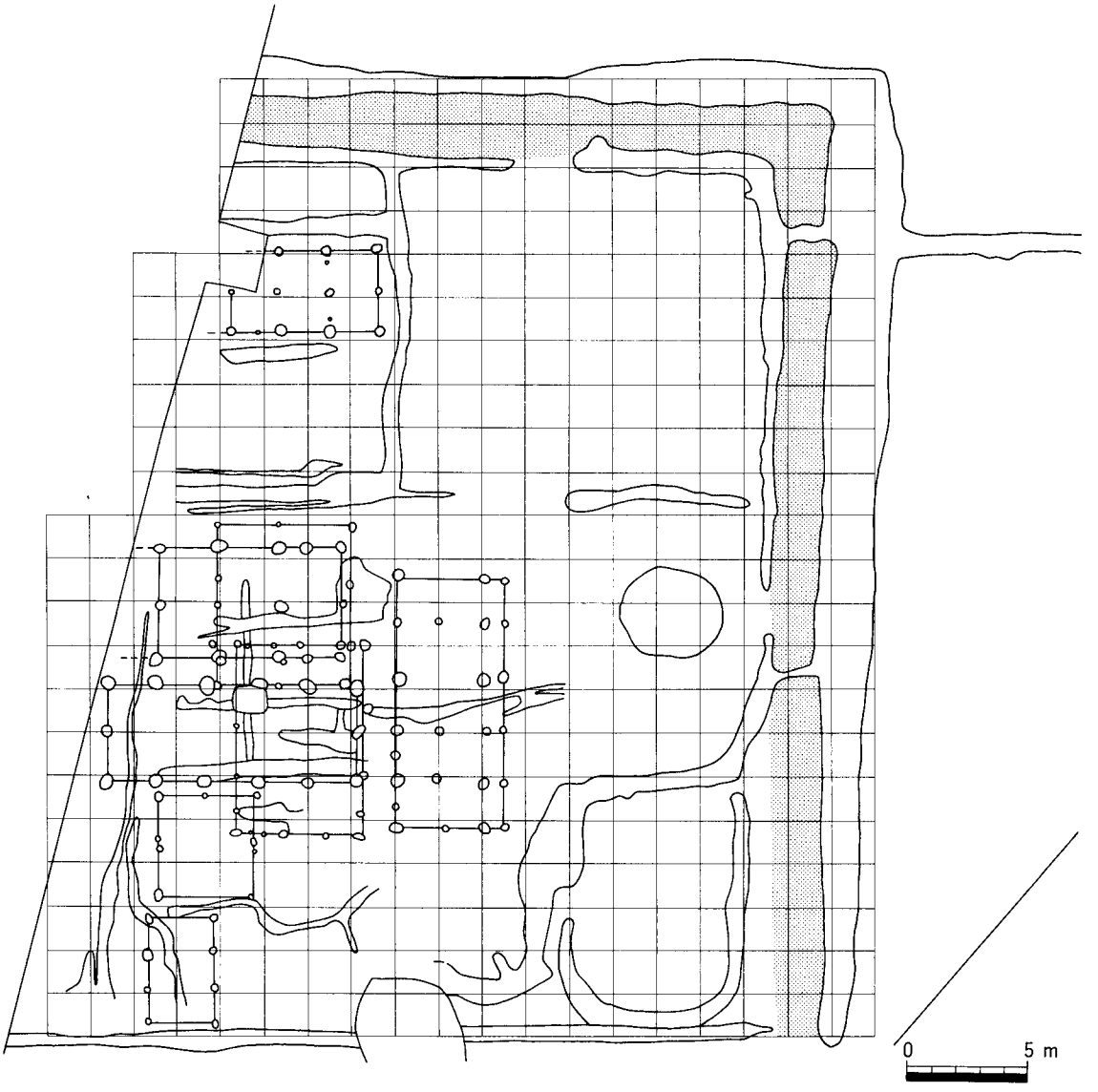
て述べる。

まず，堀状遺構としたSD01と55の内側に，これと平行するSD02，68，59，61などがあり，両者の間に遺構の希薄な部分がある。SD01，55とSD02などは2ヶ所で繋がっているが，切り合い関係はなく，両者の間に構造物があること，つまり，土塁状のものが存在していたことを暗示している。調査の際にはその痕跡は全く認められなかったが，堀の内側にそって一定幅の遺構の希薄な部分があり，それが土塁の存在を暗示していることについて，中井均氏の論考がある。(注1) なお，SD01，55とSD02などとの間が2～2.5m程度であることから，構造物の高さは1mを大きく越えるものではないと考えられる。

次に，堀内部の掘立柱建物や溝が，方位を揃え規格的に配置されており，統一的な設計に基づくと考えられる点である。第101図は第100図で想定した条里坪界線に基づいて，1.8mのメッシュをかぶせたものである。この図から掘立柱建物や溝状遺構が計画的に割り付けられている可能性が読みとれる。例えば，SB01はSD04，03，20の小溝で区画され，その東側にはDS68，59，60で区画された空間がある。また，南東には遺構は検出されなかったが，SD58や61などで区画された空間がある。このことから，堀状遺構で囲繞された内部が，さらに機能分化した空間に分割されていると理解できる。換言すれば，堀状遺構で囲繞された空間は，一人の「長」の下に階層的に構成される人々が居住した遺構，つまり，居館跡と考えるのである。

また，復原される掘立柱建物が極めて整然とした柱配置を取る点も注意される。讃岐の中世の集落の場合，柱穴が平面的に乱雑な状況で検出され，建物の復原が困難な場合が多い。その中で，本遺跡のような整然とした柱配置は，専業者による建築が想定でき，一般人によって建てられた建物の集合ではないと考えられる（この点は，見通し的なもので今後検討を深める必要がある）。

さらに，「屋敷畠」と呼称されるような区画の存在があげられる。D区建物群の北東隅のSD68，59，60の小溝で囲繞された東西14.5m，南北13mの小区画があるが，この内部からは畝状遺構が多数検出され，



第101図　D区　居館の割付図　（メッシュは1.8m）
（スクリーントーンは推定土塁）

建物遺構が見られない。この区画は畠として利用されていたと考えられるが，居館内に田畠が含まれることは周知のことで，(注2) これも居館と考える根拠としてあげられる。

（注1）中井　均「中世の居館・寺そして村落――西国を中心として――」石井　進，萩原三雄編『中世の城と考古学』1991年　新人物往来社

（注2）戸田芳実『日本領主制成立史の研究』岩波書店　1967年　など

③　居館の構造・変遷・年代

居館内で復原できた掘立柱建物は11棟であるが，傑出した規模の建物は見当たらない。最も規模の大きい建物は45.4m²のD区SB04であるが，母屋と見なしてよいかどうか不明である。掘立柱建物のうちD区SB02，08，09，10，11とD区SB05，08，10とD区SB03，09が重複する。このことからD区SB02付近では，少なくとも5回の立て替えが考えられる。D区SB02，04，05を構成する柱穴から出土した遺物が

各々接合されたことから，D区SB02，04，05が同時併存の可能性があること，掘立柱建物を構成する柱穴の切り合い関係や，掘立柱建物の雨落ち溝と考えられる溝状遺構と柱穴の切り合い関係から，若干の前後関係が確認できるものがあるが，建物の主軸方位がほぼ同一なこともあって，時期的な変遷を辿ることは困難である。なお，概報段階ではこの建物群を「集村」として把握し，来年度整理予定のB２区，C区の集落を「散村」もしくは「疎塊村」とし，「集村」化の典型的事例と想定しているが,(注) 建物群に重複が見られることから「10戸以上が集住する」という集村の定義に当てはまらないだけでなく，集住の形態が「戸」が集中するのか「棟」が集中するのかなど，今後検討を深める必要がある。

次に居館の年代についてであるが，居館内で出土した遺物は，量が少なく，また，細片が多いことから明確な年代を示せない。ここでは編年の確立している青磁・白磁や東播系須恵器を中心に概括する。青磁・白磁は青磁が圧倒的に多く，また，鎬蓮弁を外面に有する椀が多い。これは横田・森田分類の龍泉窯系青磁椀のⅠ類５に属するものである。東播系須恵器のこね鉢では，森田編年の第Ⅸ期第１段階に属するものが圧倒的に多く，包含層を中心にその前後する時期のものが出土している。また，口縁部などが遺存しないため明確な年代は不明であるが，備前焼甕の破片も出土している。このほか土師器土釜の鍔形態や土師器杯の法量などから総合すると，D区居館は13世紀後半代を中心に，14世紀前半にかけてのものと考えられる。

（注）北山健一郎 「西打遺跡のおける土地利用の実態」『条里制古代都市研究』通巻14号　1998年および条里制古代都市研究会第14回大会での口頭発表

④　香西氏との関連について

D区居館の西約500mに，中世讃岐に活躍した香西氏の平地城館「佐料城」が所在する（図版２参照）。香西氏は阿野・香川郡を領地とし，佐料城の西側背後に勝賀城という詰め城を築き，全盛期には備讃瀬戸の制海権を握っていたという。応仁の乱では，香川・奈良・安富氏とともに細川管領家に仕え活躍し，細川四天王と呼ばれた。戦国時代には三好氏に，のちには長宗我部氏に属し，天正13（1585）年の豊臣秀吉の四国攻めによって滅亡した。史料批判に耐えるものでは，建武４（1337）年の史料に香西彦三郎の名が見え,(注1) 後世の編纂物である『南海治乱記』には1335年の細川定禅の挙兵に香西氏が加わったことや，香西氏が讃岐の国に土着した国人であることなどを記している。(注2)

D区居館と佐料城との位置関係は，D区居館が佐料城の立地する尾根の先端に近接する位置にあるなど，何らかの関連が想定される。しかし，D区居館と香西氏との関連は，今のところ上記のような，香西氏の本拠地付近に位置するという点でしかない。今後，周辺の考古学的な調査の進展によって検討を深める必要がある。

（注１）田中健二・大藪典子「細川家内衆香西氏の年譜――香西又六の山城守護代任命まで――」香川歴史学会『香川史学』第17号　1988

（注２）香西成資『南海治乱記』1714年（伊井春樹訳『南海治乱記』（上中下）教育社新書　1981年に拠った）

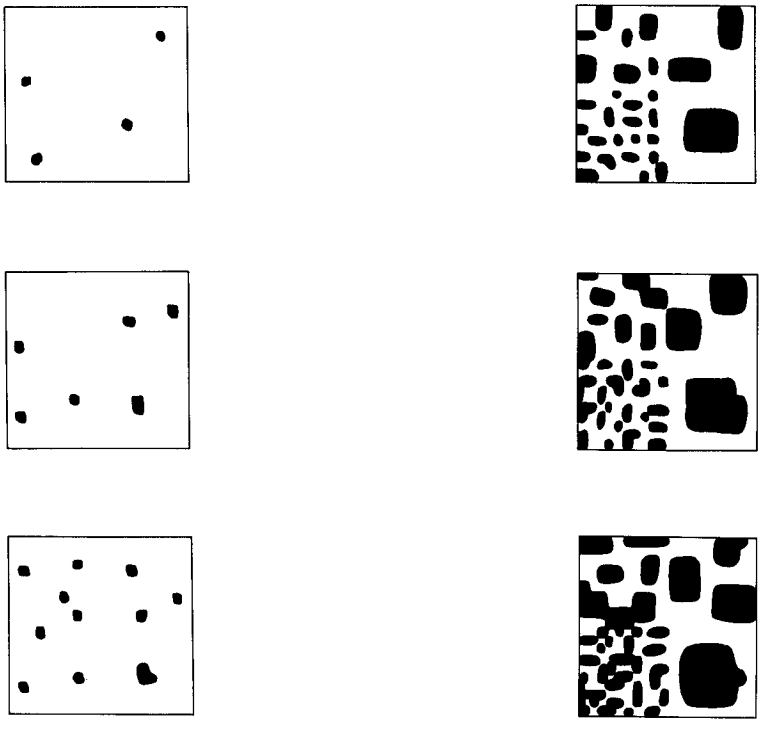
観　察　表

凡　例

1．残存率は，遺物の図化部分に占める実物の割合を示しており，完形品に対するそれではない。

2．色調は，農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修『新版標準土色帖1989年版』を参照した。

3．胎土中の砂粒の「大」は径1.1mm以上，「中」は径0.5～1.1mm，「小」は径0.5mm未満を示す。含有量は下図を目安に「多」（多量），「普」（普通），「少」（少量）で表現した。



少量 ―――― 普通 ―――― 多量

第５表　土器観察表

番号	挿図	図版	遺構名	器　種	口径	器高	底径	胎　　土	色　　調	外面調整	内面調整	残存率	備　考
1	20		予備調査１Ｓ	土師器小皿	6.5	1.3	4.6	(砂粒) 小・少	内外面：浅黄橙7.5YR8/3	回転ナデ，回転ヘラキリ後板状圧痕	回転ナデ	2/8	
2	20		予備調査28	土師器杯か椀			7.3	(砂粒) 中・少	内外面：橙5YR7/6	回転ナデ，回転糸切り	回転ナデ	6/8	
3	20		予備調査19	土師器杯	10.5	2.7	6.9	(砂粒) 大・少	内面：橙5YR7/6 外面：にぶい黄橙10YR7/2	回転ナデ，回転ヘラキリ後板状圧痕	回転ナデ，回転ナデ後仕上げナデ	5/8	
4	20		予備調査３	土師器杯	11.6	3.7	7	(砂粒) 中・少	内面：浅黄橙7.5YR8/4 外面：灰白7.5YR8/1	回転ナデ，回転ヘラキリ	回転ナデ	7/8	
5	20		予備調査28	黒色土器椀	16.8			(砂粒) 小・少	内外面：黒2.5Y2/1	回転ナデ，回転ナデ後，ヘラミガキ	回転ナデ，回転ナデ後ヘラミガキ	1/8	両黒
6	20		予備調査28	青磁椀			5.2	精緻	釉：オリーブ灰2.5GY6/1 胎：灰白N8/	底部無釉，施釉，削り出し高台	施釉	4/8	
7	20		予備調査19	土師器土釜	16.2			(砂粒) 小・普	内外面：にぶい橙7.5YR6/4	ヨコナデ,指オサエ後ナデ，ハケ，格子目タタキ	ヨコナデ，板ナデ後ハケ	2/8	外面煤付着
8	20		予備調査44	土師器土釜	26.1			(砂粒) 大・少	内面：にぶい黄橙10YR7/3 外面：にぶい黄橙10YR6/3	ヨコナデ，ハケ後指ナデ	ヨコナデ，板ナデ	1/8	
9	20		予備調査51	瓦質土器甕	24.2			(砂粒) 小・少	内面：黒N21 外面：灰白5Y8/1	磨滅，格子目タタキ	磨滅	1/8	亀山焼
10	20		予備調査19	須恵器こね鉢				(砂粒) 中・少	内外面：灰白5Y7/1	指オサエ後回転ナデ，ナデ	指オサエ後回転ナデ，ナデ	小片	東播系
12	21	4	予備調査45	須恵器皿	17	2.3	14.4	(砂粒) 小・普	内外面：淡黄2.5Y8/3	回転ナデ，回転ヘラキリ	回転ナデ	2/8	
13	21		予備調査45	土師器土鍋				(砂粒) 中・多	内外面：橙2.5YR6/6	ヨコナデ，指オサエ後横ナデ	ヨコナデ，ハケ，指オサエ後板ナデ	小片	
14	21		予備調査45	土師器土鍋				(砂粒) 中・多	内面：にぶい黄橙10YR7/3 外面：橙7.5YR7/6	ヨコナデ，指オサエ後ハケ	ヨコナデ後ハケ，指オサエ後板ナデ	小片	
15	21		予備調査45	土師器土鍋	48			(砂粒) 中・多	内面：橙7.5YR6/6 外面：にぶい褐7.5YR5/4	ヨコナデ，ハケ	ヨコナデ，ハケ，剝落	2/8	
16	21	4	予備調査45	土師器土鍋	51			(砂粒) 大・普	内外面：橙7.5YR7/6	ヨコナデ，指オサエ後ハケ	ヨコナデ後ハケ，ナデ	1/8	
17	24	22	D区 下層包含層	縄文土器浅鉢				(砂粒) 大・多	内面：灰5Y6/1 外面：褐灰10YR5/1	磨滅，ナデ	磨滅	小片	
18	24		D区 下層包含層	縄文土器浅鉢				(砂粒) 中・多	内面：灰5Y6／1 外面：にぶい黄褐10YR7/2	磨滅	磨滅	小片	沈線1条
35	27		D区 SB01 SP98	土師器小皿	7	1.1	5.5	(砂粒) 小・普	内外面：灰白7.5YR8/1	回転ナデ，回転ヘラキリ	回転ナデ	4/8	
36	27	23	D区 SB01 SP93	土師器土錘	0.8	4.1	2.1	(砂粒) 小・少	内外面：灰白2.5Y8/2	指オサエ後ナデ		8/8	
37	27	23	D区 SB01 SP93	土師器土錘	1	4.8	2.1	(砂粒) 中・多	内外面：灰黄2.5Y7/2	指オサエ後ナデ		8/8	
38	28	23	D区 SB02 SP160	土師器小皿	6.2	0.6	5.6	(砂粒) 小・多	内外面：浅黄橙7.5YR8/4	回転ナデ，回転ヘラキリ	回転ナデ	8/8	
39	28		D区 SB02 SP160	土師器小皿	6.5	1.2	5.6	(砂粒) 小・多	内面：にぶい橙7.5YR7/4 外面：橙5YR7/6	回転ナデ，回転ヘラキリ	回転ナデ	2/8	
40	28		D区 SB02 SP161	土師器小皿	7.2	1.8	4.5	(砂粒) 中・多	内外面：灰白10YR8/1	回転ナデ，回転ヘラキリ	回転ナデ	3/8	
41	28		D区 SB02 SP160	土師器小皿	7	1.1	5.8	(砂粒) 中・少	内面：にぶい黄橙10YR7/3 外面：にぶい橙7.5YR7/4	回転ナデ，回転ヘラキリ	回転ナデ，回転ナデ後仕上げナデ	2/8	

番号	挿図	図版	遺構名	器　種	口径	器高	底径	胎　　土	色　　調	外面調整	内面調整	残存率	備　考
42	28		D区 SB02 SP162 SB04 SP666	土師器杯	10	2.5	6.3	(砂粒) 中・普	内外面：灰白2.5Y8/1	回転ナデ，回転ヘラキリ	回転ナデ	2/8	
43	28	23	D区 SB02 SP162	土師器杯	10.4	2.6	6.2	(砂粒) 小・普	内外面：灰白7.5YR8/2	回転ナデ，回転ヘラキリ	回転ナデ	7/8	
44	28		D区 SB02 SP166	土師器杯	10.9	3.2	4	(砂粒) 小・多	内面：灰白2.5Y8/1 外面：灰白10YR8/2	回転ナデ，回転ヘラキリ後板状圧痕	回転ナデ	2/8	
45	28		D区 SB02 SP538	土師器土釜				(砂粒) 小・普	内面：灰黄褐10YR6/2 外面：にぶい褐7.5YR5/3	ヨコナデ，指オサエ，ヨコナデ，指オサエ	ヨコナデ，板ナデ	小片	
46	29		D区 SB03 SP449	土師器杯				(砂粒) 小・普	内外面：灰白2.5Y8/2	回転ナデ	回転ナデ	小片	
47	29		D区 SB03 SP449	土師器土釜	24.5			(砂粒) 大・少	内面：灰黄褐10YR6/4 外面：にぶい橙7.5YR7/4	ヨコナデ，指オサエ後ナデ	ヨコナデ，板ナデ	1/8	煤付着
48	31		D区 SB04 SP252	土師器小皿	7	1.1	6.1	(砂粒) 小・少	内外面：浅黄橙10YR8/3	回転ナデ，回転ヘラキリ後板状圧痕	回転ナデ	2/8	
49	31		D区 SB04 SP248	土師器小皿	6.2	0.6	5.9	(砂粒) 小・普	内外面：浅黄橙10YR8/3	回転ナデ，回転ヘラキリ	回転ナデ	1/8	底部に歪み
50	31		D区 SB04 SP666	土師器小皿	6.5	1	5.3	(砂粒) 小・普	内外面：浅黄橙7.5YR8/4	回転ナデ，回転ヘラキリ	回転ナデ	6/8	
51	31		D区 SB04 SP657	土師器小皿	5.8	0.9	4.8	(砂粒) 小・普	内外面：浅黄橙7.5YR8/4	回転ナデ，回転ヘラキリ	回転ナデ	1/8	
52	31		D区 SB04 SP246	土師器小皿	5.8	0.9	5.1	(砂粒) 中・少	内面：にぶい黄橙10YR6/3 外面：にぶい黄橙10YR7/4	回転ナデ，不明	回転ナデ	5/8	付着物有
53	31		D区 SB04 SP672	土師器小皿	5.4		4.2	(砂粒) 小・普	内外面：浅黄橙7.5YR8/3	回転ナデ，回転ヘラキリ	回転ナデ	1/8	
54	31		D区 SB04 SP227	土師器小皿				(砂粒) 小・普	内面：浅黄橙7.5YR8/3 外面：灰白7.5YR8/2	回転ナデ，回転ヘラキリ	回転ナデ	小片	
55	31		D区 SB04 SP246 SB05 SP265	土師器杯	10.6	3.2	7.3	(砂粒) 小・普	内面：浅黄橙7.5YR8/3 外面：浅黄橙7.5YR8/4	回転ナデ，回転ヘラキリ後板状圧痕	回転ナデ	4/8	
56	31		D区 SB04 SP249	土師器杯	11.6	2.3	8.3	(砂粒) 小・普	内外面：浅黄橙7.5YR8/4	回転ナデ，不明	回転ナデ	1/8	
57	31		D区 SB04 SP248	土師器杯	10.4		7.4	(砂粒) 大・少	内面：灰白10YR8/1 外面：浅黄橙10YR8/3	回転ナデ，不明	回転ナデ	1/8	
58	31		D区 SB04 SP645	土師器杯	10.5			(砂粒) 中・少	内外面：灰白5Y8/1	回転ナデ	回転ナデ	1/8	
59	31		D区 SB04 SP666	土師器杯	9.8			(砂粒) 小・少	内外面：灰白2.5YR8/1	回転ナデ	回転ナデ	1/8	
60	31	23	D区 SB04 SP771	青磁椀	13			(砂粒) 精緻	釉：明オリーブ灰5GY7/1 胎：灰白N71	施釉	施釉	2/8	鎬蓮弁
61	31		D区 SB04 SP249	土師器土釜	19.2			(砂粒) 中・少	内面：灰白10YR8/2 外面：灰白10YR8/1	ヨコナデ，指オサエ後ナデ，指オサエ後板ナデ	ヨコナデ，板ナデ	1/8	
62	31		D区 SB04 SP246	土師器土釜				(砂粒) 中・普	内外面：灰白2.5Y7/1	ヨコナデ，指オサエ後ナデ	ヨコナデ，板ナデ	小片	
63	31		D区 SB04 SP666	土師器土釜				(砂粒) 大・普	内外面：灰黄2.5YR6/2	ヨコナデ，指オサエ後ナデ	ヨコナデ，ハケ	小片	
64	31		D区 SB04 SP248	土師器土釜(脚部)				(砂粒) 中・少	内面：灰白10YR8/2 外面：にぶい黄橙10YR7/2	指オサエ後ナデ		8/8	

番号	挿図	図版	遺構名	器　種	口径	器高	底径	胎　　土	色　　調	外面調整	内面調整	残存率	備　考
65	31		D区 SB04 SP246	土師器こね鉢	22.8			(砂粒) 中・多	内外面：灰白10YR8/2	磨滅	磨滅	1/8	
66	31		D区 SB04 SP719	土師器土鍋	37.4			(砂粒) 大・普	内面：浅黄橙10YR8/4 外面：にぶい橙7.5YR6/4	ヨコナデ，指オサエ後ナデ	ヨコナデ，ハケ	1/8	
67	31	23	D区 SB04 SP666	土師器土鍋	42.6			(砂粒) 中・普	内面：浅黄橙10YR8/4 外面：灰黄褐10YR5/2	ヨコナデ後ハケ，板ナデ，ハケ	ヨコナデ後ハケ，ハケ	1/8	煤付着
68	33		D区 SB05 SP265	土師器小皿	5.8	0.9	6.1	(砂粒) 中・少	内面：浅黄橙7.5YR8/4 外面：浅黄橙7.5YR8/3	回転ナデ，回転ヘラキリ後ナデ	回転ナデ	1/8	
69	33		D区 SB05 SP306	土師器小皿	6.8	0.8	6.7	(砂粒) 大・普	内面：浅黄橙7.5YR8/4 外面：浅黄橙7.5YR8/6	回転ナデ，回転ヘラキリ	回転ナデ	2/8	
70	33		D区 SB05 SP308	土師器小皿	5.8	(0.8)	4.8	(砂粒) 小・普	内面：浅黄橙10YR8/3 外面：灰白10YR8/2	回転ナデ，回転ヘラキリ	回転ナデ	1/8	
71	33		D区 SB05 SP305	土師器小皿	6	1	5	(砂粒) 中・普	内外面：浅黄橙7.5YR8/4	回転ナデ，回転ヘラキリ	回転ナデ	2/8	
72	33		D区 SB05 SP265	土師器土釜				(砂粒) 大・普	内面：にぶい橙7.5YR7/4 外面：橙7.5YR6/6	指オサエ後ヨコナデ，指オサエ後ナデ	ヨコナデ後ハケ，ハケ	小片	煤付着
73	33	24	D区 SB05 SP280	土師器土釜(脚部)				(砂粒) 小・普	内面：灰白10YR8/2 外面：浅黄橙10YR8/4	指オサエ後板ナデ		8/8	煤付着
74	33		D区 SB05 SP308	須恵器こね鉢	19.8			(砂粒) 大・少	内面：灰白2.5Y8/1 外面：灰白2.5Y7/1	回転ナデ	回転ナデ	1/8	
75	36		D区 SB08 SP300	土師器小皿	6.2	0.9	4.2	(砂粒) 小・少	内外面：灰白10YR8/2	回転ナデ，回転ヘラキリ	回転ナデ	2/8	
76	36		D区 SB08 SP300	土師器杯	10	2.4	6.2	(砂粒) 小・少	内外面：灰白10YR8/2	回転ナデ，回転ヘラキリ	回転ナデ，回転ナデ後仕上げナデ	1/8	
77	37		D区 SB09 SP257	土師器小皿	6.1	5.7	1.1	(砂粒) 中・少	内外面：灰白10YR8/2	回転ナデ，回転ヘラキリ	回転ナデ	2/8	
78	37		D区 SB09 SP257	土師器杯	10	(2.6)	6.2	(砂粒) 小・普	内外面：灰白10YR8/1	回転ナデ，回転ヘラキリ	回転ナデ	2/8	
79	37		D区 SB09 SP257	土師器杯	10.6	2.6	6	(砂粒) 小・普	内面：浅黄橙7.5YR8/4 外面：灰白10YR8/2	回転ナデ，回転ヘラキリ	回転ナデ	2/8	
80	37		D区 SB09 SP264	土師器杯	12	2.7	8	(砂粒) 小・普	内外面：灰白10YR8/2	回転ナデ，回転ヘラキリ	回転ナデ	1/8	
81	37		D区 SB09 SP440	土師器土釜				(砂粒) 中・少	内外面：浅黄橙10YR8/3	指オサエ後ヨコナデ	ヨコナデ	小片	
83	38		D区 SB10 SP303	土師器小皿	5.8	0.7	5	(砂粒) 小・普	内面：灰白2.5YR8/1 外面：にぶい橙7.5YR7/4	回転ナデ，回転ヘラキリ	回転ナデ	6/8	
84	38		D区 SB10 SP303	土師器小皿	5.9	1.1	4.7	(砂粒) 小・少	内外面：灰白10YR8/2	回転ナデ，回転ヘラキリ	回転ナデ，回転ナデ後仕上げナデ	6/8	
85	38		D区 SB10 SP565	土師器小皿	5.9	1	4.6	(砂粒) 中・少	内面：灰白10YR8/1 外面：灰白7.5YR8/2	回転ナデ，回転ヘラキリ	回転ナデ	3/8	
86	38		D区 SB10 SP320	土師器小皿	6	1	5	(砂粒) 小・普	内外面：灰白2.5Y8/2	回転ナデ，回転ヘラキリ	回転ナデ	3/8	
87	38		D区 SB10 SP303	土師器小皿	6.3	0.8	5.4	(砂粒) 小・少	内外面：浅黄橙7.5YR8/4	回転ナデ，回転ヘラキリ	回転ナデ	2/8	
88	38		D区 SB10 SP303	土師器杯	10.2	2.7	6.2	(砂粒) 小・普	内外面：灰白10YR8/1	回転ナデ，回転ヘラキリ	回転ナデ	2/8	
89	38		D区 SB10 SP365	土師器杯	10	2.8	7	(砂粒) 中・少	内面：浅黄橙10YR8/3 外面：灰黄褐10YR6/2	回転ナデ，回転ヘラキリ	回転ナデ	4/8	

番号	挿図	図版	遺構名	器　種	口径	器高	底径	胎　　土	色　　調	外面調整	内面調整	残存率	備　考
90	38		D区 SB10 SP791	土師器杯			8	(砂粒) 小・普	内外面：灰白10YR8/1	回転ナデ，回転ヘラキリ	回転ナデ	1/8	
91	38		D区 SB10 SP303	土師器土釜	17.6			(砂粒) 小・普	内外面：灰白2.5Y8/1	ヨコナデ，ハケ，指オサエ後ハケ	ヨコナデ，板ナデ	1/8	
92	38		D区 SB10 SP365	土師器土釜(脚部)				(砂粒) 大・多	内外面：橙7.5YR7/6	指オサエ後ナデ		8/8	
93	39		D区 SB11 SP319	土師器こね鉢	26			(砂粒) 大・普	内面：にぶい黄橙10YR7/3 外面：明黄褐10YR7/6	指オサエ後ナデ	板ナデ	1/8	
94	43	24	D区 SP141	土師器杯	9.8	2.7	6.6	(砂粒) 小・普	内外面：灰白7.5YR8/2	回転ナデ，回転ヘラキリ後板状圧痕	回転ナデ，回転ナデ後仕上げナデ	8/8	煤付着
95	43	24	D区 SP141	土師器杯	10.3	2.4	6	(砂粒) 小・多	内外面：灰白10YR8/2	回転ナデ，回転ヘラキリ	回転ナデ，回転ナデ後仕上げナデ	7/8	
96	43		D区 SP141	土師器杯	10.4	2.2	7.6	(砂粒) 小・普	内外面：灰白10YR8/2	回転ナデ	回転ナデ	1/8	
97	43		D区 SP141	土師器杯	10	2.5	6.2	(砂粒) 小・少	内面：灰白5Y7/1 外面：灰白2.5Y7/1	回転ナデ	回転ナデ	1/8	
99	43		D区 SP167	土師器小皿	6	0.8	4.4	(砂粒) 小・多	内外面：灰白2.5Y8/1	回転ナデ，回転ヘラキリ	回転ナデ	1/8	
100	43		D区 SP167	土師器土釜				(砂粒) 中・多	内面：浅黄橙10YR8/3 外面：浅黄橙10YR8/4	ヨコナデ，指オサエ	ヨコナデ	小片	
101	43		D区 SP208	土師器小皿				(砂粒) 小・少	内外面：浅黄橙7.5YR8/4	回転ナデ，回転ヘラキリ	回転ナデ	小片	
102	43		D区 SP208	土師器杯	9.2	2.8	5.4	(砂粒) 小・多	内外面：灰白10YR8/2	回転ナデ，回転ヘラキリ	回転ナデ	1/8	
103	43		D区 SP196	土師器小皿	6.4	0.9	5.2	(砂粒) 中・少	内面：灰白7.5YR8/2 外面：橙5YR7/6	回転ナデ，回転ヘラキリ	回転ナデ	2/8	
104	43		D区 SP196	土師器杯	10	3.1	7	(砂粒) 小・普	内外面：灰白10YR8/2	回転ナデ，回転ヘラキリ	回転ナデ	1/8	
105	43		D区 SB02 SP199	土師器小皿	7.5	0.7	7	(砂粒) 小・少	内外面：浅黄橙7.5YR8/3	回転ナデ，回転ヘラキリ	回転ナデ	1/8	
106	43	24	D区 SB02 SP199	土師器杯	10.6	3.6	7.2	(砂粒) 中・普	内外面：灰白10YR8/2	回転ナデ，回転ヘラキリ	回転ナデ	6/8	
107	43	25	D区 SP226	土師器小皿	5.8	0.9	4.2	(砂粒) 小・普	内外面：浅黄橙10YR8/3	回転ナデ，回転ヘラキリ後板状圧痕	回転ナデ	8/8	
108	43	25	D区 SP226	土師器小皿	5.9	1	4.7	(砂粒) 小・普	内外面：灰白2.5Y8/1	回転ナデ，回転ヘラキリ	回転ナデ	8/8	
109	43	25	D区 SP226	土師器小皿	6.3	1.1	5.2	(砂粒) 中・普	内外面：橙5YR7/6	回転ナデ，回転ヘラキリ後板状圧痕	回転ナデ	2/8	
110	43	25	D区 SP226	土師器小皿	6.6	1	4.8	(砂粒) 小・少	内外面：にぶい橙5YR7/4	回転ナデ，回転ヘラキリ	回転ナデ，回転ナデ後仕上げナデ	3/8	
111	43	25	D区 SP226	土師器杯	10.1	2.7	6.4	(砂粒) 大・少	内外面：灰白10YR8/1	回転ナデ，回転ヘラキリ	回転ナデ，回転ナデ後仕上げナデ	6/8	
112	43	25	D区 SP226	土師器杯	10	5.9	3	(砂粒) 中・少	内外面：灰白2.5Y8/1	回転ナデ，回転ヘラキリ	回転ナデ	7/8	
113	43	25	D区 SP226	土師器杯	10.8	2.9	7.3	(砂粒) 中・少	内外面：灰白10YR8/2	回転ナデ，回転ヘラキリ	回転ナデ，回転ナデ後仕上げナデ	8/8	
114	43		D区 SP233	土師器小皿	6	1.1	4.6	(砂粒) 中・少	内外面：にぶい黄橙10YR7/3	回転ナデ，回転ヘラキリ	回転ナデ	3/8	
115	43		D区 SP233	土師器杯	11.3	2.9	5.8	(砂粒) 小・普	内外面：灰白2.5Y8/2	回転ナデ，回転ヘラキリ	回転ナデ，回転ナデ後仕上げナデ	2/8	
116	43		D区 SP236	土師器小皿	6.7	0.9	5.2	(砂粒) 小・普	内外面：灰白10YR8/1	回転ナデ，回転ヘラキリ	回転ナデ	1/8	
117	43		D区 SP236	土師器小皿	6.5	0.7	5.6	(砂粒) 小・少	内外面：灰白2.5Y8/1	回転ナデ，回転ヘラキリ	回転ナデ	2/8	
118	43		D区 SP256	土師器小皿	5.6	1	4	(砂粒) 中・多	内外面：灰白7.5YR8/2	回転ナデ，回転ヘラキリ	回転ナデ	2/8	

番号	挿図	図版	遺構名	器　種	口径	器高	底径	胎　　土	色　　調	外面調整	内面調整	残存率	備　考
119	43		D区 SP256	土師器小皿	6.1	1	4.6	(砂粒) 小・普	内外面：浅黄橙7.5YR8/4	回転ナデ，回転ヘラキリ	回転ナデ	1/8	
120	43		D区 SP261	土師器小皿	6.4	1	5.2	(砂粒) 小・少	内外面：灰白10YR8/1	回転ナデ，回転ヘラキリ	回転ナデ	5/8	
121	43	24	D区 SP261	土師器杯				(砂粒) 小・普	内外面：浅黄橙10YR8/3	回転ナデ	回転ナデ	小片	
122	43		D区 SP296	土師器小皿	6.1	0.7	4.8	(砂粒) 中・普	内外面：浅黄橙7.5YR8/4	回転ナデ，回転ヘラキリ	回転ナデ	6/8	
123	43		D区 SP296	土師器小皿	6	0.7	5.4	(砂粒) 小・普	内外面：浅黄橙7.5YR8/4	回転ナデ，回転ヘラキリ	回転ナデ	3/8	
124	43		D区 SP296	土師器小皿	6.8	1	5.3	(砂粒) 大・少	内外面：浅黄橙10YR8/3	回転ナデ，回転ヘラキリ	回転ナデ	2/8	
125	43		D区 SP375	土師器小皿	5.8	0.6	5.4	(砂粒) 小・少	内外面：灰白2.5Y8/2	回転ナデ，回転ヘラキリ	回転ナデ	1/8	
126	43		D区 SP375	土師器土釜				(砂粒) 小・普	内外面：にぶい黄橙10YR7/3	指オサエ後ハケ，ハケ	指オサエ後ハケ	小片	
127	43		D区 SP546	土師器小皿	6	1.2	4.9	(砂粒) 小・普	内面：橙7.5YR7/6 外面：灰白10YR8/1	回転ナデ，回転ヘラキリ	回転ナデ	6/8	
128	43		D区 SP546	土師器小皿	7	0.8	5.4	(砂粒) 小・少	内外面：灰白2.5Y7/1	回転ナデ，回転ヘラキリ	回転ナデ	1/8	
129	43		D区 SP761	土師器小皿				(砂粒) 小・少	内外面：灰白10YR8/1	回転ナデ	回転ナデ	小片	
130	43		D区 SP761	土師器土鍋				(砂粒) 中・少	内面：にぶい黄橙10YR7/3 外面：灰黄褐10YR5/2	ヨコナデ	ヨコナデ後ハケ	小片	
131	43		D区 SP474	土師器土釜				(砂粒) 中・普	内外面：浅黄橙10YR8/4	指オサエ後ヨコナデ	ヨコナデ後ハケ	小片	煤付着
132	43		D区 SP474	土師器スリ鉢	28.7			(砂粒) 大・普	内外面：にぶい橙7.5YR6/4	回転ナデ，指オサエ後板ナデ	回転ナデ後板ナデ	1/8	卸目の痕跡
133	43		D区 SP474	土師器スリ鉢			11	(砂粒) 大・普	内面：にぶい橙7.5YR6/4 外面：にぶい橙7.5YR7/4	指オサエ後ハケ	ナデ後卸目	2/8	卸目8条1単位
134	43		D区 SP700	土師器杯	9	2.3	5.4	(砂粒) 中・少	内外面：橙5YR7/6	回転ナデ，回転ヘラキリ	回転ナデ	1/8	
135	43		D区 SP700	土師器土釜				(砂粒) 中・多	内外面：浅黄橙10YR8/3	指オサエ後ヨコナデ，指オサエ後ハケ	指オサエ後ヨコナデ	小片	
136	44		D区 SP315	土師器小皿	5.6	0.9	4	(砂粒) 大・少	内外面：淡赤橙2.5YR7/4	回転ナデ，磨滅	回転ナデ	1/8	
137	44		D区 SP691	土師器小皿	6	1.2	4	(砂粒) 小・少	内外面：浅黄橙7.5YR8/4	回転ナデ，回転ヘラキリ	回転ナデ	1/8	
138	44		D区 SP320	土師器小皿	6.2	0.9	5	(砂粒) 小・少	内外面：灰白10YR8/2	回転ナデ，回転ヘラキリ	回転ナデ	1/8	
139	44		D区 SP364	土師器小皿	5.6	0.7	4.5	(砂粒) 中・少	内外面：浅黄橙7.5YR8/4	回転ナデ，回転ヘラキリ	回転ナデ	1/8	
140	44		D区 SP619	土師器小皿	6	1	4.8	(砂粒) 小・普	内外面：浅黄橙7.5YR8/4	回転ナデ，回転ヘラキリ	回転ナデ	2/8	
141	44		D区 SP677	土師器小皿	6.1	1.1	5.1	(砂粒) 小・少	内外面：灰白2.5Y8/2	回転ナデ，回転ヘラキリ	回転ナデ	1/8	
142	44		D区 SP321	土師器小皿	6.6	0.9	4.7	(砂粒) 小・普	内外面：浅黄橙7.5YR8/6	回転ナデ，磨滅	回転ナデ	1/8	
143	44		D区 SP372	土師器小皿	7.8	1.2	6	(砂粒) 小・少	内面：浅黄橙7.5YR8/6 外面：浅黄橙7.5R8/4	回転ナデ，回転ヘラキリ	回転ナデ	1/8	
144	44		D区 SP334	土師器小皿				(砂粒) 小・少	内面：橙5YR7/6	回転ナデ，回転ヘラキリ	回転ナデ	小片	
145	44		D区 SP428	土師器小皿				(砂粒) 中・少	内外面：浅黄橙7.5YR8/4	回転ナデ，回転ヘラキリ	回転ナデ	小片	
146	44		D区 SP314	土師器杯	10	2.5	8	(砂粒) 小・普	内面：にぶい橙7.5YR7/4 外面：灰白10YR8/1	回転ナデ，回転ヘラキリ後板状圧痕	回転ナデ	4/8	
147	44		D区 SP592	土師器杯	10	2.4	6.3	(砂粒) 中・普	内外面：灰白10YR8/2	回転ナデ，回転ヘラキリ後板状圧痕	回転ナデ	1/8	
148	44		D区 SP687	土師器杯	9.8	2.8	6	(砂粒) 小・普	内外面：灰白10YR8/1	回転ナデ，回転ヘラキリ	回転ナデ，回転ナデ後仕上げナデ	8/8	
149	44		D区 SP59	土師器杯	10.2	2.2	7.8	(砂粒) 小・普	内外面：浅黄橙10YR8/4	回転ナデ，回転ヘラキリ	回転ナデ	2/8	
150	44		D区 SP210	土師器杯	10.8	2.8	6	(砂粒) 小・少	内面：橙7.5YR7/6 外面：灰白7.5YR8/2	回転ナデ，回転ヘラキリ	回転ナデ	1/8	

番号	挿図	図版	遺構名	器　種	口径	器高	底径	胎　　土	色　　調	外面調整	内面調整	残存率	備　考
151	44		D区 SP723	土師器杯	11	2.6	6.8	(砂粒) 中・普	内外面：灰白2.5Y8/1	回転ナデ，回転ヘラキリ後板状圧痕	回転ナデ	2/8	
152	44		D区 SP148	土師器杯	9.9	2.6	6.2	(砂粒) 中・少	内面：灰白10YR7/1 外面：灰白10YR8/1	回転ナデ，回転ヘラキリ	回転ナデ	2/8	
153	44		D区 SP358	土師器杯	5.4	2.3	6.8	(砂粒) 小・普	内外面：浅黄橙10YR8/3	回転ナデ，回転ヘラキリ	回転ナデ	1/8	
154	44		D区 SP178	土師器杯	10.9	2.8	7.2	(砂粒) 小・少	内面：灰白10YR8/2 外面：浅黄橙10YR8/3	回転ナデ，回転ヘラキリ後板状圧痕	回転ナデ，回転ナデ後仕上げナデ	2/8	
155	44		D区 SP90	土師器杯	10.8	2.5	6	(砂粒) 小・普	内外面：橙5YR7/6	回転ナデ，回転ヘラキリ	回転ナデ	1/8	
156	44		D区 SP744	土師器杯	10		7	(砂粒) 中・普	内外面：灰白2.5Y8/1	回転ナデ，回転ヘラキリ	回転ナデ	2/8	
157	44		D区 SP537	土師器杯	10.4			(砂粒) 小・普	内外面：灰白10YR8/2	回転ナデ	回転ナデ	1/8	
158	44		D区 SP318	土師器杯				(砂粒) 小・少	内外面：浅黄橙10YR8/3	回転ナデ	回転ナデ	小片	
159	44		D区 SP483	土師器杯				(砂粒) 小・普	内外面：浅黄橙7.5YR8/4	回転ナデ，回転ヘラキリ	回転ナデ	小片	
160	44		D区 SP217	土師器杯				(砂粒) 中・少	内面：灰白10YR8/2 外面：浅黄橙10YR8/3	回転ナデ	回転ナデ	小片	
161	44		D区 SP211	青磁椀			4.8	(砂粒) 精緻	釉：オリーブ灰2.5GY6/1 胎：灰白N8/	施釉，削り出し高台	施釉	8/8	
162	44		D区 SP508	土師器土鍋				(砂粒) 小・普	内面：灰黄褐10YR5/2 外面：褐灰10YR4/1	指オサエ後ヨコナデ	ヨコナデ	小片	
163	44		D区 SP441	土師器土鍋				(砂粒) 中・多	内面：浅黄橙7.5YR8/4 外面：にぶい黄橙10YR7/2	板ナデ後ナデ，指オサエ後板ナデ	板ナデ	小片	
164	44		D区 SP262	土師器土釜				(砂粒) 小・普	内面：橙7.5YR7/6 外面：橙7.5YR6/6	指オサエ後ヨコナデ，磨滅	ヨコナデ，ハケ	小片	
165	44		D区 SP439	土師器土釜				(砂粒) 中・多	内外面：浅黄橙10YR8/3	指オサエ後ヨコナデ，ナデ	指オサエ後ヨコナデ，ナデ	小片	煤付着
166	44	24	D区 SP648	土師器土釜	16			(砂粒) 中・多	内面：にぶい黄橙10YR7/3 外面：にぶい黄橙10YR6/3	ヨコナデ，指オサエ後ナデ，指オサエ後格子目タタキ後ハケ	ヨコナデ，指オサエ	1/8	煤付着
167	44		D区 SP669	土師器土釜	26.7			(砂粒) 中・少	内外面：灰黄2.5Y6/2	ヨコナデ，板ナデ後ヨコナデ，指オサエ	ヨコナデ，ハケ後ナデ	1/8	煤付着
168	44		D区 SP759	土師器土釜(脚部)				(砂粒) 中・普	内外面：浅黄橙10YR8/3	ナデ，指オサエ後ハケ		8/8	
169	44		D区 SP368	土師器土釜(脚部)				(砂粒) 小・普	外面：灰黄褐10YR6/2	指オサエ後ナデ		8/8	煤付着
170	44		D区 SP376	土師器土釜(脚部)				(砂粒) 小・多	外面：橙7.5YR6/6	ナデ		8/8	
171	44		D区 SP578	土師器こね鉢	29.4			(砂粒) 大・少	内外面：浅黄橙10YR7/2	指オサエ後回転ナデ	回転ナデ	1/8	
172	44		D区 SP775	須恵器こね鉢	25.4			(砂粒) 小・普	内面：灰白5Y7/1 外面：灰5Y6/1	回転ナデ	回転ナデ，板ナデ	1/8	東播系
173	44		D区 SP140	須恵器こね鉢				(砂粒) 小・少	内外面：灰N61	回転ナデ	回転ナデ	小片	東播系
174	44		D区 SP790	須恵器こね鉢				(砂粒) 小・普	内外面：灰N6/1	回転ナデ，板ナデ	回転ナデ	小片	東播系
175	44		D区 SP628	土師器土錘	1.2	4.7	2.6	(砂粒) 小・普	内外面：灰白10YR8/2	指オサエ後ナデ		8/8	
178	46		D区 SK02	土師器小皿	6.9	0.9	5.2	(砂粒) 小・普	内面：灰白2.5Y8/1 外面：黄灰2.5Y6/1	回転ナデ，回転ヘラキリ	回転ナデ	1/8	
179	46		D区 SK03	土師器小皿	7.8	0.8	6.8	(砂粒) 小・普	内面：にぶい橙7.5YR7/4 外面：灰白10YR8/2	回転ナデ，回転ヘラキリ	回転ナデ	1/8	

番号	挿図	図版	遺構名	器　種	口径	器高	底径	胎　　土	色　　調	外面調整	内面調整	残存率	備　考
180	46	25	D区 SK03	土師器土錘	0.9	4.4	2.2	(砂粒) 小・少	内外面：灰白2.5Y8/2	指オサエ後ナデ		8/8	
181	46	25	D区 SK03	土師器土錘	1		2.6	(砂粒) 小・少	内外面：灰白10YR8/2	指オサエ後ナデ		8/8	
182	46	25	D区 SK03	土師器土錘				(砂粒) 中・普	内外面：灰黄2.5Y7/2	指オサエ後ナデ		8/8	
183	46		D区 SK04	土師器小皿	7.6	0.9	6.7	(砂粒) 小・普	内面：灰白10YR8/2 外面：浅黄橙7.5YR8/4	回転ナデ，回転ヘラキリ	回転ナデ	1/8	
184	46	25	D区 SK04	土師器土錘	0.8	5.4	2	(砂粒) 中・多	内外面：にぶい黄橙10YR6/3	指オサエ後ナデ		8/8	
185	46	25	D区 SK04	土師器土錘	1.1	4.8	2.7	(砂粒) 小・少	内外面：灰白10YR8/1	指オサエ後ナデ		8/8	
186	47		D区 SK05	土師器小皿	6.8	1.2	4.9	(砂粒) 小・少	内外面：浅黄橙10YR8/3	回転ナデ，回転ヘラキリ	回転ナデ	1/8	
187	47		D区 SK05	土師器小皿	6.2	1	5.2	(砂粒) 小・少	内外面：にぶい橙7.5YR6/4	回転ナデ，回転ヘラキリ	回転ナデ	1/8	
188	47		D区 SK07	土師器杯	11.3			(砂粒) 小・少	内外面：浅黄橙7.5YR8/4	回転ナデ	回転ナデ	1/8	
189	47		D区 SK07	土師器土鍋				(砂粒) 中・普	内面：にぶい橙7.5YR7/4 外面：にぶい褐7.5YR5/3	ヨコナデ，ハケ	ヨコナデ後ハケ	小片	
190	47		D区 SK06	土師器小皿	6.2	0.8	5.3	(砂粒) 小・普	内面：浅黄橙7.5YR8/4 外面：橙5YR7/6	回転ナデ，回転ヘラキリ後板状圧痕	回転ナデ	3/8	
191	47		D区 SK06	土師器小皿	5.4	1	4.4	(砂粒) 小・普	内面：にぶい黄橙10YR7/4 外面：にぶい橙7.5YR6/4	回転ナデ，回転ヘラキリ	回転ナデ	2/8	
192	47		D区 SK06	土師器小皿	7.4	1.2	6	(砂粒) 小・普	内外面：灰白10YR8/2	回転ナデ，回転ヘラキリ	回転ナデ	2/8	
193	47		D区 SK06	土師器小皿	6.4		4.4	(砂粒) 小・普	内外面：にぶい橙7.5YR7/4	回転ナデ，回転ヘラキリ	回転ナデ	1/8	
194	47		D区 SK06	土師器杯	9.5	(2.2)	5.1	(砂粒) 中・普	内外面：浅黄橙7.5YR8/6	回転ナデ，磨滅	回転ナデ	1/8	
197	47		D区 SK08	土師器杯	9.8			(砂粒) 小・少	内面：灰白7.5YR8/2 外面：浅黄橙7.5YR8/3	回転ナデ	回転ナデ	1/8	
199	49		D区 SK09	土師器杯	10.8	1.9	7.3	(砂粒) 小・普	内外面：にぶい黄橙10YR7/2	回転ナデ，回転ヘラキリ	回転ナデ	1/8	
200	49		D区 SK09	土師器杯	11.4	(3)	7.6	(砂粒) 中・少	内外面：浅黄橙7.5YR8/4	回転ナデ，回転ヘラキリ	回転ナデ	1/8	
201	49		D区 SK09	土師器土釜	24.2			(砂粒) 小・多	内外面：浅黄橙10YR8/3	ヨコナデ後板ナデ，格子目タタキ後板ナデ	ハケ	1/8	
202	49		D区 SK10	土師器小皿	5.8	1.1	5.2	(砂粒) 小・普	内面：灰白10YR8/2 外面：浅黄橙7.5YR8/4	回転ナデ，回転ヘラキリ	回転ナデ	3/8	
203	49		D区 SK10	土師器杯	10.4	3	6	(砂粒) 中・普	内外面：灰白7.5YR8/2	回転ナデ，回転ヘラキリ	回転ナデ	2/8	
204	49		D区 SK10	土師器杯	10.8			(砂粒) 大・少	内外面：浅黄橙7.5YR8/4	回転ナデ	回転ナデ	2/8	
205	49		D区 SK10	土師器杯	10.4			(砂粒) 小・少	内外面：灰白2.5Y8/1	回転ナデ	回転ナデ	1/8	
206	49		D区 SK10	土師器杯				(砂粒) 小・普	内外面：浅黄橙10YR8/3	回転ナデ	回転ナデ	小片	
207	49		D区 SK11	土師器杯	11	2.1	7	(砂粒) 小・普	内面：灰白2.5Y7/1 外面：にぶい橙7.5YR6/4	回転ナデ，回転ヘラキリ	回転ナデ	1/8	
208	49		D区 SK12	土師器杯	9.9	1.8	7	(砂粒) 小・少	内外面：灰白10YR8/2	回転ナデ，回転ヘラキリ	回転ナデ	6/8	
209	49		D区 SK12	土師器土鍋				(砂粒) 中・普	内面：浅黄橙10YR8/3 外面：灰黄褐10YR5/2	ヨコナデ，ハケ後ヨコナデ	ハケ	小片	
210	49		D区 SK12	土師器土釜	21.5			(砂粒) 大・少	内面：浅黄2.5Y7/3 外面：にぶい褐7.5YR5/3	ヨコナデ，指オサエ後ナデ，指オサエ後板ナデ	ヨコナデ，板ナデ，指オサエ	1/8	煤付着
211	49		D区 SK12	土師器土釜	23			(砂粒) 中・普	内面：灰白10YR8/2 外面：にぶい黄橙10YR7/2	指オサエ後ヨコナデ，板ナデ	ヨコナデ	1/8	
212	49		D区 SK12	土師器土釜	24.4			(砂粒) 中・普	内面：浅黄橙10YR8/3 外面：灰黄褐10YR5/2	指オサエ後ヨコナデ	ヨコナデ	1/8	
213	49	25	D区 SK12	土師器土釜(脚部)				(砂粒) 中・少	内外面：灰白10YR8/2	指オサエ後ナデ		8/8	

番号	挿図	図版	遺構名	器　種	口径	器高	底径	胎　　土	色　　調	外面調整	内面調整	残存率	備　考
214	49		D区 SK12	土師器土釜(脚部)				(砂粒) 中・少	内面：灰白10YR8/2 外面：にぶい黄橙10YR7/2	指オサエ後ナデ		8/8	煤付着
215	49		D区 SK12	須恵器甕				(砂粒) 大・普	内外面：浅黄橙10YR8/3	板ナデ，格子目タタキ	剝落	小片	亀山焼
216	51		D区 SK18	土師器小皿	6	0.8	5.3	(砂粒) 小・普	内外面：灰白10YR8/2	回転ナデ，回転ヘラキリ	回転ナデ	4/8	
217	51		D区 SK18	土師器土釜				(砂粒) 中・普	内面：浅黄橙10YR8/3 外面：にぶい黄橙10YR7/3	指オサエ後ヨコナデ	ヨコナデ	小片	
218	51		D区 SK19	土師器小皿	7.4	1.4	5.6	(砂粒) 中・少	内外面：灰白2.5Y7/1	回転ナデ，回転ヘラキリ	回転ナデ	1/8	
219	51		D区 SK22	土師器小皿	5.4	1	3.5	(砂粒) 小・少	内外面：灰白10YR8/2	回転ナデ，回転ヘラキリ	回転ナデ	1/8	
220	51		D区 SK22	土師器杯	10.8	2.5	6.5	(砂粒) 中・少	内外面：浅黄橙7.5YR8/6	回転ナデ，回転ヘラキリ	回転ナデ	4/8	
221	51		D区 SK21	土師器杯	10.7	2.5	7	(砂粒) 小・少	内外面：灰白10YR8/2	回転ナデ，回転ヘラキリ	回転ナデ	1/8	
222	51		D区 SK21	土師器土釜				(砂粒) 大・少	内外面：にぶい黄橙10YR7/4	指オサエ後ヨコナデ，指オサエ後ハケ	ヨコナデ後板ハケ	小片	
223	51		D区 SK21	土師器土釜				(砂粒) 中・普	内面：にぶい黄橙10YR7/3 外面：にぶい黄橙10YR6/3	指オサエ後ヨコナデ，板ナデ	ヨコナデ，板ナデ	小片	
224	51		D区 SK21	須恵器スリ鉢				(砂粒) 小・少	内外面：灰白5Y7/1	ヨコナデ	板ナデ後卸目	小片	卸目単位不明
225	51		D区 SK21	須恵器こね鉢				(砂粒) 小・多	内外面：灰白5Y7/1	ヨコナデ	ヨコナデ	小片	東播系
226	51	25	D区 SK21	須恵器こね鉢	30			(砂粒) 大・普	内外面：灰白5Y8/1	ヨコナデ，指オサエ後板ナデ	ヨコナデ，板ナデ	2/8	東播系
227	54		D区 SE01	土師器小皿	5.8	1	5.4	(砂粒) 小・多	内外面：灰白10YR8/2	回転ナデ，回転ヘラキリ	回転ナデ	8/8	
228	54		D区 SE01	土師器杯	10.4			(砂粒) 中・普	内外面：浅黄橙10YR8/3	回転ナデ	回転ナデ	3/8	
229	54		D区 SE01	青磁椀				(砂粒) 精緻	釉：灰7.5YR6/1 胎：灰白N8/	施釉	施釉	小片	鎬蓮弁
230	54		D区 SE01	土師器土釜	24			(砂粒) 中・多	内外面：浅黄橙10YR8/3	指オサエ後ヨコナデ	指オサエ後板ナデ	1/8	沈線1条，煤付着
231	54		D区 SE01	土師器土釜				(砂粒) 小・普	内面：にぶい黄橙10YR7/3	指オサエ後ヨコナデ，指オサエ後板ナデ	指オサエ後ハケ	小片	
232	54		D区 SE01	土師器土釜				(砂粒) 中・普	内外面：灰黄2.5Y6/2	指オサエ後ヨコナデ	板ナデ	小片	煤付着
233	54		D区 SE01	土師器土釜				(砂粒) 小・普	内外面：灰黄2.5Y6/2	ヨコナデ，不明	ヨコナデ，板ナデ	小片	煤付着
234	54		D区 SE01	土師器土釜(脚部)				(砂粒) 中・普	内外面：灰白10YR8/2	指オサエ後ナデ		8/8	
235	54		D区 SE01	土師器土釜(脚部)				(砂粒) 大・少	外面：にぶい黄橙10YR7/3	指オサエ後ナデ		8/8	煤付着
236	54		D区 SE01	土師器土鍋				(砂粒) 中・多	内面：灰白10YR8/2 外面：にぶい橙7.5YR7/3	指オサエ後ハケ後ヨコナデ，ハケ後ナデ	ハケ	小片	
237	54		D区 SE01	土師器土鍋				(砂粒) 中・少	内面：灰黄2.5Y6/2 外面：黒褐2.5Y3/1	ヨコナデ，板ナデ，指オサエ	ヨコナデ，板ナデ	小片	煤付着
238	54		D区 SE01	土師器土鍋				(砂粒) 大・少	内面：浅黄橙10YR8/3 外面：灰黄褐10YR4/2	ヨコナデ	ヨコナデ，板ナデ	小片	
239	54		D区 SE01	土師器土鍋				(砂粒) 中・普	内外面：にぶい黄橙10YR6/3	ヨコナデ，指オサエ後ナデ	板ナデ	小片	
240	54	26	D区 SE01	瓦質土器甕				(砂粒) 大・少	内外面：灰5Y5/1	指オサエ，格子目タタキ	磨滅	小片	亀山焼
241	54		D区 SE01	土師器こね鉢	39.3			(砂粒) 中・多	内面：にぶい黄橙10YR7/2 外面：にぶい黄橙10YR6/3	ヨコナデ，指オサエ後ハケ	ヨコナデ，指オサエ後ハケ	1/8	口縁部有孔
242	54		D区 SE01	須恵器こね鉢				(砂粒) 小・普	内外面：灰色N71	ヨコナデ	ヨコナデ	小片	東播系

番号	挿図	図版	遺構名	器　種	口径	器高	底径	胎　　土	色　　調	外面調整	内面調整	残存率	備　考
243	56		D区 SE02	土師器小皿	6.6	0.9	5	(砂粒) 中・少	内外面：灰白10YR8/2	回転ナデ，回転ヘラキリ	回転ナデ	1/8	
244	56		D区 SE02	土師器杯				(砂粒) 小・普	内外面：浅黄橙10YR8/3	回転ナデ，回転ヘラキリ	回転ナデ	小片	
245	56		D区 SE02	土師器こね鉢			6.8	(砂粒) 中・少	内面：灰褐10YR5/1 外面：にぶい橙7.5YR7/3	回転ナデ，回転ヘラキリ後板状圧痕	回転ナデ後仕上げナデ	4/8	
247	57	26	D区 SD55	土師器小皿	7.3	1.1	5.8	(砂粒) 中・少	内外面：灰白10YR8/1	回転ナデ，回転ヘラキリ後板状圧痕	回転ナデ，回転ナデ後仕上げナデ	8/8	
248	57		D区 SD55	土師器小皿	7.8	0.7	6	(砂粒) 小・普	内外面：にぶい黄橙10YR7/2	回転ナデ，回転ヘラキリ	回転ナデ	1/8	
249	57		D区 SD55	土師器小皿	7.2	0.8	5.4	(砂粒) 小・少	内外面：浅黄橙10YR8/3	回転ナデ，回転ヘラキリ	回転ナデ	2/8	
250	57	26	D区 SD55	土師器杯	11.3	3.3	6.1	(砂粒) 小・普	内外面：浅黄橙7.5YR8/3	回転ナデ，回転ヘラキリ後板状圧痕	回転ナデ	8/8	
251	57	26	D区 SD55	土師器杯	11.5	7.8	3.4	(砂粒) 中・普	内面：灰白10YR8/2 外面：灰白10YR8/1	回転ナデ，回転ヘラキリ後板状圧痕	回転ナデ	8/8	
252	57		D区 SD01	土師器杯	10.4	3.3	6.5	(砂粒) 小・普	内外面：浅黄橙10YR8/3	回転ナデ，回転ヘラキリ	回転ナデ	3/8	
253	57		D区 SD55	土師器杯	10.8		6.8	(砂粒) 中・少	内外面：灰白2.5Y8/2	回転ナデ，回転ヘラキリ	回転ナデ	2/8	
254	57		D区 SD55	土師器杯	11.2			(砂粒) 中・普	内外面：灰白2.5Y8/2	回転ナデ	回転ナデ	2/8	
255	57		D区 SD55	土師器杯				(砂粒) 小・普	内面：灰白10YR8/1 外面：灰白10YR8/2	回転ナデ，回転ヘラキリ	回転ナデ	小片	
256	57		D区 SD55	土師器杯				(砂粒) 小・多	内外面：灰白10YR8/1	回転ナデ，回転ヘラキリ	回転ナデ	小片	
257	57		D区 SD55	土師器杯			8	(砂粒) 大・少	内外面：浅黄橙7.5YR8/3	回転ナデ，回転ヘラキリ	回転ナデ	2/8	
258	57		D区 SD55	土師器土錘				(砂粒) 中・少	内面：灰白7.5YR8/2 外面：橙7.5YR7/6	指オサエ後ナデ		3/8	
259	57	26	D区 SD55	土師器土釜(脚部)				(砂粒) 大・少	内外面：にぶい褐7.5YR6/3	指オサエ後ナデ		8/8	
260	60		D区 SD02	土師器杯	11.4	3.1	7.6	(砂粒) 小・普	内外面：灰白2.5Y8/2	回転ナデ，回転ヘラキリ	回転ナデ	4/8	
261	60		D区 SD02	土師器土錘	1	4.3	2.5	(砂粒) 小・普	内外面：灰白10YR8/2	指オサエ後ナデ		8/8	
262	60		D区 SD02	土師器土釜(脚部)				(砂粒) 中・普	内外面：にぶい黄橙10YR7/2	指オサエ後ナデ		8/8	
263	60		D区 SD03	土師器土鍋				(砂粒) 中・少	内面：灰白10YR8/2 外面：灰黄褐10YR4/2	ヨコナデ後ハケ	ヨコナデ	小片	
264	60		D区 SD03	瓦質土器瓶			4.4	(砂粒) 小・少	内面：灰N4/ 外面：暗灰N3/	回転ナデ	回転ナデ	2/8	
265	60		D区 SD23	須恵器こね鉢				(砂粒) 小・少	内面：灰黄2.5YR6/2 外面：灰白5Y7/1	回転ナデ	回転ナデ	小片	東播系
266	61		D区 SD59	土師器土釜(脚部)				(砂粒) 小・普	内外面：にぶい黄橙10YR7/3	指オサエ後ナデ		8/8	
268	61		D区 SD60	土師器小皿	6.8	1	5.8	(砂粒) 小・少	内外面：にぶい橙7.5YR7/4	回転ナデ，回転ヘラキリ	回転ナデ	1/8	
269	61		D区 SD60	土師器土釜				(砂粒) 中・普	内面：にぶい橙7.5YR6/4 外面：にぶい黄橙10YR7/3	指オサエ後ヨコナデ	ヨコナデ後ハケ	小片	
270	61		D区 SD60	土師器土釜	20.1			(砂粒) 中・普	内外面：にぶい橙7.5YR6/4	板ナデ後ヨコナデ，ハケ	指オサエ後ヨコナデ	1/8	
271	61		D区 SD60	須恵器こね鉢				(砂粒) 中・少	内外面：灰N6/	回転ナデ	回転ナデ	小片	東播系
272	61		D区 SD60	須恵器甕				(砂粒) 小・少	内面：灰白N7/ 外面：灰N4/	ヨコナデ(磨滅)	ヨコナデ(磨滅)	小片	亀山焼
273	62		D区 SD41，43	土師器杯	11.2	3	7.6	(砂粒) 小・普	内外面：灰白2.5Y8/2	回転ナデ，回転ヘラキリ	回転ナデ	4/8	
274	62		D区 SD41	土師器杯	11.4	2.3	8.1	(砂粒) 小・普	内外面：浅黄橙10YR8/3	回転ナデ，回転ヘラキリ	回転ナデ	2/8	

番号	挿図	図版	遺構名	器　種	口径	器高	底径	胎　　土	色　　調	外面調整	内面調整	残存率	備　考
275	62		D区 SD41, 43	土師器杯	10.6	2.9	7	(砂粒) 中・普	内外面：灰白2.5Y8/1	回転ナデ，回転ヘラキリ	回転ナデ	3/8	
276	62		D区 SD41	土師器土鍋				(砂粒) 大・普	内外面：褐灰10YR4/1	ヨコナデ，ハケ	ヨコナデ，ハケ後板ナデ	小片	
277	62		D区 SD41	土師器土鍋				(砂粒) 中・普	内面：橙5YR6/6 外面：明赤褐5YR5/6	ヨコナデ,指オサエ後ナデ,磨滅	ハケ	小片	煤付着
278	62		D区 SX03	土師器土釜	33			(砂粒) 中・普	内面：にぶい橙7.5YR6/4 外面：にぶい橙7.5YR7/4	ヨコナデ，ハケ	板ナデ	1/8	
279	62		D区 SX03	土師器土釜				(砂粒) 中・普	内面：灰黄2.5Y7/2 外面：灰黄褐10YR5/2	ヨコナデ，指オサエ後ナデ	ヨコナデ，板ナデ	小片	煤付着
280	62		D区 SX03	土師器土釜				(砂粒) 中・多	内外面：灰白10YR8/2	指オサエ後ヨコナデ	板ナデ，ハケ	小片	煤付着
281	62		D区 SX03	土師器土釜(脚部)				(砂粒) 中・普	内面：にぶい黄橙10YR7/3 外面：灰白10YR8/2	指オサエ後ナデ		8/8	煤付着
282	62		D区 SX03	土師器土鍋				(砂粒) 中・少	内面：にぶい黄橙10YR7/3 外面：にぶい橙7.5YR6/4	板ナデ	板ナデ	小片	
283	62		D区 SX03	須恵器こね鉢				(砂粒) 中・普	内外面：灰白2.5Y8/1	回転ナデ，ナデ	指オサエ後回転ナデ，板ナデ	小片	東播系
284	62		D区 SX03, SD41	土師器土鍋				(砂粒) 中・普	内面：にぶい黄褐10YR7/3 外面：にぶい黄褐10YR6/3	ハケ，ヨコナデ	ヨコナデ	小片	
285	62		D区 SX03, SD41	土師器土釜				(砂粒) 大・普	内面：にぶい黄橙10YR7/4 外面：にぶい褐7.5YR5/4	ヨコナデ,指オサエ後ナデ,板ナデ，ハケ	ヨコナデ，ハケ	小片	煤付着
286	62		D区 SX03, SD41	土師器土釜(脚部)				(砂粒) 大・少	内外面：にぶい黄橙10YR6/3	指オサエ後ナデ		8/8	
287	63		D区 SX02	土師器小皿	6	1.1	5	(砂粒) 中・少	内外面：灰白10YR8/2	回転ナデ，回転ヘラキリ	回転ナデ	2/8	
288	63		D区 SX02	土師器小皿	7	1	6.6	(砂粒) 小・普	内面：灰白10YR8/2 外面：橙5YR7/6	回転ナデ，回転ヘラキリ	回転ナデ	3/8	
289	63		D区 SX02	土師器杯				(砂粒) 小・普	内外面：灰白10YR8/2	回転ナデ，回転ヘラキリ	回転ナデ	小片	
290	63		D区 SX02	土師器杯	10.3	2	6	(砂粒) 小・少	内面：浅黄橙10YR8/3 外面：にぶい黄橙10YR7/2	回転ナデ，回転ヘラキリ	回転ナデ	1/8	
291	63		D区 SX02	青磁椀	12.8			(砂粒) 精緻	釉：明オリーブ灰5GY7/1 胎：灰白N8/	施釉	施釉	1/8	鎬蓮弁
292	63	26	D区 SX02	青磁椀			5.2	(砂粒) 精緻	釉：オリーブ灰2.5GY6/1 胎：灰白5Y7/1	底部無釉，施釉後削り出し高台	施釉	4/8	唐草文
293	63		D区 SX02	土師器土鍋				(砂粒) 中・多	内外面：にぶい橙5YR6/4	ヨコナデ，指オサエ後ナデ	板ナデ	小片	
294	63		D区 SX02	土師器土鍋				(砂粒) 中・普	内外面：浅黄橙7.5YR8/4	ヨコナデ後板ナデ，指オサエ後ナデ	ヨコナデ後板ナデ	小片	煤付着
295	63		D区 SX02	土師器土釜				(砂粒) 中・普	内面：褐灰10YR6/1 外面：にぶい褐7.5YR5/3	指オサエ後ヨコナデ，ハケ後板ナデ	板ナデ	小片	
296	63		D区 SX02	土師器土釜				(砂粒) 中・普	内面：灰白10YR8/2 外面：浅黄橙10YR8/3	ヨコナデ，ナデ	板ナデ	小片	煤付着
297	63		D区 SX02	土師器土釜(脚部)				(砂粒) 小・多	内面：浅黄橙10YR8/3 外面：にぶい黄橙10YR6/3	指オサエ後ナデ		8/8	
298	63		D区 SX02	土師器こね鉢				(砂粒) 中・多	内外面：にぶい黄橙10YR6/3	ヨコナデ	ヨコナデ	小片	煤付着
299	63		D区 SX02	土師器こね鉢			11	(砂粒) 中・普	内外面：灰白10YR8/2	回転ナデ，回転ヘラキリ	回転ナデ	3/8	
300	63		D区 SX02	須恵器こね鉢				(砂粒) 小・普	内外面：灰N6/	回転ナデ	指オサエ後回転ナデ	小片	東播系
301	63		D区 SX02	土師器土錘	1.3	5.9	3	(砂粒) 小・多	内外面：にぶい黄橙10YR6/4	指オサエ後ナデ		8/8	

番号	挿図	図版	遺構名	器　種	口径	器高	底径	胎　　土	色　　調	外面調整	内面調整	残存率	備　考
302	65	26	D区 SD34	土師器小皿	7.2	1.1	5.5	(砂粒) 小・普	内外面：灰白7.5YR8/2	回転ナデ，回転ヘラキリ	回転ナデ	8/8	
303	65	26	D区 SD34	土師器杯	11.7	2.8	7.7	(砂粒) 小・普	内外面：浅黄橙7.5YR8/4	回転ナデ，回転ヘラキリ	回転ナデ	5/8	
304	65	26	D区 SD34	土師器杯	11.4	3.1	7.8	(砂粒) 中・普	内外面：浅黄橙7.5YR8/4	回転ナデ，回転ヘラキリ	回転ナデ	4/8	
305	65	26	D区 SD34	土師器杯	11.8	2.9	7.6	(砂粒) 小・少	内外面：灰白10YR8/2	回転ナデ，回転ヘラキリ	回転ナデ	4/8	
306	65	26	D区 SD34	土師器土鍋				(砂粒) 中・普	内外面：橙5YR6/6	板ナデ後ヨコナデ，指オサエ後ナデ	板ナデ後ヨコナデ，板ナデ	小片	
307	65	26	D区 SD34	土師器土釜				(砂粒) 中・普	内面：灰黄褐10YR4/2 外面：にぶい橙7.5YR6/4	指オサエ後ヨコナデ，指オサエ後ハケ後ナデ	板ナデ後ナデ	小片	
308	65	26	D区 SD34	土師器土釜				(砂粒) 小・多	内面：にぶい黄橙10YR7/3 外面：にぶい黄橙10YR6/3	ヨコナデ後ハケ，指オサエ後板ナデ後ナデ，ハケ後ナデ	ヨコナデ，ハケ	小片	
309	65	26	D区 SD34	土師器土釜(脚部)				(砂粒) 小・多	内外面：にぶい黄橙10YR7/3	指オサエ後ナデ		8/8	
310	65		D区 SD45	土師器土鍋				(砂粒) 大・少	内外面：にぶい橙7.5YR6/4	ハケ，ヨコナデ	ハケ	小片	
311	65		D区 SD51	須恵器こね鉢				(砂粒) 中・普	内外面：にぶい黄橙10YR7/2	ハケ後ナデ	回転ナデ	小片	
312	65		D区 SX04	土師器小皿	5.6			(砂粒) 小・少	内外面：灰白10YR8/2	回転ナデ，回転ヘラキリ	回転ナデ	1/8	
313	65		D区 SX05	土師器杯				(砂粒) 小・少	内外面：灰白2.5Y8/2	回転ナデ	回転ナデ	小片	
314	65		D区 SX06	土師器杯	9	2.5	5.8	(砂粒) 中・少	内面：灰白10YR8/1 外面：浅黄橙10YR8/3	回転ナデ，回転ヘラキリ	回転ナデ	1/8	
315	65		D区 SX07	土師器土鍋				(砂粒) 小・普	内外面：にぶい黄橙10YR6/3	ヨコナデ，指オサエ後板ナデ	ハケ	小片	
316	65		D区 SX07	土師器土鍋				(砂粒) 中・普	内面：にぶい黄橙10YR7/3 外面：灰黄褐10YR5/2	ヨコナデ，指オサエ後ナデ	ハケ，ナデ	小片	煤付着
317	65		D区 SX01	土師器小皿	6	1.1	4	(砂粒) 小・少	内外面：灰白10YR8/2	回転ナデ，回転ヘラキリ	回転ナデ	1/8	
318	65		D区 SX01	土師器杯	10.2	2.3	6.1	(砂粒) 小・普	内外面：灰白7.5YR8/2	回転ナデ	回転ナデ	1/8	
319	65		D区 SX01	須恵器杯	13	(3.2)	8.3	(砂粒) 小・普	内面：灰白N8/ 外面：灰白2.5Y8/1	回転ナデ，回転ヘラキリ	回転ナデ	1/8	
320	65		D区 SX01	青磁椀				(砂粒) 精緻	釉：灰10Y6/1 胎：灰白N8/	施釉	施釉	小片	鎬蓮弁
321	65		D区 SX01	白磁椀			5.1	(砂粒) 精緻	釉：灰白5GY8/1 胎：灰白N8/1	施釉，削り出し高台	施釉	7/8	
322	65		D区 SX01	土師器土釜	23.2			(砂粒) 大・少	内外面：浅黄橙10YR8/3	ヨコナデ，指オサエ後ナデ	板ナデ	1/8	
323	65		D区 SX01	土師器土釜				(砂粒) 小・多	内面：灰白10YR8/2 外面：橙5YR6/6	ヨコナデ，指オサエ	ヨコナデ，ナデ	小片	
324	66		D区 SD61	土師器小皿	6.3	0.8	5	(砂粒) 小・普	内外面：灰白10YR8/2	回転ナデ，回転ヘラキリ	回転ナデ	1/8	
325	66		D区 SD62	土師器小皿	6	1	6	(砂粒) 大・少	内外面：灰白10YR8/2	回転ナデ，回転ヘラキリ	回転ナデ	1/8	
326	66		D区 SD62	土師器杯	9.7	2.1	5.7	(砂粒) 小・多	内外面：にぶい黄橙10YR7/2	回転ナデ，回転ヘラキリ後板状圧痕	回転ナデ	2/8	
327	66		D区 SD62	土師器土錘	0.9	5.4	2.2	(砂粒) 小・少	内外面：灰白10YR8/1	指オサエ後ナデ		8/8	
328	66		D区 SD57	土師器土釜	21.4			(砂粒) 小・普	内面：橙7.5YR7/6 外面：にぶい黄橙10YR7/3	指オサエ後ヨコナデ，ナデ	ヨコナデ	1/8	
329	66		D区 SD66	土師器土釜(脚部)				(砂粒) 中・普	内外面：灰黄褐10YR5/2	指オサエ後ナデ		8/8	
332	68		D区 上面精査・包含層	土師器小皿	5.8	0.9	5.4	(砂粒) 中・普	内面：にぶい橙7.5YR7/4 外面：灰白7.5YR8/2	回転ナデ，回転ヘラキリ後板状圧痕	回転ナデ	4/8	

番号	挿図	図版	遺構名	器　種	口径	器高	底径	胎　　土	色　　調	外面調整	内面調整	残存率	備　考
333	68		D区 上面精査・包含層	土師器小皿	6.1	1.1	5.2	(砂粒) 中・普	内外面：浅黄橙7.5YR8/4	回転ナデ，磨滅	回転ナデ	2/8	
334	68		D区 上面精査・包含層	土師器小皿	6.4	0.9	5.2	(砂粒) 中・少	内外面：灰白7.5YR8/2	回転ナデ，回転ヘラキリ	回転ナデ	3/8	
335	68		D区 上面精査・包含層	土師器杯	10.3	2.8	6.2	(砂粒) 小・少	内外面：灰白2.5Y8/2	回転ナデ，回転ヘラキリ	回転ナデ	2/8	
336	68		D区 上面精査・包含層	土師器杯	10.7	2.6	6.3	(砂粒) 大・少	内面：灰白10YR8/2 外面：灰白10YR8/1	回転ナデ，回転ヘラキリ	回転ナデ	3/8	
337	68		D区 上面精査・包含層	土師器杯	10.4	2.4	5.8	(砂粒) 中・普	内外面：浅黄橙7.5YR8/4	回転ナデ，回転ヘラキリ	回転ナデ	2/8	
338	68		D区 上面精査・包含層	土師器杯	10.2	2.4	6.2	(砂粒) 小・少	内面：灰白7.5Y8/2 外面：にぶい橙5YR7/4	回転ナデ，回転ヘラキリ	回転ナデ	4/8	
339	68		D区 上面精査・包含層	土師器杯	10.8	2	6.4	(砂粒) 小・多	内外面：浅黄橙7.5YR8/4	回転ナデ	回転ナデ	1/8	
340	68		D区 上面精査・包含層	須恵器杯	15.6	4.2	9.6	(砂粒) 大・多	内外面：灰白5Y8/1	回転ナデ，回転ヘラキリ	回転ナデ	1/8	
341	68		D区 上面精査・包含層	青磁椀	16			(砂粒) 精緻	釉：明オリーブ灰5GY7/1 胎：灰白N8/	施釉	施釉	1/8	鎬蓮弁
342	68		D区 上面精査・包含層	青磁椀	16.4			(砂粒) 精緻	釉：明オリーブ灰2.5GY7/1 胎：灰白N8/1	施釉	施釉	1/8	鎬蓮弁
343	68		D区 上面精査・包含層	土師器土鍋	35.5			(砂粒) 中・多	内面：灰黄褐10YR6/2 外面：にぶい褐7.5YR5/4	ヨコナデ，指オサエ後ナデ	ヨコナデ，ハケ	1/8	煤付着
344	68		D区 上面精査・包含層	土師器土鍋				(砂粒) 小・普	内面：にぶい橙7.5YR6/4 外面：にぶい黄橙10YR7/4	ハケ後ヨコナデ，ハケ	ハケ	小片	
245	68		D区 上面精査・包含層	土師器土鍋				(砂粒) 中・多	内外面：灰黄褐10YR6/2	ハケ後ヨコナデ，指オサエ後ナデ	ヨコナデ	小片	
346	68		D区 上面精査・包含層	土師器土鍋				(砂粒) 中・普	内面：にぶい橙7.5YR7/4 外面：にぶい橙7.5YR6/4	ヨコナデ，磨滅	ハケ	小片	
347	68		D区 上面精査・包含層	土師器土釜				(砂粒) 中・多	内面：灰白10YR8/2 外面：にぶい黄橙10YR7/3	ヨコナデ，指オサエ，板ナデ	ハケ	小片	煤付着
348	68		D区 上面精査・包含層	土師器土釜	26.4			(砂粒) 中・多	内面：灰黄2.5Y7/2 外面：橙5YR6/6	ヨコナデ，指オサエ	ハケ	1/8	
349	68		D区 上面精査・包含層	土師器土釜	25.6			(砂粒) 中・多	内外面：灰白10YR8/2	ヨコナデ，指オサエ後ナデ	ヨコナデ，指オサエ後ナデ	1/8	
350	68		D区 上面精査・包含層	土師器土釜(脚部)				(砂粒) 小・少	内面：浅黄橙10YR8/3 外面：灰黄褐10YR6/2	指オサエ後板ナデ，ナデ		8/8	
351	69		D区 上面精査・包含層	須恵器こね鉢	25.7			(砂粒) 大・少	内面：灰白2.5YR7/1 外面：灰白5YR7/1	回転ナデ	回転ナデ	1/8	東播系
352	69		D区 上面精査・包含層	須恵器こね鉢	27			(砂粒) 小・多	内面：灰N6/ 外面：灰N6/ (口縁)暗オリーブ灰2.5GY4/1	回転ナデ	回転ナデ	1/8	東播系
353	69		D区 上面精査・包含層	須恵器スリ鉢	26			(砂粒) 中・少	内外面：灰白N8/	回転ナデ，ハケ，磨滅	回転ナデ後卸目	2/8	卸目11条1単位
354	69		D区 上面精査・包含層	須恵器こね鉢				(砂粒) 小・普	内面：灰白N7/ 外面：灰N6/	回転ナデ	回転ナデ	小片	東播系
355	69		D区 上面精査・包含層	須恵器こね鉢				(砂粒) 中・少	内外面：灰白5Y7/1	回転ナデ	回転ナデ	小片	東播系

番号	挿図	図版	遺構名	器　種	口径	器高	底径	胎　　土	色　　調	外面調整	内面調整	残存率	備　考
356	69		D区 上面精査・包含層	土師器土錘	0.3	3.2	0.9	(砂粒) 小・普	内外面：にぶい黄褐10YR5/3	ナデ		8/8	
357	69		D区 上面精査・包含層	土師器土錘	1.2	4.3	2.3	(砂粒) 小・普	内外面：浅黄橙10YR8/4	指オサエ後ナデ		8/8	
358	69		D区 上面精査・包含層	土師器土錘	1.0	4.7	2.6	(砂粒) 小・少	内外面：にぶい黄橙10YR7/2	指オサエ後ナデ		8/8	
359	69		D区 上面精査・包含層	土師器土錘	1.3	4.8	2.9	(砂粒) 小・普	内面：橙5YR6/6 外面：橙7.5YR6/6	指オサエ後ナデ		8/8	
364	70		A1区 SP55	縄文土器			7.8	(砂粒) 中・多	内面：灰黄褐10YR6/2 外面：にぶい橙7.5YR6/4	縄文	ナデ，板ナデ	1/8	
384	77		A1区 SD01	縄文土器				(砂粒) 中・多	内外面：浅黄2.5Y7/3	刻み目，磨滅	磨滅	小片	
385	77		A1区 SD01	土師器小皿	7.1	1.1	5.4	(砂粒) 中・普	内面：褐灰10YR6/1 外面：浅黄橙7.5YR8/4	回転ナデ，回転ヘラキリ後板状圧痕	回転ナデ	8/8	
386	77		A1区 SD01	土師器杯	10.9	2.8	6.2	(砂粒) 小・少	内外面：灰白10YR8/1	回転ナデ，回転ヘラキリ	回転ナデ	3/8	
387	77		A1区 SD01	土師器杯	10.6	(3.1)	6.4	(砂粒) 小・少	内外面：灰白10YR8/1	回転ナデ，回転ヘラキリ	回転ナデ	4/8	
388	77		A1区 SD01	土師器杯	11.6	2.8	4.2	(砂粒) 小・少	内外面：灰白10YR7/1	回転ナデ，回転ヘラキリ	回転ナデ	2/8	
389	77		A1区 SD01	土師器土鍋				(砂粒) 大・普	内面：灰黄褐10YR6/2 外面：にぶい黄橙10YR7/2	ヨコナデ，指オサエ後ハケ	ヨコナデ，不明	小片	
390	77		A1区 SD01	土師器土釜(脚部)				(砂粒) 小・普	内外面：淡黄2.5Y8/3	指オサエ後ナデ		8/8	
398	78		A1区 SD02	土師器小皿				(砂粒) 小・普	内面：灰白10YR7/1 外面：灰黄褐10YR6/2	回転ナデ，回転ヘラキリ	回転ナデ	小片	
399	78		A1区 SD02	土師器杯				(砂粒) 小・普	内外面：灰白10YR8/2	回転ナデ	回転ナデ	小片	
400	78		A1区 SD02	土師器杯	12.2	3.3	5.2	(砂粒) 小・少	内面：灰白2.5Y7/1 外面：にぶい黄橙10YR7/3	回転ナデ，回転ヘラキリ	回転ナデ	2/8	
401	78		A1区 SD02	青磁椀				(砂粒) 精緻	釉：オリーブ黄5Y6/3 胎：灰白5Y8/1	施釉	施釉	小片	蓮華文
412	79		A1区 機械掘削，上層上面精査	須恵器土製円盤	4.4	厚 1		(砂粒) 中・少	内面：灰5Y6/1 外面：灰5Y5/1	タタキ後ナデ	板ナデ後ナデ	8/8	
424	81		B1区 SP41	縄文土器				(砂粒) 小・少	内面：にぶい橙7.5YR6/4 外面：橙7.5YR6/6	縄文	ヘラケズリ	小片	特殊突帯
425	81		B1区 SP41	縄文土器				(砂粒) 大・多	内外面：褐灰10YR4/1	指オサエ後縄文	縄文，指オサエ	小片	
430	85	38	B1区 SX08	縄文土器				(砂粒) 小・普	内面：にぶい黄橙10YR7/2 外面：灰黄褐10YR5/2	縄文，爪形文	刻み目，縄文，指オサエ後板ナデ	小片	特殊突帯
431	85	38	B1区 SX08	縄文土器				(砂粒) 中・普	内面：にぶい黄橙10YR7/4 外面：にぶい黄橙10YR6/4	指オサエ後ナデ	指オサエ	小片	特殊突帯
432	85	38	B1区 SX08	縄文土器				(砂粒) 大・多	内外面：浅黄2.5Y7/3	指オサエ後ナデ	磨滅	小片	特殊突帯
433	85		B1区 SX08	縄文土器				(砂粒) 大・少	内面：灰黄2.5Y7/2 外面：灰黄褐10YR6/2	縄文	磨滅	小片	特殊突帯
434	85		B1区 SX08	縄文土器				(砂粒) 大・普	内面：浅黄橙10YR8/3 外面：にぶい黄橙10YR7/4	縄文	磨滅	小片	特殊突帯
435	85		B1区 SX08	縄文土器				(砂粒) 大・多	内面：にぶい黄橙10YR6/3 外面：にぶい黄橙10YR7/2	磨滅	刻み目，磨滅	小片	
436	85		B1区 SX08	縄文土器				(砂粒) 中・普	内面：橙5YR6/8 外面：浅黄橙10YR8/3	刻み目，ナデ	ナデ	小片	

番号	挿図	図版	遺構名	器　種	口径	器高	底径	胎　　土	色　　調	外面調整	内面調整	残存率	備　考
444	87		B1区 SR01	縄文土器				(砂粒) 中・普	内面：明赤褐5YR5/6 外面：にぶい褐7.5YR5/4	縄文	指オサエ	小片	特殊突帯
445	87		B1区 SR01	縄文土器				(砂粒) 中・多	内外面：にぶい黄橙10YR6/3	半截竹管文，刻み目	ナデ	小片	
446	87	38	B1区 SR01	縄文土器				(砂粒) 中・普	内面：灰5Y5/1 外面：浅黄橙10YR8/4	縄文	ナデ	小片	特殊突帯
447	87		B1区 SR01	縄文土器				(砂粒) 中・普	内面：灰5Y6/1 外面：浅黄橙10YR8/3	ナデ	磨滅	小片	特殊突帯
448	87		B1区 SR01	縄文土器				(砂粒) 大・少	内面：灰5Y5/1 外面：浅黄橙10YR8/3	ナデ	磨滅	小片	特殊突帯
449	87		B1区 SR01	縄文土器				(砂粒) 中・普	内面：灰白10YR8/1 外面：浅黄橙10YR8/3	ヨコナデ	指オサエ後ナデ	小片	突帯
450	87		B1区 SR01	縄文土器				(砂粒) 中・普	内面：黄灰2.5Y6/1 外面：灰5Y5/1	指オサエ後ナデ	指オサエ後ナデ	小片	特殊突帯
451	87		B1区 SR01	縄文土器				(砂粒) 中・普	内外面：にぶい黄橙10YR7/3	指オサエ，縄文	指オサエ	小片	特殊突帯
452	87		B1区 SR01	縄文土器				(砂粒) 大・普	内外面：灰黄2.5Y7/2	磨滅	指オサエ	小片	特殊突帯
453	87		B1区 SR01	縄文土器				(砂粒) 大・普	内面：褐灰10YR4/1 外面：黄灰2.5Y5/1	磨滅	磨滅	小片	特殊突帯
454	87		B1区 SR01	縄文土器				(砂粒) 中・多	内面：橙7.5YR7/6 外面：浅黄橙10YR8/3	磨滅	磨滅	小片	特殊突帯
455	87	巻頭	B1区 SR01	縄文土器				(砂粒) 大・普	内面：黄灰2.5Y5/1 外面：にぶい黄橙10YR7/3	磨滅	磨滅	小片	特殊突帯
456	87	39	B1区 SR01	縄文土器				(砂粒) 大・普	内面：橙7.5YR6/6 外面：浅黄橙10YR8/3	刻み目，縄文	指オサエ	小片	特殊突帯
457	87	巻頭	B1区 SR01	縄文土器				(砂粒) 大・普	内面：橙7.5YR6/6 外面：にぶい黄橙10YR7/3	縄文	指オサエ	小片	特殊突帯
458	87	38	B1区 SR01	縄文土器				(砂粒) 中・少	内外面：にぶい黄橙10YR6/4	ナデ，縄文	指オサエ後ナデ	小片	
459	87		B1区 SR01	縄文土器				(砂粒) 中・普	内面：にぶい黄橙10YR7/3 外面：にぶい橙7.5YR6/4	縄文	磨滅	小片	
460	87		B1区 SR01	縄文土器				(砂粒) 中・少	内外面：にぶい橙7.5YR6/4	縄文	指オサエ	小片	
461	87		B1区 SR01	縄文土器				(砂粒) 中・普	内面：にぶい黄橙10YR7/3 外面：黄灰2.5Y6/1	縄文	ナデ	小片	
462	87		B1区 SR01	縄文土器			8.6	(砂粒) 大・多	内面：にぶい黄橙10YR7/2 外面：灰黄褐10YR6/2	指オサエ，磨滅	指オサエ，磨滅	7/8	
463	87	39	B1区 SR01	縄文土器			10.7	(砂粒) 大・普	内面：灰黄2.5Y7/2 外面：暗灰黄2.5Y5/2	指オサエ	指オサエ後ナデ	4/8	
464	87		B1区 SR01	縄文土器				(砂粒) 大・多	内面：にぶい黄橙10YR7/4 外面：黄灰2.5Y5/1	指オサエ	指オサエ	6/8	
483	89	40	B1区 下層包含層,下層上面精査	縄文土器				(砂粒) 大・少	内面：灰黄2.5Y6/2 外面：黄灰2.5Y6/1	磨滅	磨滅	小片	特殊突帯
484	89		B1区 下層包含層,下層上面精査	縄文土器				(砂粒) 大・多	内面：にぶい黄橙10YR6/4 外面：灰白2.5Y8/2	ナデ	磨滅	小片	特殊突帯
485	89		B1区 下層包含層,下層上面精査	縄文土器				(砂粒) 大・普	内面：にぶい黄褐10YR5/3 外面：にぶい黄橙10YR6/3	ナデ	ナデ，刻み目	小片	特殊突帯
486	89	40	B1区 下層包含層,下層上面精査	縄文土器				(砂粒) 大・多	内外面：オリーブ黒5Y3/1	ナデ	磨滅	小片	特殊突帯
487	89		B1区 下層包含層,下層上面精査	縄文土器				(砂粒) 大・普	内面：黄灰2.5Y5/1 外面：灰黄2.5Y6/2	磨滅	磨滅	小片	特殊突帯

番号	挿図	図版	遺構名	器　種	口径	器高	底径	胎　　土	色　　調	外面調整	内面調整	残存率	備　考
488	89		B1区 下層包含層,下層上面精査	弥生土器壺	16.2			(砂粒) 中・多	内面：にぶい黄橙10YR6/4 外面：にぶい褐7.5YR5/4	ヨコナデ，磨滅	磨滅	1/8	
489	89		B1区 下層包含層,下層上面精査	弥生土器壺				(砂粒) 大・普	内外面：橙5YR6/6	磨滅，刻み目	磨滅	小片	
490	89		B1区 下層包含層,下層上面精査	弥生土器甕				(砂粒) 大・多	内面：明黄褐10YR7/6 外面：灰白2.5Y8/2	貼り付け突帯後刻み目，磨滅	磨滅	小片	
491	89		B1区 下層包含層,下層上面精査	弥生土器甕				(砂粒) 大・多	内面：にぶい橙7.5YR6/4 外面：にぶい黄橙10YR7/4	刻み目，磨滅	磨滅	小片	
500	90		B1区 機械掘削，上面精査	縄文土器				(砂粒) 大・少	内面：灰5Y4/1 外面：にぶい黄橙10YR6/4	刻み目	磨滅	小片	特殊突帯
501	90		B1区 機械掘削，上面精査	縄文土器				(砂粒) 大・少	内面：褐灰10YR5/1 外面：にぶい黄橙10YR6/3	縄文	ナデ	小片	特殊突帯
502	90		B1区 機械掘削，上面精査	縄文土器				(砂粒) 大・少	内面：灰5Y5/1 外面：黄灰2.5Y5/1	突帯刻み目，磨滅	磨滅	小片	
503	90		B1区 機械掘削，上面精査	灰釉			5.5	(砂粒) 中・少	釉：オリーブ黄5Y6/3 胎：灰白5Y7/1	施釉，回転糸切り	施釉	6/8	
504	90		B1区 機械掘削，上面精査	土師器土錘	0.4	3.8	1.3	(砂粒) 小・少	内外面：灰白2.5Y8/2	指オサエ後ナデ		8/8	
583	95		B1区 出土位置不明	縄文土器			6	(砂粒) 大・多	内外面：灰黄褐10YR6/2	縄文	指オサエ	4/8	
584	95		B1区 出土位置不明	弥生土器底部			8.6	(砂粒) 大・多	内面：にぶい黄橙10YR7/3 外面：橙2.5YR6/6	板ナデ，磨滅	磨滅，指オサエ	8/8	
585	95		B1区 出土位置不明	弥生土器甕				(砂粒) 大・多	内面：浅黄橙10YR8/3 外面：橙7.5YR6/6	貼り付け突帯後刻み目，磨滅	磨滅	小片	
586	95		B1区 出土位置不明	白磁椀	14.8			(砂粒) 情緻	釉：灰色7.5Y8/1 胎：灰色N8/	施釉	施釉	1/8	櫛目文

第6表　石器観察表

番号	挿図	図版	遺構名	器種	重量(g)	材質	備考
11	20		D区　予備調査 22	スクレイパー	32.22	サヌカイト	
19	24		D区　下層包含層	打製石斧未製品	126.53	サヌカイト	刃部折損
20	25	22	D区　下層包含層	異形局部磨製石器（トロトロ石器）	5.30	メノウ	
21	25	22	D区　下層包含層	石鏃	4.07	サヌカイト	尖基式
22	25		D区　下層包含層	石鏃	0.90	サヌカイト	凹基式
23	25		D区　下層包含層	石鏃	0.76	サヌカイト	凹基式
24	25		D区　下層包含層	石鏃	0.36	サヌカイト	凹基式
25	25	22	D区　下層包含層	石鏃未製品	2.65	サヌカイト	
26	25	22	D区　下層包含層	石鏃未製品	2.75	サヌカイト	
27	25	22	D区　下層包含層	打製石斧	43.12	サヌカイト	刃部折損
28	25		D区　下層包含層	石匙	13.49	サヌカイト	刃部折損，C形態か？
29	25	23	D区　下層包含層	スクレイパー	9.11	サヌカイト	
30	25	23	D区　下層包含層	スクレイパー	18.33	サヌカイト	
31	25	23	D区　下層包含層	スクレイパー	25.31	サヌカイト	
32	25		D区　下層包含層	スクレイパー	26.20	サヌカイト	
33	25	23	D区　下層包含層	スクレイパー	55.40	サヌカイト	
34	25	23	D区　下層包含層	スクレイパー	62.15	サヌカイト	
82	37	24	D区　SB09 SP318	砥石	30.49	流紋岩	擦痕
98	43		D区　SP141	石鏃	0.31	サヌカイト	凹基式
176	45		D区　SP583	石鏃	0.49	サヌカイト	凹基式
177	45		D区　SP590	打製石斧	109.20	サヌカイト	基部折損
195	47		D区　SK06	石鏃	0.68	サヌカイト	凹基式
196	47		D区　SK06	石鏃	0.82	サヌカイト	凹基式
198	47	25	D区　SK08	石匙	9.04	サヌカイト	A形態，刃部折損
246	56	26	D区　SE02	打製石斧	157.09	サヌカイト	使用痕，基部折損？
267	61		D区　SD59	石鏃	1.27	サヌカイト	凹基式
330	66		D区　SD66	石匙	23.57	サヌカイト	A形態，一部折損
331	67		D区　SD67	石鏃	1.88	サヌカイト	凹基式
360	69		D区　上面精査，包含層	石鏃	1.16	サヌカイト	凹基式
361	69		D区　上面精査，包含層	石鏃	1.58	サヌカイト	凹基式
362	69		D区　上面精査，包含層	石匙	36.24	サヌカイト	A形態
363	70		A1区　SP37	石鏃	0.67	サヌカイト	凹基式
365	70		A1区　SX06	石鏃	1.08	サヌカイト	凹基式
366	74	31	A1区　下層上面精査	石鏃	0.45	サヌカイト	凹基式
367	74	31	A1区　下層上面精査	石鏃	0.32	サヌカイト	凹基式
368	74	31	A1区　下層上面精査	石鏃	0.94	サヌカイト	平基式
369	74	31	A1区　下層上面精査	石匙	17.73	サヌカイト	A形態
370	75	31	A1区　下層包含層	石鏃	1.02	サヌカイト	凹基式

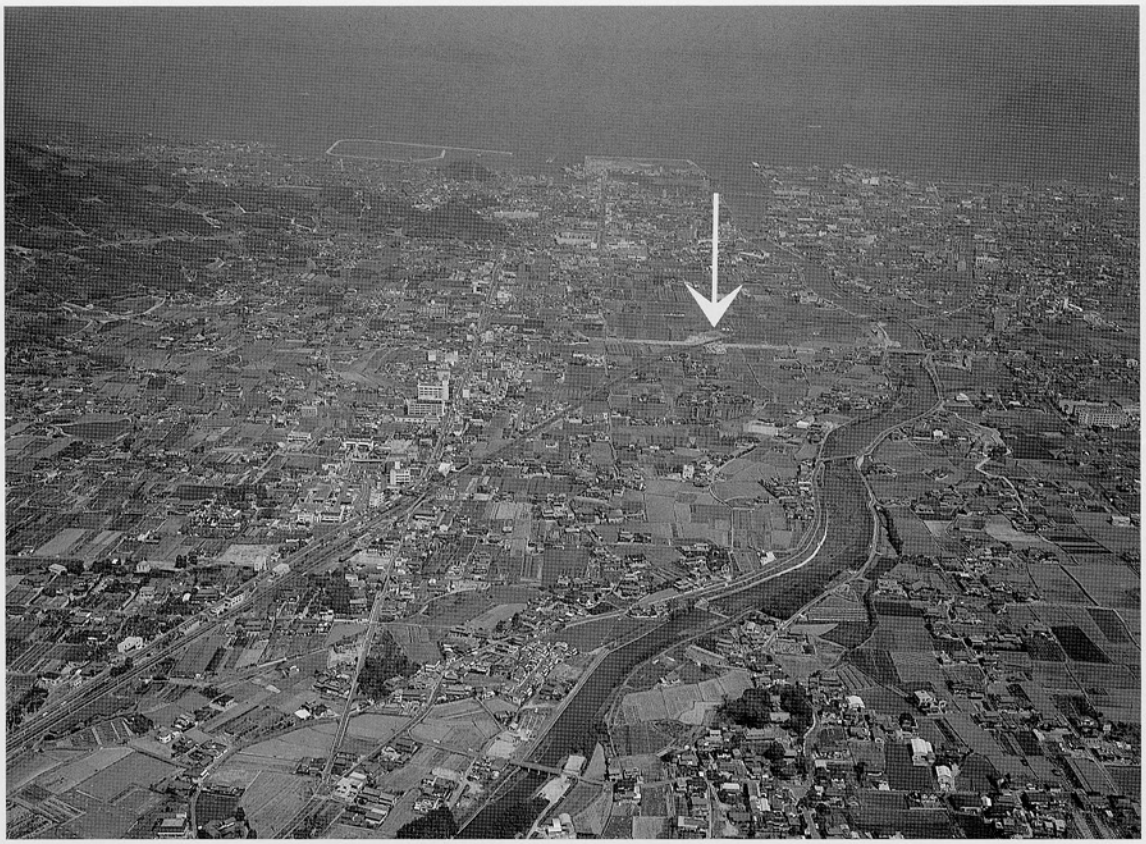
番号	挿図	図版	遺　構　名	器　種	重量(g)	材　質	備　考
371	75	31	A1区　下層包含層	石鏃	0.58	サヌカイト	凹基式
372	75	31	A1区　下層包含層	石鏃	1.54	サヌカイト	凹基式
373	75		A1区　下層包含層	石鏃	0.48	サヌカイト	凹基式
374	75		A1区　下層包含層	石鏃	0.64	サヌカイト	凹基式，先端部折損
375	75	31	A1区　下層包含層	石鏃	0.49	サヌカイト	凹基式
376	75	31	A1区　下層包含層	石鏃	0.75	サヌカイト	凹基式
377	75		A1区　下層包含層	石鏃	0.65	サヌカイト	凹基式
378	75		A1区　下層包含層	石鏃	0.82	サヌカイト	基部折損
379	75		A1区　下層包含層	尖頭器	3.01	サヌカイト	尖頭部折損
380	75		A1区　下層包含層	石匙	29.86	サヌカイト	A 形態
381	75	31	A1区　下層包含層	石匙	35.33	サヌカイト	A 形態
382	75	31	A1区　下層包含層	石匙	25.26	サヌカイト	A 形態
383	75	31	A1区　下層包含層	石匙	19.21	サヌカイト	A 形態
391	77	31	A1区　SD01	石鏃	0.56	サヌカイト	凹基式
392	77	31	A1区　SD01	石鏃	1.17	サヌカイト	凹基式
393	77	31	A1区　SD01	石匙	10.48	サヌカイト	A 形態，一部折損
394	77	31	A1区　SD01	石匙	13.51	サヌカイト	C 形態，一部折損
395	77	31	A1区　SD01	石匙	22.20	サヌカイト	A 形態，茎部折損
396	77		A1区　SD01	スクレイパー	29.06	サヌカイト	
397	77	31	A1区　SD01	スクレイパー	71.54	サヌカイト	
402	78	31	A1区　SD02	石鏃	1.47	サヌカイト	尖基式
403	78	31	A1区　SD02	石鏃	2.14	サヌカイト	尖基式
404	78	31	A1区　SD02	石鏃	0.75	サヌカイト	凹基式
405	78	31	A1区　SD02	石鏃	0.59	サヌカイト	凹基式
406	78	31	A1区　SD02	石鏃	0.55	サヌカイト	凹基式
407	78	31	A1区　SD02	石匙	21.17	サヌカイト	A 形態
408	78		A1区　SD02	石匙	24.10	サヌカイト	A 形態，基部折損
409	78	31	A1区　SD02	石匙未製品	19.48	サヌカイト	
410	78	31	A1区　SD02	石錐	0.47	サヌカイト	上部折損
411	78		A1区　SD02	石錐	1.05	サヌカイト	上部折損
413	79	31	A1区　機械掘削，上層上面精査	石鏃	1.00	サヌカイト	尖基式
414	79	31	A1区　機械掘削，上層上面精査	石鏃	0.79	サヌカイト	凹基式
415	79		A1区　機械掘削，上層上面精査	石鏃	1.28	サヌカイト	凹基式
416	79		A1区　機械掘削，上層上面精査	石鏃	0.71	サヌカイト	凹基式
417	79		A1区　機械掘削，上層上面精査	石匙	10.91	サヌカイト	B 形態
418	79	31	A1区　械機掘削，上層上面精査	石匙	16.73	サヌカイト	A 形態
419	79	31	A1区　機械掘削，上層上面精査	石匙	30.66	サヌカイト	A 形態
420	79	31	A1区　機械掘削，上層上面精査	石匙	27.64	サヌカイト	A 形態
421	79		A1区　機械掘削，上層上面精査	スクレイパー	55.79	サヌカイト	

番号	挿図	図版	遺構名	器種	重量(g)	材質	備考
422	79		A1区 機械掘削，上層上面精査	スクレイパー	48.04	サヌカイト	
423	79		A1区 機械掘削，上層上面精査	スクレイパー	37.79	サヌカイト	
426	81		B1区 SP41	石鏃	0.44	サヌカイト	凹基式
427	81		B1区 SP41	石鏃	0.44	サヌカイト	凹基式
428	84		B1区 SX04	石匙	15.36	サヌカイト	A形態，一部折損
429	84		B1区 SX05	器種不明	82.34	サヌカイト	二次加工
437	85	38	B1区 SX08	石鏃	0.33	サヌカイト	凹基式
438	85	38	B1区 SX08	石鏃	0.74	サヌカイト	凹基式
439	85	38	B1区 SX08	石匙	10.54	サヌカイト	A形態
440	85	38	B1区 SX08	石匙	10.86	サヌカイト	C形態，茎部折損
441	85	38	B1区 SX08	石匙	9.76	サヌカイト	C形態，茎部折損
442	86		B1区 SD03	石鏃	0.75	サヌカイト	凹基式
443	86		B1区 SD03	石鏃	3.58	サヌカイト	平基式
465	87	39	B1区 SR01	石鏃	0.91	サヌカイト	凹基式
466	87	39	B1区 SR01	石鏃	0.19	サヌカイト	凹基式
467	87	39	B1区 SR01	石鏃	0.55	サヌカイト	凹基式
468	87	39	B1区 SR01	石鏃	0.59	サヌカイト	凹基式
469	87	39	B1区 SR01	石鏃	0.77	サヌカイト	凹基式
470	87	39	B1区 SR01	尖頭器	46.58	サヌカイト	
471	88	40	B1区 SR01	石匙	15.99	サヌカイト	A形態，一部折損
472	88	40	B1区 SR01	石匙	13.13	サヌカイト	A形態
473	88	40	B1区 SR01	石匙	10.51	サヌカイト	A形態
474	88	40	B1区 SR01	石匙	23.89	サヌカイト	A形態
475	88	40	B1区 SR01	石匙	18.19	サヌカイト	A形態
476	88	40	B1区 SR01	石匙	8.23	サヌカイト	A形態
477	88	40	B1区 SR01	石匙	10.13	サヌカイト	C形態
478	88	40	B1区 SR01	石匙	10.79	サヌカイト	形態不明，両側辺折損
479	88	40	B1区 SR01	石匙	41.32	サヌカイト	
480	88	40	B1区 SR01	石匙未製品	18.43	サヌカイト	
481	88	40	B1区 SR01	スクレイパー	27.34	サヌカイト	
482	88	40	B1区 SR01	スクレイパー	40.99	サヌカイト	
492	89	41	B1区 下層包含層，下層上面精査	石鏃未製品	2.28	サヌカイト	
493	89		B1区 下層包含層，下層上面精査	石鏃	1.55	サヌカイト	凹基式
494	89	41	B1区 下層包含層，下層上面精査	石鏃	1.67	サヌカイト	平基式
495	89		B1区 下層包含層，下層上面精査	尖頭器	9.61	サヌカイト	
496	89		B1区 下層包含層，下層上面精査	石匙	4.07	サヌカイト	縦形
497	89		B1区 下層包含層，下層上面精査	磨製石斧	66.54	緑泥変岩	先端部擦痕
498	89		B1区 下層包含層，下層上面精査	打製石斧	59.20	サヌカイト	刃部折損
499	89		B1区 下層包含層，下層上面精査	楔形石器	50.41	サヌカイト	

番号	挿図	図版	遺　構　名	器　種	重量(g)	材　質	備　考
505	91	41	B1区　機械掘削，上層上面精査	石鏃	1.84	サヌカイト	尖基式
506	91	41	B1区　機械掘削，上層上面精査	石鏃	3.49	サヌカイト	尖基式
507	91		B1区　機械掘削，上層上面精査	石鏃	3.33	サヌカイト	尖基式
508	91	41	B1区　機械掘削，上層上面精査	石鏃	4.27	サヌカイト	尖基式，基部両面被熱
509	91		B1区　機械掘削，上層上面精査	石鏃	0.86	サヌカイト	凹基式
510	91	41	B1区　機械掘削，上層上面精査	石鏃	1.06	サヌカイト	凹基式
511	91	41	B1区　機械掘削，上層上面精査	石鏃	0.86	サヌカイト	凹基式
512	91	41	B1区　機械掘削，上層上面精査	石鏃	0.61	サヌカイト	凹基式，基部皮膜状の付着物
513	91		B1区　機械掘削，上層上面精査	石鏃	0.33	サヌカイト	凹基式
514	91	41	B1区　機械掘削，上層上面精査	石鏃	0.69	サヌカイト	凹基式
515	91	41	B1区　機械掘削，上層上面精査	石鏃	0.69	サヌカイト	凹基式
516	91	41	B1区　機械掘削，上層上面精査	石鏃	1.58	サヌカイト	凹基式
517	91	41	B1区　機械掘削，上層上面精査	石鏃	0.99	サヌカイト	凹基式
518	91	41	B1区　機械掘削，上層上面精査	石鏃	0.98	サヌカイト	凹基式
519	91		B1区　機械掘削，上層上面精査	石鏃	0.98	サヌカイト	凹基式
520	91		B1区　機械掘削，上層上面精査	石鏃	0.45	サヌカイト	凹基式
521	91	41	B1区　機械掘削，上層上面精査	石鏃	0.47	サヌカイト	凹基式
522	91	41	B1区　機械掘削，上層上面精査	石鏃	0.46	サヌカイト	凹基式
523	91	41	B1区　機械掘削，上層上面精査	石鏃	0.48	サヌカイト	凹基式
524	91	41	B1区　機械掘削，上層上面精査	石鏃	0.58	サヌカイト	凹基式
525	91	41	B1区　機械掘削，上層上面精査	石鏃	0.64	サヌカイト	凹基式
526	91	41	B1区　機械掘削，上層上面精査	石鏃	0.48	サヌカイト	凹基式
527	91	41	B1区　機械掘削，上層上面精査	石鏃	1.57	サヌカイト	凹基式
528	91	41	B1区　機械掘削，上層上面精査	石鏃	0.92	サヌカイト	凹基式
529	91		B1区　機械掘削，上層上面精査	石鏃	1.36	サヌカイト	凹基式
530	91	41	B1区　機械掘削，上層上面精査	石鏃	0.58	サヌカイト	凹基式
531	91	41	B1区　機械掘削，上層上面精査	石鏃	0.45	サヌカイト	凹基式
532	91	41	B1区　機械掘削，上層上面精査	石鏃	0.52	サヌカイト	凹基式
533	91	41	B1区　機械掘削，上層上面精査	石鏃	1.61	サヌカイト	凹基式
534	91	41	B1区　機械掘削，上層上面精査	石鏃	0.86	サヌカイト	凹基式
535	91	41	B1区　機械掘削，上層上面精査	石鏃	1.73	サヌカイト	凹基式
536	91	41	B1区　機械掘削，上層上面精査	石鏃	0.90	サヌカイト	凹基式
537	91	41	B1区　機械掘削，上層上面精査	石鏃	0.83	サヌカイト	凹基式
538	91	41	B1区　機械掘削，上層上面精査	石鏃	2.27	サヌカイト	平基式
539	91	41	B1区　機械掘削，上層上面精査	石鏃	0.55	サヌカイト	平基式
540	91		B1区　機械掘削，上層上面精査	石鏃未製品	3.80	サヌカイト	
541	91	41	B1区　機械掘削，上層上面精査	石鏃未製品	2.93	サヌカイト	
542	91	41	B1区　機械掘削，上層上面精査	石鏃未製品	2.52	サヌカイト	平基式，細部調整がやや粗雑
543	91	41	B1区　機械掘削，上層上面精査	石鏃未製品	0.88	サヌカイト	凹基式

番号	挿図	図版	遺構名	器種	重量(g)	材質	備考
544	92	42	B1区 械機掘削，上層上面精査	尖頭器	11.07	サヌカイト	
545	92	42	B1区 機械掘削，上層上面精査	尖頭器	4.24	サヌカイト	
546	92		B1区 機械掘削，上層上面精査	尖頭器	3.64	サヌカイト	基部折損
547	92	42	B1区 機械掘削，上層上面精査	尖頭器	12.52	サヌカイト	基部折損
548	92	41	B1区 機械掘削，上層上面精査	尖頭器	4.44	サヌカイト	基部折損
549	92	42	B1区 機械掘削，上層上面精査	尖頭器	4.62	サヌカイト	
550	92		B1区 機械掘削，上層上面精査	尖頭器	5.40	サヌカイト	尖頭部折損
551	92		B1区 機械掘削，上層上面精査	尖頭器	3.83	サヌカイト	尖頭部折損，磨滅
552	92		B1区 機械掘削，上層上面精査	尖頭器	4.94	サヌカイト	尖頭部折損
553	92	42	B1区 機械掘削，上層上面精査	石匙	16.79	サヌカイト	A形態
554	92	42	B1区 機械掘削，上層上面精査	石匙	19.13	サヌカイト	A形態
555	92		B1区 機械掘削，上層上面精査	石匙	13.72	サヌカイト	A形態
556	92	42	B1区 機械掘削，上層上面精査	石匙	10.31	サヌカイト	A形態
557	92	43	B1区 機械掘削，上層上面精査	石匙	8.62	サヌカイト	A形態
558	92	43	B1区 機械掘削，上層上面精査	石匙	6.04	サヌカイト	A形態
559	92	42	B1区 機械掘削，上層上面精査	石匙	14.60	サヌカイト	A形態
560	92	43	B1区 機械掘削，上層上面精査	石匙	16.93	サヌカイト	A形態
561	93	42	B1区 機械掘削，上層上面精査	石匙	16.84	サヌカイト	C形態
562	93	42	B1区 機械掘削，上層上面精査	石匙	6.84	サヌカイト	C形態
563	93	42	B1区 機械掘削，上層上面精査	石匙	6.46	サヌカイト	C形態
564	93	42	B1区 機械掘削，上層上面精査	石匙	14.23	サヌカイト	C形態
565	93	43	B1区 機械掘削，上層上面精査	石匙	5.35	サヌカイト	C形態
566	93	42	B1区 機械掘削，上層上面精査	石匙	5.96	サヌカイト	縦形，一面に被熱によると思われる変質部有り
567	93		B1区 機械掘削，上層上面精査	石匙	3.91	サヌカイト	縦形
568	93	42	B1区 機械掘削，上層上面精査	石匙未製品	21.24	サヌカイト	
569	93	43	B1区 機械掘削，上層上面精査	石匙未製品	4.11	サヌカイト	茎部折損
570	93	43	B1区 機械掘削，上層上面精査	石匙未製品	9.17	サヌカイト	一部折損
571	93	42	B1区 機械掘削，上層上面精査	石包丁	43.87	サヌカイト	
572	94	41	B1区 機械掘削，上層上面精査	石錐	0.86	サヌカイト	上部折損
573	94	43	B1区 機械掘削，上層上面精査	石錐	1.53	サヌカイト	
574	94	43	B1区 機械掘削，上層上面精査	石錐	2.39	サヌカイト	
575	94	43	B1区 機械掘削，上層上面精査	石斧	47.79	サヌカイト	基部折損，刃部の一部擦痕・磨滅
576	94		B1区 機械掘削，上層上面精査	石斧	47.48	サヌカイト	基部・刃部折損，磨滅
577	94	43	B1区 機械掘削，上層上面精査	石斧	104.77	サヌカイト	基部折損，刃部に潰れ
578	94		B1区 機械掘削，上層上面精査	打製石斧	44.61	サヌカイト	基部折損
579	94		B1区 機械掘削，上層上面精査	スクレイパー	25.38	サヌカイト	
580	94		B1区 機械掘削，上層上面精査	スクレイパー	34.82	サヌカイト	
581	94		B1区 機械掘削，上層上面精査	スクレイパー	28.07	サヌカイト	
582	94		B1区 機械掘削，上層上面精査	スクレイパー	43.07	サヌカイト	

図　　版



西打遺跡遠景（南から，矢印が遺跡）

西打遺跡遠景（後方は勝賀山，東から）

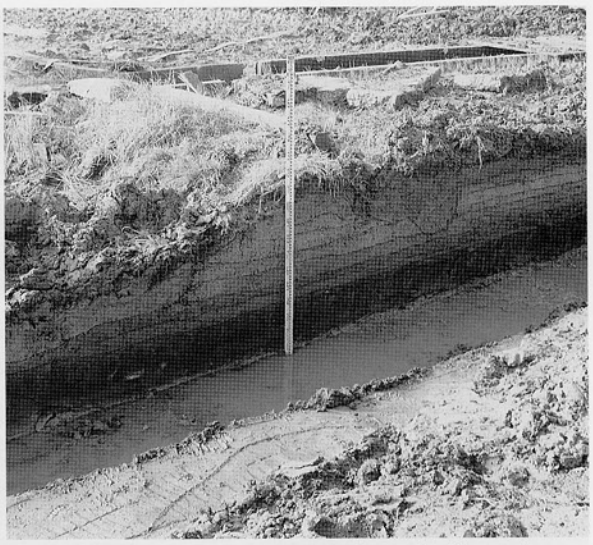
図版 2

遺跡付近写真(I)（左が北，ステレオ，昭和37年撮影）　A．西打遺跡 D区　B．佐村城

遺跡付近写真(2)（左が北，ステレオ，昭和37年撮影）

図版 4

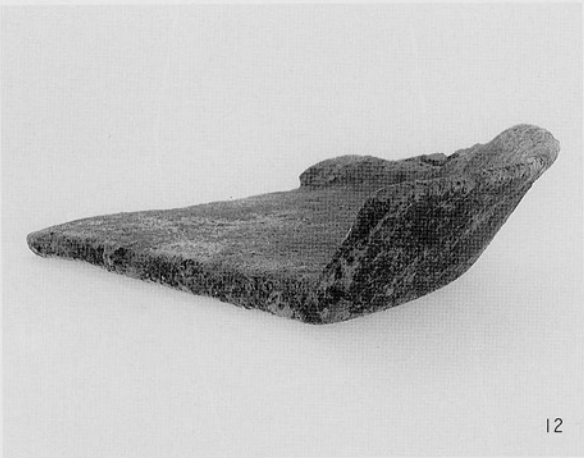
予備調査 13トレンチ南部（南から）

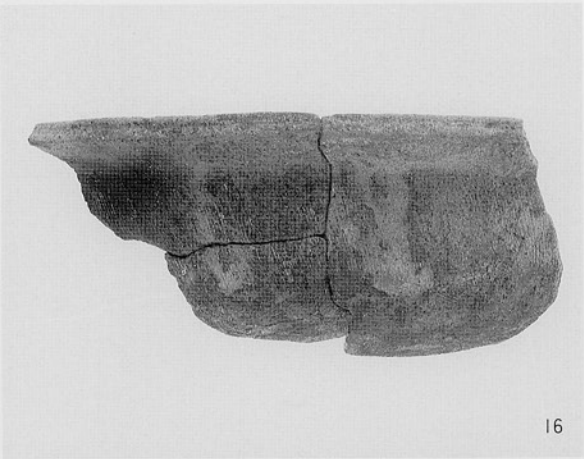


予備調査 12トレンチ西部 流路（北東から）

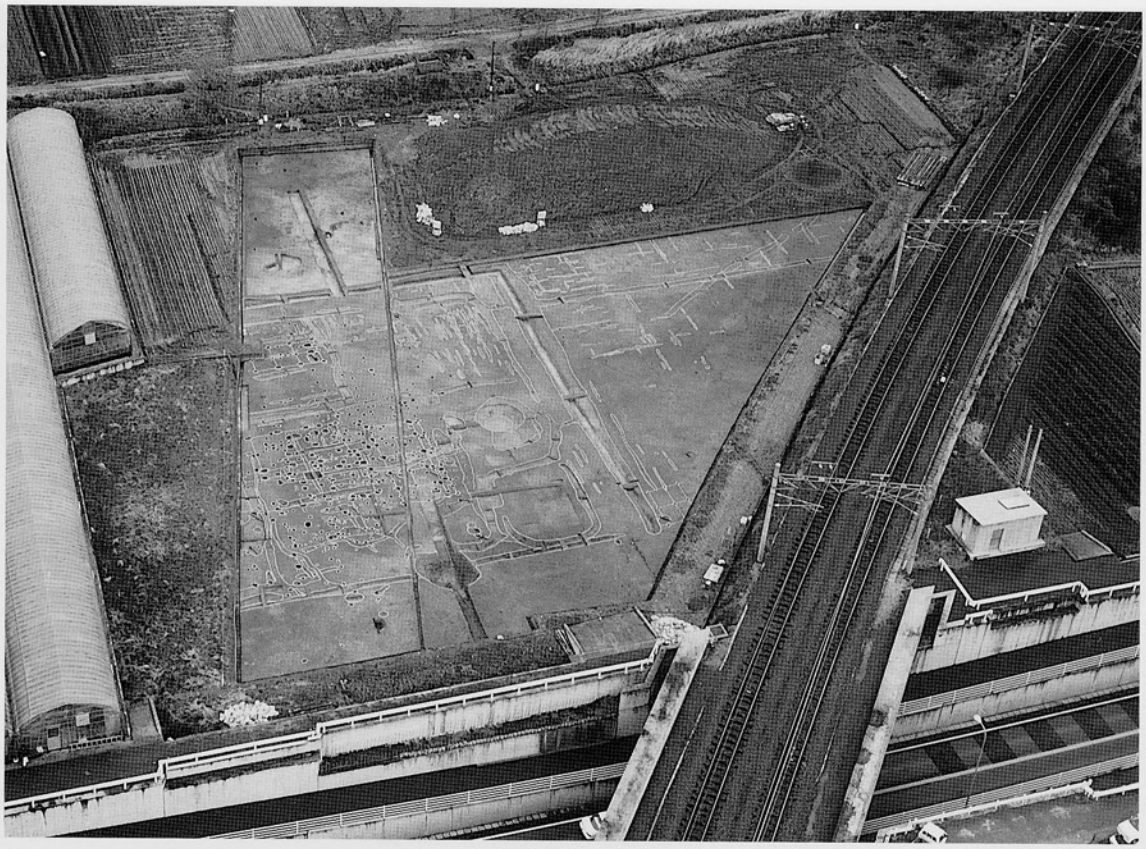
予備調査 40トレンチ北部（北西から）

予備調査 45トレンチ流路（南から）





予備調査　出土遺物



D区　全景（南から）

D区　全景（東から）

図版 6

D 区　空中写真（上が北）

D区　空中写真（上が北）

図版 8

D区　居館全景（東から）

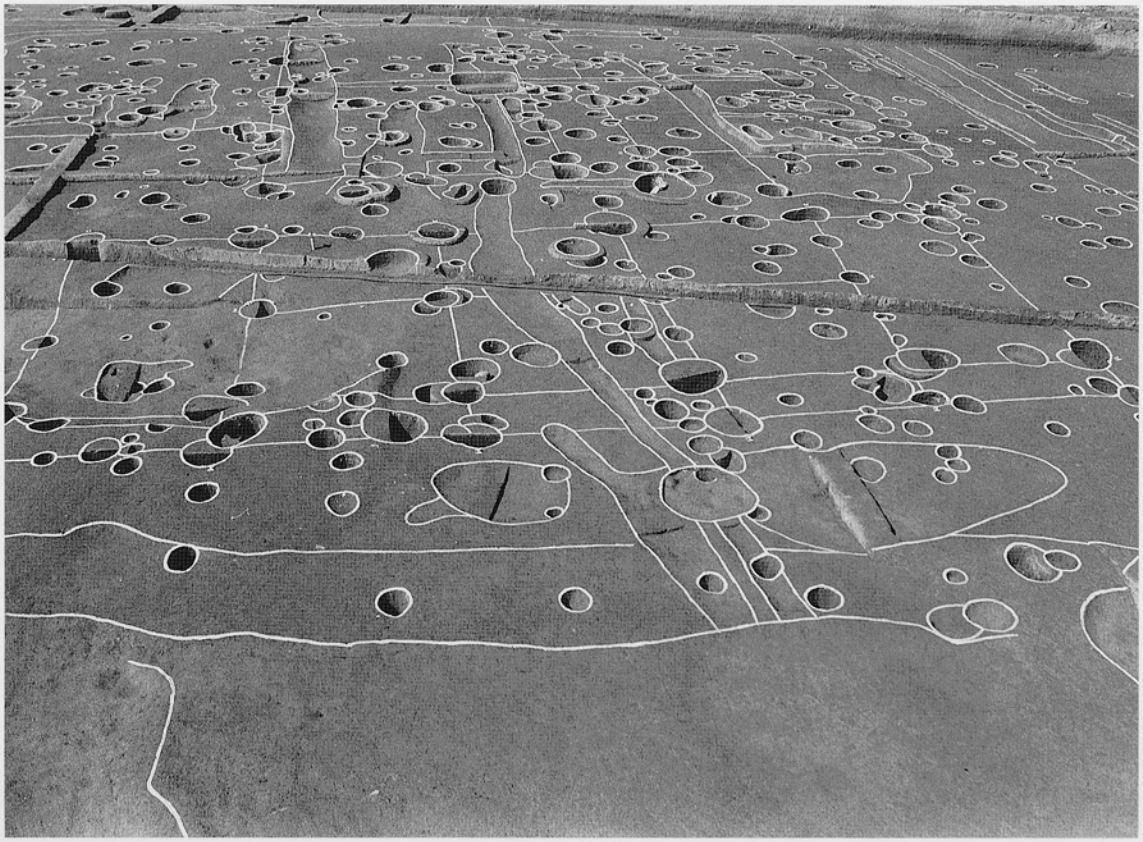
D区　居館全景（東北から）

D区　居館全景（南西から）

D区　西南部全景（南から）

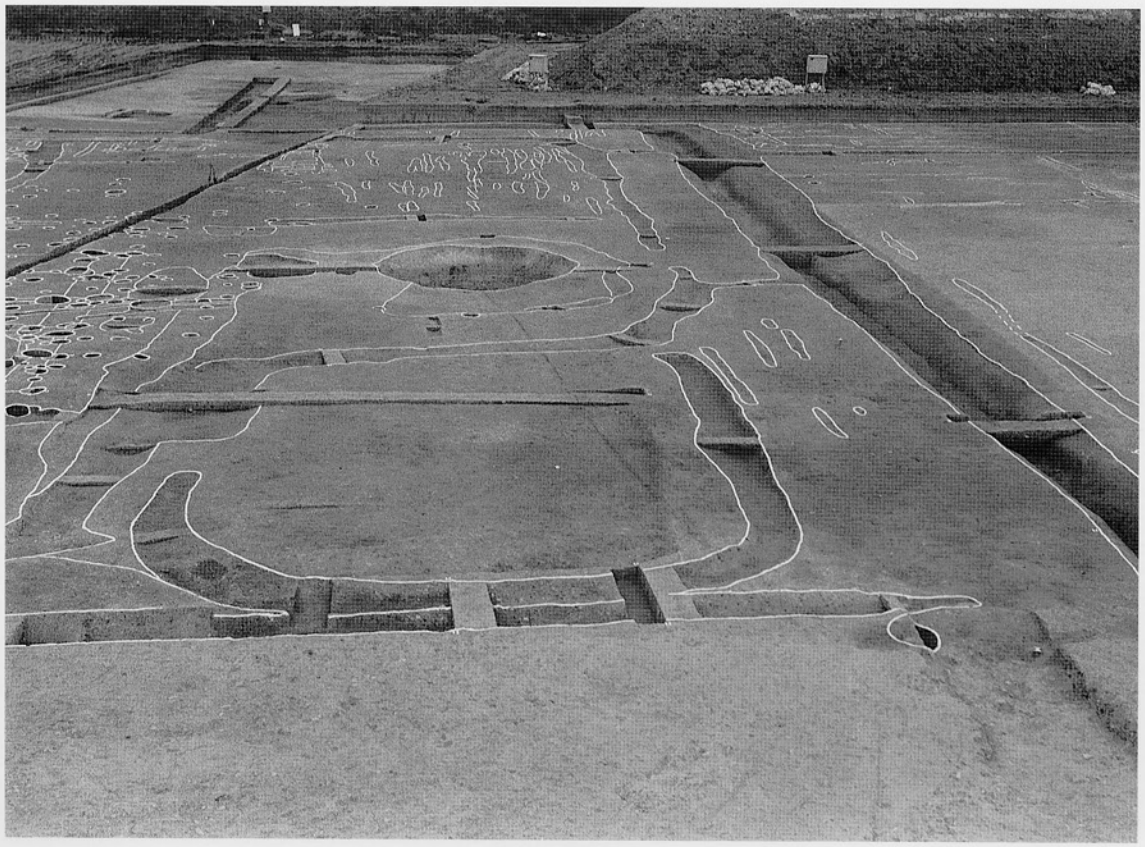
図版10

D区　居館全景（北から）



D区　SB04付近掘削状況（東から）

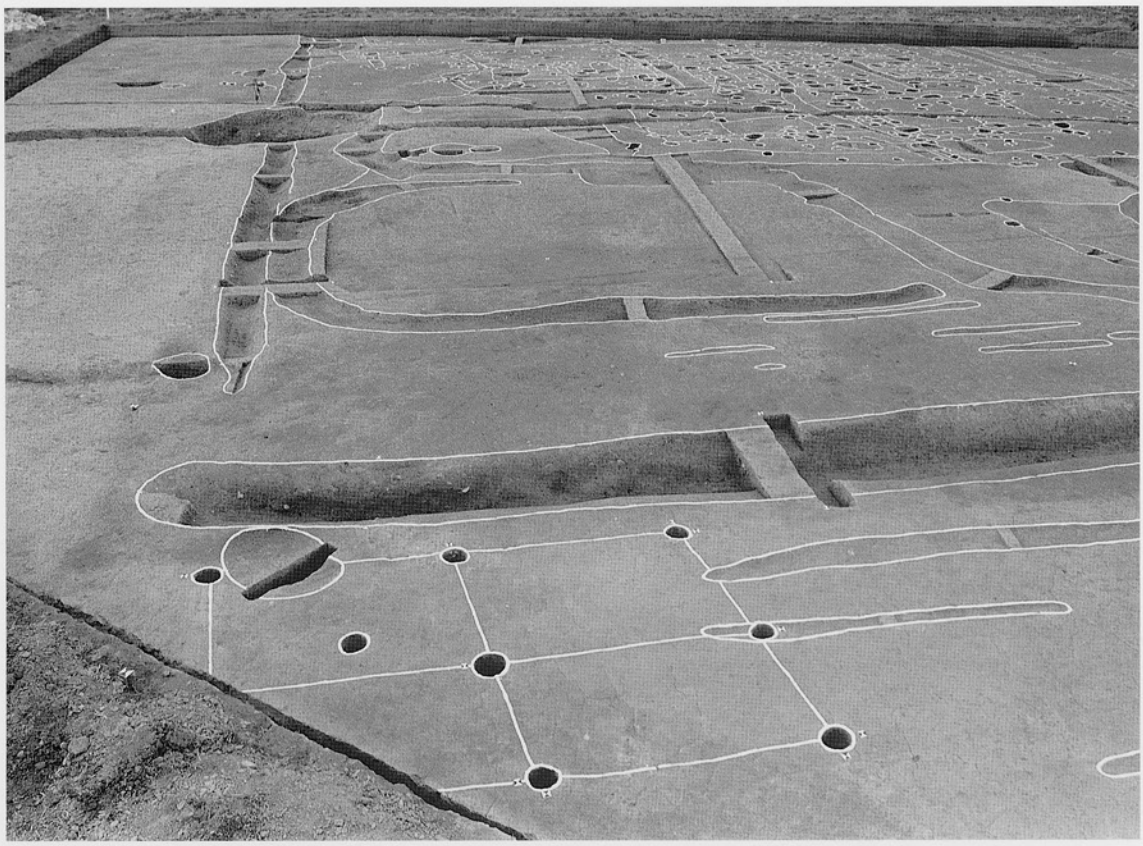
D区　東北部全景（北から）



D区　東南部全景（南から）

図版12

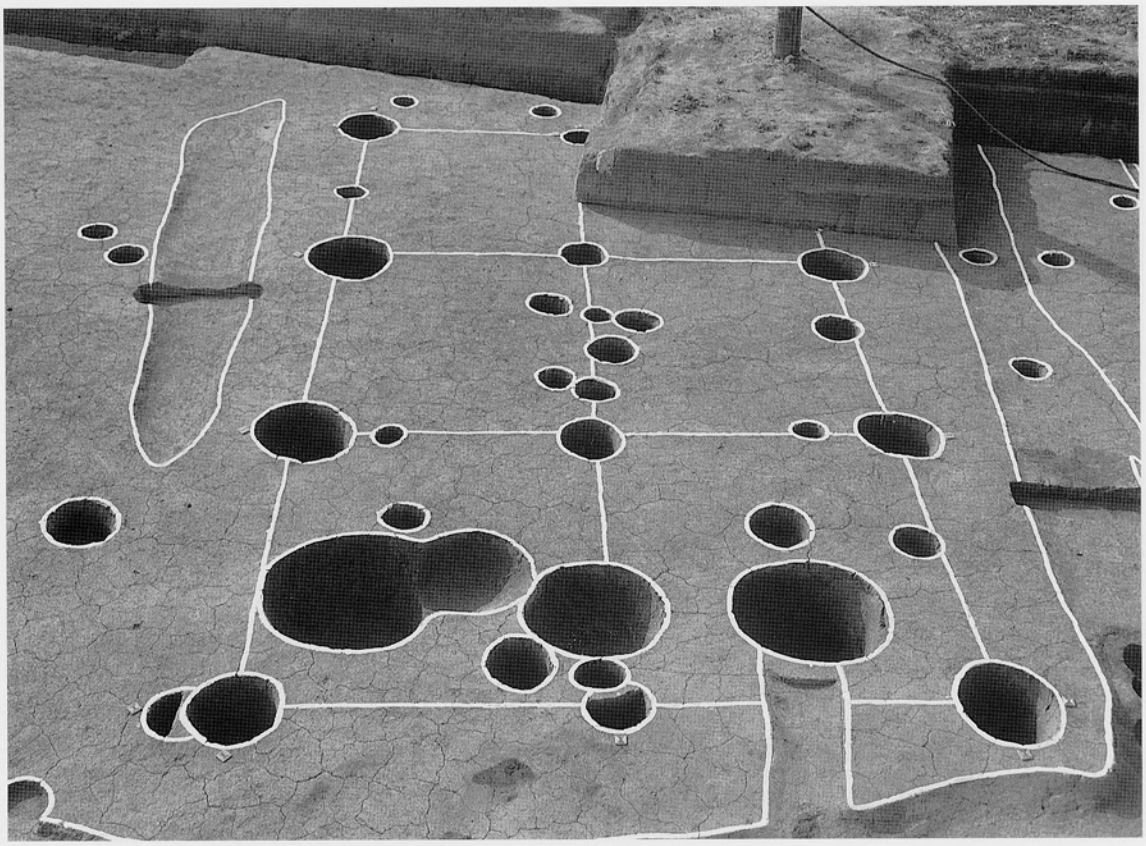
D区　東南部全景（北から）



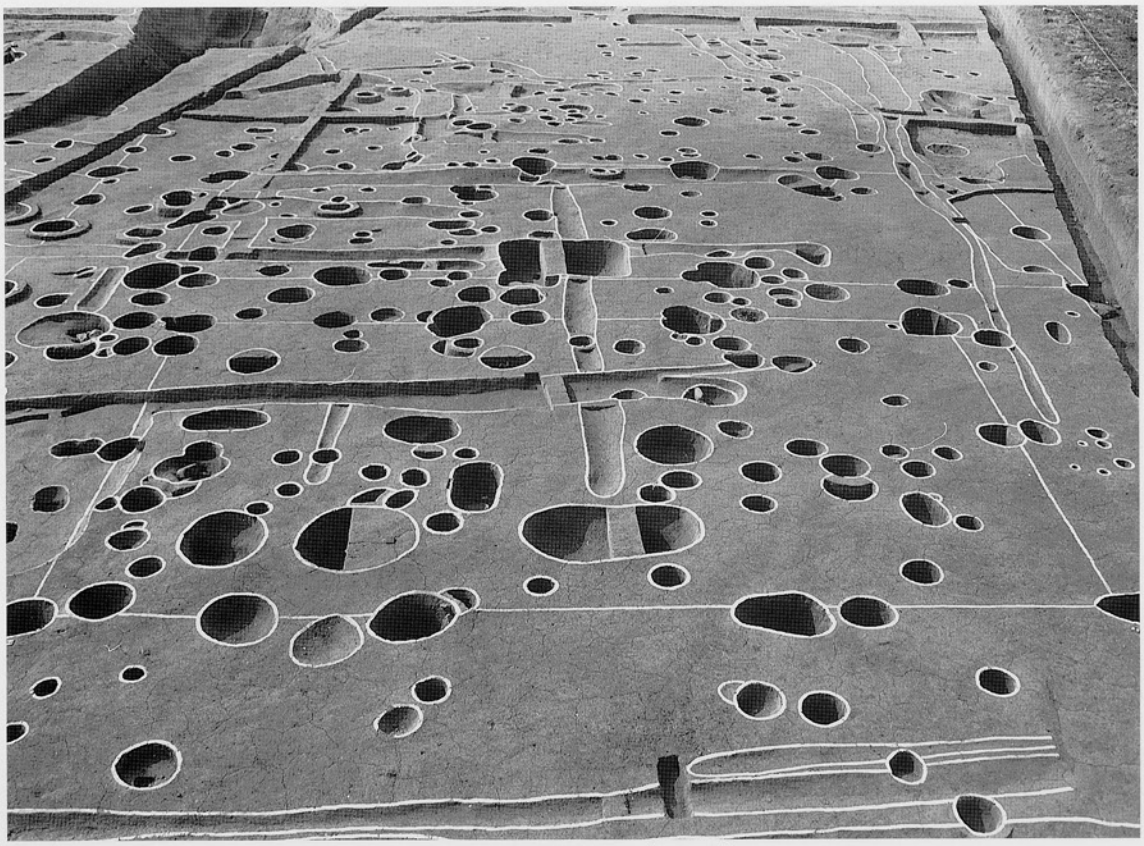
D区　SB06東南部（東から）

D区　SD01断面（東から）

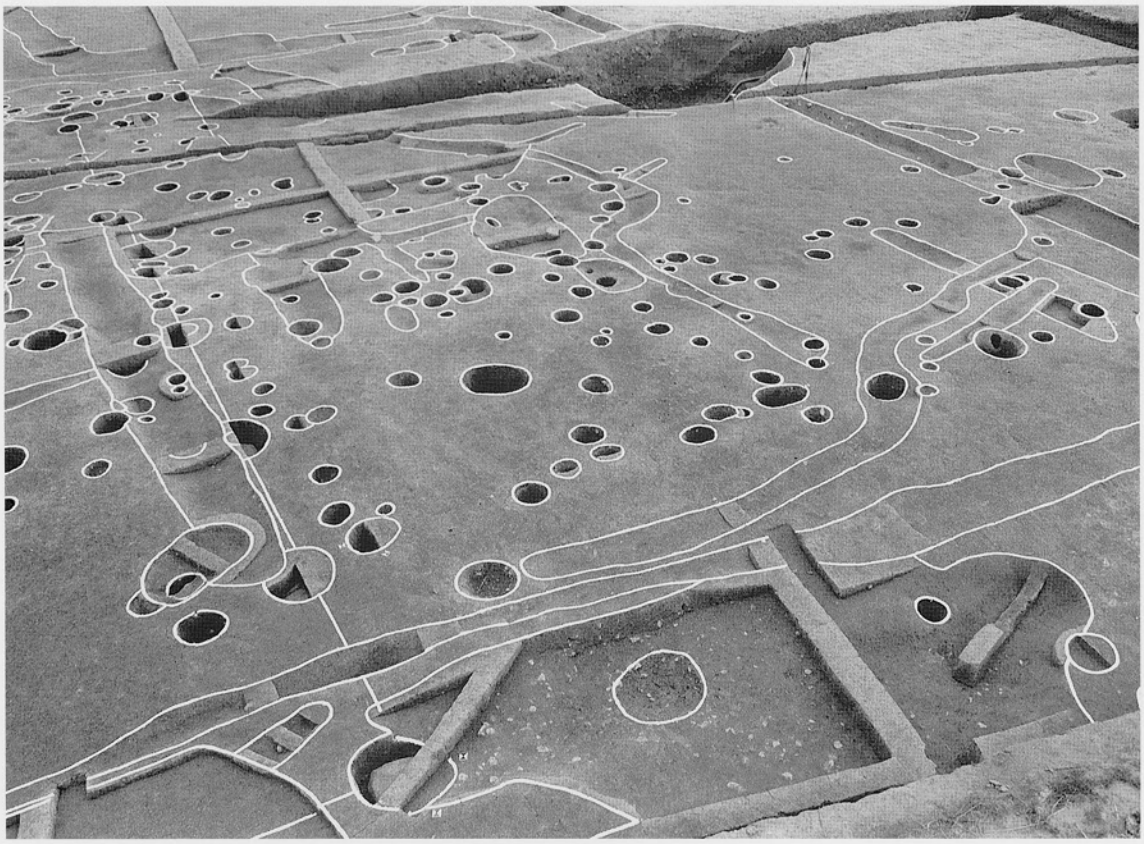
D区　SD41断面（東から）



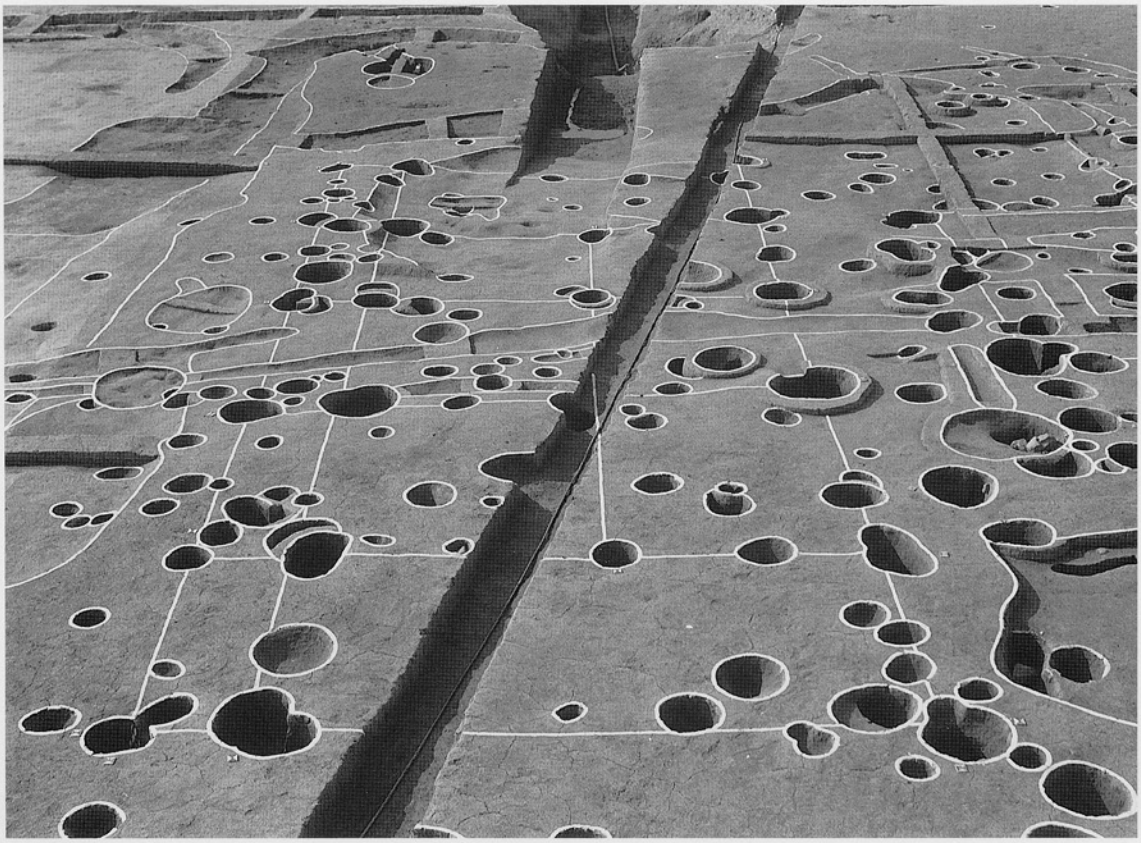
D区　SB01完掘状況（東から）



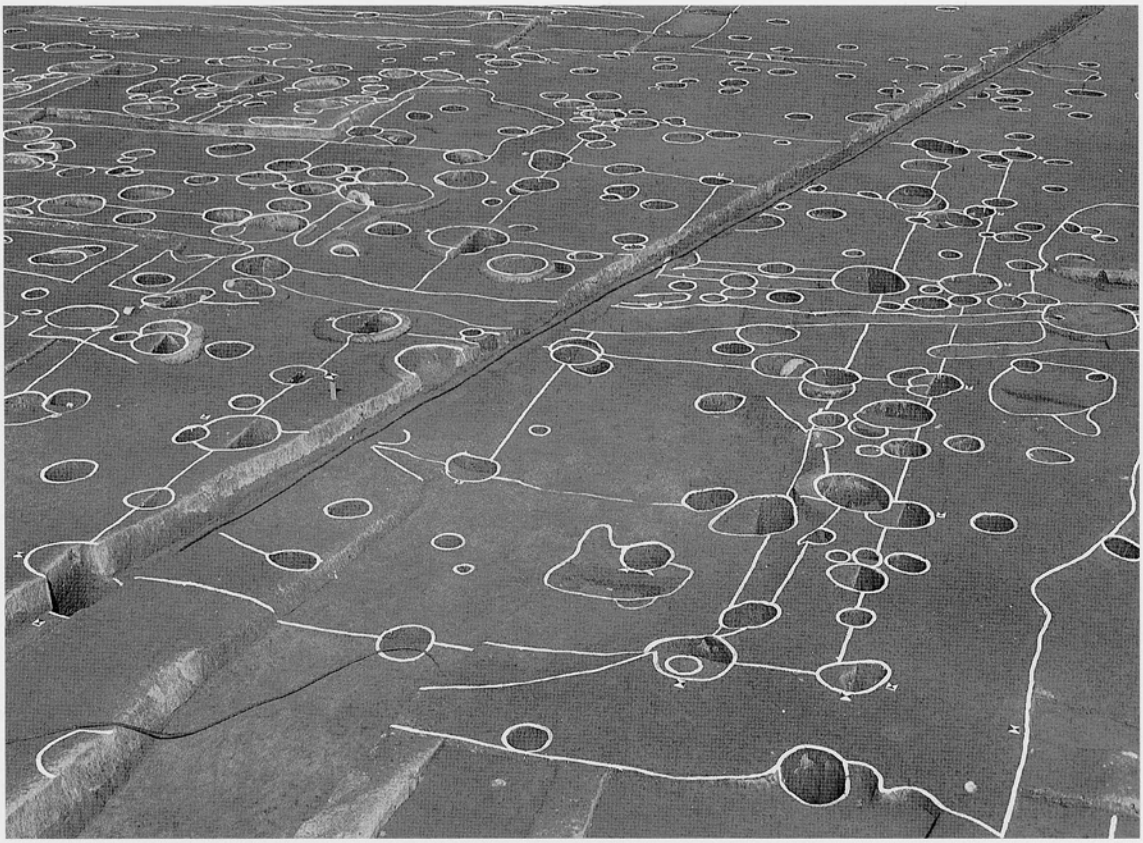
D区　SB02完掘状況（北から）



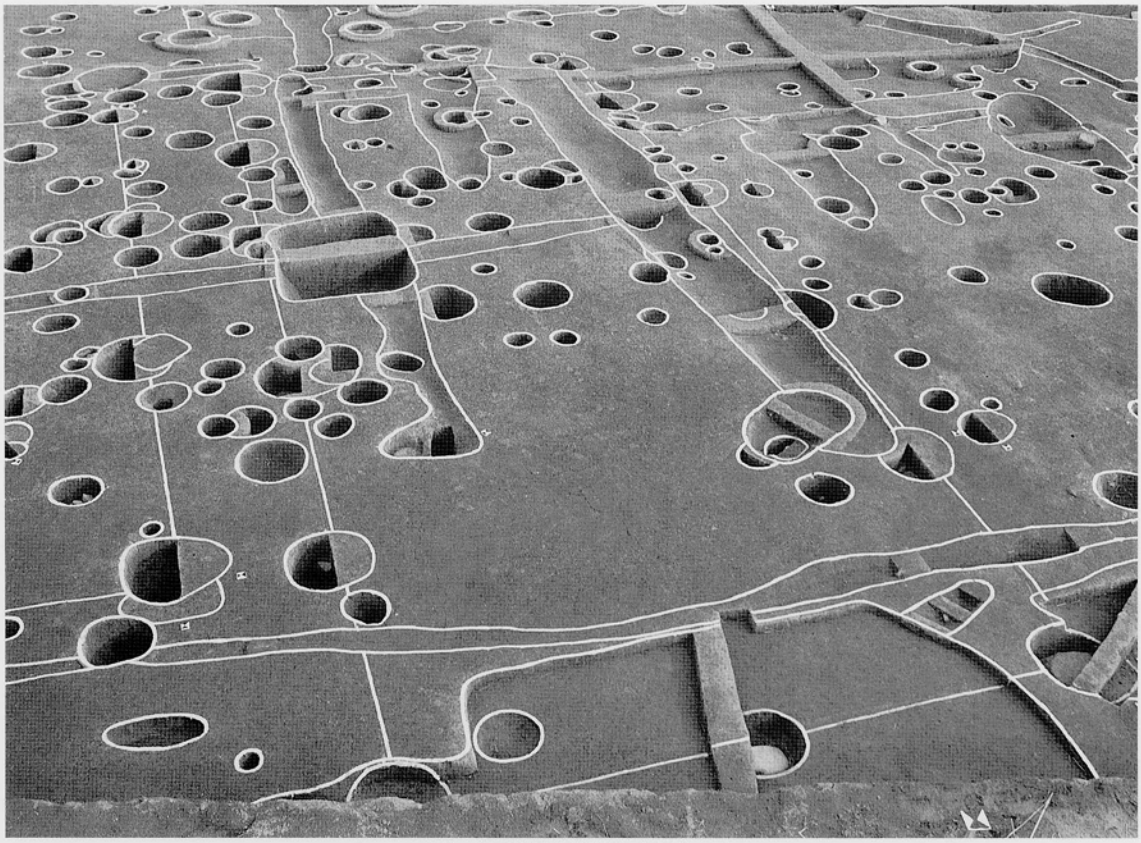
D区　SB03掘削状況（西から）



D区　SB04完掘状況（北から）

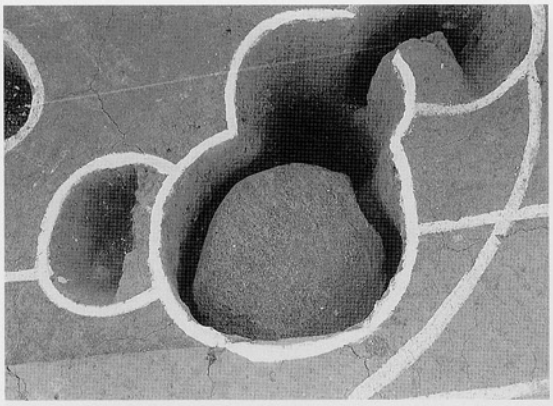


D区　SB04完掘状況（南から）

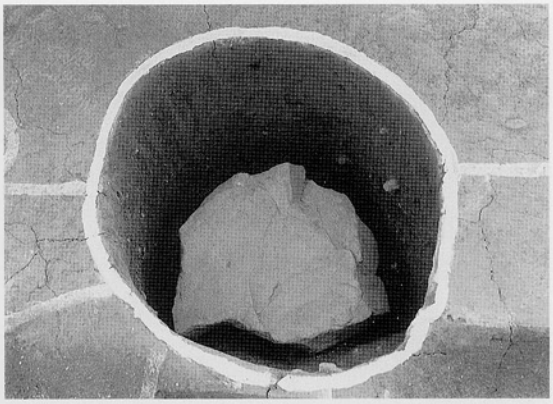


D区　SB05半截状況（西から）

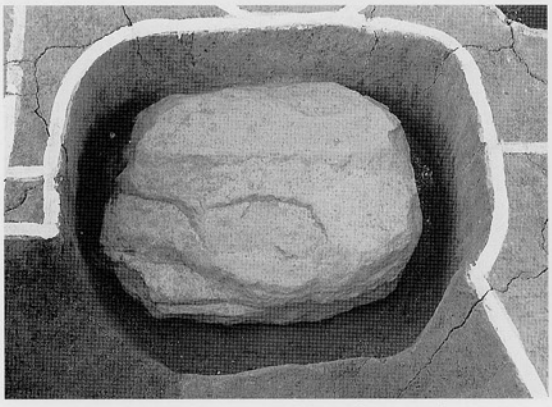
D区　SB05ほか掘削状況（東北から）



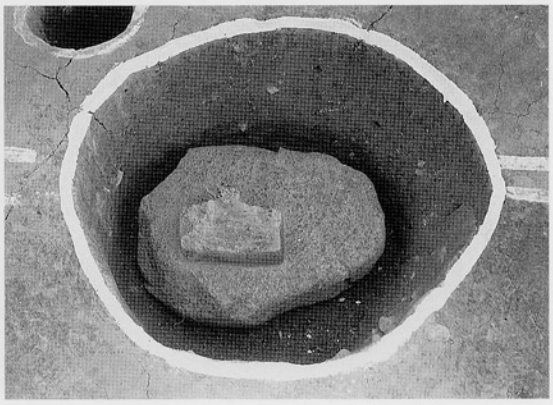
D区　SB05SP283根石（北から）



D区　SB05SP380根石（北から）



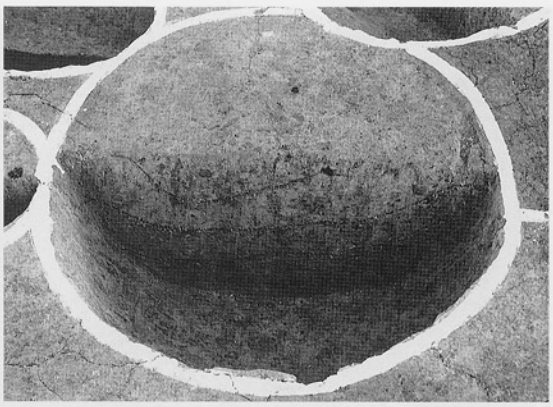
D区　SB05SP306根石（南から）



D区　SB05SP392根石（北から）

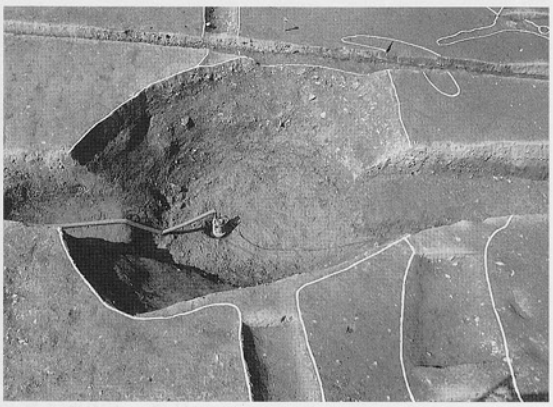
図版18

D区　SK04断面（東から）



D区　SK03断面（北から）

D区　SK10断面（西から）



D区　SE01掘削状況（東から）

D区　SE02断面（北から）

D区　SD01・55屈曲部（北西から）

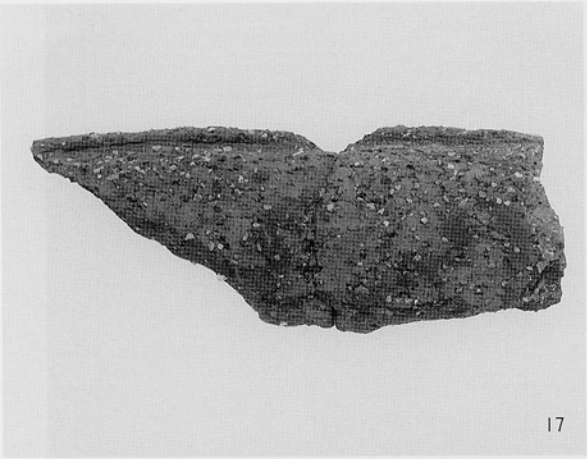
D区　SD55南端付近（北から）

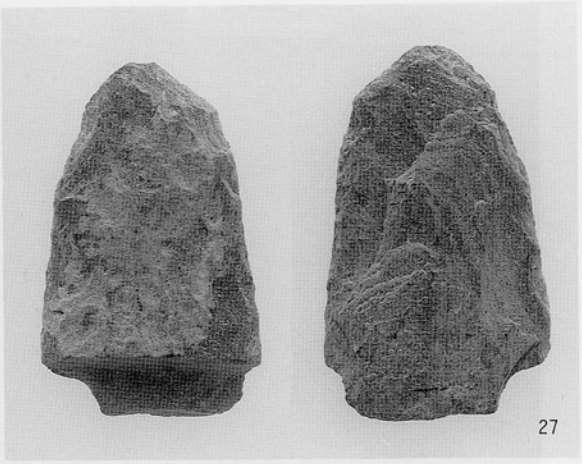
D区　SD55断面（その１）（南から）

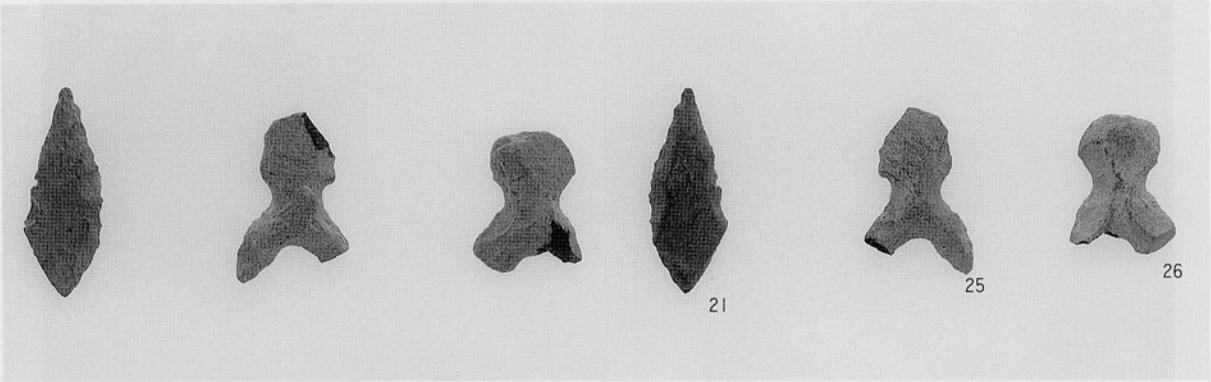
D区　SD67完掘状況（東南から）

D区　SD67完掘状況（北から）

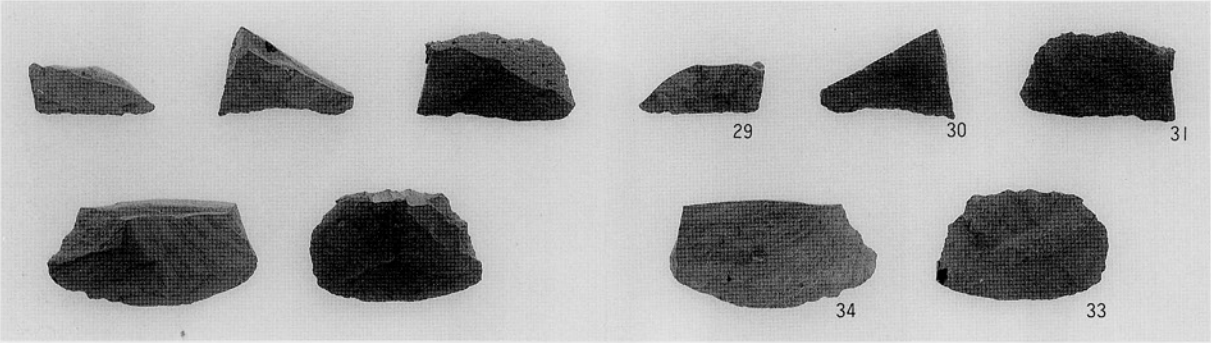
D区　下層包含層掘削状況（北から）



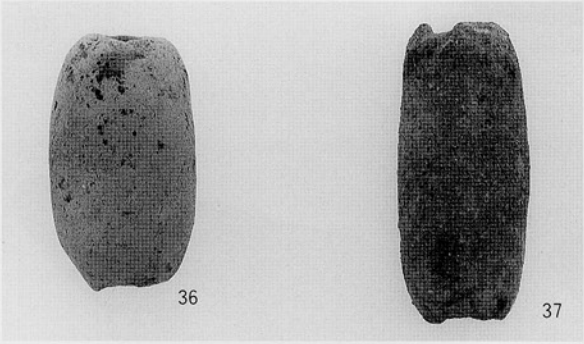


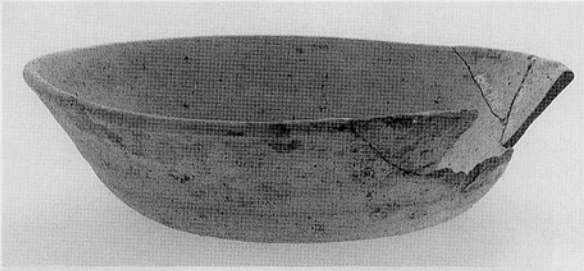


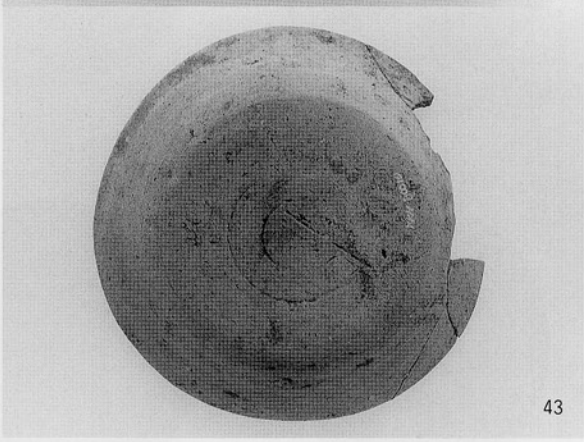
D区　下層包含層出土遺物(1)

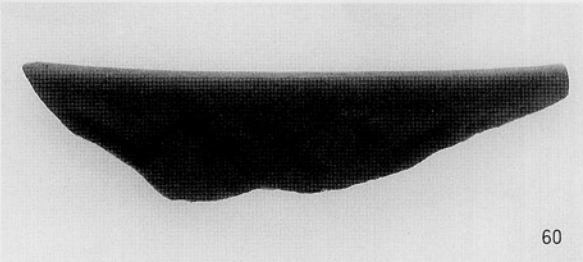


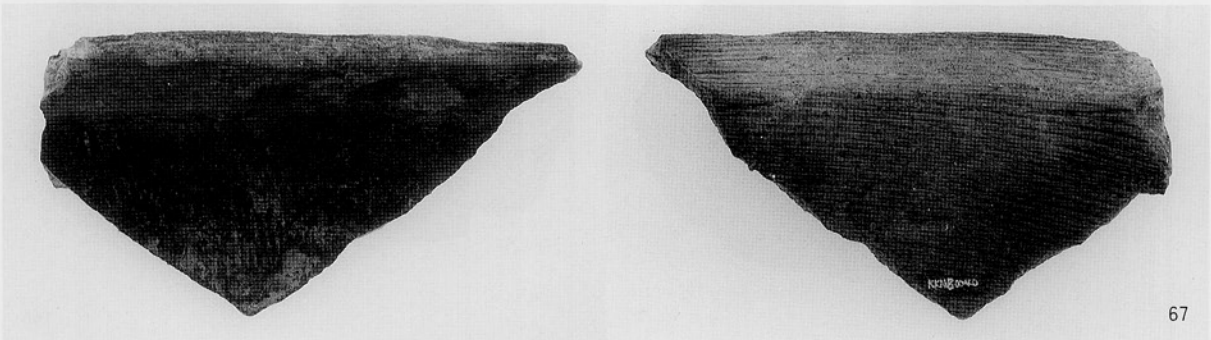
D区　下層包含層出土遺物(2)



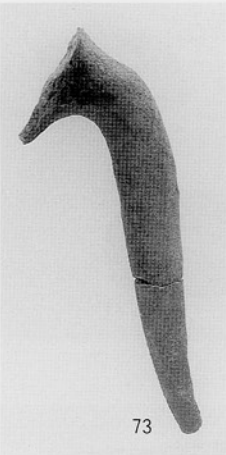


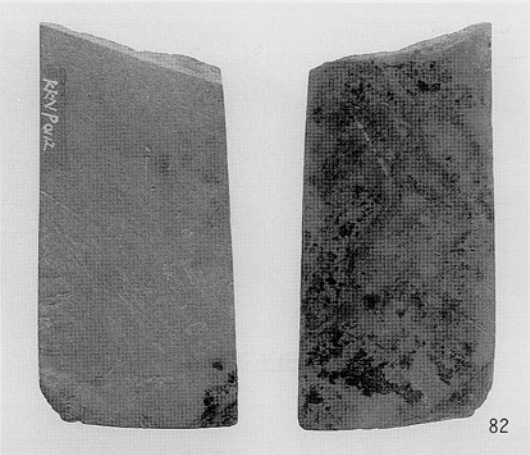


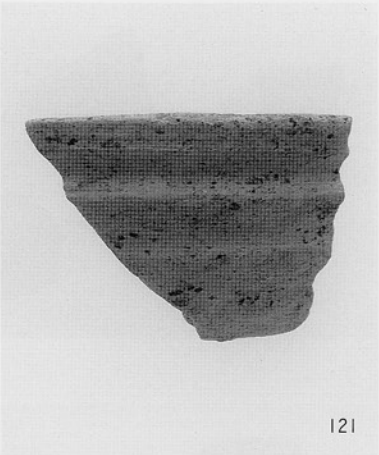


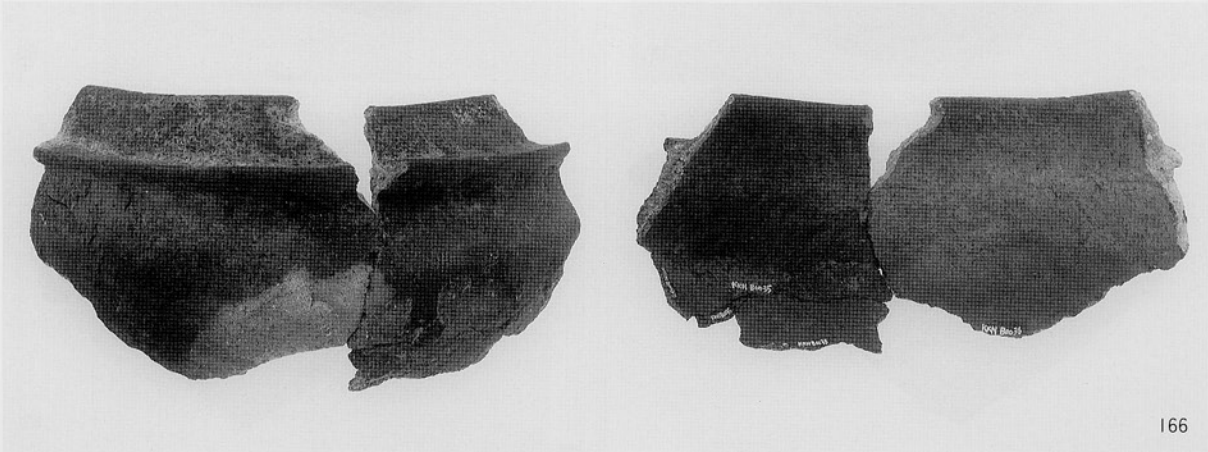


D区　SB出土遺物(1)

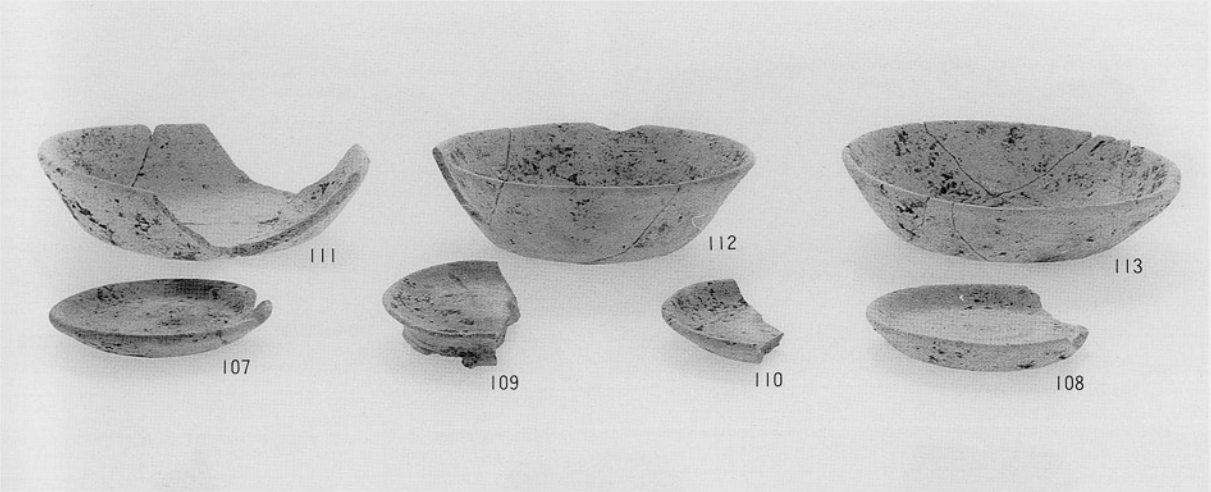




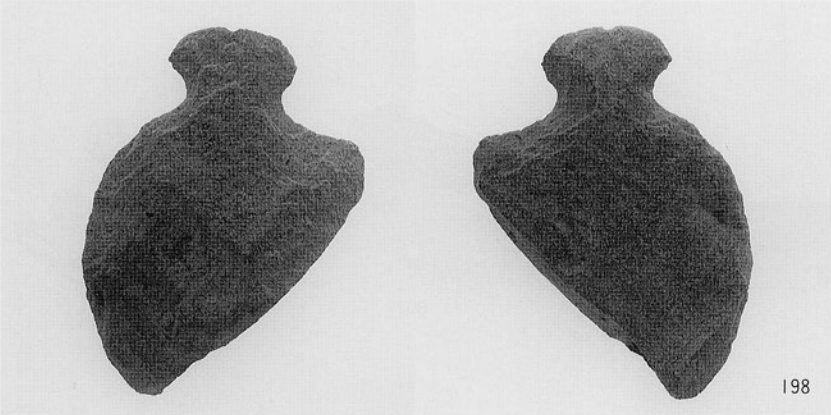


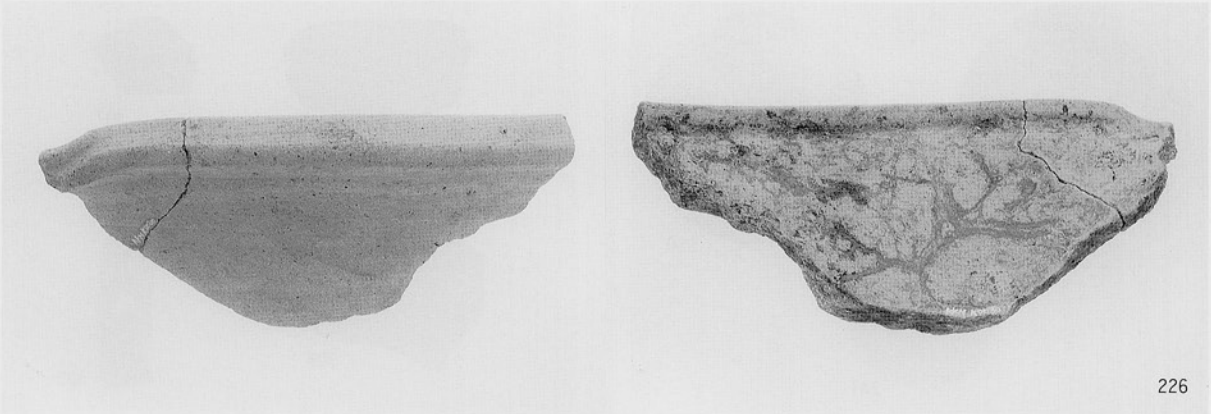


D区　SB出土遺物(2)，SP出土遺物

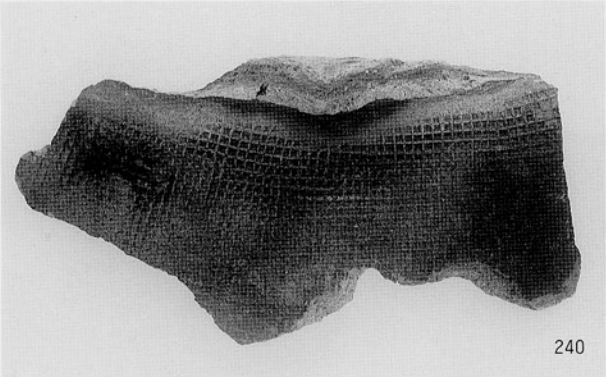


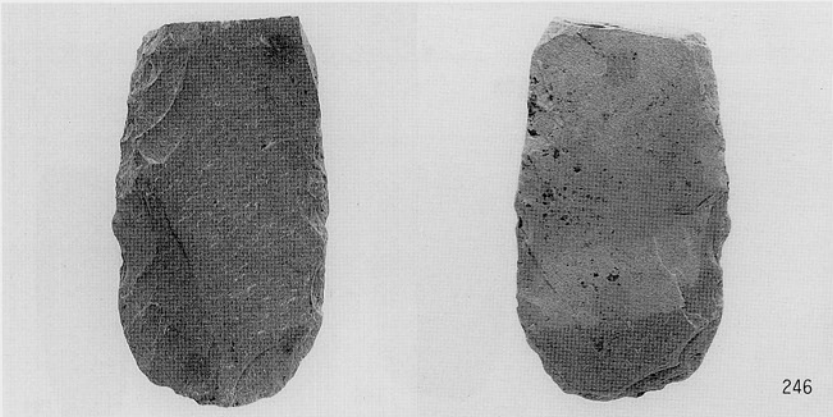
D区　SP226出土遺物

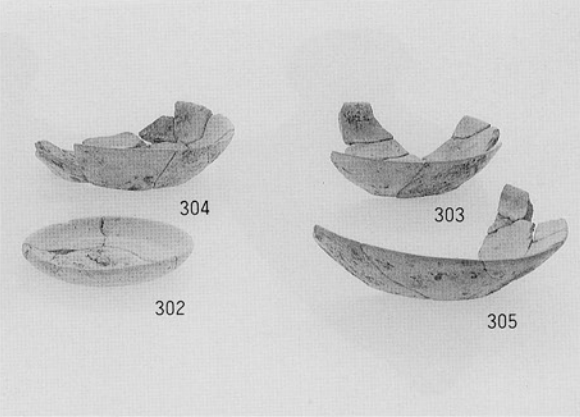


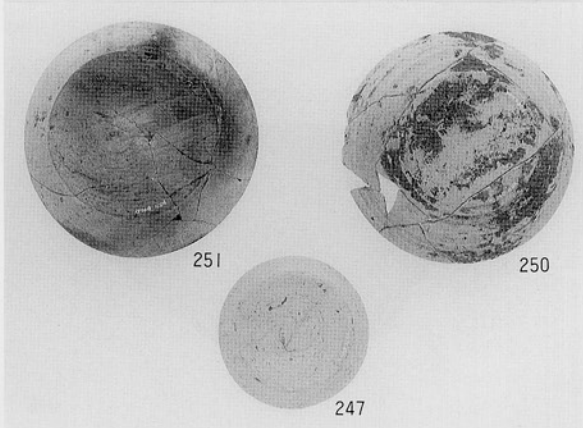


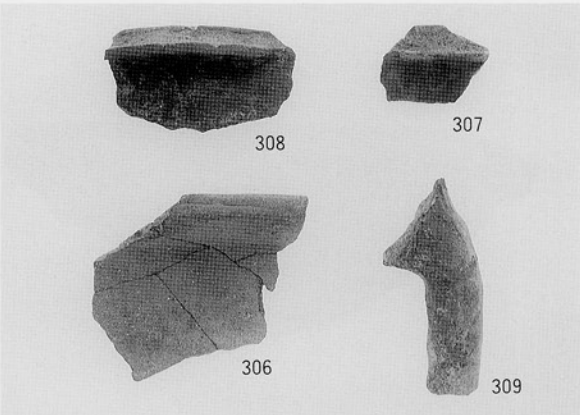
D区　SK出土遺物











D区　SE，SD出土遺物

Ａ Ｉ区　空中写真（左が北）

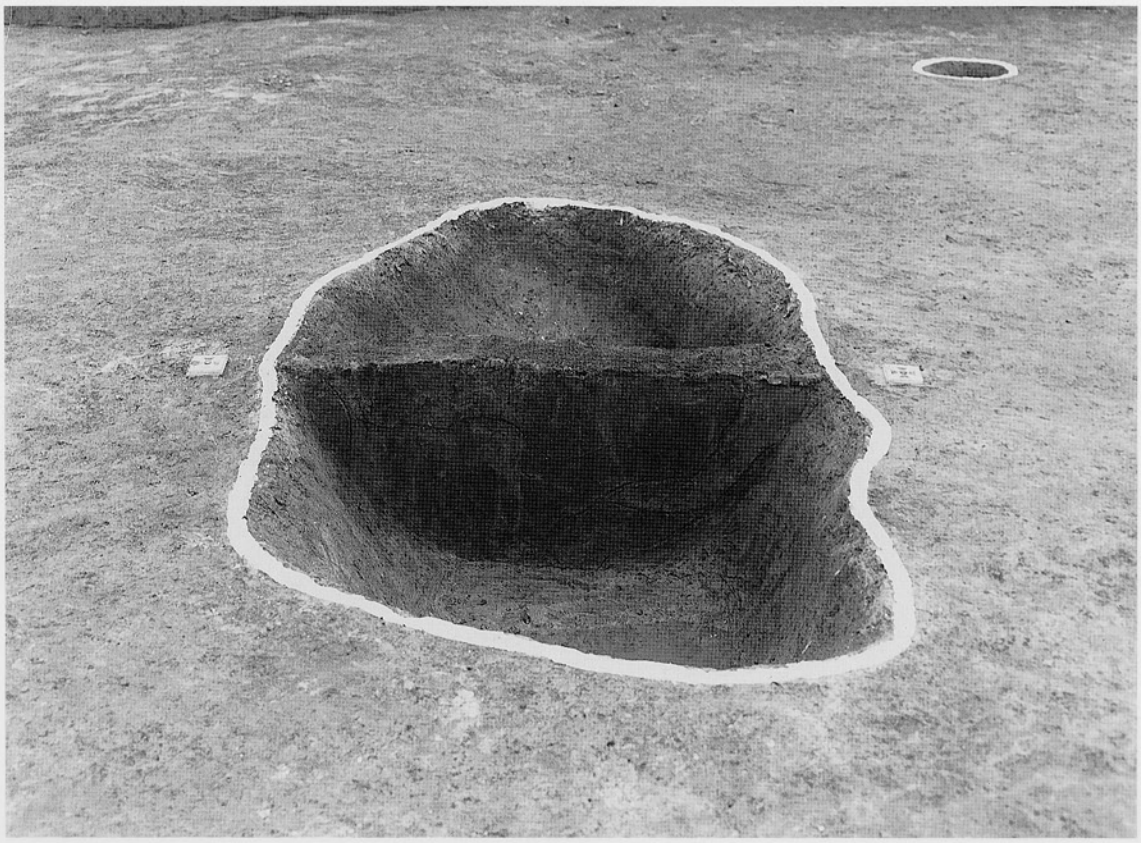
Ａ Ⅰ 区　上層遺構面完掘状況（西から）

Ａ Ⅰ 区　SD01・02北端部検出状況（東から）

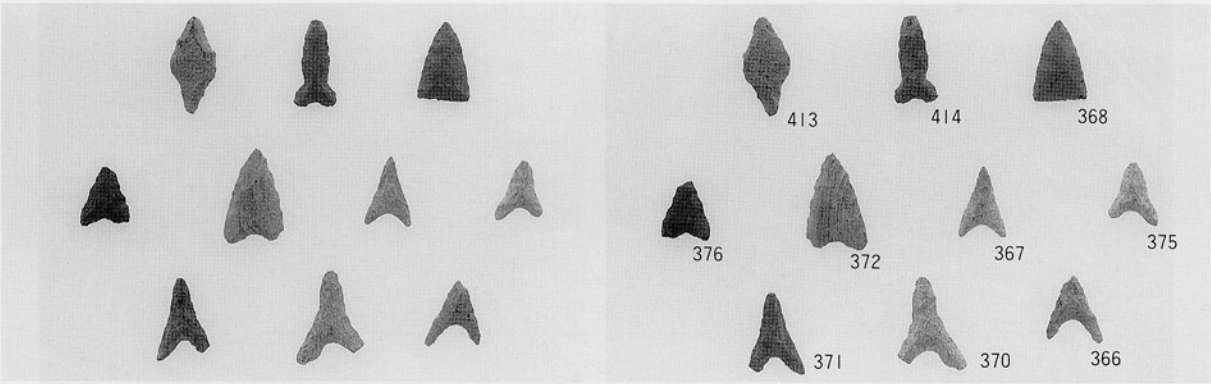
A Ⅰ区　SD01・02完掘状況（南から）

A Ⅰ区　SD01・02完掘状況（北から）

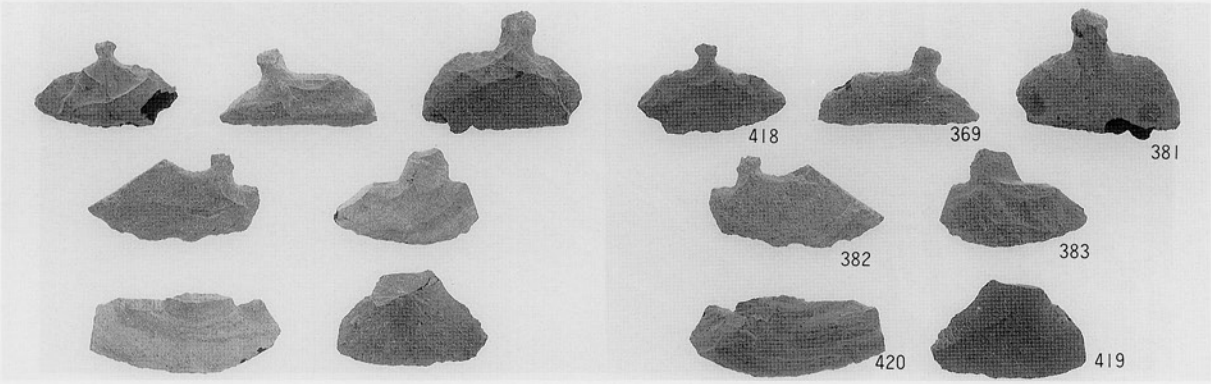
Ａ Ⅰ区　SD01断面（その２）（南から）



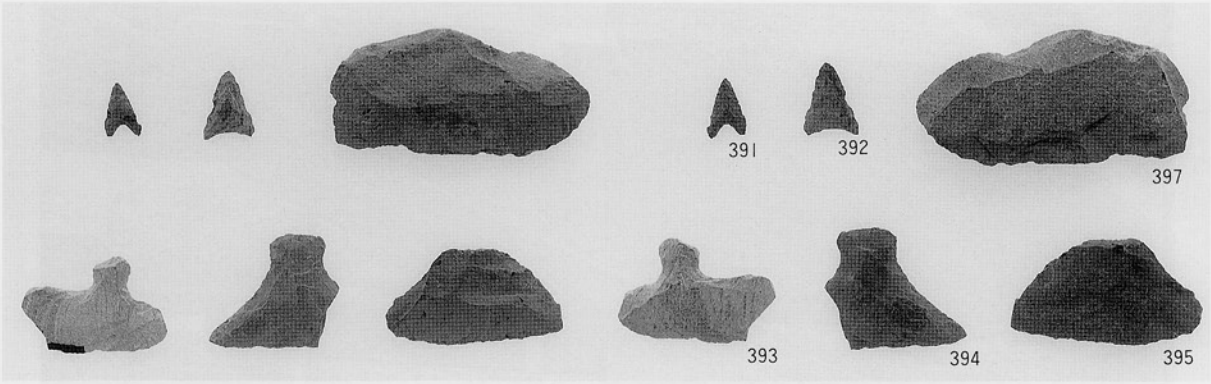
Ａ Ⅰ区　SX05断面（南から）



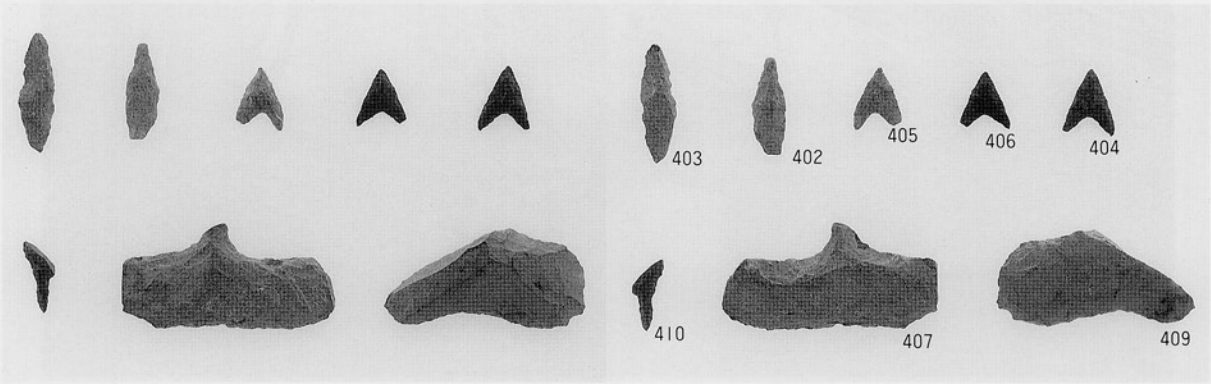
A Ⅰ区　出土石鏃



A Ⅰ区　出土石匙



A Ⅰ区　SD01出土石器

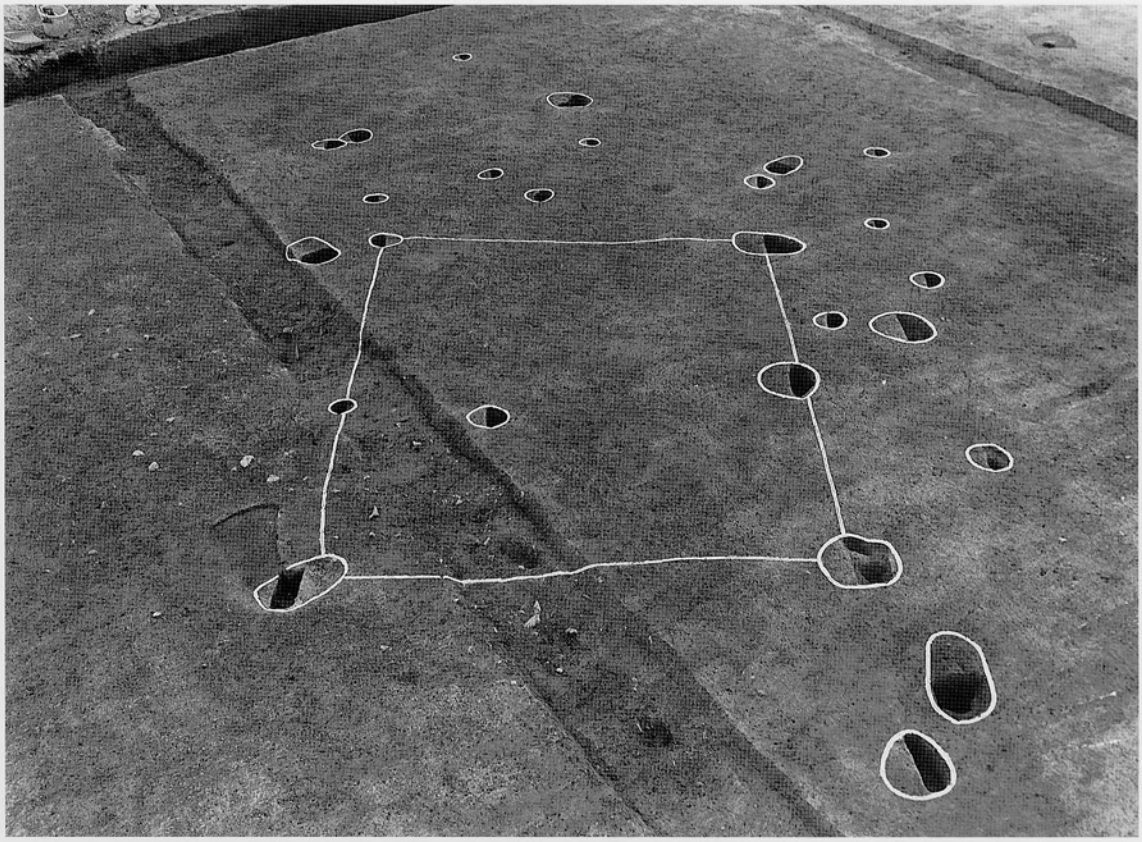


A Ⅰ区　SD02出土石器

Ｂ Ｉ区　全景（南から）

Ｂ Ｉ区　全景（北から）

Ｂ Ｉ区　空中写真（左が北）



Ｂ Ⅰ区　SB01半截状況（東北から）

Ｂ Ⅰ区　SX08完掘状況（北から）